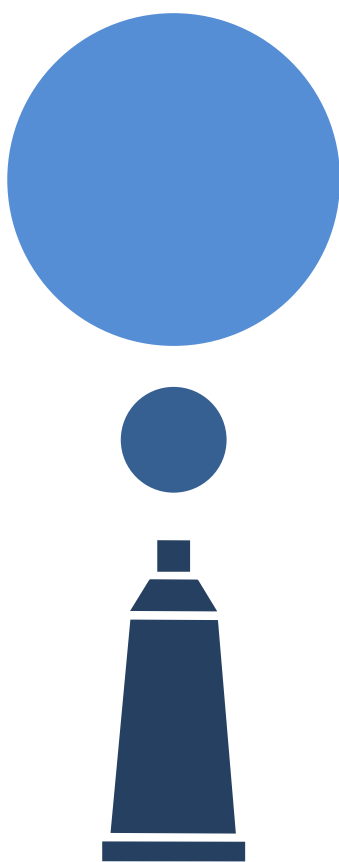


特定の課題に関する調査（図画工作・美術）  
調査結果  
（小学校・中学校）



平成23年3月  
国立教育政策研究所  
教育課程研究センター

# 目次

特定の課題に関する調査（図画工作・美術）結果のポイント・・・	1
--------------------------------	---

## 特定の課題に関する調査（図画工作・美術） 調査結果

I 調査の概要について・・・	5
1 調査の趣旨・・・	5
2 調査実施学年と出題の範囲・・・	5
3 調査実施期間・・・	5
4 調査の内容・・・	5
5 調査対象の抽出・・・	6
6 調査実施学校数及び児童生徒数・・・	6
7 調査対象学校における実施方法・・・	6
8 採点及び集計・・・	7
II 図画工作科における調査について・・・	9
1 調査A Iにおける調査結果・・・	9
2 調査A IIにおける調査結果・・・	35
問題1・・・	35
問題2・・・	47
3 調査Bにおける調査結果・・・	62
4 児童質問紙調査における調査結果・・・	98
(1) 児童質問紙調査結果の概要・・・	98
5 学校質問紙調査における調査結果・・・	107
6 図画工作科の指導の改善に向けて・・・	113
III 美術科における調査について・・・	117
1 調査I Aにおける調査結果・・・	117
問題1・・・	117
問題2・・・	146
問題3・・・	165
2 調査I Bにおける調査結果・・・	192
3 調査IIにおける調査結果・・・	217
問題1・・・	217
問題2・・・	251
4 生徒質問紙調査における調査結果・・・	260

(1) 生徒質問紙調査結果の概要	260
(2) 生徒質問紙調査と調査問題との関連	269
5 学校質問紙調査における調査結果	271
6 美術科の指導の改善に向けて	276

特定の課題に関する調査（図画工作・美術）	委員名簿等	279
----------------------	-------	-----

特定の課題に関する調査（図画工作・美術）  
結果のポイント



# 特定の課題に関する調査 (図画工作・美術) 結果のポイント

## 図画工作・美術についての学力調査を実施

- 発想や構想の能力(図工・美術), 創造的な技能(図工), 鑑賞の能力(図工・美術)の実現状況を把握。
- 図工・美術の内容の中から**絵に表す(図工・美術), 木片を用いてつくる(図工)などの実技調査**を実施。
- **全国規模の図画工作についての学力調査は5年ぶり, 美術では初めての実施。実技調査は初めての実施。**
- 学習内容に関連した児童生徒の意識や, 教師の指導の実際等に関する**質問紙調査**も実施。

### 【調査の概要】

- 調査対象学年／小学校第6学年及び中学校第3学年
- 調査実施日／小学校 平成21年12月 1日～平成22年 2月26日  
中学校 平成21年11月19日～平成21年12月17日
- 調査実施学校数及び児童生徒数／全国の国公立学校から無作為抽出  
小学校:119校 約3,500人 中学校:104校 約3,300人
- 調査内容・調査方法／

	内容	調査Ⅰ	調査Ⅱ	質問紙
図画工作	内容A (約2,300人)	○調査AⅠ 発想や構想の能力 【絵に表す実技】	○調査AⅡ 鑑賞の能力 【ペーパーテスト】	学習内容に関連した児童の意識等
	内容B (約1,200人)	○調査B 鑑賞の能力及び創造的な技能 【ペーパーテスト及び木片を用いてつくる実技】		
美術	内容A (約2,200人)	○調査ⅠA 鑑賞の能力及び発想や構想の能力 【ペーパーテスト及びデザインに表現する実技】	○調査Ⅱ 鑑賞の能力 【ペーパーテスト】	学習内容に関連した生徒の意識等
	内容B (約1,100人)	○調査ⅠB 発想や構想の能力 【絵に表現する実技】		

## 【主な調査結果】

### ■ 小学校 図画工作

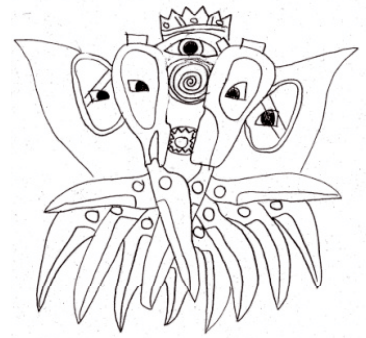
#### 《発想や構想に関する問題》

- はさみの形や働き(切る, 動く)を取り入れた生き物をかいた児童は約95%。また, はさみの形を取り入れる際に, 豊かな発想や構想をした児童は約4%であった。

#### 指導改善

児童が自分なりの感じ方や考え方を発展できるように指導を工夫する。そのためには, 発想を助けるような具体的な体験の機会を確保したり, 発想や構想の手がかりになる視点や方法を児童に提示したりすることが考えられる。

〈児童の解答例〉



#### 《創造的な技能に関する問題》

- 形や大きさの異なる木片や長さの異なる釘というそれぞれの材料の特徴を生かして表したいものをつくった児童は約97%であった。また, 材料の特徴を生かして表したいものをつくる際に, 木片を左右対称ではなく斜めに配置するなど, 前問までに取り上げていない表し方の工夫をした児童は約50%であった。

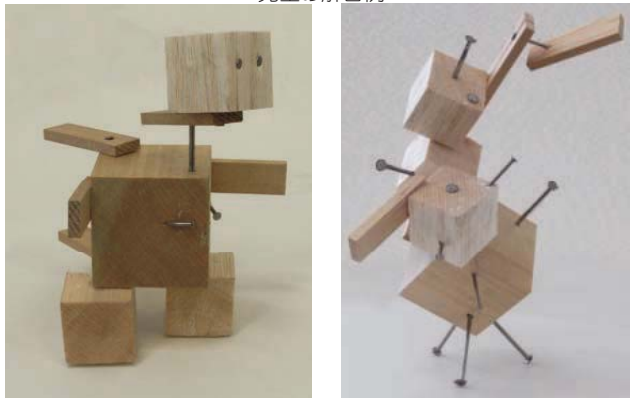
#### 指導改善

材料を見たり触ったり試したりしながら, それらの特徴を生かした表し方を考え出すような指導過程を工夫する。また, 自他の作品から, 表現の意図や表し方の工夫をとらえ, これを自分の表現に生かすことができるよう指導を工夫する。

〈児童が作品づくりに取り組む様子〉



〈児童の解答例〉



#### ※ 参考

前問で取り上げた表現の工夫の例

- ・ 釘を目等に見立てる。
- ・ 木片を左右対称に配置してロボットの足にする。



問題例

#### 《鑑賞に関する問題》

- 粘土で花を製作する過程を見て, その過程の中で見られる表現の工夫と, その意図の両方を妥当に記述した児童は約70%であった。

#### 指導改善

児童が作品を製作する際に, 互いの表現の意図や表し方の工夫を話し合い, 自分の表現の意図や表し方の工夫との違いに気が付くような指導を工夫する。また, 形や色などの視点から, 根拠をもって話し合うような指導を工夫する。

## 《鑑賞に関する問題》

- 屏風(「唐獅子図屏風」)を折ることによる感じ方の変化を3通り提示し、それぞれの理由としてふさわしい屏風の見え方の変化を正しく選択した児童は、約82%(動物の目が向き合って見える)、約67%(動物の足が踏み出して見える)、約67%(背景の道が曲がって見える)であった。なお、本問では、児童が、実際に折ったり伸ばしたりできるよう、屏風を小さく印刷したカードを児童一人一人に配付した。

### 指導改善

作品を様々な視点からとらえ、表現の特徴などについて考えることを通して、感じ方を深めるよう指導を工夫する。そのためには、例えば、複製品などに触れたりして、**実感しながら形や色、奥行きなどの造形的な特徴をとらえる**ことができるような活動が考えられる。

## ■ 中学校 美術

### 《発想や構想に関する問題》

- バッグを生き物に見立てた絵を描くに当たって、
  - ① バッグの形の特徴を生き物の形に生かした生徒は約93%
  - ② 軽々とした感じを色を工夫して表現した生徒は約92%
  - ③ 弾みながら運んでいる様子(動き)を強調して描いた生徒は約49%
  - ④ 上記①～③すべてを取り入れた絵を描いた生徒は約46%であった。

### 指導改善

形や色彩などの効果を意識しながら表現できるよう指導を工夫する。また、表現と鑑賞との関連を図り、**他者の発想や構想のよさに気づき、自らの表現に生かしていく**などの指導が大切である。

〈生徒の解答例〉



### 《発想や構想に関する問題》

- 美術館の休憩所のピクトグラム\*を描くに当たって、
  - ① 「人が休んでいる様子が伝わる」ものを描いた生徒は約75%
  - ② 「直線や滑らかな曲線でできていて、伝えたいイメージが単純化されている」ものを描いた生徒は約53%
  - ③ 「問題の冒頭で示したピクトグラムと統一感のあるデザインになっている」もの(黒一色、枠の中央に大きく)を描いた生徒は約45%
  - ④ 上記①～③すべてを取り入れたものを描いた生徒は約29%であった。

### 指導改善

どのような内容を、どこで、誰に伝えるかという目的を踏まえて、**伝えたい内容において何が重要なかを整理し、分かりやすく端的に伝わるように表現**できるよう指導を工夫する。

〈生徒が問題に取り組む様子〉



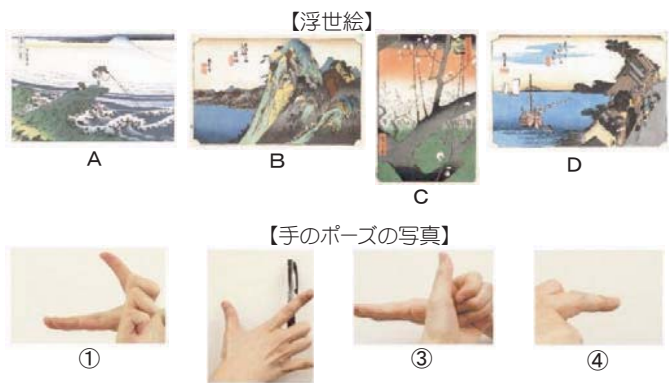
〈生徒の解答例〉



\* ピクトグラムとは、情報を誰にでも分かりやすく、ひと目で伝えるための絵を使った図表。

## 《鑑賞に関する問題》

- 4枚の浮世絵を鑑賞し、それぞれの構図のイメージに近い手のポーズの写真をすべて正しく選択した生徒は約50%であった。



※正答 A:④B:③C:②D:①

### 指導改善

画面の中にあるものの形や大きさ、配置、全体の構成、細部のつくりなどに着目して対象をとらえることができるよう指導を工夫する。

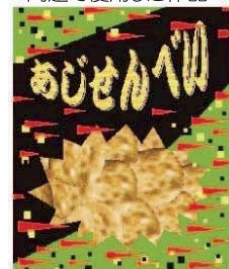
## 《鑑賞に関する問題》

- せんべいのパッケージのデザインを鑑賞し、それから伝わる妥当な味のイメージを記述し、形又は色彩について妥当な根拠を記述した生徒は約50%であった。

### 指導改善

形や色彩の感情効果などを理解した上で、図柄や配色、構成などを総合的にとらえ、それらから一般的に伝わるイメージとその根拠を自分の言葉で述べるができるよう指導を工夫する。

〈問題で使用した作品〉



## 《鑑賞に関する問題》

- 風景画を鑑賞し、その風景画に用いられている遠近の表現（絵に描かれている建物の線による遠近の表現、遠景をかすむようにぼかして描く遠近の表現）について、正しく選択した生徒はそれぞれ約71%、約88%であった。

### 指導改善

遠近の表し方など、多様な表現方法に触れ、その効果などを感じ取りながら作品の理解を深めることができるよう指導を工夫する。

〈問題で使用した作品〉



〔四季山水図(山水長巻) (部分)〕  
遠景をかすむようにぼかして描く遠近の表現



〔日本橋第一丁目舞踊〕  
線による遠近の表現

## ■ 質問紙調査

- 図画工作の学習が好きだ、大切だと回答した児童はそれぞれ約83%、約82%。美術の学習が好きだ、大切だと回答した生徒はそれぞれ約75%、約63%。
- 図画工作の学習によって心や気持ちが豊かになるという意識をもつ児童は約65%。美術の学習は生活を明るく豊かにすることや心を豊かにすることに役立つという意識をもつ生徒はそれぞれ約73%、約83%。
- 図画工作の学習によって、形や色を考えたり表したりする力がつく、アイデアを思いついたり想像したりする力がつくという意識をもつ児童はともに約94%。美術の学習によって、アイデアを思い浮かべたり想像したり、思いや考えを形や色などで分かりやすく伝えたりする力がつくという意識をもつ生徒はそれぞれ約90%、約84%。
- 図画工作の学習によって、ものの美しさを感じる力が豊かになるという意識をもつ児童は約82%。美術の学習によって、美術作品やデザインなどの見方が広がるという意識をもつ生徒は約89%。

# 調査結果

## I 調査の概要



# I 調査の概要について

## 1 調査の趣旨

特定の課題に関する調査は、平成15年10月7日の中央教育審議会答申「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」において提言され、児童生徒の学力の総合的な状況を把握するために、従来から実施してきた「教育課程実施状況調査」の枠組では把握が難しい内容について調査研究を行い、今後の教育課程や学校における指導の改善に資するものである。

図画工作科及び美術科の調査の実施に当たっては、国立教育政策研究所（以下「研究所」という。）が委嘱した図画工作科及び美術科に係る各「特定の課題に関する調査」の問題作成委員会を設置し、ペーパーテストや実技調査などの実施可能な調査方法等による条件、過去の音楽等質問紙調査の結果等も踏まえて検討した。その結果、図画工作科については、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力を見る調査を行うこととした。また、美術科については、発想や構想の能力、鑑賞の能力を見る調査を行うこととした。

## 2 調査実施学年と出題の範囲

### (1) 調査実施学年

小学校第6学年

中学校第3学年（中等教育学校前期課程第3学年を含む。）

### (2) 出題の範囲

図画工作科については、小学校学習指導要領第2章各教科第7節図画工作（平成10年告示）に示されている事項（「A表現」及び「B鑑賞」）を出題範囲とした。

美術科については、中学校学習指導要領第2章各教科第6節美術（平成10年告示）に示されている事項（「A表現」及び「B鑑賞」）を出題範囲とした。

## 3 調査実施期間

図画工作科：平成21年12月1日（火）～平成22年2月26日（金）

美術科：平成21年11月19日（木）～平成21年12月17日（木）

## 4 調査の内容

図画工作科では、発想や構想の能力（調査AⅠ）、鑑賞の能力（調査AⅡ）、鑑賞の能力及び創造的な技能（調査B）の調査を実施することとした。実施に当たっては、調査AⅠと調査AⅡを組み合わせた調査（「内容A」）と調査B（「内容B」）を行うこととした。

美術科では、鑑賞の能力及び発想や構想の能力（調査ⅠA）、発想や構想の能力（調査ⅠB）、鑑賞の能力（調査Ⅱ）の調査を行うこととした。実施に当たっては、調査ⅠAと調査Ⅱを組み合わせた調査（「内容A」）と調査ⅠBと調査Ⅱを組み合わせた調査（「内容B」）を行うこととした。

なお、学習内容に関連した児童生徒の意識や、教師の指導の実際等に関する質問紙調査もあわせて実施した。

## 5 調査対象の抽出

小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒について、それぞれ約3,000人（内容Aについては約2,000人、内容Bについては約1,000人）の調査結果を得ることとして、全国の国公私立の小学校及び中学校から無作為に抽出した調査対象学校における対象学年の全学級から、研究所が示す方法によりそれぞれ1学級を抽出し、その学級の児童生徒全員を調査対象とした。

## 6 調査実施学校数及び児童生徒数

	種類	学校数（校）		児童生徒数（人）	
図画工作科	内容A	79	119	2,343	3,521
	内容B	40		1,178	
美術科	内容A	69	104	2,235	3,333
	内容B	35		1,098	

## 7 調査対象学校における実施方法

### (1) 調査問題

本調査においては、内容に応じて、ペーパーテストと実技調査などを組み合わせて実現状況を把握した。

なお、図画工作科では、調査AⅠ及び調査AⅡ（「内容A」）に取り組む児童は約2,000人、調査B（「内容B」）に取り組む児童は約1,000人とした。美術科では、調査ⅠA及び調査Ⅱ（「内容A」）に取り組む生徒は約2,000人、調査ⅠB及び調査Ⅱ（「内容B」）に取り組む生徒は約1,000人とした。

（調査の方法）

	内容	調査Ⅰ	調査Ⅱ	質問紙
図画工作	内容A	○調査AⅠ 発想や構想の能力 【絵に表す実技】	○調査AⅡ 鑑賞の能力 【ペーパーテスト】	学習内容に関連した児童の意識等
	内容B	○調査B 鑑賞の能力及び創造的な技能 【ペーパーテスト及び木片を用いてつくる実技】		
美術	内容A	○調査ⅠA 鑑賞の能力及び発想や構想の能力 【ペーパーテスト及びデザインに表現する実技】	○調査Ⅱ 鑑賞の能力 【ペーパーテスト】	学習内容に関連した生徒の意識等

内容 B	○調査 I B 発想や構想の能力 【絵に表現する実技】		
---------	-----------------------------------	--	--

(2) 児童・生徒質問紙調査

調査対象学級の児童生徒に対し、図画工作科，美術科の学習に対する意識や学習内容に関する意識，調査問題に関することなどについて調査した。

(3) 学校質問紙調査

調査対象学級で図画工作科，美術科の指導を行っている教員を対象として，指導の工夫や児童生徒の学習状況などについて調査した。

## 8 採点及び集計

本調査においては，研究所が設定した問題ごとの解答類型に従って採点し，集計を行った。

(参考) 調査結果を見るに当たって

(1) 正答，準正答

解答については，正答のほか，問題によって，完全な正答とはいえないが，学習指導要領の目標，内容に照らしての学習の実現状況を判断しようとする際，その問題のねらいからは正答をしたものと同等に扱ってよいと判断できるものとして「準正答」を設けた。

(2) 通過率

調査実施児童生徒数（有効な解答を行ったものとして，集計対象とした児童生徒の人数。無解答も含まれる。以下，同様。）のうち，正答又は準正答いずれかを解答した児童生徒数の割合を「通過率」とした。

(3) 解答類型

児童生徒の具体的な解答の状況から学習上の課題をとらえ，学習指導の改善につなげることができるよう，設問ごとの正答，準正答，予想される誤答などを分類したものを「解答類型」とした。

(4) 反応率

調査実施児童生徒数のうち，それぞれの解答類型に属する解答をした児童生徒数の割合を「反応率」とした。





## 調査結果

### Ⅱ 図画工作科における調査

## Ⅱ 図画工作科における調査について

### 1 調査 A I における調査結果

#### 問題

はさみの「形」や「働き」など材料の特徴を基に発想や構想をすること

#### (1) 出題の趣旨

本問では、材料の特徴をとらえ、その「形」や「働き」を取り入れて発想や構想をすることについて調査した。

これは、学習指導要領第5学年及び第6学年A表現(2)アに関する内容である。

#### (2) 問題の構成・内容

出題のねらい	出題の大要	学習指導要領との関連
材料の特徴をとらえ、その「形」や「働き」を取り入れて発想や構想をしているかについて把握する。	「形」や「働き」を取り入れて、はさみを生き物に変身させた絵をかくとともに、何をかいたのか、どこにどのような「形」や「働き」を取り入れたのかななどを記述する。	第5学年及び第6学年 A表現(2)ア

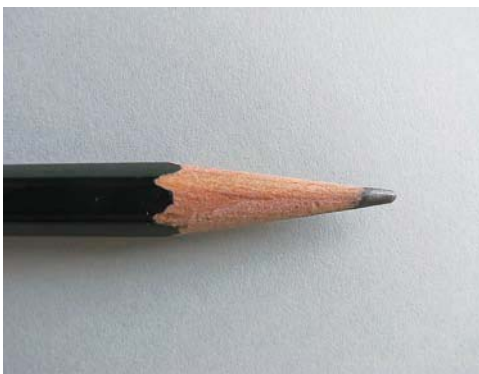
調査問題に見開きで見るページがあるため、  
空白のページを入れています。

### (3) 調査問題と結果の概要

#### 【調査問題 問題】

みなさんが日ごろから使用している文房具ぶんぼうぐを使った問題です。

小野さんは、鉛筆えんぴつをいろいろな方向から見ました。

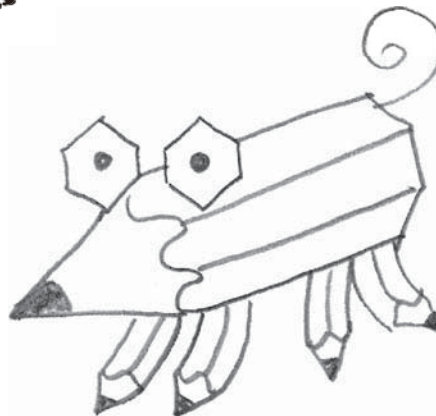


そして、小野さんは、鉛筆を生き物に変身させて絵をかきました。「えんぴつねずみ」という名前で、机の上を動いて、知らないうちにノートに落書きをしてしまうという特徴がある生き物です。

これを見て、みんなで話し合いました。

ただ、鉛筆をかいただけではないね。

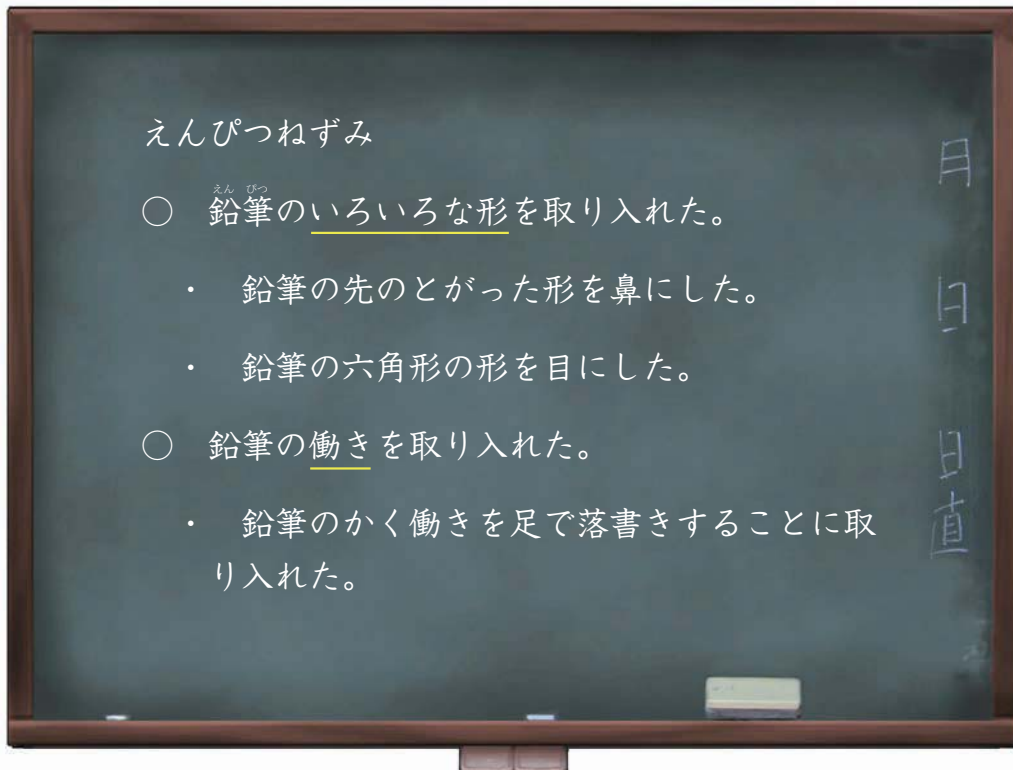
そうだね。目や胴体など、鉛筆のいろいろな形を取り入れているね。



足が落書きをするのかな。

鉛筆の動きを取り入れているんだ。

みんなで話し合った結果を黒板にまとめたら、小野さんの絵には、次のように、  
二つの工夫くふうがあるということになりました。



問題

あなたも小野さんのように、<sup>ぶんぼうぐ</sup>文房具を生き物に変身させてみましょう。

変身させる文房具は「はさみ」です。

まず、机の上にある「はさみ」と画用紙を使って、いろいろな方向から見たり、画用紙を切ったりして、「はさみ」の形や働きを実際に確かめましょう。

それから、考えた生き物を、別紙の解答用紙の①に絵でかきましょう。そのとき、次の二つの条件を必ず取り入れましょう。

- 「はさみ」のいろいろな形を取り入れること
- 「はさみ」の働きを取り入れること

また、自分の考えた生き物について、別紙の解答用紙の②から⑤の問題に文章で答えましょう。





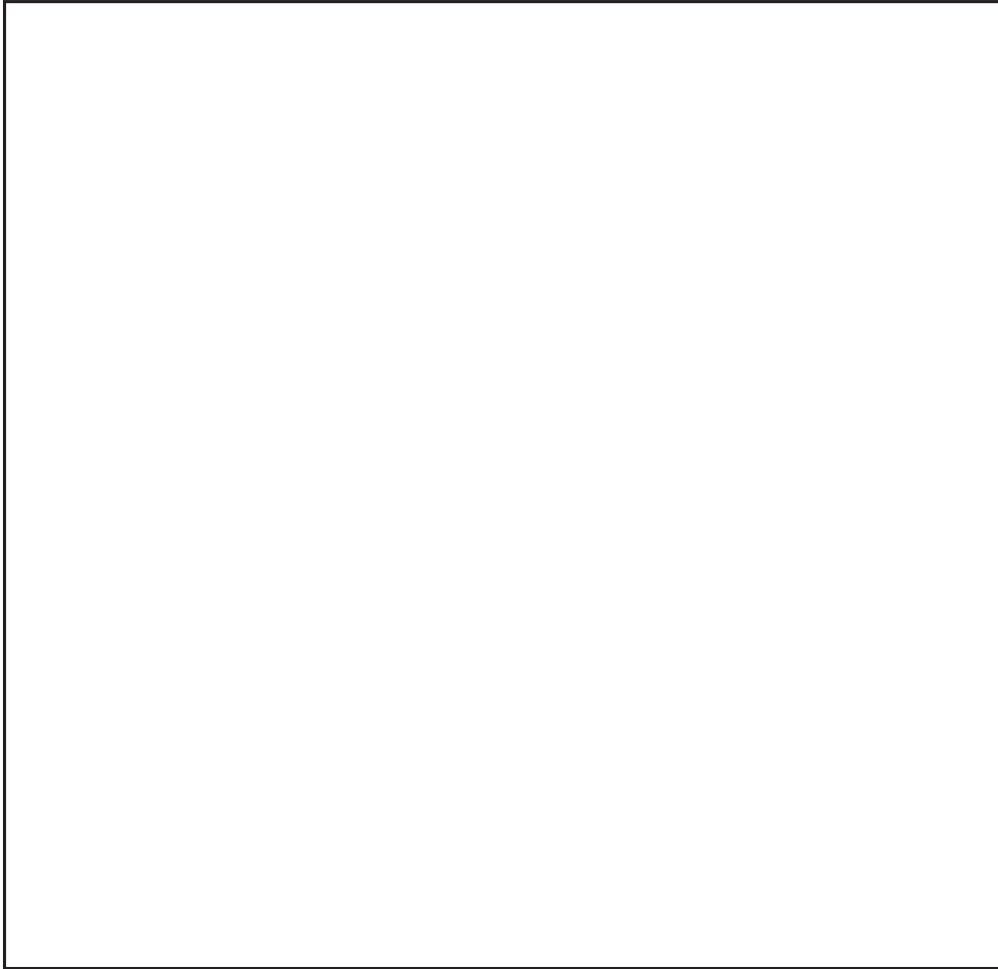
見開きの解答用紙があるため、  
空白のページを入れています。

【調査問題 解答用紙】

平成21年度  
図画工作  
調査 A I

# 解 答 用 紙

- ① 絵をかきましょう。

A large empty rectangular box with a black border, intended for the student to draw their answer to the question.

② 生き物の名前を書きましょう。

--

③ 生き物の特徴とくちょうを書きましょう。


④ 「はさみ」のどのような形を，どこに取り入れたのか書きましょう。

はさみの形	取り入れたところ

⑤ 「はさみ」のどのような働きを，どこに取り入れたのか書きましょう。

はさみの働き	取り入れたところ

## 問題

### ① 出題の概要

本問は、はさみの「形」や「働き」を取り入れて、はさみを生き物に変身させて絵に表す問題である。

出題に当たっては、児童が発想や構想をする際に、その視点や見方をもつことができるようにするため、導入として、鉛筆の特徴をとらえて生き物に変身させる例を示した。その上で、はさみと画用紙を児童一人一人に配付し、はさみをいろいろな方向から見たり、画用紙を実際に切ってみたりすることを指示し、はさみの「形」や「働き」を実感しながらかくことができるように配慮した。絵に表す時間は35分に設定した。さらに、児童の表現の意図を把握したり、発想の内容を読み取ったりするため、何をかいたのか、どこにどのような「形」や「働き」を取り入れたのかななどを記述させた。

### ② 調査結果の概要と分析

#### ○ はさみの「形」を生き物に取り入れる発想や構想をした児童は97.6%であった。

本問では、限られた時間の中で、はさみを生き物に変身させて絵に表すため、豊かな発想や構想についてまでは求めなかったが、発想や構想の学習では、材料の特徴を基に、よりイメージを発展させることが大切である。そこで、豊かな発想や構想をしていることが読み取れるもの（解答類型1）とはさみの「形」を取り入れていることが絵から読み取れるもの（解答類型2）を正答、記述を読むと絵から読み取れるもの（解答類型3）を準正答としており、それぞれ88.3%、9.3%であった。それらを合計した通過率は97.6%であった。このことから、はさみの「形」を生き物に取り入れる発想や構想をすることは、相当数の児童ができていた。

正答した児童のうち、豊かな発想や構想をしていることが読み取れる絵をかいた児童（解答類型1）は3.5%であった。これらの児童は、自分の表したい意図に応じて、効果的にはさみの「形」を変形したり、要素を分解したり、合成したりしていた。このことから、はさみの「形」の特徴をとらえ、それを基に、よりイメージを発展させて発想や構想をしたと考えられる。

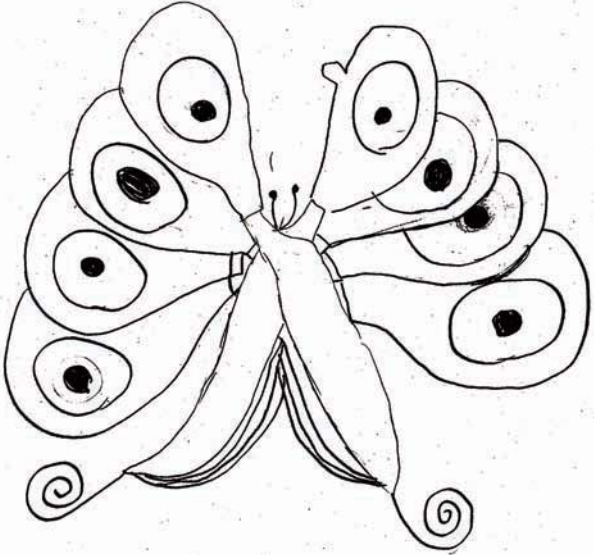
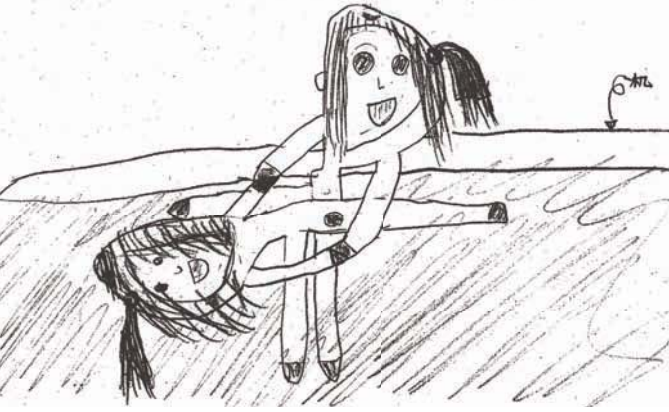
【問題「形」 解答類型ごとの反応率】

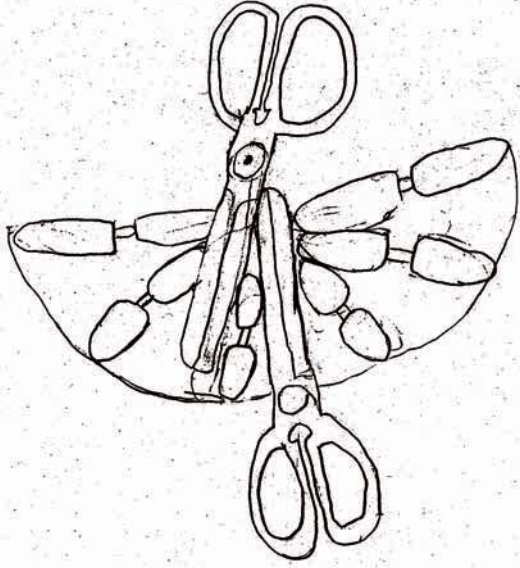
通過率 97.6%

類型番号	解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	絵から読み取れる		記述から読み取れる	反応率
		絵のみ	記述+絵		
◎1	はさみを生き物に変身させるに当たって、はさみの形を取り入れて、豊かな発想や構想をしていることが、次のいずれかから読み取れるもの ・絵のみから読み取れる ・どのような形をどこに取り入れたかについての記述を読むと、絵から読み取れる	○ (豊かな発想や構想)		—	3.5%
◎2	はさみを生き物に変身させるに当たって、はさみの形を取り入れていることが絵から読み取れるもの	○	—	—	84.8%
○3	はさみを生き物に変身させるに当たって、はさみの形を取り入れていることが、絵のみからは読み取れないが、どのような形をどこに取り入れたかについての記述を読むと、絵から読み取れるもの	×	○	—	9.3%
4	はさみを生き物に変身させるに当たって、はさみの形を取り入れていることが、どのような形をどこに取り入れたかについての記述からは読み取れるものの、記述と照らし合わせても絵から読み取れないもの	×	×	○	0.8%
5	はさみを生き物に変身させるに当たって、はさみの形を取り入れていることが、絵からも記述からも読み取れないもの	×	×	×	0.9%
6	絵をかいていないもの（記述もないものを除く）	/			0.2%
9	上記以外の解答	/			0.0%
0	無解答	/			0.6%

注) 表中の—は判定していないことを表す。

【問題 「形」 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例	(◎：正答 ○：準正答)
	絵	記述
◎ 1		<p>[生き物の名前] ちょうバサミ</p> <p>[生き物の特徴] ひらひらとんでいて、花をみつけるとみつをすう。ざっそうがはえてたらざっそうを切る。</p> <p>[どのような形] ちょうのすがた</p> <p>[形を取り入れたところ] 羽がはさみのもつところと切るところ。もつところはもようです。切るところの先はみつをすうこともできます。</p> <p>※ 絵のみから形を取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。</p>
	<p>〈判定の視点〉</p> <p>はさみの持ち手を蝶の翅<sup>はね</sup>に見立て、刃を曲線に変形し、ひげのような装飾的な線も加えている。はさみを単独でかくのではなく、いくつも重ねて合成することで面の広さと模様<sup>はね</sup>の両方を表現している。このように、効果的にはさみの形を変形したり、合成したりしている。</p>	
◎ 1		<p>[生き物の名前] バレリーバサミ</p> <p>[生き物の特徴] バレリーバサミは、2人のバレリーナがゆうがにダンスをしているけど、いざという時は、はさみとなり、いろいろな物を切る所が特徴です。</p> <p>[どのような形] ひらいた形</p> <p>[形を取り入れたところ] 力点を2人の顔として取り入れた。作用点を2人の1本ずつの足として、またあと2本の足</p>

		<p>も取り入れた。</p> <p>※ 絵のみから形を取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。</p>
	<p>&lt;判定の視点&gt;</p> <p>1つのはさみの形を2つに分解し、それぞれ2人のバレリーナに見立てて変形した上で、これを再度合成している。このように、効果的にはさみの形を変形したり合成したりしている。</p>	
<p>◎ 1</p>		<p>[生き物の名前]</p> <p>はさみカラス</p> <p>[生き物の特徴]</p> <p>夜出てきていろいろなものを切っていく、気に入らないものはゴミ箱に捨ててしまう。</p> <p>[どのような形]</p> <p>上からみた形</p> <p>[形を取り入れたところ]</p> <p>顔と体</p> <p>※ 絵のみから形を取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。</p>
	<p>&lt;判定の視点&gt;</p> <p>はさみの持ち手を鳥の目、刃を鳥のくちばしに見立てている。1つのはさみを頭に、1つのはさみを胴体に、持ち手の方向から見たはさみの形を翼に用い、これらを効果的に合成して鳥を表現している。</p>	



◎ 1



[生き物の名前]

ハサミドリ

[生き物の特徴]

羽がすべて刃でできている。いろいろなところに刃がついている。

[どのような形]

- ①はさみのとじている形を取り入れた
- ②はさみの持つところの形を取り入れた

[形を取り入れたところ]

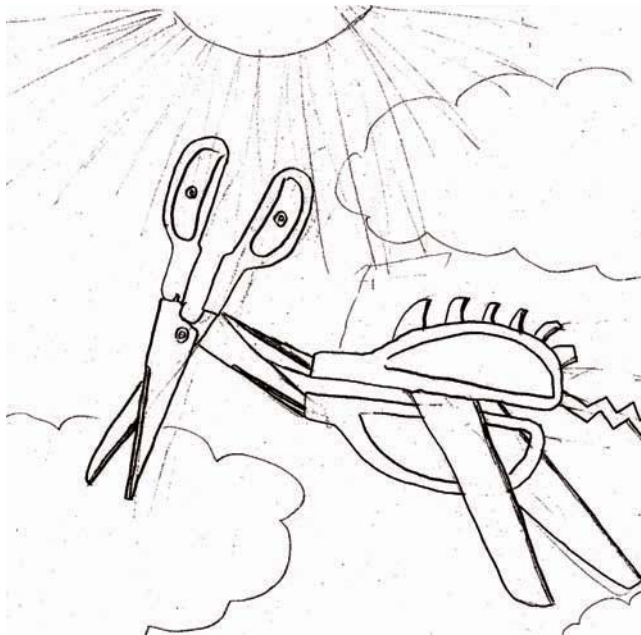
- ①羽、くちばし、しっぽに取り入れた。
- ②顔、足、腹の模様に取り入れた。

※ 絵のみから形を取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。

<判定の視点>

はさみ全体の形を顔や頭部ばかりでなく、胴体や翼にも隙間なく用いている。特に、はさみの刃の形を翼の一枚一枚の羽の模様に見立て、翼の曲面に合わせ、効果的に合成している。

◎ 1



[生き物の名前]

チョッキンカラス君

[生き物の特徴]

口で物をきりきざんでちいさくしてたべる。しっ尾は刃がぎざぎざのぶぶん。羽で物をきることできる。

[どのような形]

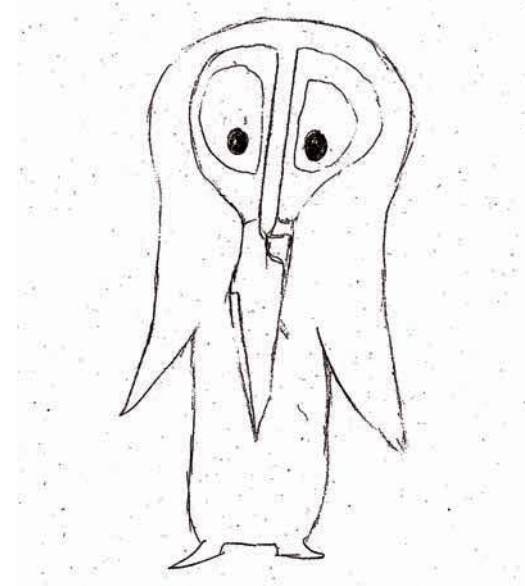
- ひらいたところ 刃 (は, きり口)
- ぎざぎざの刃 (は, きり口)
- ネジ

[形を取り入れたところ]

頭, 体, はね, 体のトゲ, しっ尾, 目

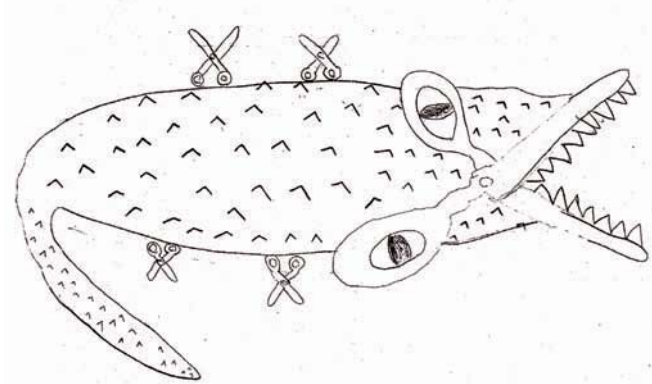


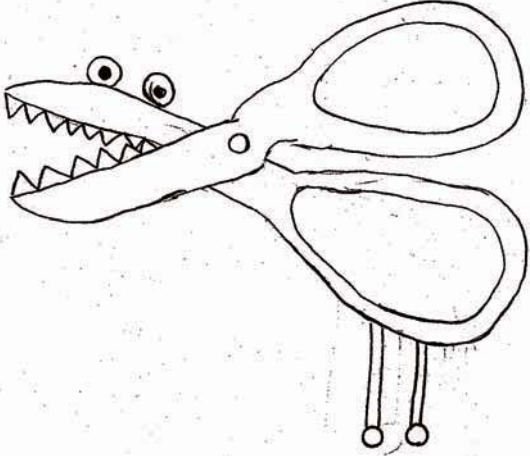
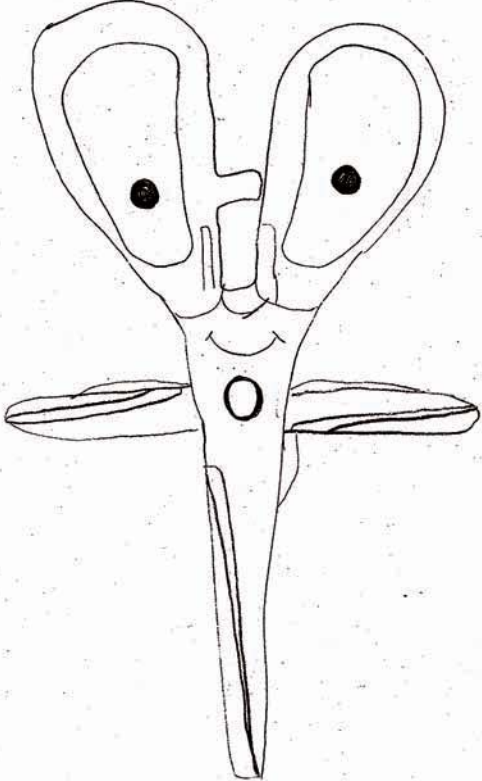
		<p>※ 絵のみから形を取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。</p>
	<p>&lt;判定の視点&gt;  はさみ全体の形を鳥の頭に見立て、はさみの刃を翼、持ち手を胴体に見立て、さらに、はさみの刃を変形して首をもたげるようにしている。そして、これらを合成して鳥を表現している。このように、効果的にはさみの形を変形したり、合成したりしている。</p>	
<p>◎ 1</p>		<p>[生き物の名前]  カチカチねずみ</p> <p>[生き物の特徴]  手で何でも切れ、耳でいろいろなものをはさむことができる。そしてそのあとおなかのふくろに入れる。</p> <p>[どのような形]  持つところ 切るところ</p> <p>[形を取り入れたところ]  ・持つところを耳とはなと目、そして、体にした。  ・切るところを、手とひげにした。</p> <p>※ 絵のみから形を取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。</p>
	<p>&lt;判定の視点&gt;  はさみの持ち手を耳に見立てている。さらに、持ち手を重ねて口や顔を構成したり、腹部の丸みをつくったり、刃を腕にしたりするなど、効果的に合成している。</p>	

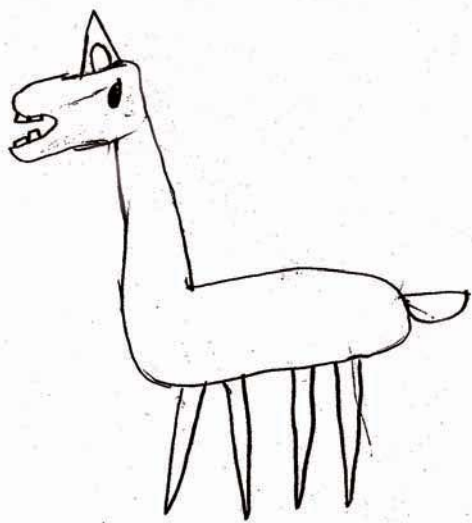
<p>◎ 2</p>		<p>[生き物の名前] ペンギン</p> <p>[生き物の特徴] 地上では、歩く速さは、速いとは、言えないけど、水の中に入ると、すごく速くなる。</p> <p>[どのような形] (記述なし)</p> <p>[形を取り入れたところ] はさみを持つ所を顔。切る所に、くちばし。</p> <p>※ 絵のみから形を取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。</p>
------------	---	--

<判定の視点>

はさみの持ち手を目、刃をくちばしに見立てている。はさみの形をそのままペンギンの顔としており、変形や合成をしていない。

<p>◎ 2</p>		<p>[生き物の名前] ワニ</p> <p>[生き物の特徴] 口がとても大きくて、体がとても大きい。目つきがこわい。背なかの上がゴツゴツしている。足のツメがとんがっている。走るのがとても速い。目の前に動物がいたら、いきよよくとびこんでくる。どんな植物や動物でもかみくだく。</p> <p>[どのような形] ものすごくとんがっている。うしろ丸い。前とがってる。こうさしてる。</p> <p>[形を取り入れたところ] 目や口に取り入れた。</p> <p>※ 絵のみから形を取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。</p>
------------	--	---

	<p>&lt;判定の視点&gt; はさみの持ち手を目，刃を口，はさみ全体を足に見立てているが，はさみの形をそのまま用いており，変形や合成をしていない。</p>	
◎ 2		<p>[生き物の名前] はさみきょうりゅう</p> <p>[生き物の特徴] 口の部分でどんな固い物でも，どんなあつい物でも何でも切っちゃう特ちょうがある。</p> <p>[どのような形] 切るところ</p> <p>[形を取り入れたところ] はさみの切るところを口にした。</p> <p>※ 絵のみから形を取り入れていることが読み取れるため，記述は判定の対象外である。</p>
	<p>&lt;判定の視点&gt; はさみの持ち手を胴体，刃を顔に見立てているが，はさみの全体の形をそのまま用いており，変形や合成をしていない。</p>	
◎ 2		<p>[生き物の名前] はさみこぞう</p> <p>[生き物の特徴] はさみこぞうの足ははさみになっていてこぞうがあるところにあるものをすべて切ってしまう特ちょうがあります。手もはさみになっていてはをうごかしながら“カチ，カチ”とやらせてやってきます。</p> <p>[どのような形] とじたままの形 とじたままのはさみのよこ</p> <p>[形を取り入れたところ] 体の部分と左右の手にした。</p> <p>※ 絵のみから形を取り入れていることが読み取れるため，記述は判定の対象外である。</p>
	<p>&lt;判定の視点&gt;</p>	

	はさみの持ち手を目，刃を足と手に見立て，それらを合成している。しかし，はさみ全体の形をそのまま用い，そこに，手に見立てた刃をつけたのみであり，効果的に合成しているとまではいえない。
○ 3	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>[生き物の名前] 馬さみ</p> <p>[生き物の特徴] 足で草を切って，自分で切った草を食べる。</p> <p>[どのような形] 持つところをしっぽと耳とどうたいにしました。切るところは，足と首にしました。</p> <p>[形を取り入れたところ] 切るところと，持つところと，ねじみたいなところと，持つところのふくらんでいる部分です。</p> </div> </div> <p>〈判定の視点〉 はさみの刃を馬の足に見立てていることなどが絵からは読み取れないが，文章を読むと絵からそのことが読み取れる。</p>

注) 解答例は児童の解答のまま。ただし，分かりやすいように，一部抜粋等によって示した。以下，解答例は同様。

## ○ はさみの「働き」を生き物に取り入れる発想や構想をした児童は95.1%であった。

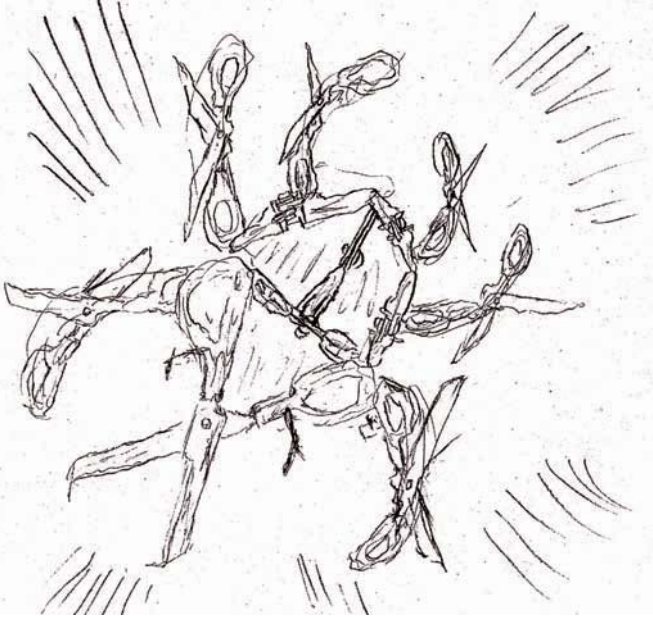
はさみの切ったり動いたりするなどの「働き」を取り入れて生き物に変身させることでは，はさみの「働き」を取り入れていることが絵から読み取れるもの（解答類型1）を正答，記述を読むと絵から読み取れるもの（解答類型2）を準正答としており，それぞれ83.3%，11.9%であった。それらを合計した通過率は95.1%であった。このことから，はさみの「働き」を生き物に取り入れる発想や構想をすることは，相当数の児童ができていた。

誤答のうち，はさみの「働き」を取り入れていることが，記述からは読み取れるものの，記述と照らし合わせても絵から読み取れないもの（解答類型3）が1.3%，絵からも記述からも読み取れないもの（解答類型4）が，2.8%であった。

【問題 「働き」 解答類型ごとの反応率】		通過率 95.1%
類型番号	解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎ 1	はさみを生き物に変身させるに当たって，はさみの働きを取り入れていることが，絵から読み取れるもの	83.3%
○ 2	はさみを生き物に変身させるに当たって，はさみの働きを取り入れて	11.9%

	いることが、絵のみからは読み取れないが、どのような働きをどこに取り入れたかについての記述を読むと、絵から読み取れるもの	
3	はさみを生き物に変身させるに当たって、はさみの働きを取り入れていることが、どのような働きをどこに取り入れたかについての記述からは読み取れるものの、記述と照らし合わせても絵からは読み取れないもの	1.3%
4	はさみを生き物に変身させるに当たって、はさみの働きを取り入れていることが、絵からも記述からも読み取れないもの	2.8%
5	絵をかいていないもの（記述もないものを除く）	0.2%
9	上記以外の解答	0.0%
0	無解答	0.6%

【問題 「働き」 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答 ○：準正答)	
	絵	記述
◎ 1		<p>[生き物の名前] ハサミクワガタ</p> <p>[生き物の特徴] つものとなるはさみの部分で岩以外の全てを切りきざむ、基本的に人間には攻撃しないが、おこると足6本とつので体当たりして切りさくというおそろしい一面を持っているが、時に芸術性といった力も発揮する。</p> <p>[どのような働き] はさみを使った芸術性とはさみほんらいの切るといふ働き。</p> <p>[働きを取り入れたところ] はさみの切る働きやはさみを使ってものを作るという働きを特につのに取り入れた。</p> <p>※ 絵のみから働きを取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。</p>
	<p>&lt;判定の視点&gt; はさみの切る働きをクワガタの顎の切る働きに、はさみの刃の動きをクワガタの足の関節に取り入れている。</p>	



◎ 1



[生き物の名前]

はさみダチョウ

[生き物の特徴]

いつものんびりなはさみダチョウ。でもおこらせるとがったくちばしをパクパクしながら、走りまわります。そして、おこらせた人のかみを必ず七三分けにカットします。将来はスーパーな七三分けカット達人になりたいそうです。

[どのような働き]

紙を切る働き

[働きを取り入れたところ]

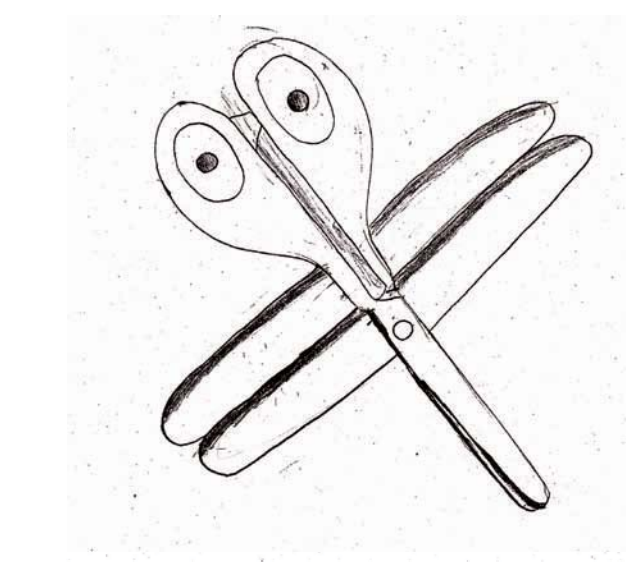
くちばし

※ 絵のみから働きを取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。

<判定の視点>

くちばしの部分にはさみの切る働きを取り入れている。

○ 2



[生き物の名前]

とんぼ

[生き物の特徴]

切りたいばしょをとびながらしっぽで切ってくれる。

[どのような働き]

いろんなものが切れる。

[働きを取り入れたところ]

とびながらしっぽでいろいろな物を切っていく。

<判定の視点>

絵から、はさみの働きを取り入れていることは分らないが、記述を読むと、しっぽ（胴）の部分が開いてはさみのように切るといふ働きをもっていることが読み取れる。

○ はさみの「形」，「働き」の両方を生き物に取り入れる発想や構想をした児童は94.9%であった。

本問は、「形」と「働き」の両方を生き物に取り入れて発想や構想をしているかを見る問題であることから、「形」，「働き」の別に見るだけではなく，その両方を取り入れることについても見ることにする。「形」，「働き」について通過した児童は，それぞれ97.6%，95.1%であった。また，その両方を通過した児童は94.9%であり，相当数の児童ができていた。さらに，「形」，「働き」がともに解答類型1であった児童は3.3%であった。

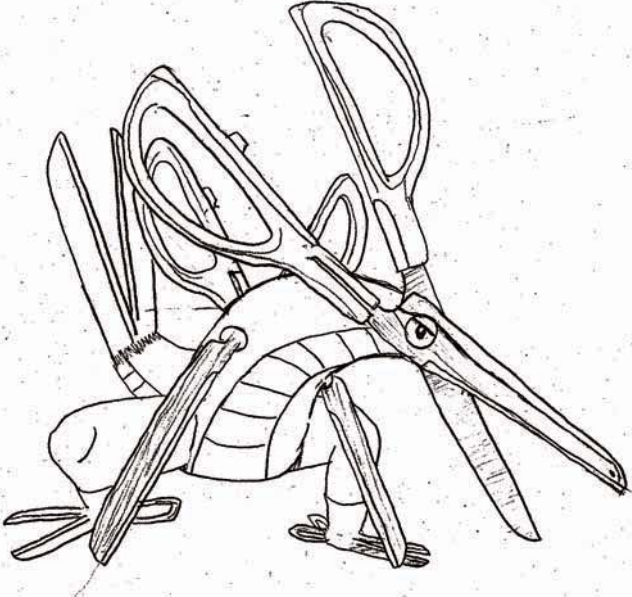
＜参考＞形，働きにおける解答類型1

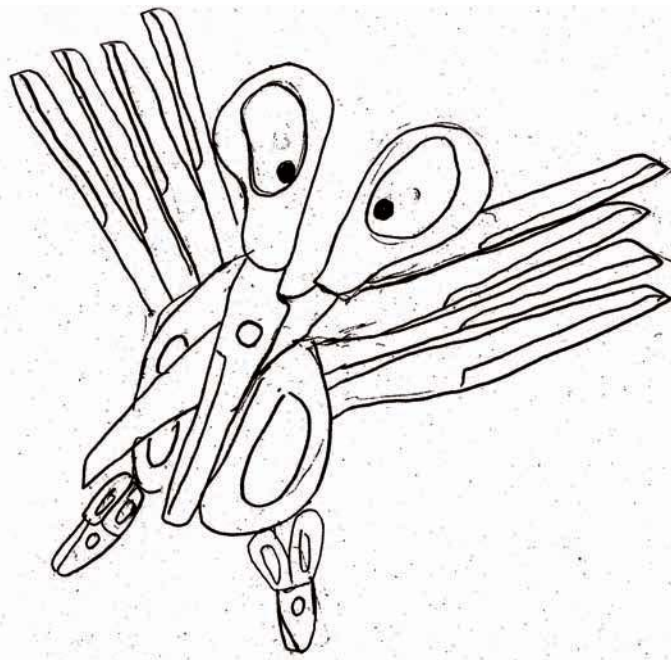
形：はさみの形を取り入れて，豊かな発想や構想をしていることが読み取れるもの

働き：絵から，はさみの働きを取り入れていることが読み取れるもの



【「形」と「働き」がともに解答類型1の解答例】

解答例	
絵	記述
	<p>[生き物の名前] ハサミザウルス</p> <p>[生き物の特徴] 口や足の指、手やしっぽを動かすと、モノが切れてしまう。非常に危ない、恐竜。</p> <p>[どのような形] はさみの力点、支点、作用点</p> <p>[形を取り入れたところ] 耳やかかとにした。目にした。口、手、足の指、しっぽの先にした。</p> <p>[どのような働き] 切る働き。</p> <p>[働きを取り入れたところ] 口に取り入れた。手でも、足でも、しっぽでも、モノを切れる。</p> <p>※ 絵のみから形と働きを取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。</p>
<p>&lt;判定の視点&gt;</p> <p>はさみ全体を頭部に見立て、刃を口、金具を目に見立てている。はさみの刃の向きを全て変えてかいている。恐竜の背中の中に見立てた持ち手と、手に見立てた刃とを一体となるように合体させたはさみの形が見られる。</p> <p>はさみの働きについては、口、手などに取り入れている。</p>	



**[生き物の名前]**

はさみ鳥

**[生き物の特徴]**

この鳥は、紙を見るとすぐにとんでいって紙を切ってしまう特徴がある鳥です。

**[どのような形]**

はさみのもつ所と切る所

**[形を取り入れたところ]**

持つ所は、目やどう体にして、切る所はつばさやくちばしに取り入れた。

**[どのような働き]**

紙を切る働き

**[働きを取り入れたところ]**

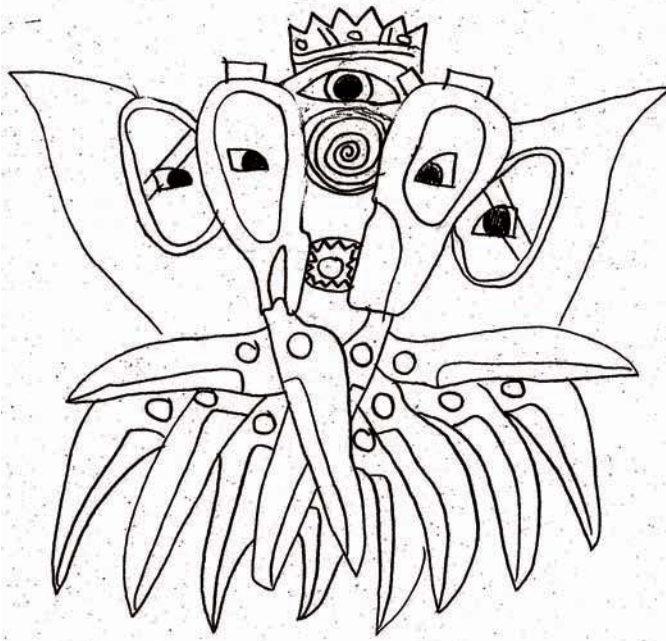
紙を切る働きをくちばしで切ることに取り入れた。

※ 絵のみから形と働きを取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。

**<判定の視点>**

はさみ全体を頭部に見立て、刃を口ばし、持ち手を目に見立てている。さらに、刃を複数重ね合わせて翼に見立て、そのうちの一つの持ち手を胴体になっている。また、はさみ全体の形を足に見立てている。頭部と胴体を重ね合わせ、立体的にかいており、効果的に合成している。

はさみの働きについては、口ばしに取り入れている。



[生き物の名前]

はさみタコハチ星人の王様

[生き物の特徴]

へんけいじざいにいろんなところを切れる。いろんな角度からきれる。みんながいないとき鉄でもなんでも切っている。

[どのような形]

開いているところ。

[形を取り入れたところ]

いろんな場所からもてて、いろんな場所から切れる。

[どのような働き]

物を切る。

[働きを取り入れたところ]

足に切る部分を取りつけた。

※ 絵のみから形と働きを取り入れていることが読み取れるため、記述は判定の対象外である。

<判定の視点>

はさみを開いた形を変形させた上で複数重ね、それぞれ足、手、目、耳などにするこ  
で、全体として生き物の形をつくっており、効果的にはさみの形を変形し、合成している。  
はさみの働きについては、足に取り入れている。

○ 絵をかきながらいろいろなアイデアが浮かんだと回答をした児童は75.2%、楽しかったのは絵をかいているときと回答をした児童は56.6%であった。

本問に関する児童質問紙調査では、「絵をかきながら、いろいろなアイデアが浮かびましたか。」(質問3(1)①)に対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答をした児童が75.2%であった。また、「どの場面が楽しかったですか。」(質問3(1)② 複数回答可)に対して、「絵をかき終わったとき」、「絵について文章を書いているとき」と回答をした児童がそれぞれ22.2%、19.2%であったのに対して、「絵をかいているとき」と回答をした児童は56.6%であった。これらのことから、児童は、絵をかくことを楽しみながら、そのプロセスにおいて表したいことや表し方を思い付いていたと考えられる。

#### (4) 分析結果から見た指導の改善

**児童が自分なりの感じ方や考え方を発展できるよう指導を工夫することが大切である。**

材料の特徴をとらえて発想や構想をすることについて、相当数の児童ができていた。また、その中には、はさみの形の特徴をとらえ、変形したり、合成したりするなど、より豊かにイメージを発展させて発想や構想をした児童が3.5%見られた。一方、本問に関する児童質問紙調査の結果から、児童は、絵をかくことを楽しみながら、そのプロセスにおいて表したいことや表し方を思い付いていた。これらのことから、児童自身が楽しみながら表現活動を行い、自分なりの感じ方や考え方を発展させ、発想や構想を展開できるようにするとともに、発想や構想の能力を一層伸ばすための具体的な指導の工夫が大切である。具体的には、次のような工夫が考えられる。

##### **発想を助けるような具体的な体験をする。**

材料の特徴などから様々な手がかりを見付けるために、児童にとって身近な材料を触ってみたり、実際に使ってみたりするなど、具体的な体験をすることが大切である。また、材料をいろいろな方向から眺めたり、分解したり合成したりするなど、主体的に材料にかかわる時間を確保することが考えられる。

##### **発想や構想の手がかりになる視点や方法を提示する。**

表したいことをよりよく表すために、見る方向によって形が異なることに気付かせたり、変形、分解、合成など、いろいろな発想の方法があることを確かめさせたりするなど、適切に発想や構想の手がかりを示すことが有効である。また、簡単なスケッチをかく、段取りを見直すなど、表し方の工夫ができるような方法を取り入れることが考えられる。このとき、何枚もかく、話合いながら見直す、何度もかき直すなど、試行錯誤しながら発想や構想を広げられるようにすることが大切である。

##### **話合い活動や〔共通事項〕を意識した指導を取り入れる。**

表し方の工夫などを少人数のグループで話し合ったり、それをまとめたりすることによって、児童が、発想や構想をしたことを確かめながら表現できるようにすることが考えられる。このとき、平成20年に告示された小学校学習指導要領第2章各教科第7節図画工作（以下「新学習指導要領」という。）で示された〔共通事項〕は有効な手立てであり、形や色などの特徴やそれを基にしたイメージなどの具体的な視点から話し合うことが大切である。

## 2 調査AⅡにおける調査結果

### 問題1

表現の意図と表し方の工夫を関連付けてとらえること

#### (1) 出題の趣旨

問題1では、作品の製作過程を見て、作者の表現の意図と表し方の工夫を関連付けてとらえることについて調査した。具体的には、問題(1)では、表し方の工夫をとらえているか、問題(2)では、表現の意図と表し方の工夫を関連付けてとらえているかを調査した。

これは、学習指導要領第5学年及び第6学年のB鑑賞(1)アに関する内容である。

#### (2) 問題1の構成・内容

問題番号	出題のねらい	出題の大要	学習指導要領との関連
(1) ① ②	作品の製作過程を見て、表現の意図と表し方の工夫を関連付けてとらえているかを把握する。	A→B→Cの順番で葉、カタツムリを表す過程を見て、表したいことにそって、どのように表し方の工夫をしているかを選択する。	第5学年及び第6学年 B鑑賞(1)ア
(2)		A→B→Cの順番で花びらを表す過程を見て、表現の意図とその表し方の工夫を記述する。	

調査問題に見開きで見るページがあるため、  
空白のページを入れています。



### (3) 調査問題と結果の概要

#### 【調査問題 問題1】

1

粘土は、丸めたり、のばしたりなどする手の動きがそのまま形になって表れる材料です。山田さん、小野さん、中川さんは、いろいろなつくり方を工夫しました。

- 山田さんは、粘土を平らな板にして、それを丸めたりひねったりしました。



- 小野さんは、粘土をひものようにして、それを曲げたり重ねたりしました。



- 中川さんは、粘土の表面に針金で、いろいろな模様をかきました。



松山さんは、友だちのつくり方を取り入れて、A、B、Cの順番で花や葉、カタツムリを表しました。

A



B



C





(1) 松山さんは、だれのつくり方を取り入れてどのように工夫したのか、もっともふさわしいものをそれぞれ1から3の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- ① 松山さんは、AからBに進むとき、生き生きしたカタツムリにするために、  
 { 1 山田さん 2 小野さん 3 中川さん } のつくり方を取り入れて  
 { 1 細い粘土のひもをカタツムリの目にして表情をつけた。  
 2 今にも葉の上に乗れそうな位置にカタツムリを置いた。  
 3 粘土のひもでできたカタツムリの体を曲げた。 }

答 え	友だち	つくり方の 工夫

- ② 松山さんは、BからCに進むとき、葉の感じを表すために、  
 { 1 山田さん 2 小野さん 3 中川さん } のつくり方を取り入れて  
 { 1 粘土の細いひもで葉脈をつくって葉の表面につけた。  
 2 粘土でつくった板を葉の形に曲げて重ねた。  
 3 葉の表面のすみずみまで針金で細い葉脈をかいた。 }

答 え	友だち	つくり方の 工夫

(2) 松山さんは、AからCまで進む中で、花びらのつくり方を工夫しています。  
 松山さんは花びらのどのような感じを表すために、どのようなつくり方の工夫をしたか一つ答えましょう。

答 え	花びらの感じ	つくり方の工夫

## 問題1

### ① 出題の概要

問題1は、粘土を用いて「平らな板にして、それを丸めたりひねったりする」、「ひものようにして、それを曲げたり重ねたりする」、「表面に針金で、いろいろな模様をかく」という3つの表し方を紹介した上で、A→B→Cの順番で花や葉、カタツムリを表す友だちの作品の製作過程を見て解答する問題である。

問題1はいずれも表現の意図と表し方の工夫を関連付けてとらえているかを問う問題であるが、問題(1)では表現の意図を示した上で表し方と表し方の工夫を選択する、問題(2)では表現の意図とその表し方の工夫を記述するというように、段階を追いながら調査した。また、「表し方」は、児童に分かりやすいように、問題文では「つくり方」と表記した。

### ② 調査結果の概要と分析

○ 表し方と表し方の工夫を両方正しく選択した児童は、①では74.9%、②では85.2%であった。

問題(1)①は、A→Bに進むとき、生き生きしたカタツムリにするための表し方と表し方の工夫を選択する内容である。表し方として「2 小野さん」(粘土をひものようにして、それを曲げたり重ねたりする。)を選択し、表し方の工夫として、「3 粘土のひもでできたカタツムリの体を曲げた。」を選択したもの(解答類型1)を正答としており、正答した児童は74.9%であった。これらの児童は、示された表現の意図に応じた表し方の工夫をとらえることができていると考えられる。

誤答のうち、表し方として「2 小野さん」を選択し、表し方の工夫として「1 細い粘土のひもをカタツムリの目にして表情をつけた。」、「2 今にも葉の上に乗るような位置にカタツムリを置いた。」など「3」以外を選択したもの(解答類型2, 3)が、14.0%であった。表し方の工夫として「1」を選択をした児童(解答類型2)は、問題文の「生き生きした」という記述と選択肢の「目にして表情をつけた」という記述を関連付けてとらえたと考えられる。また、表し方の工夫として「2」を選択した児童(解答類型3の一部)は、カタツムリの体に見立てた粘土のひもを曲げたことにより動きが生まれたことを、カタツムリの位置の移動としてとらえたと考えられる。これらの児童は、A→Bの過程では見られない表し方の工夫を選択しており、AからBへの変化をとらえることができなかつたと考えられる。

## 【問題1】 (1) ① 解答類型ごとの反応率】

通過率 74.9%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	友だち(表し方)を「2」、つくり方の工夫(表し方の工夫)を「3」と解答しているもの	74.9%
2	友だち(表し方)を「2」、つくり方の工夫(表し方の工夫)を「1」と解答しているもの	6.1%
3	友だち(表し方)を「2」、つくり方の工夫(表し方の工夫)を「1」又は「3」以外と解答しているもの	7.9%
4	友だち(表し方)を「2」以外、つくり方の工夫(表し方の工夫)を「3」と解答しているもの	4.1%
9	上記以外の解答	6.8%
0	無解答	0.2%

問題(1)②は、B→Cに進むとき、葉の感じを表すための表し方と表し方の工夫を選択する内容である。表し方として、「3 中川さん」(粘土の表面に針金で、いろいろな模様をかく。)を選択し、表し方の工夫として、「3 葉の表面のすみずみまで針金で細い葉脈をかいた。」を選択したもの(解答類型1)を正答としており、正答した児童は85.2%であった。これらの児童は、示された表現の意図に応じた表し方の工夫をとらえることができていると考えられる。

## 【問題1】 (1) ② 解答類型ごとの反応率】

通過率 85.2%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	友だち(表し方)を「3」、つくり方の工夫(表し方の工夫)を「3」と解答しているもの	85.2%
2	友だち(表し方)を「3」、つくり方の工夫(表し方の工夫)を「3」以外と解答しているもの	5.5%
3	友だち(表し方)を「3」以外、つくり方の工夫(表し方の工夫)を「3」と解答しているもの	2.4%
4	友だち(表し方)を「2」、つくり方の工夫(表し方の工夫)を「1」と解答しているもの	2.3%
5	友だち(表し方)を「1」、つくり方の工夫(表し方の工夫)を「2」と解答しているもの	2.8%
9	上記以外の解答	1.6%
0	無解答	0.2%

問題①又は②において非通過の児童は、製作の過程における表現の意図に応じた表し方の工夫をとらえることができなかった。

○ **花びらについて、表現の意図とその表し方の工夫を妥当に記述した児童は70.1%であった。**

問題(2)は、 $A \rightarrow B \rightarrow C$ に進むとき「 $A \rightarrow B$ では、花びらの中央から先に向かって、針金で線をかいている。」「 $B \rightarrow C$ では、花びらを曲げたりひねったりしている。」という花びらの表し方の工夫を見て、その表現の意図と表し方の工夫を記述する内容である。

$A \rightarrow B \rightarrow C$ へと進む過程における表現の意図とその表し方の工夫を妥当に記述したもの（解答類型1～5）を通過としている。通過した児童は70.1%であった。そのうち、問題文で示した1つという条件を満たしているもの（解答類型1, 2）を正答としており、56.5%であった。また、複数の表し方の工夫を記述したもの（解答類型3～5）を準正答としており、13.6%であった。解答類型1～3の児童は、表現の意図と表し方の工夫を関連付けてとらえることができていると考えられる。また、解答類型4, 5の児童も、表現の意図と表し方の工夫を関連付けてとらえることができていると考えられる。しかし、これらの児童は、Aで取り入れられている工夫や花びら以外の工夫もあわせて記述しており、花びらの感じの根拠を、製作の過程や花びらの工夫のみに限定して記述することができなかつた。

誤答のうち、 $A \rightarrow C$ へと進むことで表されるようになった花びらの感じを妥当に記述しているが、花びらの表し方の工夫を妥当に記述していないもの（解答類型7）や、花びらの感じと表し方の工夫をそれぞれ記述しているが、児童が記述した花びらの感じに合う表し方の工夫ではないもの（解答類型6）は、13.4%であった。解答類型6と解答類型7は、自分が記述した花びらの感じに対する表し方の工夫について、妥当に記述することができなかつた。また、これらの児童の中には、表現の意図と表し方の工夫を分けて考えて、それぞれの解答欄に記述することができなかつた者もいたと考えられる。

非通過の児童は、製作の過程における表現の意図と表し方の工夫を関連付けてとらえることができなかつた。

**【問題1】(2) 解答類型ごとの反応率**

通過率 70.1%

類型番号	解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	花びらの感じ (①)	表し方の工夫 (②)	①と②の関係	反応率
◎1	$A \rightarrow B$ へと進むことで表されるようになった花びらの感じと、その表し方の工夫を妥当に記述しているもの	○	○ ( $A \rightarrow B$ )	○	9.4%
◎2	$B \rightarrow C$ へと進むことで表されるようになった花びらの感じと、その表し方の工夫を妥当に記述しているもの	○	○ ( $B \rightarrow C$ )	○	47.1%
○3	$A \rightarrow C$ へと進むことで表されるようになった花びらの感じと、その花びらの感じに合う $A \rightarrow B$ 及び	○	○ ( $A \rightarrow B$ )	○	11.7%

	B→Cの表し方の工夫を妥当に記述しているもの		B→C)		
○4	A→Bへと進むことで表されるようになった花びらの感じと、その表し方の工夫を妥当に記述しているが、花びらの表し方の工夫として妥当ではないことも記述しているもの	○	○ (A→B, ただし妥当でない記述も有)	○	0.9%
○5	B→Cへと進むことで表されるようになった花びらの感じと、その表し方の工夫を妥当に記述しているが、花びらの表し方の工夫として妥当ではないことも記述しているもの	○	○ (B→C, ただし妥当でない記述も有)	○	1.0%
6	A→B又はB→Cへと進むことで表されるようになった花びらの感じと、A→B又はB→Cの表し方の工夫を妥当に記述しているが、記述した花びらの感じに合う表し方の工夫ではないもの	○	○ (A→B B→C (片方又は両方))	×	1.7%
7	A→B又はB→Cへと進むことで表されるようになった花びらの感じを妥当に記述しているが、花びらの表し方の工夫を妥当に記述していないもの	○	×	—	11.7%
8	A→B又はB→Cへと進むことで表されるようになった花びらの感じを妥当に記述していないが、A→B又はB→Cの花びらの表し方の工夫を妥当に記述しているもの	×	○ (A→B B→C (片方又は両方))	—	5.1%
9	上記以外の解答				8.8%
0	無解答				2.6%

注) 表中の—は判定していないことを表す。

### 【問題1】(2) 解答類型への分類と解答例】

解答類型への分類は、A→Cへと進む中での「花びらの感じ」の変化から作者の表現の意図をとらえているか、「表し方の工夫」をとらえているかという視点から行った。その上で、「花びらの感じ」と「表し方の工夫」の関係についても判定し、花びらの感じに合う表し方の工夫を記述しており、両者の関係が適切であるものを正答又は準正答とした。

類型番号	解答例 (◎：正答 ○：準正答)	
	花びらの感じ	つくり方の工夫
◎1	本物の花びらに見えて、生き生きしている感じ。	花びらに針金で細い線をかいた。
	<判定の視点> 作者の表現の意図、その意図に応じた表し方の工夫(A→B)を妥当に記述している。	
◎2	ふんわりさいた感じ。	花びらのはじっこの部分をまげた。
	<判定の視点>	

	作者の表現の意図，その意図に応じた表し方の工夫（B→C）を妥当に記述している。
○3	<p>さいたばかりの感じ。 花びらに線をいれ，外側をめくり上げた。</p> <p>〈判定の視点〉</p> <p>作者の表現の意図，その意図に応じた表し方の工夫（A→BとB→Cの2つ）を妥当に記述している。</p>
○4	<p>ほんとの花に近い感じ。 中川さんのを取り入れて，こまかい線を書いている。また，小野さんのを取り入れて，中のおしべかめしべを作っている。</p> <p>〈判定の視点〉</p> <p>作者の表現の意図，その意図に応じた表し方の工夫（A→B）を妥当に記述している。しかし，粘土をひものようにして使う工夫は，作品Aにおいてすでに取り入れられている工夫である。</p>
○5	<p>いきいきとした感じ。 花びらを曲げたり，葉をかさねていきいきとした感じにした。</p> <p>〈判定の視点〉</p> <p>作者の表現の意図，その意図に応じた表し方の工夫（B→C）を妥当に記述している。しかし，葉を重ねることは花びらの工夫ではない。</p>
6	<p>ふんわりと。 細かく線を入れた。</p> <p>〈判定の視点〉</p> <p>花びらがふんわりとした感じになったことはB→Cにおける変化であり，線をかくことはA→Bにおける表し方の工夫であり，児童が記述した花びらの感じに合う表し方の工夫ではない。</p>
7	<p>花びらが成長してゆく感じ。 かたつむりがゆっくりと葉に乗ってゆく，ゆっくりを大きく表現している。</p> <p>〈判定の視点〉</p> <p>花びらの表し方の工夫を記述していない。</p>
8	<p>AとCでは，花びらがまがったり，線がついていた。 山田さんのまげたりするのと中川さんの針金で線をつけたりしたこと。</p> <p>〈判定の視点〉</p> <p>花びらの感じを記述していない。</p>

#### (4) 分析結果から見た指導の改善

問題1の調査結果の概要と分析から、製作の過程における作者の表現の意図と表し方の工夫を関連付けてとらえることについて課題が見られた。

**他の児童の作品などを鑑賞する場合には、表現の意図や表し方の工夫をとらえることのできる具体的な指導の工夫が大切である。**

指導に当たっては、作品の製作の過程を見て、何が変化しているのかをとらえ、その変化はどのような表し方の工夫であるのか、作者は何を表現しようとしてそのような工夫をしたのかについて考えることができるように工夫することが大切である。そのためには、様々な表現の意図や表し方の工夫に触れることなどが大切である。

具体的には、児童が製作の過程で互いの表現の意図や表し方の工夫を紹介し合ったり、話し合ったりすることが考えられる。他の児童の表現の意図や表し方の工夫について考える活動では、自分の表現の意図や表し方の工夫との違いに気付くようにすることが大切である。例えば、クラス全体で児童の作品から工夫の痕跡を読み取り、その児童の思いを想像していくような鑑賞の時間を設定することが考えられる。あるいは、自分の感じたことを進んで話したり、他の児童の思いを喜んで聞いたりするような場面が生まれるように、一緒に活動する人数や机の配置を工夫することが考えられる。その際、新学習指導要領で示された〔共通事項〕の形や色などを根拠に、「なぜそう思ったのか」、「どこからそう思ったのか」を考えて発言したり、話し合ったりすることができるように視点を与えることも効果的である。

なお、表現の意図を紹介し合ったり話し合ったりする場合には、個々の児童の感じ方を大切に、互いに作品のよさを認め合うことができるようにすることが大切である。

**表現活動の中で、児童の表現の意図や表し方の工夫を適宜取り上げ、話し合うなど、表現と鑑賞を関連させた指導の工夫が大切である。**

指導に当たっては、表現活動の中で、児童の表現の意図や表し方の工夫を適宜取り上げ、話し合ったり、共同でつくったりするなど、表現と鑑賞が関連し合うように工夫することが大切である。

具体的には、製作の過程において、児童が他の児童に表現の思いを話すことによって、他の児童がその児童の表現の意図を理解したり、表現をよりよくしようと話し合ったりするような活動の充実が必要である。その際、簡単なワークシートなどを活用し、根拠をもって話し合えるようにすることが考えられる。さらに、アイデアスケッチを友だちの意見を取り入れてかき直せるようにして、友だちと話し合いながら考えるなどの活動も考えられる。また、絵をたくさんかけるクロッキーブックなどを用いたり、かいたものをノートに貼っていく“図工ノート”を活用したりすることは、児童



の表現の工夫の変遷や思考過程を知る上で有効であり、指導だけでなく、評価の場面でも活用することができる。

また、共同でつくる活動では、表現の意図や表し方の工夫を話し合ったりしながら活動を進めることが考えられる。その際、共通点だけでなく、異なるとらえ方や感じ方にも配慮し、互いを認め合うようにすることが求められる。さらに、材料をその場で見ついたり、加えたりできるような学習活動を取り入れることで、表現の工夫について、児童が互いに話し合い、材料を視点に作品を見つめ直すといった表現と鑑賞が一体的に展開できるように配慮することも大切である。



## 問題2

表現の意図や特徴，見え方や感じ方の変化をとらえること

### (1) 出題の趣旨

問題2では，我が国の美術作品を鑑賞して，表現の意図や特徴，見え方や感じ方の変化をとらえることについて調査した。具体的には，問題(1)では，折ることで見え方や感じ方が変化するという屏風の表現の特徴をとらえているかを調査した。問題(2)では，屏風に表された内容などを基に，作品のよさや美しさ，特徴などについてとらえているかを調査した。

これは，学習指導要領第5学年及び第6学年B鑑賞(1)イに関する内容である。

### (2) 問題2の構成・内容

問題番号	出題のねらい	出題の概要	学習指導要領との関連
(1) ① ② ③	折ることで見え方や感じ方が変化するという屏風の表現の特徴をとらえているかを把握する。	屏風を折ることで感じ方が変化している。その理由としてふさわしい屏風の見え方の変化を選択する。	第5学年及び第6学年B鑑賞(1)イ
(2)	屏風に表された内容などを基に，作品のよさや美しさ，特徴などについてとらえているかを把握する。	屏風を使ってみたいと思う場面を選択し，動物や背景の様子，形や色，全体の雰囲気などを基にその場面を選択した理由を記述する。	

調査問題に見開きで見るページがあるため、  
空白のページを入れています。

### (3) 調査問題と結果の概要

#### 【調査問題 問題2】

2

写真の三人が見ている絵のことを「屏風（びょうぶ）」といいます。屏風は、写真のように折って立てた状態で見ることを考えてつくられています。美術館などでは、折らずに平たくのばして展示することもありません。



配られているカードは、ある屏風を小さく印刷したものです。このカードを、次の「折り方」を参考にしながら、上の写真のように折ってみましょう。

#### ※ 折り方

絵を山折り・谷折りにします。

手に持つと、下のようになります。

(1) 屏風の絵を折ってみると、折る前と比べて、ずいぶん見え方が変わります。山田さん、小野さん、中川さんは見え方が変わることに、次の①から③のように考えました。折った屏風をよく見て、山田さん、小野さん、中川さんの考えとしてもっともふさわしいものをそれぞれ1から4の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

① 山田さんの意見

わたしは、二頭の動物がいっそう親しく話をしているようになったと思います。それは、屏風を折ることで

- 1 動物の口が開いたり閉じたりして、話しているみたいに見えるようになったからです。
- 2 動物の表情が変化して、けわしく見えるようになったからです。
- 3 動物の体が曲がって、短く見えるようになったからです。
- 4 動物の顔が近づいて、目が向き合って見えるようになったからです。

答 え	
--------	--

② 小野さんの意見

わたしは、動物がいっそう元気に歩くようになったと思います。それは、  
屏風を折ることで

- 1 動物の尾やたてがみが、うずを巻いて見えるようになったからです。
- 2 左の動物が後ろに、右の動物が前に見えるようになったからです。
- 3 動物の前足の前後の関係がはっきりして、ふみ出して見えるようになったからです。
- 4 二頭の動物が、並んで歩いて見えるようになったからです。

答 え	
--------	--

③ 中川さんの意見

わたしは、背景がいっそう奥に広がるようになったと思います。それは、  
屏風を折ることで

- 1 背景の左にある道が、さらに曲がって見えるようになったからです。
- 2 背景にある金色の雲が、大きく見えるようになったからです。
- 3 背景の左にある枝に、さらに強く風がふいているみたいに見えるようになったからです。
- 4 背景の左のがけに、光が差しこんでいるみたいに見えるようになったからです。

答 え	
--------	--

(2) この屏風<sup>びょうぶ</sup>は、実際には下の図のような高さ2.2メートル、幅<sup>はば</sup>4.5メートルの大きさです。



人の姿<sup>すがた</sup>は、ほぼ小学校6年生の平均身長です。

学級のみんなで、この屏風をどのような場面で使ったらよいか話し合ったところ、次のような意見が出ました。

ア みんなに向かって演説をするとき、この屏風の前に立って話をするとういと思います。

イ 屏風の前で、友だちといっしょに歌ったりおどったりするとよいと思います。

ウ 友だちの試合の応援<sup>おうえん</sup>をするときに、屏風を立てて、その前で応援をするとよいと思います。

- ① アからウの中から、あなたがもっとも屏風びょうぶを使ってみたいと思う場面を二つ選び、その記号を書きましょう。

答	
え	

- ② その場面を選んだのはなぜですか。次の条件に合わせて理由を書きましょう。

**【条件】**

絵の内容（動物や背景の様子、形や色、全体の雰囲気ふんいきなど）をもとに、場面を選んだ理由を書くこと。

答	
え	

【調査問題 問題2】 屏風を小さく印刷したカード



「唐獅子図屏風」狩野永徳（宮内庁三の丸尚蔵館所蔵）



## 問題2(1)

### ① 出題の概要

問題(1)は、屏風を折ることで感じ方が変化している。その理由としてふさわしい屏風の見え方の変化を選択する問題である。

出題に当たっては、実際に折ったり伸ばしたりしながら、見え方や感じ方の変化について考えることができるよう、屏風を小さく印刷したカードを児童一人一人に配付した。

### ② 調査結果の概要と分析

- 屏風を折ることによって、「二頭の動物がいつそう親しく話をしているようになった」理由として、ふさわしい屏風の見え方の変化を選択した児童は82.3%であった。

問題(1)①では、「4 動物の顔が近づいて、目が向き合って見えるようになったからです。」を選択したもの（解答類型4）を正答としている。正答した児童は82.3%であり、これらの児童は屏風を折ることで、二頭の動物の様子見え方や感じ方が変化するという作品の特徴をとらえることができていると考えられる。

誤答のうち、「3 動物の体が曲がって、短く見えるようになったからです。」を選択した児童（解答類型3）は9.3%であった。これらの児童は、見え方の変化はとらえているが、感じ方の変化と関連付けてとらえていないと考えられる。また、「1 動物の口が開いたり閉じたりして、話しているみたいに見えるようになったからです。」を選択した児童（解答類型1）や「2 動物の表情が変化して、けわしく見えるようになったからです。」を選択した児童（解答類型2）は、折ることによる屏風の見え方の変化をとらえていないと考えられる。

#### 【問題2(1)① 解答類型ごとの反応率】 通過率 82.3%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
1	1と解答しているもの(動物の口が開いたり閉じたりして、話しているみたいに見えるようになったからです。)	5.0%
2	2と解答しているもの(動物の表情が変化して、けわしく見えるようになったからです。)	3.0%
3	3と解答しているもの(動物の体が曲がって、短く見えるようになった	9.3%

	からです。)	
◎ 4	4 と解答しているもの(動物の顔が近づいて、目が向き合って見えるようになったからです。)	82.3%
9	上記以外の解答	0.0%
0	無解答	0.3%

○ 屏風を折ることによって、「動物がいつそう元気に歩くようになった」理由として、ふさわしい屏風の見え方の変化を選択した児童は66.5%であった。

問題(1)②では、「3 動物の前足の前後の関係がはっきりして、ふみ出して見えるようになったからです。」を選択したもの(解答類型3)を正答としている。正答した児童は66.5%であり、これらの児童は屏風を折ることで、動物の歩く様子見え方や感じ方が変化するという作品の特徴をとらえることができていると考えられる。

誤答のうち、「4 二頭の動物が、並んで歩いて見えるようになったからです。」を選択した児童(解答類型4)は18.3%であり、これらの児童は、屏風を折ることで、動物がより近くで並んで歩いているという見え方の変化はとらえているが、感じ方の変化と関連付けてとらえていないと考えられる。また、問題①に比べると問題②の通過率は、15.8ポイント低くなっている。問題①を通過しているが問題②が非通過の児童の中には、屏風の中央付近にかかっている動物の顔は、足よりも着目しやすく、動物の顔には着目できたが足には着目できなかった者がいたと考えられる。

【問題2】(1)② 解答類型ごとの反応率】 通過率 66.5%

類型番号	解答類型 (◎: 正答)	反応率
1	1 と解答しているもの(動物の尾やたてがみが、うずを巻いて見えるようになったからです。)	3.8%
2	2 と解答しているもの(左の動物が後ろに、右の動物が前に見えるようになったからです。)	10.8%
◎ 3	3 と解答しているもの(動物の前足の前後の関係がはっきりして、ふみ出して見えるようになったからです。)	66.5%
4	4 と解答しているもの(二頭の動物が、並んで歩いて見えるようになったからです。)	18.3%
9	上記以外の解答	0.1%
0	無解答	0.5%

○ 屏風を折ることによって、「背景がいつそう奥に広がるようになった」理由として、ふさわしい屏風の見え方の変化を選択した児童は67.0%であった。

問題(1)③では、「1 背景の左にある道が、さらに曲がって見えるようになったからです。」を選択したもの(解答類型1)を正答としている。正答した児童は67.0%であり、これらの児童は屏風を折ることで、背景の道の見え方や感じ方が変化するという作品の特徴をとらえることができていると考えられる。

誤答のうち、「2 背景にある金色の雲が、大きく見えるようになったからです。」を選択した児童(解答類型2)は14.9%であった。これらの児童は、屏風を折ることで雲が前に広がるという見え方の変化はとらえている。しかし、それによって背景が奥に広がるようになってはならず、感じ方の変化と関連付けてとらえていないと考えられる。また、問題①に比べると問題③の通過率は、15.3ポイント低くなっている。問題①を通過しているが問題③が非通過の児童の中には、動物の顔は、背景の道よりも着目しやすく、動物の顔には着目できたが背景の道には着目できなかった者がいたと考えられる。

【問題2】(1)③ 解答類型ごとの反応率】

通過率 67.0%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	1と解答しているもの(背景の左にある道が、さらに曲がって見えるようになったからです。)	67.0%
2	2と解答しているもの(背景にある金色の雲が、大きく見えるようになったからです。)	14.9%
3	3と解答しているもの(背景の左にある枝に、さらに強く風がふいているみたいに見えるようになったからです。)	6.3%
4	4と解答しているもの(背景の左のがけに、光が差しこんでいるみたいに見えるようになったからです。)	11.2%
9	上記以外の解答	0.0%
0	無解答	0.5%

## 問題2(2)

### ① 出題の概要

問題(2)は、この屏風を使ってみたいと思う場面を選択し、動物や背景の様子、形や色、全体の雰囲気などを基にその場面を選択した理由を記述する問題である。

児童によって、屏風から感じ取ることは様々であり、屏風を使ってみたいと思う場面も異なることを考慮し、場面の選択肢では、学校生活において想定できる場面として、演説、友だちと一緒に歌ったり踊ったりすること、試合の応援の3つを設けた。

### ② 調査結果の概要と分析

- 屏風を使ってみたいと思う場面を選択した理由として、動物や背景の様子、形や色、全体の雰囲気などを1つ以上取り上げて適切に記述した児童は69.6%であった。

問題(2)では、絵の内容（動物や背景の様子、形や色、全体の雰囲気など）を1つ以上取り上げて、場面を選んだ理由として適切に記述しているもの（解答類型1～3）を正答としている。正答した児童は69.6%であった。そのうち、絵の内容を複数取り上げ、それらから感じ取ったことを関連付けて適切に記述しているもの（解答類型1）が11.4%、絵の内容を複数取り上げ、感じ取ったことをそれぞれ適切に記述しているもの（解答類型2）が10.5%であった。絵の内容を1つ取り上げて感じ取ったことを適切に記述しているもの（解答類型3）は47.8%であった。

また、非通過の児童は、選択した場面のイメージと、絵の内容から感じ取ったことを関連付けて適切に記述することができなかった。

#### 【問題2(2) 解答類型ごとの反応率】

通過率 69.6%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	絵の内容（動物や背景の様子、形や色、全体の雰囲気など）を複数取り上げ、それらから感じ取ったことを関連付けて、場面を選んだ理由として適切に記述しているもの	11.4%
◎2	絵の内容（動物や背景の様子、形や色、全体の雰囲気など）を複数取り上げ、感じ取ったことを、それぞれ場面を選んだ理由として適切に記述しているもの	10.5%
◎3	絵の内容（動物や背景の様子、形や色、全体の雰囲気など）を一つ取り上げ、場面を選んだ理由として適切に記述しているもの	47.8%
4	絵の内容（動物や背景の様子、形や色、全体の雰囲気など）を取り上	6.3%

	げているが、場面を選んだ理由として適切に記述していないもの	
5	絵の内容（動物や背景の様子、形や色、全体の雰囲気など）から感じ取っていると推測できることを取り上げて場面を選んだ理由を記述しているが、絵の内容は記述していないもの	8.0%
6	絵の内容（動物や背景の様子、形や色、全体の雰囲気など）と絵の内容から感じ取ったことを記述していないもの	9.0%
9	上記以外の解答	3.0%
0	無解答	4.1%

【問題2】 (2) 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)	
	場面	場面を選んだ理由
◎1	イ	元気強さがこの屏風にはあるから、歌を歌ったり、おどったりすると思っ た。色が明るくて温かい感じで、動物も元気に歩いているように見え る。うずまきの毛などがこい色をしているので目立つから元気に見える。
		<p>&lt;判定の視点&gt;</p> <p>屏風全体の雰囲気、色、動物の様子などの複数の内容から、元気さや明るさ、温 かさを感じ取っている。そのことを児童が考えた歌を歌ったり踊ったりするときの イメージと結び付けて、選択した理由として記述している。</p>
◎1	ウ	動物の顔を見ると気合が入って、応援したりプレーをしたりすることがで きると思います。また、黄色のびょうぶなので、くじけそうになった時、元 気がわいて試合にのぞめると思います。全体のふんいきが「勝負」のような 感じがします。うずまきのしっぽが「本気」というような感じがします。「一 生けん命」という思いが伝わると思います。
		<p>&lt;判定の視点&gt;</p> <p>動物の様子と色から強さや本気を感じ取り、屏風全体の雰囲気から勝負に対する 高まりを感じ取るなど、複数の内容を取り上げ、そのことを児童が考えた応援のイ メージと結び付けて、選択した理由として記述している。</p>
◎2	ア	全体の雰囲気が暗いから静かに聞いてくれる。1匹がもう1匹になにかを 教えたり伝えたりしている様子から、演説を行うときに使えばいい。
		<p>&lt;判定の視点&gt;</p> <p>屏風全体の雰囲気からは暗い印象を感じ取っている。動物の様子からは動物が教 えたり伝えたりしていることを感じ取っている。このことは、児童がそれぞれの絵 の内容から異なることを感じ取ったと言える。それらの感じ取ったことを、児童が 考えた演説のイメージ（静かに聞く、何かを伝える）にそれぞれ結び付けて、選択 した理由として記述している。</p>
◎3	イ	背景の黄色っぽい色が明るい感じがして歌ったりするにぎやかなことをす るにはいいと思う。
		<p>&lt;判定の視点&gt;</p> <p>色から明るい感じを感じ取っており、そのことを、児童が考えた歌ったり踊った</p>

	りすることのイメージ（にぎやか）と結び付け、選択した理由として記述している。なお、ここでは、絵の内容を1つのみ取り上げている。
4	ア 背景に金色の雲が広がっていて、演説をするときに適していると思ったから。 <判定の視点> 絵の内容は取り上げているが、場面のイメージと結び付けておらず、場面を選択した理由として適切ではない。
5	ア 気はくがあり堂々としているからせつとくりょくがあると思う。 <判定の視点> 絵の内容から感じ取ったと推測できること（気迫）を場面のイメージ（せつとく）と結び付けて記述しているが、絵の内容のどこから感じ取ったのかを記述していない。
6	ウ 私はこの絵を見た時おうえんするには、いいかなと思いました。 <判定の視点> 絵の内容も感じ取ったことも記述していない。また絵の内容から感じ取ったと推測できることも記述していない。

#### (4) 分析結果から見た指導の改善

問題2の調査結果の概要と分析から、屏風を折ることによる見え方の変化と関連付けて感じ方の変化をとらえること、場面のイメージと絵の内容から感じ取ったことを結び付けて、場面選択の理由として適切に記述することに課題が見られた。

**作品にかかっている内容や形や色などの造形的な特徴などをとらえ、感じ方を深める鑑賞の指導の工夫が大切である。そのためには、言語活動を適切に取り入れることなどにより、漠然と感じていることを意識化することが大切である。**

美術作品の鑑賞の指導に当たっては、登場人物や背景などの作品にかかっている内容、形や色などの造形的な特徴、全体的な雰囲気など、作品を様々な視点からとらえ、これを基によさや美しさ、表現の意図や特徴などについて考えることで、児童一人一人が自分なりの感じ方や見方を深めることができるようにすることが大切である。

そのためには、児童一人一人が具体的に鑑賞の能力を働かせることができるような指導の工夫が必要である。例えば、

- ・印刷物や複製品などを用いて、これに触れたり、これを操作したりしながら、実感的に形や色、空間や奥行きなどの造形的な特徴をとらえること
- ・児童自身が感じたことを基にテーマを決めて、絵葉書や雑誌などから類似した作品を集めることを通じて、感じたことについて考えること
- ・作品にかかっているものを表すジェスチャーゲームをするなど、手や体全体の感

覚を働かせて感じたことを表現すること  
などが考えられる。

また、鑑賞活動を行うに当たっては、言語活動を適切に取り入れることにより、漠然と感じていることを意識させることが大切である。例えば、

- ・作品の置き場所を考え、その理由を表現の特徴や自分が作品から感じ取ったことと結び付けて述べること
  - ・登場人物、背景、形、色など、どのような視点に着目して作品を鑑賞するのか手がかりを示した上で、表現の特徴や感じたことをワークシートに記述すること
- などが考えられる。なお、鑑賞の活動に当たっては、新学習指導要領における〔共通事項〕で示されている造形的な特徴を基に、自分のイメージを説明するなど、形や色などの視点から作品を鑑賞し、自分の感じたことの根拠を明確にすることが大切である。



### 3 調査Bにおける調査結果

#### 問題

材料や用具の特徴をとらえ、表したいことを表すこと

#### (1) 出題の趣旨

問題①では、3本の釘で木片を立たせるように用具を使うことについて調査した。問題②では、図版で示した友だちの作品を鑑賞し、表現の意図や表し方の工夫をとらえることについて調査した。問題③では、材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくることについて調査した。

これは、学習指導要領第5学年及び第6学年のA表現(2)イ，B鑑賞(1)アに関する内容である。

#### (2) 問題の構成・内容

問題番号	出題のねらい	出題の大要	学習指導要領との関連
1 (1)	3本の釘で木片を立たせるように用具を使っているかについて把握する。	釘を下にして木片を置いたときに木片が倒れないようにするため、用具を用いて木片に釘を3本打つ。	第5学年及び第6学年 A表現(2)イ
2 (1) ① ②  (2)	作品の表現の意図や表し方の工夫をとらえているかについて把握する。	① 友だちの作品を鑑賞し、表現の意図から、釘の打ち方の工夫を記述する。 ② 友だちの作品を鑑賞し、表現の意図と釘の打ち方の工夫を記述する。	第5学年及び第6学年 B鑑賞(1)ア
		腕に見立てた木片を1本の釘で止め、足に見立てた木片を2本の釘で止めた友だちの作品を鑑賞し、腕と足の釘の使い方の違いの理由を記述する。	
3	材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくるかについて把握する。	形や大きさ、材質の異なる木片、長さの異なる釘、金づちを用いて、表したい	第5学年及び第6学年 A表現(2)イ

		ものをつくる。また、つくろうとしていたもの、釘や木片の使い方の工夫について記述する。	
--	--	--	--

調査問題に見開きで見るページがあるため、  
空白のページを入れています。

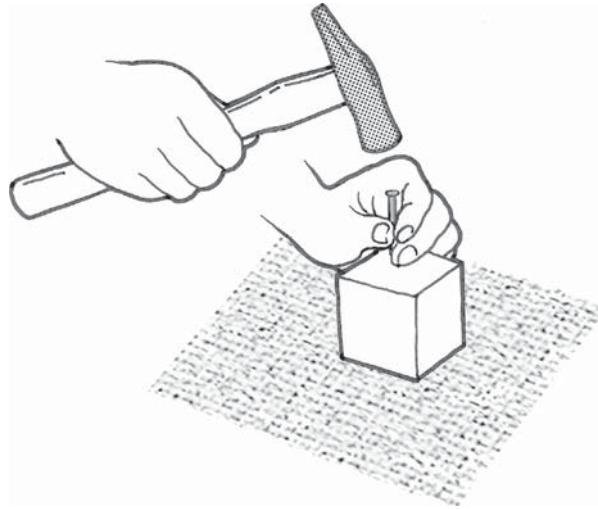
### (3) 調査問題と結果の概要

#### 【くぎの打ち方】

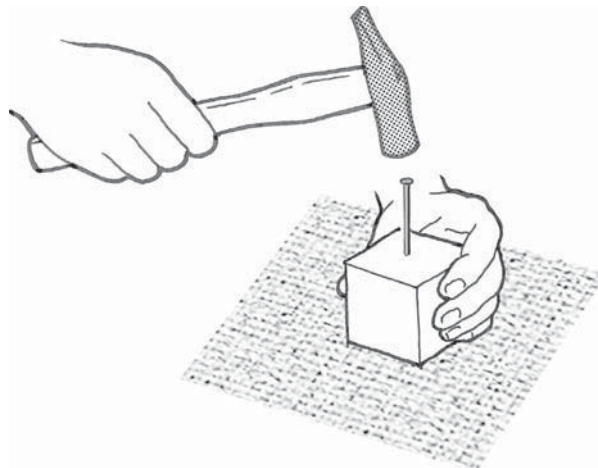
#### くぎの打ち方

この問題は、かなづちとくぎを使う問題です。次の説明をよく読んで、安全に使いましょう。

- ① 打ち始めは、かなづちを短く持ち、くぎをささえて軽く打ちます。



- ② 手をはなしてもくぎが立つようになったら、かなづちを長く持って、木をおさえて少しずつ強く打ちこみます。



指示があるまで中を開かないでください。

問題は、次のページに続きます。  
(前ページは問題ではない。)

【調査問題 問題1】

1

(10分)

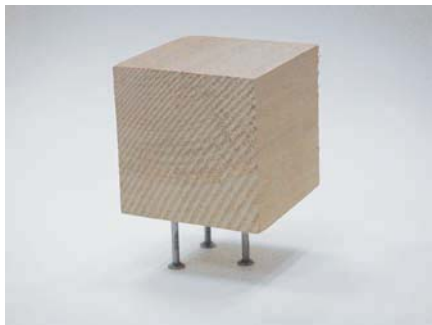
つくえ  
机の上に、写真のようにくぎが3本と、もくへん  
木片が1つあります。



(1) 木片の赤い色のついている面に、3本のくぎを、次の条件で打ちましょう。

○ くぎを下にして木片を置いたときに、木片がたおれないこと

下の例のように、くぎはななめになったり曲がったりしてもかまいません。



くぎを打ち終わっても、指示があるまで次のページを開かないでください。

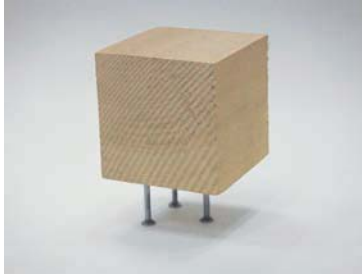
【調査問題 問題2】

2

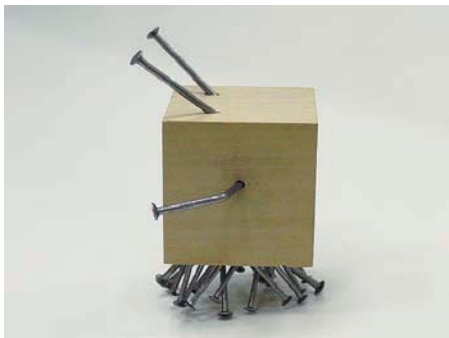
(10分)

友だちの作品を見て問題に答えましょう。

(1) 山田さんは、くぎを打った木片を見て、次のように考えました。

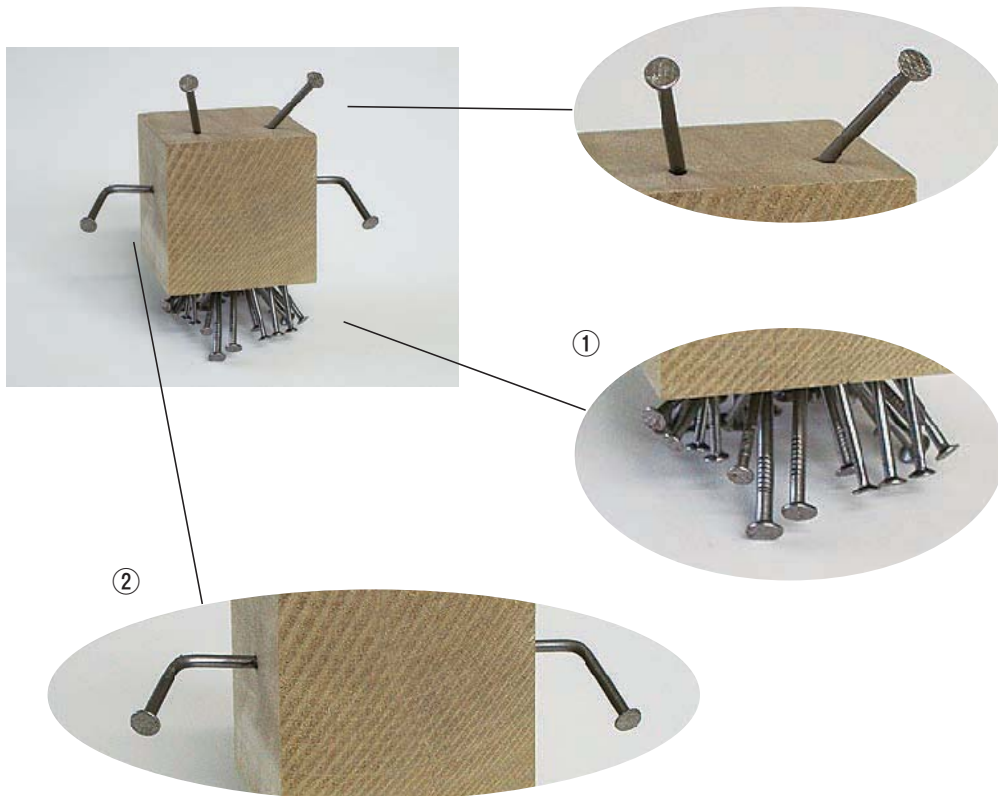


山田さんは、問題1でつくったものに、いろいろな方法でくぎを打ちました。  
下の写真は、それをちがう方向から写したものです。



山田さんは、次のようにくぎを打っています。①、②の写真に写っている部分では、山田さんがどのような考えでくぎを打っているのか、例を参考にして山田さんが考えたことや、くぎの打ち方の工夫を書きましょう。

例



	山田さんが考えたこと	くぎの打ち方の工夫
例	しゅっ角のような感じにしたい。	くぎをななめにして、長く残して打っている。

	山田さんが考えたこと	くぎの打ち方の工夫
答え	① 足が動いているような感じにしたい。	
	②	



(2) 小野さんは、くぎを打った木片<sup>もくへん</sup>を見て、次のように考えました。

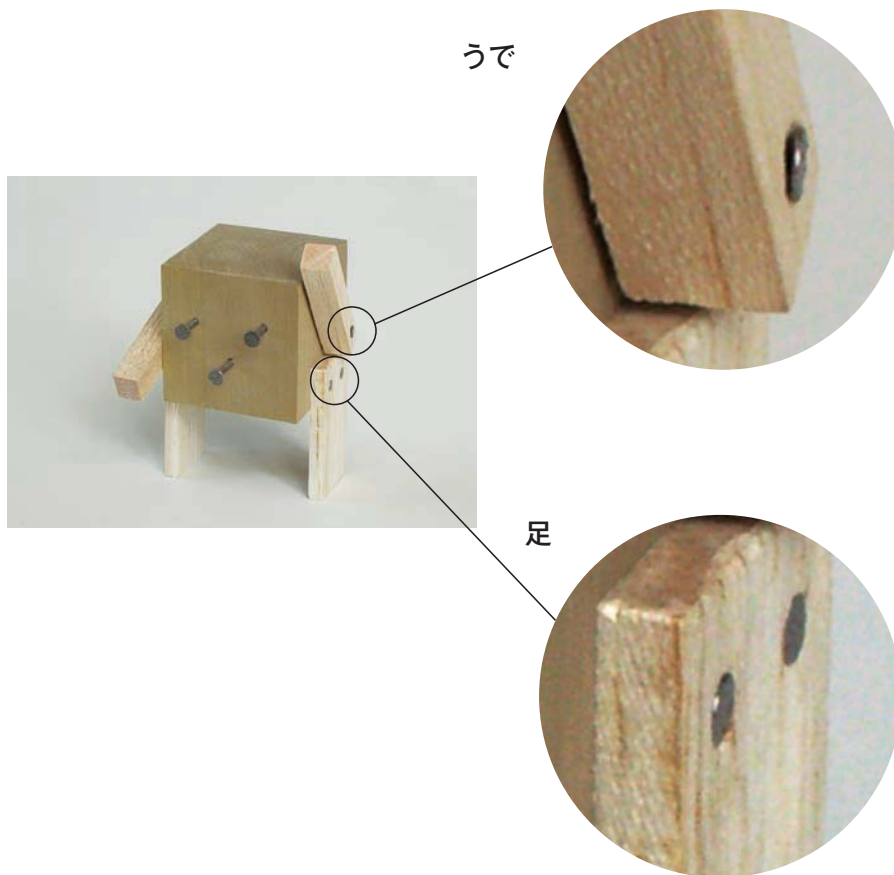


くぎを打った面が、  
顔みたいだ。  
ほかの木片を使って、  
手足をつけてみよう。

そこで、小野さんは、問題1でつくったものに別の木片を加えて、次のような作品をつくりました。下の写真は、それを同じ方向から写したものです。



小野さんの作品は、うでは1本、足は2本のくぎでとめています。うでと足でくぎの使い方がちがっています。小野さんが、このようなくぎの使い方をしたのはなぜか、うで、足についてそれぞれ答えましょう。



答 え	うで	
	足	

指示があるまで次のページを開かないでください。

【調査問題 問題3】

3

(45分)

(1)と(2)の問題を行ってください。

(1) 机の上にある木片とくぎを使って、次の三つの条件を必ず取り入れて、つくりたいものを一つつくりましょう。つくる時間は、40分です。

- くぎは6本以上使うこと
- 一番大きい木片Aを必ず使うこと
- 木片Bと木片Cは、全部で3個以上使うこと  
(同じ種類の木片だけを使ってもよい)

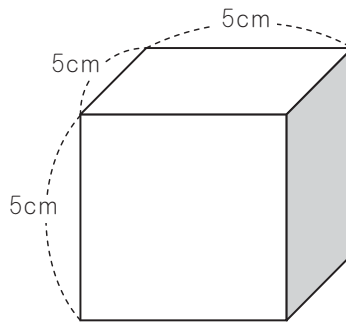
机の上にあるくぎと木片

◇ くぎ

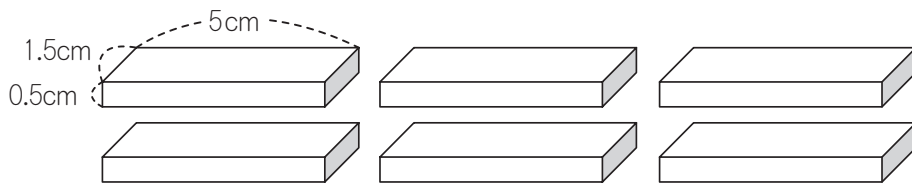
・長さ2.5cmのくぎが15本、長さ4.5cmのくぎが10本

◇ 木片

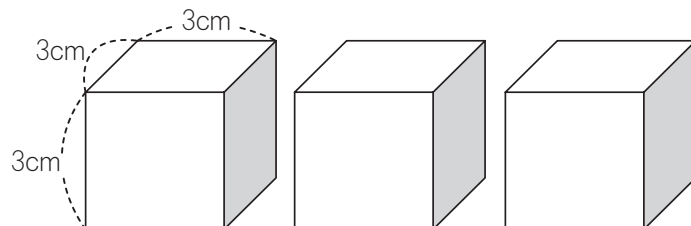
・木片Aが1個



・木片Bが6個



・木片Cが3個



(2) あなたがつくろうとしていたものは何か、そのために、どのようにくぎや木片の  
使い方を工夫したのかを答えましょう。

答 え	

## 問題1

### ① 出題の概要

問題1は、釘を下にして木片を置いたときに木片が倒れないようにするため、用具を用いて木片に釘を3本打つ問題である。

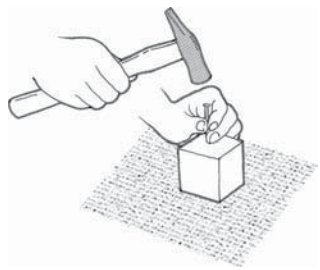
出題に当たっては、問題に安全に取り組みめるよう、金づちを用いて釘を打つ手順、金づちや釘の持ち方などを示した。また、金づちは、柄の長さが短く、頭（金属の部分）が軽いものを用いた。その他、木片に釘を打つ際に、木片が滑らないように滑り止めシートを用意した。さらに、木片は、児童の力でも釘を打ち込みやすい適度な硬さのものとした。なお、児童が、釘を打ちやすい面に釘を打つことができるように柾目（まさめ）の面を赤く着色し、目印とした。

また、木片を立てせる方法は様々であることに気付くよう、釘の方向や打ち込む長さを変えたり、釘を曲げたりなど、「釘で立たせた木片の例」を写真で示した。

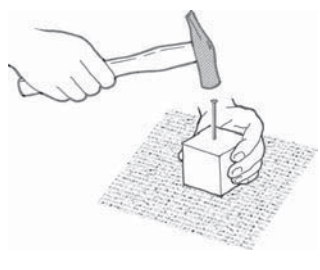
**くぎの打ち方**

この問題は、かなづちとくぎを使う問題です。次の説明をよく読んで、安全に使しましょう。

① 打ち始めは、かなづちを短く持ち、くぎをささえて軽く打ちます。




② 手をはなしてもくぎが立つようになったら、かなづちを長く持って、木をおさえて少しづつ強く打ちこみます。



指示があるまで中を開かないでください。

**1**  
(10分)


机の上に、写真のようにくぎが3本と、木片が1つあります。



(1) 木片の赤色のついている面に、3本のくぎを、次の条件で打ちましょう。

○ くぎを下にして木片を置いたときに、木片がたおれないこと

下の例のように、くぎはななめになったり曲がったりしてもかまいません。



くぎを打ち終わっても、指示があるまで次のページを開かないでください。

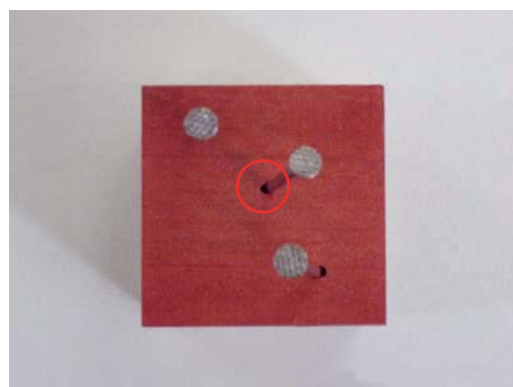
## ② 調査結果の概要と分析

○ 釘を下にして木片を置いたときに、木片が倒れないように釘を打った児童は92.7%であった。

釘を3本打ち、釘を下にして木片を置いたときに木片が倒れないもの（解答類型1）を正答としており、92.7%であった。これらの児童の中には、下の写真1、2のように、3本の釘を1列に打った後に、赤丸の箇所から釘を曲げたりして、木片から床までの高さやバランスを調節している例も見られた。



【写真1】



【写真2】

また、赤い面は、児童が釘を打つ場所の目印として着色したものであり、その面に釘を打たなくても、3本の釘で木片を立たせるように用具を使っている場合は正答とした。例えば、赤い面に釘を打っていない解答には、右の写真3のように、複数の面に釘を打ち、バランスをとって木片が倒れないようにしているものが見られた。



【写真3】

誤答では、釘を3本打っているが、釘を下にして木片を置いたときに、木片が倒れるもの（解答類型2）が4.6%、釘を3本打っていないもの（解答類型4）が2.2%であった。非通過の児童は、時間内に3本の釘を全て打つことができなかつたり、バランスをとるために、長さや方向を調節して釘を打つことができなかつたりしたと考えられる。




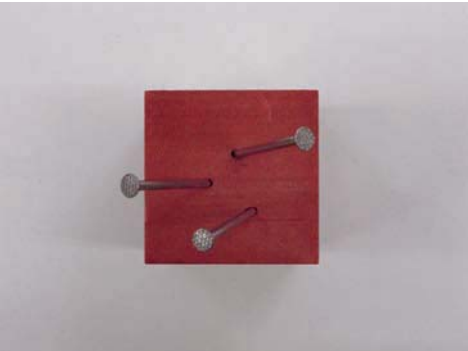
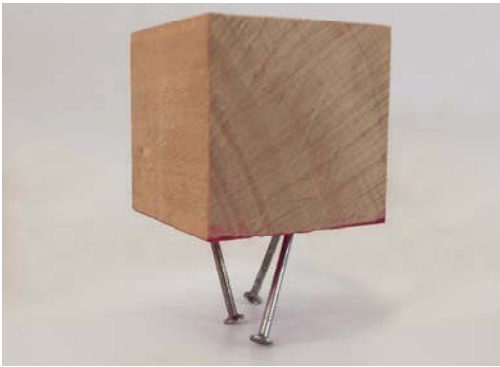
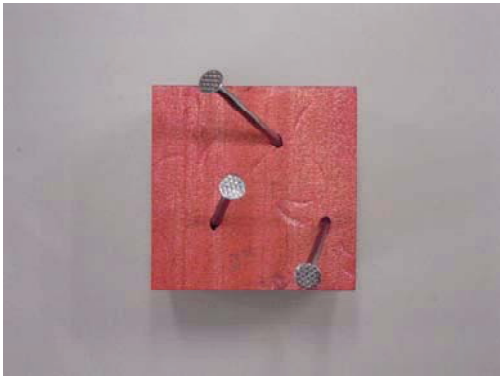
### 【問題1】 解答類型ごとの反応率

通過率 92.7%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	釘を3本打ち、釘を下にして木片を置いたときに、木片が倒れないもの	92.7%
2	釘を3本打っているが、釘を下にして木片を置いたときに、木片が倒れるもの	4.6%

3	釘を3本打っているが、木片に釘のほとんどを打ち込んでおり、床と木片が接触、又は、ほとんど接触しているもの	0.1%
4	釘を2本又は1本のみ打っているもの	2.2%
9	上記以外の解答	0.3%
0	無解答(釘を1本も打っていないもの)	0.2%

【問題1】 解答類型1の解答例】

解答例	
	
3本の釘をクロスするように曲げ、3点で立つように調節をしている。	
	
中心に近いところに打った釘を2方向に分けて曲げ、バランスを調節している。	
	
前ページの写真1、2とは逆に、三角形となる3カ所に打った釘を、釘の頭が直線の並びに近くなるように曲げ、バランスを調節している。	

## 問題2

### ① 出題の概要

問題2は図版で示した友だちの作品を鑑賞し，写真や文章などで示された内容を基に，表現の意図や釘の打ち方の工夫を記述する問題である。

問題(1)①は，作品の足の部分の写真と「足が動いているような感じにしたい」という友だちの表現の意図から，釘の打ち方の工夫を記述する問題である。問題(1)②は，釘を曲げて腕や手を表している部分の写真から表現の意図と釘の打ち方の工夫の両方を記述する問題である。

出題に当たっては，いろいろな方向から鑑賞できるように4方向から撮影した写真を示した上で，釘の打ち方の工夫の部分に着目できるようにその部分を拡大した写真を示した。

問題(2)は，腕に見立てた木片を1本の釘で止め，足に見立てた木片を2本の釘で止めている写真を示し，その釘の使い方の違いの理由を記述する問題である。

出題に当たっては，右腕に見立てた木片が下を向き左腕に見立てた木片が上を向いている写真の下に，右腕が上を向き左腕が下を向いている写真を掲載するとともに，腕と足の釘で止めている部分を拡大した写真を掲載し，木片を釘で接続する方法が異なることによる効果を読み取れるように配慮した。



**2**  
(10分)

友だちの作品を見て問題に答えましょう。

(1) 山田さんは、くぎを打った木片を見て、次のように考えました。




今にも歩き出しそうだな。もっとくぎを打ったらどうなるかな。

山田さんは、問題1でつくったものに、いろいろな方法でくぎを打ちました。下の写真は、それをちがう方向から写したものです。




山田さんは、次のようにくぎを打っています。①、②の写真に写っている部分では、山田さんがどのような考えでくぎを打っているのか、例を参考にして山田さんが考えたことや、くぎの打ち方の工夫を書きましょう。

例



	山田さんが考えたこと	くぎの打ち方の工夫
例	しよっ角のような感じにしたい。	くぎをななめにして、長く残して打っている。
答え	① 足が動いているような感じにしたい。	
	②	

(2) 小野さんは、くぎを打った木片を見て、次のように考えました。



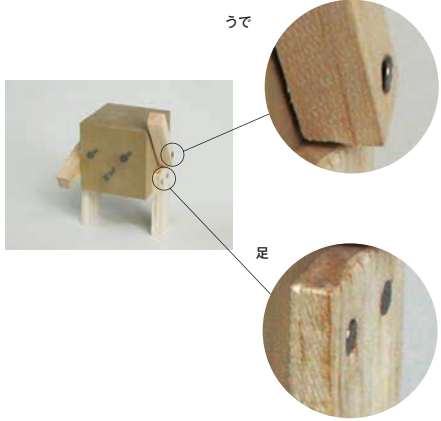

くぎを打った面が、顔みたいだ。ほかの木片を使って、手足をつけてみよう。

そこで、小野さんは、問題1でつくったものに別の木片を加えて、次のような作品をつくりました。下の写真は、それを同じ方向から写したものです。



小野さんの作品は、うでは1本、足は2本のくぎでとめています。うでと足でくぎの使い方がちがっています。小野さんが、このようなくぎの使い方をしたのとはなぜか、うで、足についてそれぞれ答えましょう。

うで



答え	うで	
	足	

## ② 調査結果の概要と分析

### ○ 足が動いているような感じにするための釘の打ち方の工夫について記述した児童は、78.2%であった。 (問題(1)①)

問題(1)①では、釘の打ち方の工夫について「釘をいろいろな方向から打つ」、「釘の長さがばらばらになるように打つ」、「釘を多数使用する」という3つの工夫のいずれかを十分に記述したもの（解答類型1～6）を正答としており、78.2%であった。正答のうち、複数の釘の打ち方の工夫について十分に記述した児童（解答類型1～3）は22.9%、不十分な記述もあるものの複数の釘の打ち方の工夫を記述した児童（解答類型4、5）は16.0%、1つの釘の打ち方の工夫を記述した児童（解答類型6）は39.2%であった。複数の釘の打ち方について記述した児童（解答類型1～5）は、多視点から工夫に気付いていると考えられる。

非通過の児童のうち、釘の打ち方の工夫について触れていない児童（解答類型9、0）は7.0%であった。これらの児童は、いずれの工夫の視点にも気付いていないと考えられる。また、釘の打ち方の工夫について、不十分な記述のみであった児童（解答類型7、8）は14.8%であった。これらの児童は、「釘の方向」や「釘の長さ」のように、工夫の視点は記述しているが、「釘の方向が異なる」、「釘の長さが異なる」など、具体的な工夫について記述していなかった。

なお、「釘の数」と記述した児童は釘を多数用いていることに気付いていると考えられることから、「釘の数」についての不十分な記述は想定していない。

#### 【問題2】(1)① 解答類型ごとの反応率 通過率 78.2%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	釘の打ち方の工夫について、釘の方向、釘の長さ、釘の数の全てを十分に記述しているもの	1.4%
◎2	釘の打ち方の工夫について、釘の方向、釘の長さのうち1つを十分に記述し、もう一方は不十分であるが記述し、かつ、釘の数を十分に記述しているもの	1.7%
◎3	釘の打ち方の工夫について、釘の方向、釘の長さ、釘の数のうち2つを十分に記述しているもの	19.8%
◎4	釘の打ち方の工夫について、釘の方向、釘の長さの2つは不十分であるが記述し、かつ、釘の数を十分に記述しているもの	0.8%
◎5	釘の打ち方の工夫について、釘の方向、釘の長さ、釘の数のうち1つを十分に記述し、かつ、釘の方向、釘の長さのうち1つは不十分であるが記述しているもの	15.2%
◎6	釘の打ち方の工夫について、釘の方向、釘の長さ、釘の数のうち1つを十分に記述しているもの	39.2%
7	釘の打ち方の工夫について、釘の方向、釘の長さの2つを不十分であるが記述しているもの	2.7%

8	釘の打ち方の工夫について、釘の方向、釘の長さのうち1つを不十分であるが記述しているもの	12.1%
9	上記以外の解答	6.4%
0	無解答	0.7%

【問題2】 (1) ① 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)
◎1	いろいろな、むきにくぎをたくさん打っている。長いのと、短いのがあり、全部をそろえていない。
◎2	たくさんくぎを打っていてみじかいのや長いのをななめに打っている。
◎3	くぎをたくさん打って、長く残したり短く打ったりしている。
◎4	たくさんのかぎをななめにして、長く残して打っている。
◎5	くぎをななめにして、たくさん打っている。
◎6	くぎの長さを変えながら打っている。
7	くぎをななめにして短くして打っている。
8	くぎをななめにして打つ。

○ 作者の表現の意図と釘の打ち方の工夫について記述した児童は、88.9%であった。  
(問題(1)②)

問題(1)②では、「腕や手の動きの感じ」や「腕や手の感じ」などの表現の意図を記述し、「釘を曲げる」などの釘の打ち方の工夫を記述したもの（解答類型1, 2）を正答としており、88.9%であった。このうち、「腕をふって、歩いているようにしたい」など、「腕や手の動きの感じ」について記述した児童（解答類型1）が53.4%であった。これらの児童は、表現の意図を、腕や手の動きとして具体的にとらえていると考えられる。一方、「腕」、「手のような」など、「腕や手の感じ」について記述した児童（解答類型2）は、35.5%であった。これらの児童は、表現の意図はとらえているものの、具体的にまではとらえていないと考えられる。

誤答のうち、表現の意図を記述しているものの釘の打ち方の工夫を適切に記述していないもの（解答類型3, 4）は5.1%、釘の打ち方の工夫を記述しているものの、表現の意図について適切に記述していないもの（解答類型5）は2.3%であった。

【問題2】 (1) ② 解答類型ごとの反応率】

通過率 88.9%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	表現の意図として腕や手の動きの感じをだすことを記述し、釘の打ち方の工夫として釘を曲げることを記述しているもの	53.4%
◎2	表現の意図として腕や手の感じをだすことを記述し、釘の打ち方の工夫として釘を曲げることを記述しているもの	35.5%
3	表現の意図として腕や手の動きの感じをだすことは記述しているが、釘の打ち方の工夫を適切に記述していないもの	3.1%

4	表現の意図として腕や手の感じをだすことは記述しているが、釘の打ち方の工夫を適切に記述していないもの	2.0%
5	表現の意図について適切に記述していないが、釘の打ち方の工夫として釘を曲げることを記述しているもの	2.3%
9	上記以外の解答	3.2%
0	無解答	0.5%

【問題2】 (1) ② 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)	
	山田さんが考えたこと	釘の打ち方の工夫
◎1	歩くときの手の動きにしたい。	くぎをまげていて、長さも同じくらい。
◎2	くぎを手に見せたい。	くぎを曲げて打っている。
3	手が動いている感じにしたい。	足や手の形が作りた。
4	手のような感じにしたい。	たおれたときにくぎがさきにつくようにしている。
5	自然な感じにしたい。	まっすぐにくぎを打ったあと、少しのこしておいて、まげるように打った。

- 腕に見立てた木片を1本の釘で止め、足に見立てた木片を2本の釘で止めた作品を鑑賞し、腕と足の釘の使い方の違いの理由を記述した児童は86.5%であった。  
(問題(2))

問題(2)では、腕と足の釘の使い方の違いの理由について、可動・固定又は木の幅という視点から記述したもの(解答類型1～4)を通過としており、86.5%であった。このうち、腕と足の釘の使い方の両方を「可動・固定」という一貫した視点から記述したもの(解答類型1)を正答としており、正答した児童は79.6%であった。これらの児童は、表現の意図との関連で釘の打ち方の工夫をとらえていると考えられる。また、「木の幅」という一貫した視点から記述したもの(解答類型2)、腕は可動、足は木の幅の視点から記述したもの(解答類型3)、腕を木の幅、足を固定の視点から記述したもの(解答類型4)を準正答としており、それぞれ3.6%、0.4%、2.9%であった。解答類型2の児童は材料の特徴の視点から釘の打ち方の工夫をとらえていると考えられる。解答類型3、4の児童は、腕と足の釘の使い方の違いの理由を一貫した視点からとらえることができなかつたと考えられる。

誤答では、腕又は足のいずれかについてのみ記述したもの(解答類型5～8)が8.3%であった。

## 【問題2】(2) 解答類型ごとの反応率と解答例】

通過率 86.5%

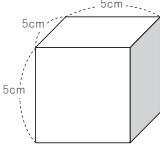
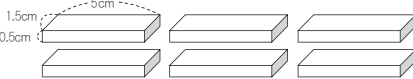
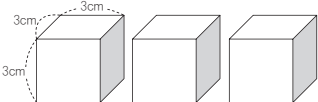
類型番号	解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎1	腕と足の釘の使い方の違いの理由について、可動・固定の視点から記述しているもの 〔解答例〕腕：腕を動かせるようにした。 足：動かないように固定した。	79.6%
○2	腕と足の釘の使い方の違いの理由について、木の幅の視点から記述しているもの 〔解答例〕腕：横はばがせまいから。 足：横はばが広いから。	3.6%
○3	腕と足の釘の使い方の違いの理由について、腕は可動の視点から、足は木の幅の視点から記述しているもの	0.4%
○4	腕と足の釘の使い方の違いの理由について、腕は木の幅の視点から、足は固定の視点から記述しているもの	2.9%
5	腕と足の釘の使い方の違いの理由について、腕について可動の視点から記述しているもの	4.7%
6	腕と足の釘の使い方の違いの理由について、足について固定の視点から記述しているもの	3.1%
7	腕と足の釘の使い方の違いの理由について、腕について木の幅の視点から記述しているもの	0.3%
8	腕と足の釘の使い方の違いの理由について、足について木の幅の視点から記述しているもの	0.2%
9	上記以外の解答	3.4%
0	無解答	1.8%

### 問題3

#### ① 出題の概要

問題3は、木片、釘、金づちを用いて、表したいものをつくる問題である。

出題に当たっては、形や大きさ、材質の異なる3種類の木片、長さの異なる2種類の釘を用意し、材料や用具の特徴を生かしてつくることができるように配慮した。作品をつくる時間は40分に設定した。製作に当たっては、問題1や問題2で取り上げてきた木片と形・大きさ・材質が同じ木片Aを必ず使うこととし、前問までに学習したことを活用できるように配慮した。また、複数の材料の特徴を生かして表したいものをつくることができるよう、釘は6本以上使うこと、木片Bと木片Cは全部で3個以上使うことを条件とした。さらに、児童の表現の意図、釘や木片の使い方の工夫などを把握するために、つくろうとしていたものや、釘や木片の使い方の工夫について記述させた。

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>3</b> (45分)</p> <p style="text-align: center;">(1)と(2)の問題を行ってください。</p> </div> <p>(1) 机の上にある木片とくぎを使って、次の三つの条件を必ず取り入れて、つくりたいものを<u>二つ</u>つくります。つくる時間は、40分です。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="radio"/> くぎは6本以上使うこと</li> <li><input type="radio"/> 一番大きい木片Aを必ず使うこと</li> <li><input type="radio"/> 木片Bと木片Cは、全部で3個以上使うこと (同じ種類の木片だけを使ってもよい)</li> </ul> </div> <p>机の上にあるくぎと木片</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ くぎ             <ul style="list-style-type: none"> <li>・長さ2.5cmのくぎが15本、長さ4.5cmのくぎが10本</li> </ul> </li> <li>◇ 木片             <ul style="list-style-type: none"> <li>・木片Aが1個</li> </ul> </li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木片Bが6個</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木片Cが3個</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div>	<p>(2) あなたがつくろうとしていたものは何か、そのために、どのようにくぎや木片の使い方を工夫したのかを答えましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">答え</p> <hr style="border-top: 1px dashed black; margin: 5px 0;"/> <hr style="border-top: 1px dashed black; margin: 5px 0;"/> <hr style="border-top: 1px dashed black; margin: 5px 0;"/> <hr style="border-top: 1px dashed black; margin: 5px 0;"/> <hr style="border-top: 1px dashed black; margin: 5px 0;"/> </div>
---	--

## ② 調査結果の概要と分析

### ○ 材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくった児童は97.4%であった。

問題文で示した条件を満たし、材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくっているもの（解答類型1～8）を正答とした。正答した児童が97.4%であり、相当数の児童ができていた。本問では、限られた時間の中で作品を製作するため、前問までに示した方法以外を用いることまでは求めなかったが、表したいものをつくる学習では自分なりに表し方を工夫することが大切である。そこで、材料や用具の特徴を生かして使うことについては、大きく「釘や金づちの使い方」と「木片の組合せ方」の2つの視点から、前問までに示された以外の表し方の工夫を行っているかを分類した。具体的には、「釘や金づちの使い方」については「接続手段としての釘や金づちの使い方」、「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした釘や金づちの使い方」の2つの視点から前問までに示された以外の表し方の工夫を行っているかを分類した。「木片の組合せ方」については、木片Aに木片Bをつなげ、その先にさらに木片Bをつなげるなどのように、3個以上の木片を順に長く連結するなどの「木片の接合の方法」、木片が左右に対象の位置になく斜めの位置にあるなどの「木片の構成の仕方」の2つの視点から前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っているかを分類した。その結果、「釘や金づちの使い方」と「木片の組合せ方」の2つの視点において前問までに示したもの以外の表し方の工夫を行っている児童（解答類型1～7）は50.0%であった。これらの児童は、材料や用具の特徴を生かして使うことについて、試行錯誤しながら製作する中で新たに思い付いたり、過去の経験を生かしたりしたと考えられる。一方、前問までに示した表し方の工夫のみを用いている児童（解答類型8）は、前問以外の方法を用いる必要がないと考えた場合と、思い付かなかった場合とがあると考えられる。

本問では、限られた時間の中で作品を製作するため、前問までに示した方法以外を用いることまでは求めなかったが、表したいものをつくる学習では自分なりに表し方を工夫することが大切である。

#### 【問題3】 解答類型ごとの反応率】

通過率 97.4%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	問題文で示した条件を満たし、次の視点から材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくっているもの ①釘や金づちの使い方 「接続手段」と「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」の両方で、前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っている ②木片の組合せ方 「木片の接合」と「木片の構成」の両方で、前問までに示されたも	1.0%



	の以外の表し方の工夫を行っている	
◎ 2	<p>問題文で示した条件を満たし、次の視点から材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくっているもの</p> <p>①釘や金づちの使い方 「接続手段」と「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」の両方で、前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っている</p> <p>②木片の組合せ方 「木片の接合」か「木片の構成」の片方のみで、前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っている</p>	0.5%
◎ 3	<p>問題文で示した条件を満たし、次の視点から材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくっているもの</p> <p>①釘や金づちの使い方 「接続手段」か「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」の片方のみで、前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っている</p> <p>②木片の組合せ方 「木片の接合」と「木片の構成」の両方で、前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っている</p>	2.0%
◎ 4	<p>問題文で示した条件を満たし、次の視点から材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくっているもの</p> <p>①釘や金づちの使い方 「接続手段」か「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」の片方のみで、前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っている</p> <p>②木片の組合せ方 「木片の接合」か「木片の構成」の片方のみで、前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っている</p>	7.6%
◎ 5	<p>問題文で示した条件を満たし、次の視点から材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくっているもの</p> <p>①釘や金づちの使い方 「接続手段」と「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」の両方で、前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っている</p> <p>②木片の組合せ方 「木片の接合」と「木片の構成」の両方も、前問までに示された表し方の工夫のみを行っている</p>	1.4%
◎ 6	<p>問題文で示した条件を満たし、次の視点から材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくっているもの</p> <p>①釘や金づちの使い方</p>	2.5%

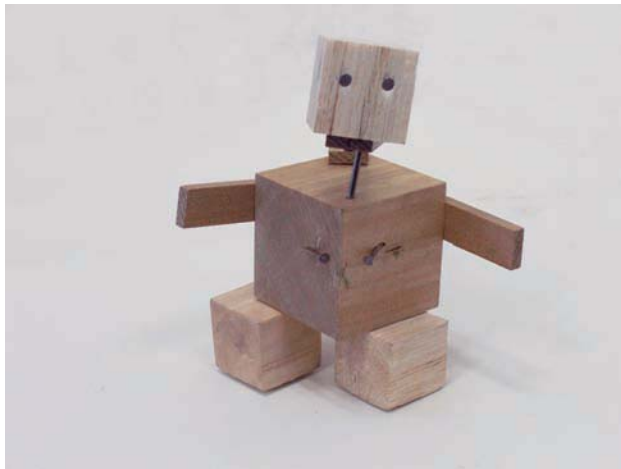


	<p>「接続手段」と「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」の両方とも、前問までに示された表し方の工夫のみを行っている（「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」を行っていないものを含む。）</p> <p>②木片の組合せ方 「木片の接合」と「木片の構成」の両方で、前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っている</p>	
◎7	<p>問題文で示した条件を満たし、次のア又はイのいずれかの視点から材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくっているもの</p> <p>ア {</p> <p>①釘や金づちの使い方 「接続手段」か「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」の片方のみで、前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っている</p> <p>②木片の組合せ方 「木片の接合」と「木片の構成」の両方とも、前問までに示された表し方の工夫のみを行っている</p> <p>イ {</p> <p>①釘や金づちの使い方 「接続手段」と「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」の両方とも、前問までに示された表し方の工夫のみを行っている（「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」を行っていないものを含む。）</p> <p>②木片の組合せ方 「木片の接合」か「木片の構成」の片方のみで、前問までに示されたもの以外の表し方の工夫を行っている</p>	35.0%
◎8	<p>問題文で示した条件を満たし、次の視点から材料や用具の特徴を生かして使い、表したいものをつくっているもの</p> <p>①釘や金づちの使い方 「接続手段」と「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」の両方とも、前問までに示された表し方の工夫のみを行っている（「イメージを表すなどの接続手段以外を目的とした使い方」を行っていないものを含む。）</p> <p>②木片の組合せ方 「木片の接合」と「木片の構成」の両方とも、前問までに示された表し方の工夫のみを行っている</p>	47.4%
9	上記以外の解答	2.6%
0	無解答	0.0%

【問題3】 解答類型ごとの解答例】

※児童の記述は、作品の表現の意図や表し方の工夫を読み取るために参考としたものであり、判定の対象外である。

類型番号	解答例 (◎：正答)	記述
◎ 1		<p><b>題名</b> 『風』という『生物』</p> <p><b>工夫の記述</b> 今日、風が強かったから、あれくるう風を表現したかった。そこらじゅうのものをまきこんでどんなどころにも飛んでいく、鳥にも飛行機にも負けない風。向きを変えながら、たてにうちつけていった。ものをまいあげる感じをだしたかった。</p>
<p>〈判定の視点〉</p> <p>【釘や金づちの使い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接続手段としての使い方では、上部にある木片Bに釘を使い、木片Bを浮かせて接続し、前問までとは異なる使い方をしている。</li> <li>・ 接続手段以外を目的とした使い方では、風の流れを表現するために向きを変化させて釘を打つなど前問までとは異なる使い方をしている。</li> </ul> <p>【木片の組合せ方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木片の接合の方法では、木片Cに木片Bを接合し、さらに、その先に木片Bを接合し、前問までとは異なる使い方をしている。</li> <li>・ 木片の構成の仕方では、木片Aに、木片Cを2個と木片Bを2個、ねじれを伴って弓なりに連なるように構成するなど、前問までとは異なる使い方をしている。</li> </ul> <p>これらから、当該児童のつくりたいものであった「風」の流れを表そうとする工夫が読み取れる。</p>		



**題名**

ロボット

**工夫の記述**

- ・パーツが全部動けるようにした。
- ・顔が上の方にとび出てくるようにした。
- ・後ろにたおれにくくするために、後ろに木をつけた。

〈判定の視点〉

**【釘や金づちの使い方】**

- ・接続手段としての使い方では、木片Bと木片Cにくぎを打ち、木片Aに浮かせて接続させ、前問までとは異なる使い方をしている。
- ・接続手段以外を目的とした使い方では、胴体に釘を曲げて模様となるように使用し、前問までとは異なる使い方をしている。

**【木片の組合せ方】**

- ・木片の接合の方法では、木片Aと木片Bを接合し、さらに、その上に木片Cを頭として接合させ、前問までとは異なる使い方をしている。
- ・木片の構成の仕方では、木片同士を斜めに配置するなど、木片の接し方や向きに変化を加えて構成し、前問までとは異なる使い方をしている。

これらから、当該児童のつくりたいものであった「ロボット」を表そうとする工夫が読み取れる。

**題名**

「土球ぎ」(土星の地球ぎ)

**工夫の記述**

上のくぎは、スペースシャトルで近い未来宇宙に行けたらいいなと思っています。まわりを木片Bでかこむのに、くぎの頭にBをよせ、それをAにくっつけました。地球ぎがななめになっていて回るので、これもななめにし、回るようにしました。

〈判定の視点〉

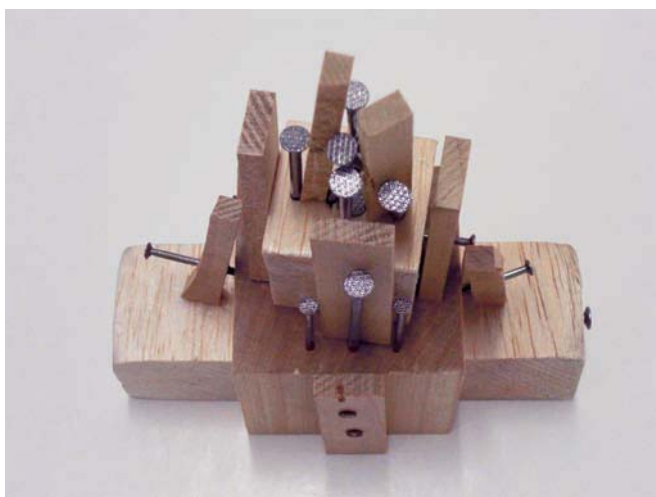
【釘や金づちの使い方】

- ・ 接続手段としての使い方では、木片Bに釘の頭を寄せて打ち、木片Aに対して木片Bを6枚浮かせて固定しており、前問までとは異なる使い方をしている。
- ・ 接続手段以外を目的とした使い方では、釘を複数打って1つの模様としたり、木片Cに斜め下から釘を打ち、土球儀が斜めになって回るようにしたりするなど、前問までとは異なる使い方をしている。

【木片の組合せ方】

- ・ 木片の接合の方法では、前問までと同じ使い方のみをしている。
- ・ 木片の構成の仕方では、木片Aを土星のまわりに円を表すように木片Bを構成し、前問までとは異なる使い方をしている。

これらから、当該児童のつくりたいものであった「土球儀」を表そうとする工夫が読み取れる。



#### 題名

お城

#### 工夫の記述

なんかもんぼくすんのがむずかしかったけど、できてよかった。くふうした所はくぎをななめやとちゅうまでうつことや木片Cのどがったぶぶんをかなづちで丸くした所です。

〈判定の視点〉

#### 【釘や金づちの使い方】

- ・ 接続手段としての使い方では、木片を釘ではさんで固定しており、前問までとは異なる使い方をしている。
- ・ 接続手段以外を目的とした使い方では、城の端から中央に向かって次第に高くなるイメージで釘の方向を整えて打ったり、木片の角を金づちでたたいて丸くしたりするなど、前問までとは異なる使い方をしている。

#### 【木片の組合せ方】

- ・ 木片の接合の方法では、前問までと同じ使い方のみをしている。
- ・ 木片の構成の仕方では、「城」のイメージに合うように、細かな木片を中心に集めるように構成し、前問までとは異なる使い方をしている。

これらから、当該児童のつくりたいものであった「城」を表そうとする工夫が読み取れる。

◎ 3



**題名**

未来の家

**工夫の記述**

工夫した所は未来っぽく全体的に木をうかびあがらせた所です。細い木は外に出なくても、ほかの部屋や家に行けるように道みたいに作り、動かせるようにしました。そして、すべてを未来っぽくアンバランスに作ったところです。

〈判定の視点〉

**【釘や金づちの使い方】**

- ・ 接続手段としての使い方では、木片Aから木片Bと木片Cを浮かせて接続させており、前問までとは異なる使い方をしている。
- ・ 接続手段以外を目的とした使い方では、前問までと同じ使い方のみをしている。

**【木片の組合せ方】**

- ・ 木片の接合の方法では、木片Aに木片Cを接合し、さらにその先に木片Bを接合し、前問までとは異なる使い方をしている。
- ・ 木片の構成の仕方では、木片を階段状にずらして配置しており、前問までとは異なる使い方をしている。

これらから、当該児童のつくりたいものであった「未来の家」を表そうとする工夫が読み取れる。

◎ 4



**題名**

かぶと虫

**工夫の記述**

かぶと虫を作るために足が6本必ようでした。でもあと一本つのを作れなかったので一本わって作りました。羽はくぎをつかってまげたりして羽をひろげているようにしました。

〈判定の視点〉

**【釘や金づちの使い方】**

- ・ 接続手段としての使い方では、前問までと同じ使い方のみをしている。
- ・ 接続手段以外を目的とした使い方では、9本の釘を使い、カブトムシの<sup>はね</sup>翅を形づくっており、前問までとは異なる使い方をしている。

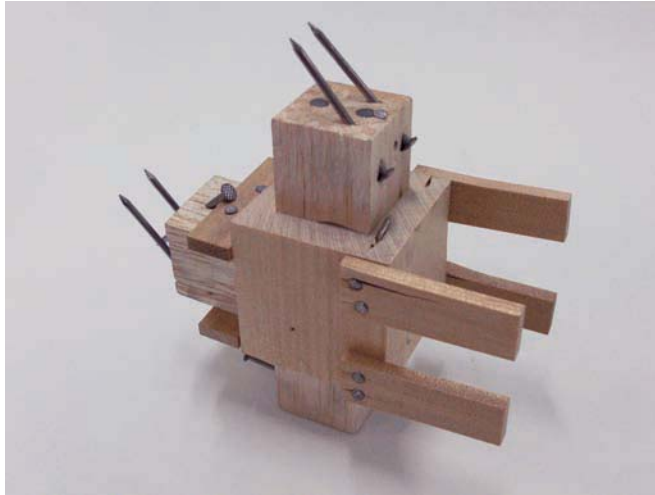
**【木片の組合せ方】**

- ・ 木片の接合の方法では、木片Aに木片Cを接合し、さらにその先に木片Bを接合し、前問までとは異なる使い方をしている。
- ・ 木片の構成の仕方では、前問までと同じ使い方のみをしている。

これらから、当該児童のつくりたいものであった「カブトムシ」を表そうとする工夫が読み取れる。



◎ 5



#### 題名

「スリーフェイス」(3つの顔を持った生き物)

#### 工夫の記述

くぎをつののように打ってくぎの頭の丸い所が目にした。木をつかって4本足で立つ生き物にしたかったので6本の内4本をつかって足にしました。

〈判定の視点〉

#### 【釘や金づちの使い方】

- ・ 接続手段としての使い方では、木片を釘の頭で押さえ、前問までとは異なる使い方をしている。
- ・ 接続手段以外を目的とした使い方では、釘を斜めに打って出し、目と角に見立て、前問までとは異なる使い方をしている。

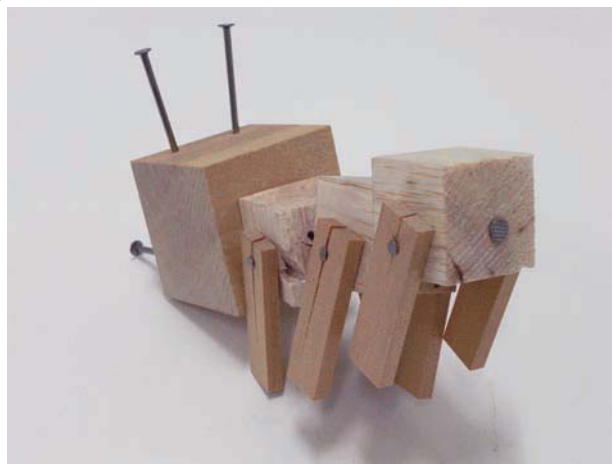
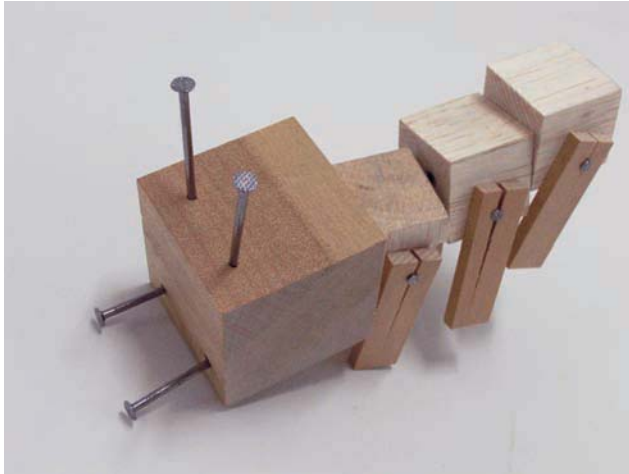
#### 【木片の組合せ方】

- ・ 木片の接合の方法では、前問までと同じ使い方のみをしている。
- ・ 木片の構成の仕方では、前問までと同じ使い方のみをしている。

これらから、当該児童のつくりたいものであった「スリーフェイス」を表そうとする工夫が読み取れる。



◎ 6



**題名**

元気な感じのイモ虫

**工夫の記述**

元気そうな感じにするために、目はしょかくよりちょっと短いぐらいにしました。しょかくはまげずにピンってさせました。体をバラバラにつけました。足は動かせるように1本にしました。

〈判定の視点〉

**【釘や金づちの使い方】**

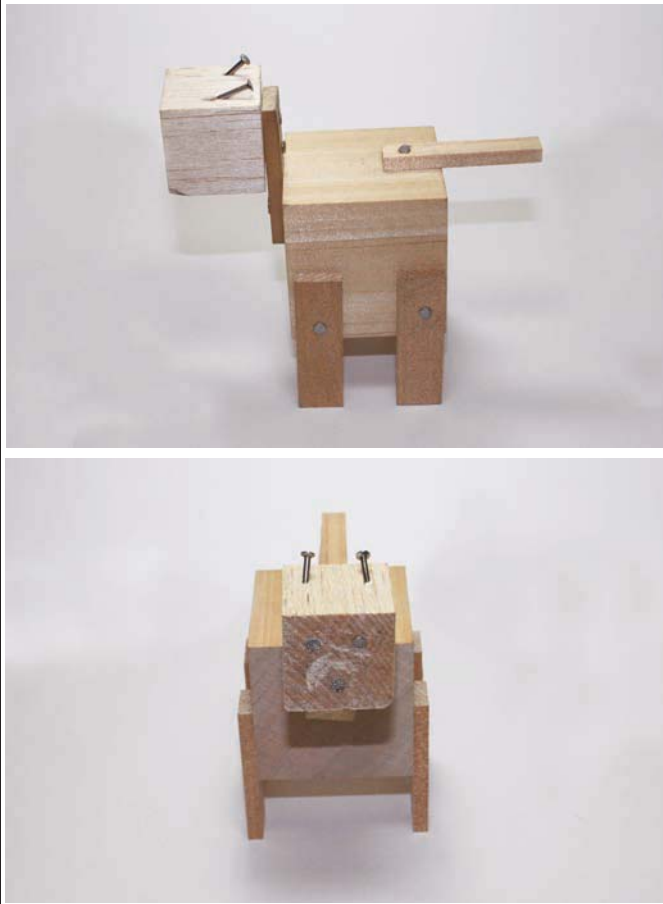
- ・ 接続手段としての使い方では、木片を動くように使うなど、前問までと同じ使い方のみをしている。
- ・ 接続手段以外を目的とした使い方では、目や触覚に見立るなど、前問までと同じ使い方のみをしている。

**【木片の組合せ方】**

- ・ 木片の接合の方法では、木片Aに木片Cを3つ接合し、前問までとは異なる使い方をしている。
- ・ 木片の構成の仕方では、木片A1つと木片C3つをずらして構成し、前問までとは異なる使い方をしている。

これらから、当該児童のつくりたいものであった「元気な感じのイモ虫」を表そうとする工夫が読み取れる。

◎ 7



題名

馬

工夫の記述

馬を作りました。工夫は、耳をななめにしたり、くぎを一本にして足やしっぽがうごくようにしたところ

〈判定の視点〉

【釘や金づちの使い方】

- ・ 接続手段としての使い方では、前問までと同じ使い方のみをしている。
- ・ 接続手段以外を目的とした使い方では、釘を耳や目に見立てるなど、前問までと同じ使い方のみをしている。

【木片の組合せ方】

- ・ 木片の接合の方法では、首に使った木片Bをジョイントとして、木片Aと木片Cを3つ接合し、前問までとは異なる使い方をしている。
- ・ 木片の構成の仕方では、左右対称に木片を配置するなど、前問までと同じ使い方のみをしている。

これらから、当該児童のつくりたいものであった「馬」を表そうとする工夫が読み取れる。

**題名**

ロボット

**工夫の記述**

工夫した所は足の所をくぎを1本にした所です。本当は2本にしようと思っていたのですが、足も動かしたいなあと思ったからです。

〈判定の視点〉

**【釘や金づちの使い方】**

- ・ 接続手段としての使い方では、前問までと同じ使い方のみをしている。
- ・ 接続手段以外を目的とした使い方では、釘を目に見立てるなど、前問までと同じ使い方のみをしている。

**【木片の組合せ方】**

- ・ 木片の接合の方法では、前問までと同じ使い方のみをしている。
- ・ 木片の構成の仕方では、前問までと同じ使い方のみをしている。

これらから、当該児童のつくりたいものであった「ロボット」を表そうとする工夫が読み取れる。

#### (4) 分析結果から見た指導の改善

**材料や用具を見たり触ったり試したりしながら、それらの特徴を生かした表し方を考え出すような指導過程を工夫することが大切である。**

材料や用具の特徴をとらえ、表したいことを表すことに関する指導においては、材料や用具を見たり触ったり試したりしながら、それらの特徴を生かし、表し方を児童自身が考えることができるような指導過程を工夫することが大切である。

具体的には、児童それぞれの経験を基に材料や用具を使いながら、次第に表し方や表したいものを考え出し、新しい表し方を取り入れたり、表したいことを変化させたりする活動が考えられる。そのためには、十分な活動の時間を確保するとともに、児童の実態に応じた材料や用具を準備したり、適切な指導を加えたりすることが大切である。さらに、児童が、およその計画で始めながらも、試行錯誤しながら構想を具体的にしたり、製作の手順を考えたりするなど、次第に自分なりの見通しをもてるようにすることも大切である。

なお、材料や用具を使うに当たっては、安全への十分な配慮が必要である。例えば、児童の実態や発達の段階を踏まえて、材料や用具の大きさ、重さなどを考える必要がある。また、釘を打つ前に金づちで板を軽くたたいて、金づちを打つリズムを体得させたり、木材を固定し、釘に対してまっすぐに振り下ろすことを学習させたりすることなども大切である。

**自他の作品から、表現の意図や表し方の工夫をとらえ、これを自分の表現に生かすことができるよう指導を工夫することが大切である。**

指導に当たっては、自他の作品から、表現の意図や表し方の工夫をとらえ、これを自分の表現に生かすことができるよう指導を工夫することが大切である。

具体的には、鑑賞において、作品をいろいろな方向から見たり、いろいろな工夫を取り出して比較したりするなどして、表したいことを効果的に表すことができる方法が複数あることに気付くような話合いを取り入れることが考えられる。そして、その話合いなどを通じて学んだことを自分の表現に生かしていくことができるようにすることが大切である。本調査でも、問題2に取り組む中で釘の特徴を生かした表し方の工夫を学び、問題3の作品づくりにおいて、釘が曲がることを利用してバランスを取ったり、釘を何かに見立てたりするなど、作品の表現に応用している児童がいた。

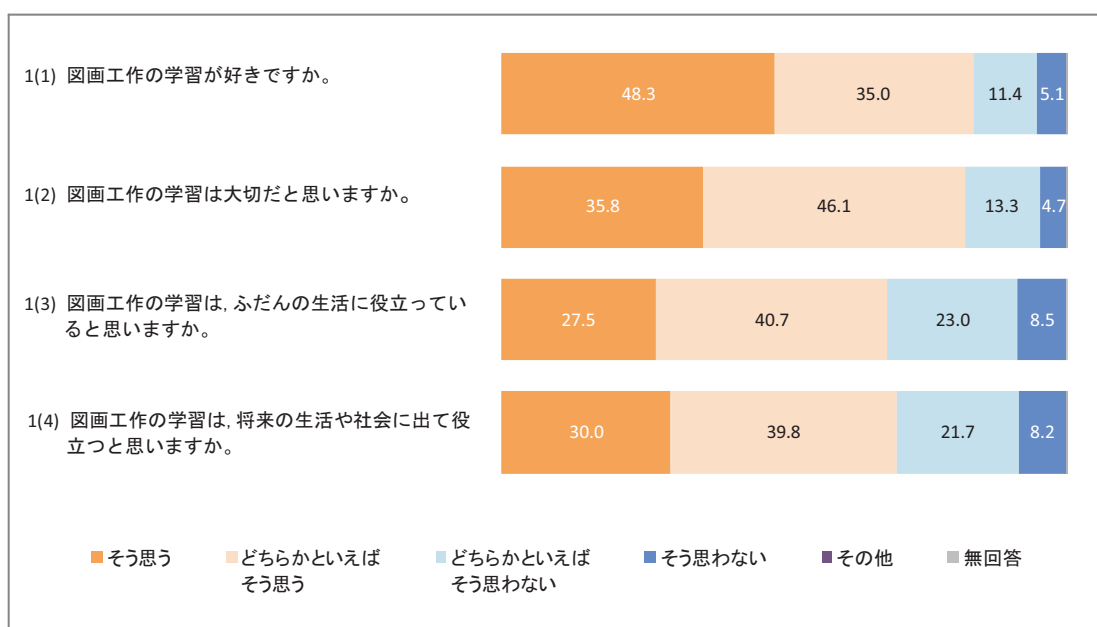
自他の作品から表現の意図や表し方の工夫をとらえるためには、材料や用具の特徴に応じて工夫された表し方や作品への生かし方などについて焦点化して作品を鑑賞することが考えられる。その際、新学習指導要領において〔共通事項〕で示された形や色などの造形的な特徴は、児童が材料に対する自分の感覚などを根拠に、どのようなイメージをもっているかをとらえることに有効な視点となる。そのため、話合いやワークシートの質問内容では、造形的な特徴を視点の一つとして取り上げ、「どこからそう思ったのか」など根拠を明確にさせることなどが効果的である。

## 4 児童質問紙調査における調査結果

### (1) 児童質問紙調査結果の概要

#### ① 図画工作の学習に関する児童の意識（質問1）

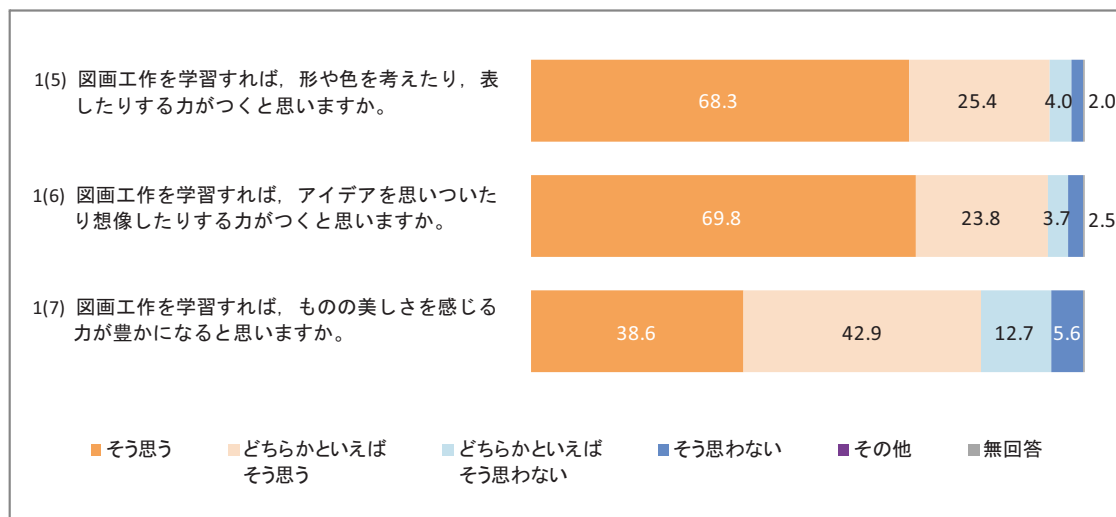
- 図画工作の学習が好きである、大切であるという意識をもっている児童は約8割、図画工作がふだんの生活、将来の生活や社会に出て役立つという意識をもっている児童は約7割であった。



「図画工作の学習が好きですか。」（質問1(1)）に対して肯定的な回答（「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」）をした児童は83.3%、「図画工作の学習は大切だと思いますか。」（質問1(2)）に対して肯定的な回答をした児童は81.9%であり、約8割の児童が図画工作の学習に対して肯定的な意識をもっていることが分かった。

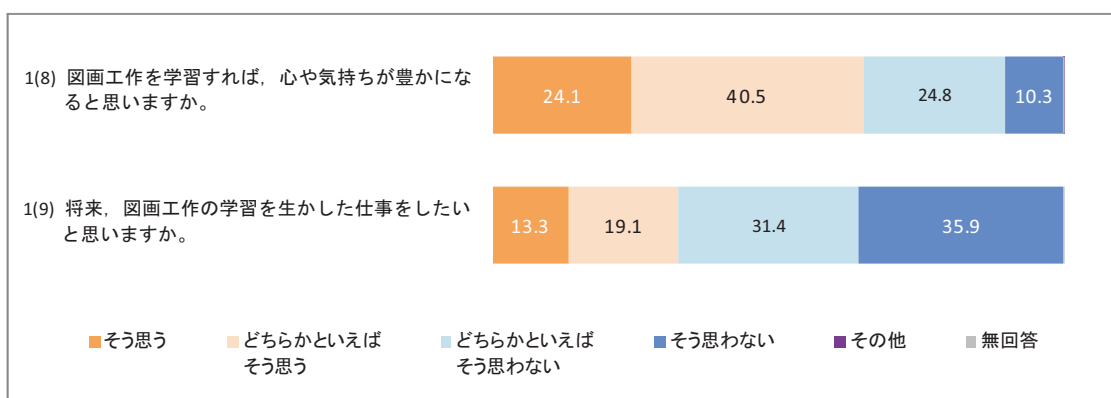
また、「図画工作の学習は、ふだんの生活に役立っていると思いますか。」（質問1(3)）に対して肯定的な回答をした児童は68.2%、「図画工作の学習は、将来の生活や社会に出て役立つと思いますか。」（質問1(4)）に対して肯定的な回答をした児童は69.8%であり、約7割の児童が、図画工作がふだんの生活、将来の生活や社会に出て役立つという意識をもっていることが分かった。

○ 図画工作の学習によって、形や色を考えたり表したりする力がつく、アイデアを思いついたり想像したりする力がつくという意識をもっている児童は約9割、ものの美しさを感じる力が豊かになるという意識をもっている児童は約8割であった。



「図画工作を学習すれば、形や色を考えたり、表したりする力がつくと思いますか。」(質問1(5))に対して肯定的な回答をした児童は93.8%、「図画工作を学習すれば、アイデアを思いついたり想像したりする力がつくと思いますか。」(質問1(6))に対して肯定的な回答をした児童は93.6%であり、約9割の児童が、図画工作の学習によって、形や色を考えたり表したりする力がつく、アイデアを思いついたり想像したりする力がつくという意識をもっていることが分かった。また、「図画工作を学習すれば、ものの美しさを感じる力が豊かになると思いますか。」(質問1(7))に対して肯定的な回答をした児童は81.5%であり、約8割の児童が、図画工作の学習によって、ものの美しさを感じる力が豊かになるという意識をもっていることが分かった。

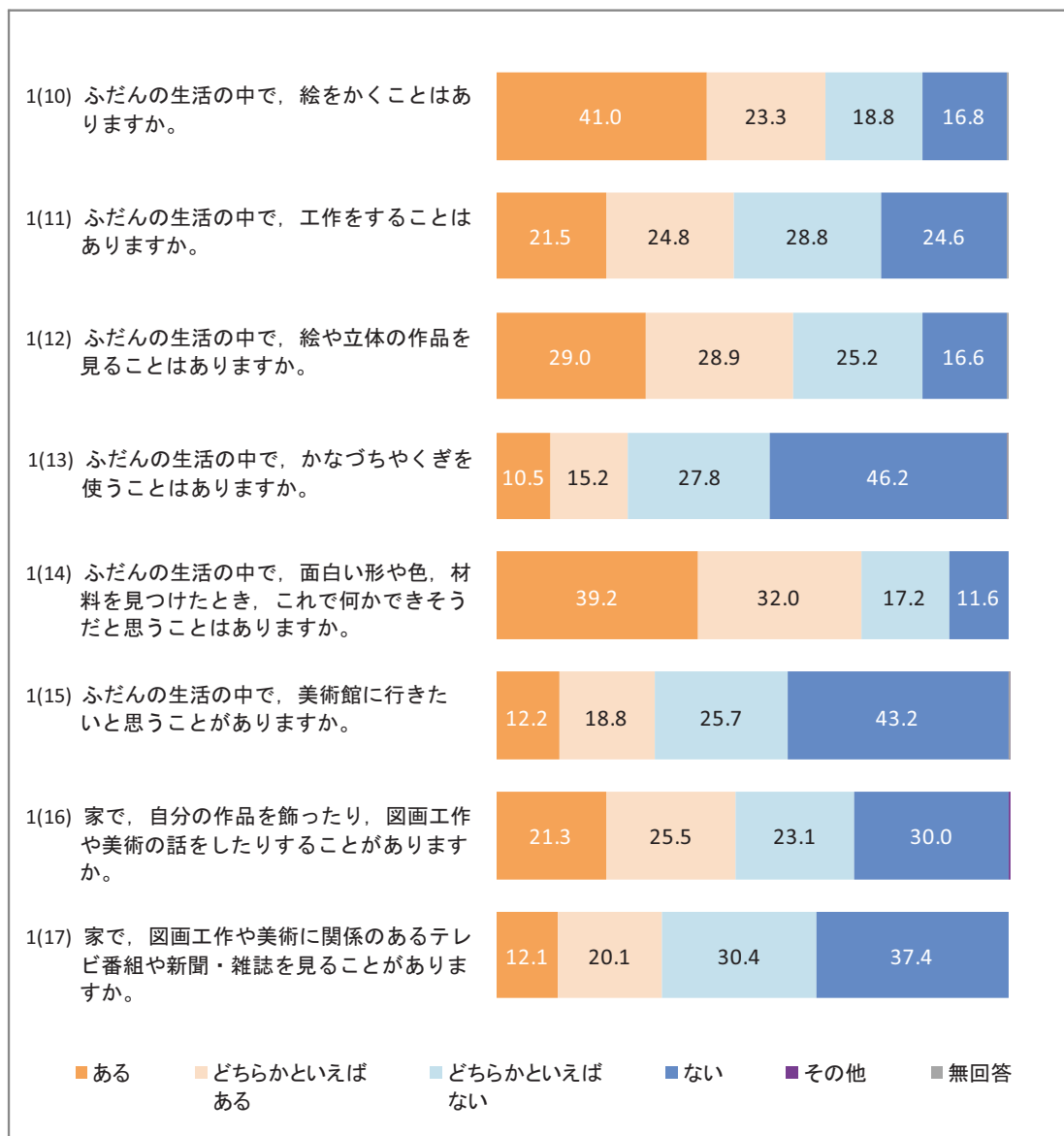
○ 図画工作の学習によって心や気持ちが豊かになるという意識をもっている児童は約6割であった。



「図画工作を学習すれば、心や気持ちが豊かになると思いますか。」(質問1(8))に対して肯定的な回答をした児童は64.7%であり、約6割の児童が図画工作の学習によって心や気持ちが豊かになるという意識をもっていることが分かった。

また、「将来、図画工作の学習を生かした仕事をしたいと思いますか。」(質問1(9))に対して肯定的な回答をした児童は32.4%であった。

○ ふだんの生活の中で、絵をかくこと、工作をすること、絵や立体の作品を見ることがあると回答した児童は約5～6割、面白い形や色、材料を見つけたときこれで何かできそうだと思うことがありと回答した児童は約7割であった。



「ふだんの生活の中で、絵をかくことはありますか。」(質問1(10))、「ふだんの生活の中で、工作をすることはありますか。」(質問1(11))、「ふだんの生活の中で、絵や立体の作品を見ることはありますか。」(質問1(12))、「ふだんの生活の中で、かなづちやくぎを使うことはありますか。」(質問1(13))、「ふだんの生活の中で、面白い形や色、材料を見つけたとき、これで何かできそうだと思うことはありますか。」(質問1(14))、「ふだんの生活の中で、美術館に行きたいと思うことがありますか。」(質問1(15))に対して「ある」「ある」又は「どちらかといえばある」と回答をした児童は、それぞれ64.2%、46.3%、57.9%、25.7%、71.2%、31.0%で

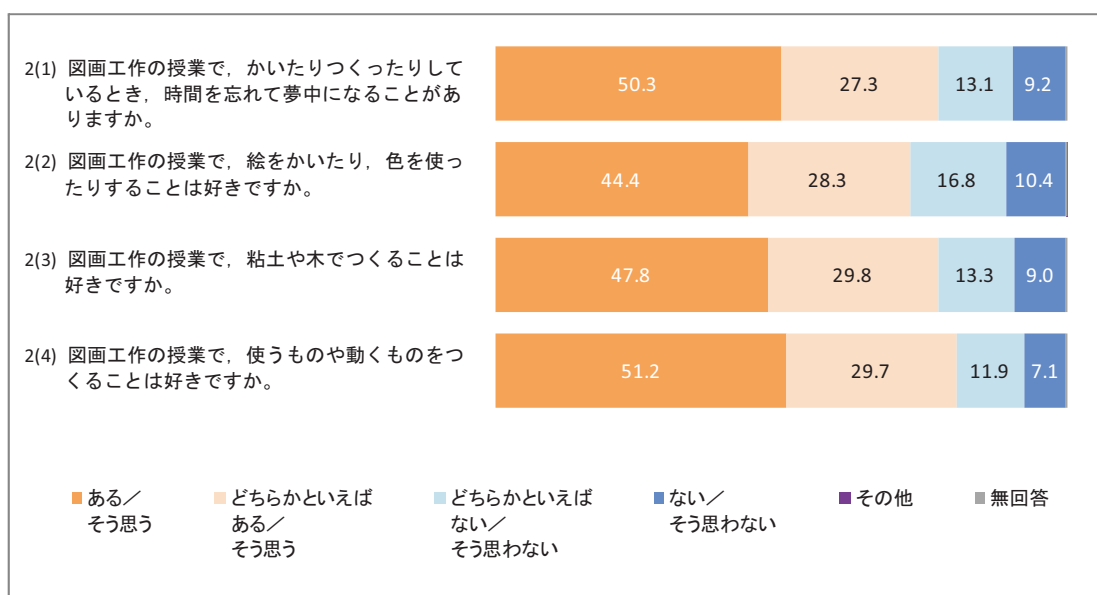


あった。

また、「家で、自分の作品を飾ったり、図画工作や美術の話をしったりすることがありますか。」(質問1(16))に対して「ある」と回答をした児童は46.8%、「家で、図画工作や美術に関係のあるテレビ番組や新聞・雑誌を見ることがありますか。」(質問1(17))に対して「ある」と回答をした児童は32.2%であった。

## ② 学習内容に関する児童の意識 (質問2)

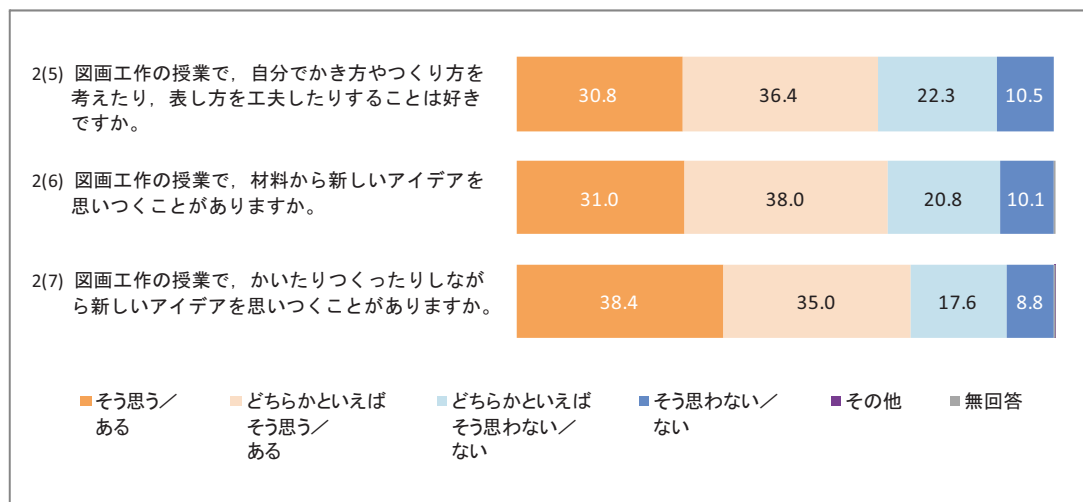
- 図画工作の授業で、かいたりつくったりしているとき時間を忘れて夢中になることがあると回答した児童は約8割、絵をかいたり色を使ったりすること、粘土や木でつくること、使うものや動くものをつくるのが好きと回答した児童は約7～8割であった。



「図画工作の授業で、かいたりつくったりしているとき、時間を忘れて夢中になることがありますか。」(質問2(1))に対して「ある」(「ある」又は「どちらかといえばある」)と回答をした児童は77.6%であった。児童は、図画工作の授業に集中して活動している経験があることがうかがえる。

また、「図画工作の授業で、絵をかいたり、色を使ったりすることは好きですか。」(質問2(2))、「図画工作の授業で、粘土や木でつくことは好きですか。」(質問2(3))、「図画工作の授業で、使うものや動くものをつくることは好きですか。」(質問2(4))に対して肯定的な回答をした児童は、それぞれ72.7%、77.6%、80.9%であった。絵をかく、粘土などでつくる、目的をもったものをつくるなどに対して、いずれも児童の興味が高いことが分かる。

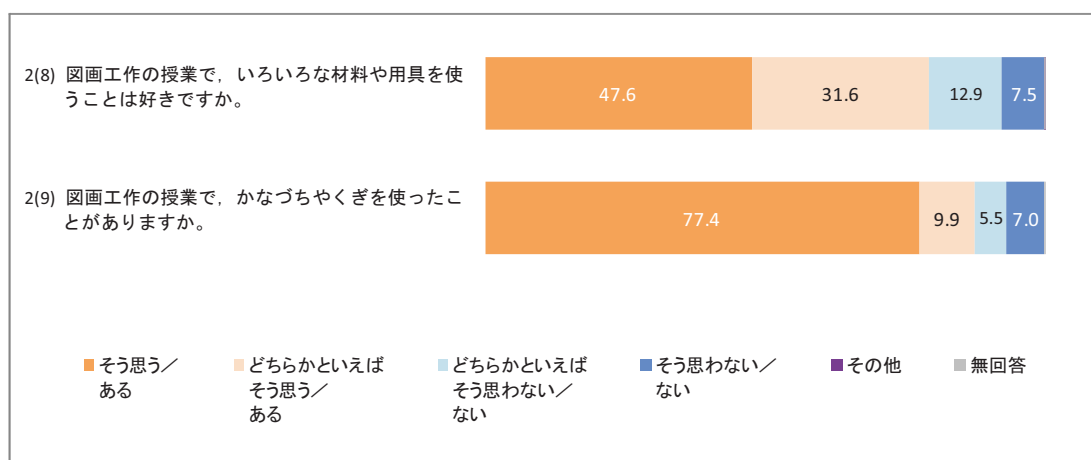
○ 図画工作の授業で、自分でかき方やつくり方を考えたり表し方を工夫したりすることが好き、材料から新しいアイデアを思いつくことがある、かいたりつくったりしながら新しいアイデアを思いつくことがあると回答した児童は約7割であった。



「図画工作の授業で、自分でかき方やつくり方を考えたり、表し方を工夫したりすることは好きですか。」(質問2(5))に対して肯定的な回答をした児童は67.2%、「図画工作の授業で、材料から新しいアイデアを思いつくことがありますか。」(質問2(6))、「図画工作の授業で、かいたりつくったりしながら新しいアイデアを思いつくことがありますか。」(質問2(7))に対して「ある」「ある」又は「どちらかといえばある」と回答をした児童は、それぞれ69.1%、73.4%であった。

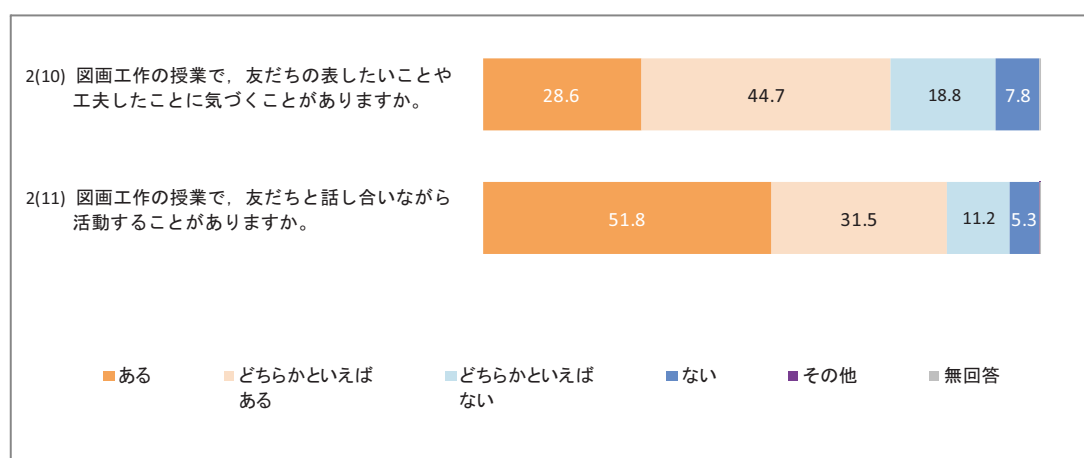
児童は、材料から、あるいは、かいたりつくったりしながら新しいアイデアを思いついていることが分かる。

- 図画工作の授業で、いろいろな材料や用具を使うことは好きと回答した児童は約8割、かなづちやくぎを使ったことがあると回答した児童は約9割であった。



「図画工作の授業で、いろいろな材料や用具を使うことは好きですか。」(質問2(8))に対して肯定的な回答をした児童は79.2%、「図画工作の授業で、かなづちやくぎを使ったことがありますか。」(質問2(9))に対して「ある」(「ある」又は「どちらかといえばある」と回答をした児童は、87.3%であった。「ふだんの生活の中で、かなづちやくぎを使うことはありますか。」(質問1(13))に対して「ある」(「ある」又は「どちらかといえばある」と回答をした児童が25.7%であったことから、金づちや釘を使う経験が図画工作の授業によって相当確保されていることが分かる。

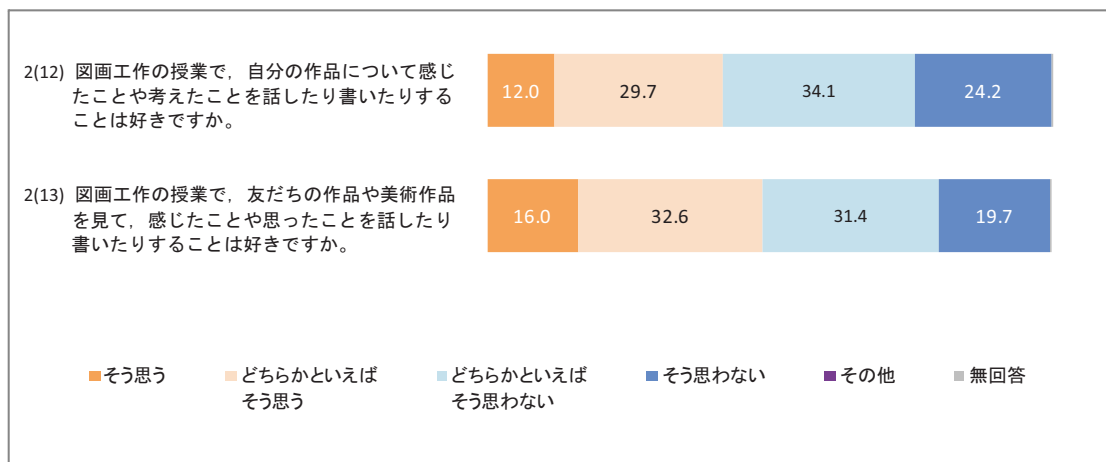
- 友だちの表したいことや工夫したいことに気づくことがあると回答した児童は約7割、友だちと話し合いながら活動することがあると回答した児童は約8割であった。



「図画工作の授業で、友だちの表したいことや工夫したことに気づくことがあり

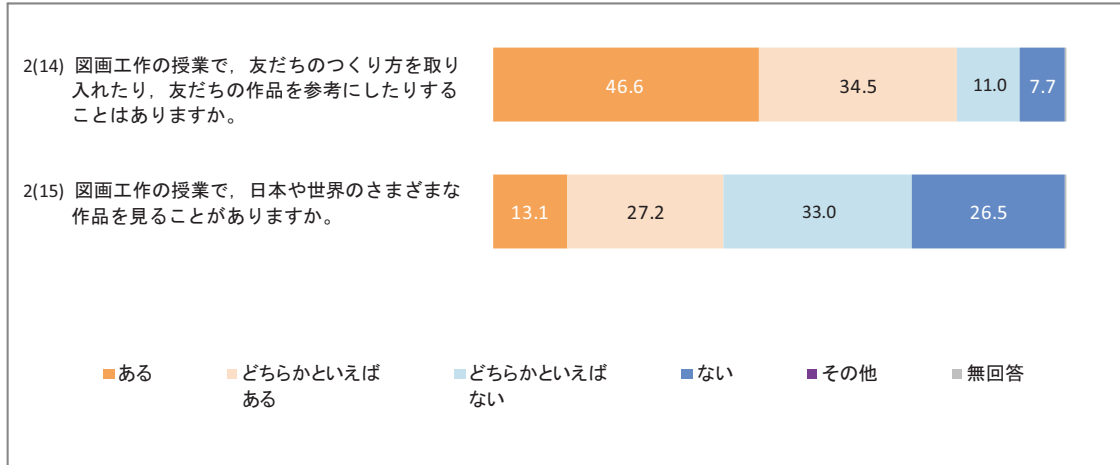
ますか。」(質問2(10)),「図画工作の授業で、友だちと話し合いながら活動することがありますか。」(質問2(11))に対して「ある」(「ある」又は「どちらかといえばある」と回答をした児童は、それぞれ73.3%, 83.3%であった。友だちと話し合いながら活動する際に、友だちの表現の意図や工夫に気づき、意識していることが考えられる。

- **自分の作品について感じたことや考えたことを話したり書いたりすることは好き、友だちの作品や美術作品を見て、感じたことや思ったことを話したり書いたりすることは好きと回答した児童は約4～5割であった。**



「図画工作の授業で、自分の作品について感じたことや考えたことを話したり書いたりすることは好きですか。」(質問2(12)),「図画工作の授業で、友だちの作品や美術作品を見て、感じたことや思ったことを話したり書いたりすることは好きですか。」(質問2(13))に対して肯定的な回答をした児童は、それぞれ41.6%, 48.7%であった。感じたことや思ったことを話したり、書いたりすることが好きな児童は半数以下である。表現や鑑賞の中に、話したり書いたりするような言語活動を取り入れる際には、配慮が必要であることが分かる。

- 図画工作の授業で、友だちのつくり方を取り入れたり、友だちの作品を参考にしたりすることはあると回答した児童は約8割、日本や世界のさまざまな作品を見ることがあると回答した児童は約4割であった。



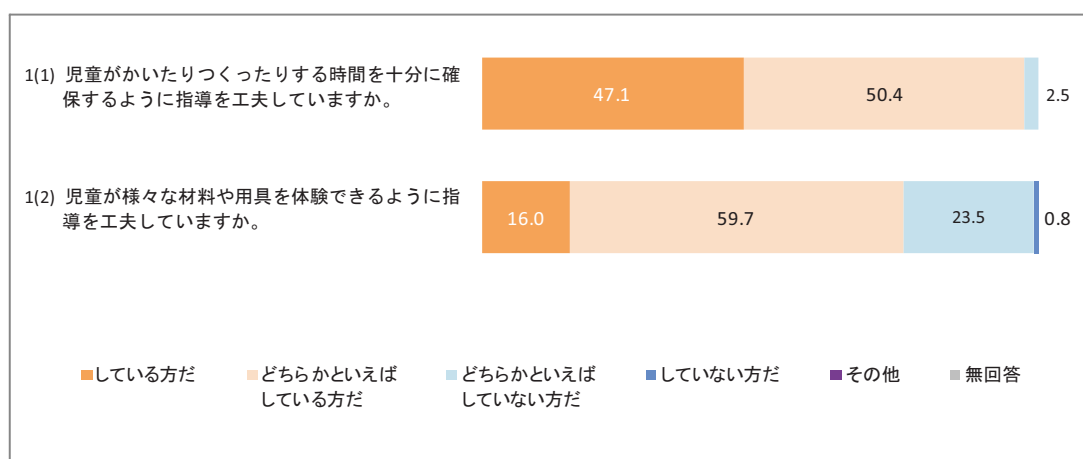
「図画工作の授業で、友だちのつくり方を取り入れたり、友だちの作品を参考にしたりすることはありますか。」(質問2(14))、「図画工作の授業で、日本や世界のさまざまな作品を見ることがありますか。」(質問2(15))に対して「ある」(「ある」又は「どちらかといえばある」)と回答をした児童は、それぞれ81.1%、40.4%であった。

## 5 学校質問紙調査における調査結果

### 学校質問紙調査結果の概要

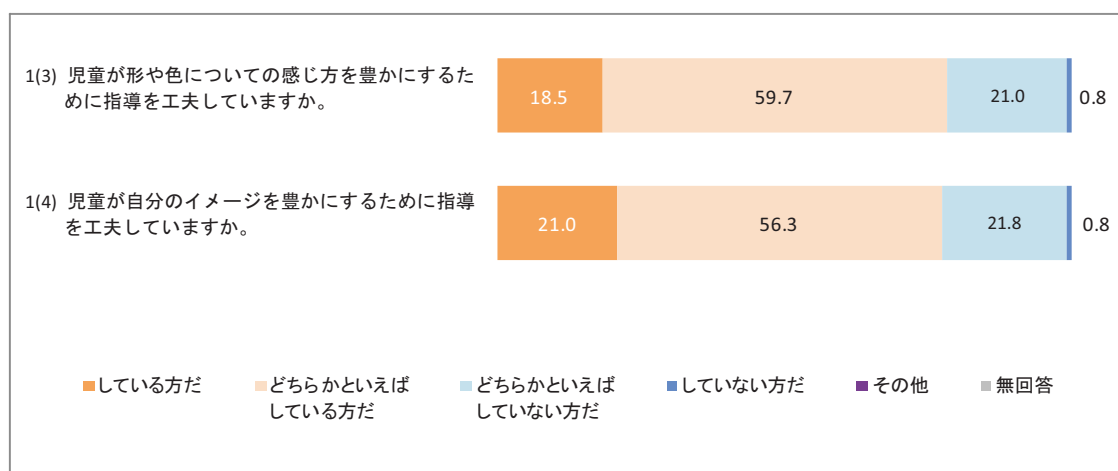
#### ① 指導の工夫（質問1）

- かいたりつくったりする時間を十分に確保するように指導を工夫していると回答した教師は9割5分を超えており、様々な材料や用具を体験できるように指導を工夫していると回答した教師は約8割であった。



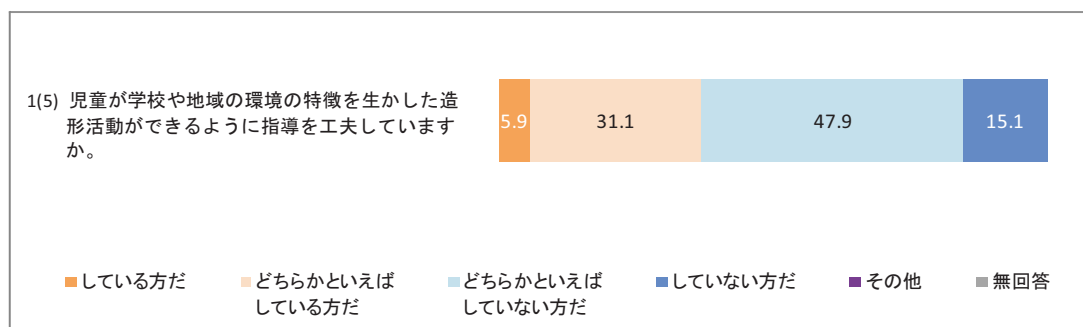
「児童がかいたりつくったりする時間を十分に確保するように指導を工夫していますか。」（質問1(1)）、「児童が様々な材料や用具を体験できるように指導を工夫していますか。」（質問1(2)）に対して肯定的な回答（「している方だ」又は「どちらかといえばしている方だ」）をした教師は、それぞれ97.5%、75.6%であった。

- 形や色についての感じ方を豊かにするために指導を工夫している、イメージを豊かにするために指導を工夫していると回答した教師はともに約8割であった。



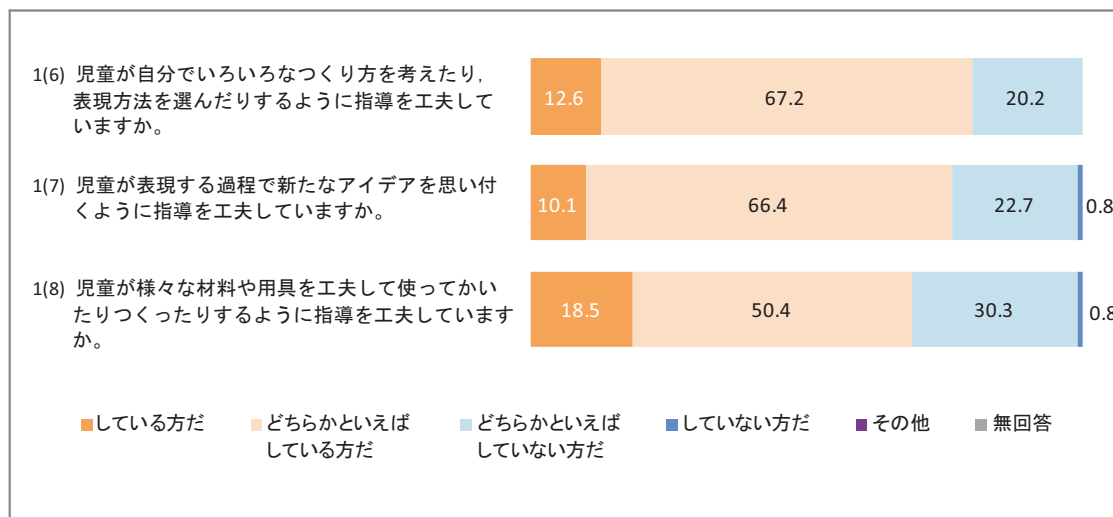
「児童が形や色についての感じ方を豊かにするために指導を工夫していますか。」（質問 1 (3)）、「児童が自分のイメージを豊かにするために指導を工夫していますか。」（質問 1 (4)）に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ78.2%、77.3%であった。

- 学校や地域の環境の特徴を生かした造形活動ができるように指導を工夫していると回答した教師は約4割であった。



「児童が学校や地域の環境の特徴を生かした造形活動ができるように指導を工夫していますか。」（質問 1 (5)）に対して肯定的な回答をした教師は37.0%であった。

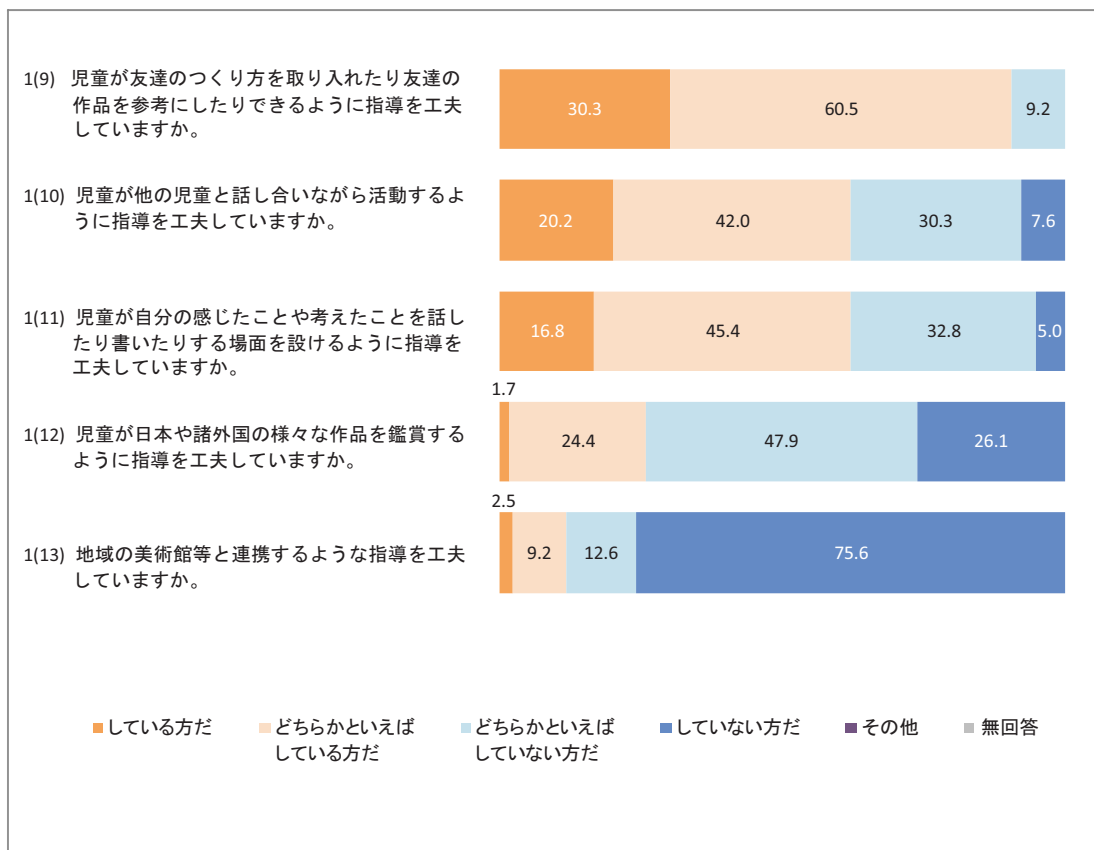
- 自分でいろいろなつくり方を考えたり表現方法を選んだりする，新たなアイデアを思い付く，様々な材料や用具を工夫して使ってかいたりつくったりするように指導を工夫していると回答した教師は約7～8割であった。



「児童が自分でいろいろなつくり方を考えたり，表現方法を選んだりするように指導を工夫していますか。」（質問1(6)），「児童が表現する過程で新たなアイデアを思い付くように指導を工夫していますか。」（質問1(7)），「児童が様々な材料や用具を工夫して使ってかいたりつくったりするように指導を工夫していますか。」（質問1(8)）に対して肯定的な回答をした教師は，それぞれ79.8%，76.5%，68.9%であった。



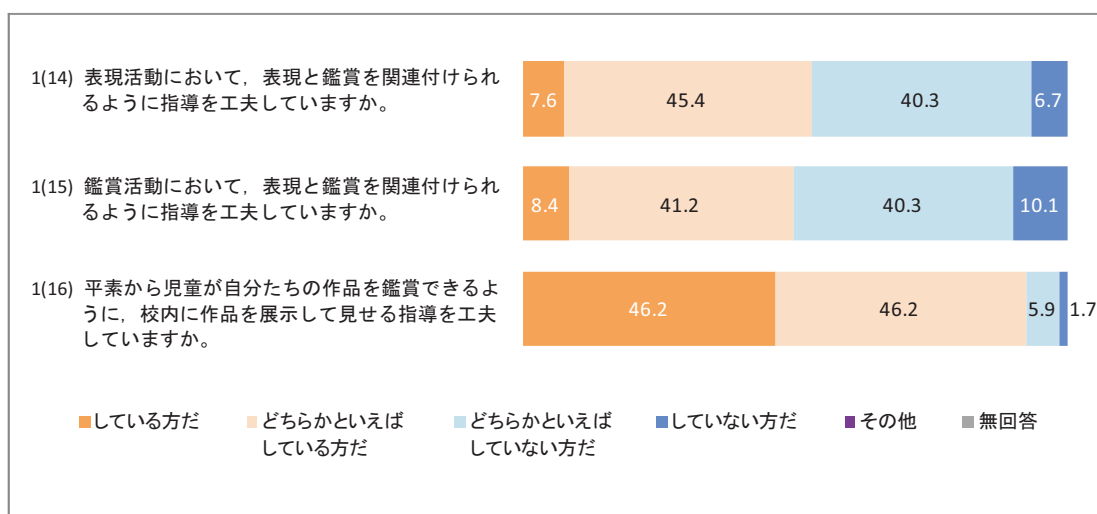
- 友だちのつくり方を取り入れたり友だちの作品を参考にしたりできるように指導を工夫していると回答した教師は約9割，他の児童と話し合いながら活動する，感じたことや考えたことを話したり書いたりする場面を設けるように指導を工夫していると回答した教師は約6割であった。



「児童が友達のつくり方を取り入れたり友達の作品を参考にしたりできるように指導を工夫していますか。」(質問1(9))，「児童が他の児童と話し合いながら活動するように指導を工夫していますか。」(質問1(10))，「児童が自分の感じたことや考えたことを話したり書いたりする場面を設けるように指導を工夫していますか。」(質問1(11)) に対して肯定的な回答をした教師は，それぞれ90.8%，62.2%，62.2%であった。

また，「児童が日本や諸外国の様々な作品を鑑賞するように指導を工夫していますか。」(質問1(12))，「地域の美術館等と連携するような指導を工夫していますか。」(質問1(13)) に対して肯定的な回答をした教師は，それぞれ26.1%，11.8%であった。

- 表現活動，鑑賞活動それぞれにおいて，表現と鑑賞を関連付けられるように指導を工夫していると回答した教師は約5割であった。



「表現活動において，表現と鑑賞を関連付けられるように指導を工夫していますか。」（質問 1 (14)），「鑑賞活動において，表現と鑑賞を関連付けられるように指導を工夫していますか。」（質問 1 (15)）に対して肯定的な回答をした教師は，それぞれ52.9%，49.6%であった。

また，「平素から児童が自分たちの作品を鑑賞できるように，校内に作品を展示して見せる指導を工夫していますか。」（質問 1 (16)）に対して肯定的な回答をした教師は92.4%であった。

## ② 児童の学習状況等（質問 2）

- 粘土を使った学習に取り組んだと回答した教師は約5割，鑑賞の学習で，教師の作品説明を聞く，自分の考えや感想をもとに話し合う，児童がワークシートを用いて感想や考えを書く指導をしていると回答した教師はそれぞれ約5割，約4割，約6割，児童の発想を引き出すために，具体的な材料，写真や絵，物語や読書した感想，体験や活動をもとにするような指導をしていると回答した教師はそれぞれ約4割，約7割，約5割，約7割であった。

「粘土を使った学習に取り組みましたか。」（質問 2 (1)）に対して取り組んだと回答した教師は47.1%であった。取り組んだと回答した教師に対して，土粘土，油粘土，紙粘土について用いたかどうか（質問 2 (2)）尋ねたところ，用いたと回答した教師はそれぞれ，57.1%，25.0%，46.4%であった。また，取り組んだと回答した教師に対して，ひもづくりの方法を用いた学習，板づくりの方法を用いた学習，針金やヘラなどで表面に模様をかく方法を用いた学習，粘土の塊をそのまま手で形づ

くる手びねりの方法を用いた学習，箱や木などの芯材に粘土をつける方法を用いた学習について行ったかどうか（質問2(3)）尋ねたところ，行ったと回答した教師はそれぞれ，44.6%，39.3%，58.9%，58.9%，35.7%であった。

美術作品を用いた鑑賞の学習で次の指導をしているかどうか（質問2(4)）尋ねたところ，「児童が教師の作品説明を聞く」について肯定的な回答（「指導をしている」又は「どちらかといえば指導をしている」）をした教師は53.8%，「児童が自分の考えや感想をもとに話し合う」について肯定的な回答をした教師は40.3%，「児童がワークシートを用いて感想や考えを書く」について肯定的な回答をした教師は61.3%であった。

児童の発想を引き出すために次の指導をしているかどうか（質問2(5)）尋ねたところ，「児童が石や木など具体的な材料をもとにした発想をする」について肯定的な回答をした教師は40.3%，「児童が写真や絵などをもとにした発想をする」について肯定的な回答をした教師は73.9%，「児童が物語や読書した感想などをもとにした発想をする」について肯定的な回答をした教師は52.9%，「児童が体験や活動などをもとにした発想をする」について肯定的な回答をした教師は68.1%であった。

「くぎを打つ学習に取り組みましたか。」（質問2(6)）に対して「取り組んだ」と回答した教師は41.2%であった。「取り組んだ」と回答した教師に対して，金づち，げんごう，ネイルハンマー，釘抜きについて用いたかどうか（質問2(7)）尋ねたところ，「用いた」と回答した教師はそれぞれ，73.5%，67.3%，20.4%，75.5%であった。

## 6 図画工作科の指導の改善に向けて

### (1) 児童が意欲的に表現活動を行うプロセスを通して、児童自身の発想や構想の能力を具体的に発展させる指導の工夫

本調査A Iにおいて、材料の特徴をとらえて発想や構想をすることについては相当数の児童ができており、かつ、その中には、形を変形したり、合成したりするなど、より豊かにイメージを発展させて発想や構想をした児童が3.5%見られた。また、調査A Iに関する児童質問紙調査の結果から、児童は、絵をかくことを楽しみながら、そのプロセスにおいて表したいことや表し方を思い付いていたという傾向が見られた。さらに、児童質問紙調査からは、図画工作の学習が好きだという意識をもっている児童が約8割、かいたりつくったりしているとき時間を忘れて夢中になることがあると回答した児童は約8割など、学習に対する意欲的な状況も見られた。

このような状況を踏まえて指導を一層充実するためには、児童が意欲的に表現活動を行うプロセスを通して、発想や構想の能力を育成することが大切である。その際、児童の発想や構想の能力を一層伸ばすようにするために、具体的な視点を取り入れて指導を改善することが大切である。

そのためには、まず、児童自身が感じたことや想像したことなどから表したいことを見つけて表す活動を行うことが重要である。例えば、児童が材料や場所などに出会い、それを手にするなどして、自分で目的を見つけて発展させるような活動が考えられる。あるいは、進んで楽しむ意識をもたせるために、思いのままにクレヨンや絵の具を使うことのできる環境を用意する、粘土で自在に形を追求する時間を確保するなど考えられる。次に、児童自身が感じたことや考えたことを発展させるために、展開時における指導の手立てを工夫することが重要である。例えば、発想の手がかりになる視点や方法を提示したり、表し方を構想するために様々な方法があることを提示するなどが考えられる。あるいは、発想や構想を行う時間を確保し、アイデアスケッチを何枚もかけるようにしたり、表しながら段取りを考え直せるようにしたりすることが考えられる。このとき、新学習指導要領で示された〔共通事項〕は、形や色などの造形的な特徴をとらえ、そこからイメージをもつようにすることを示しており、指導の改善における具体的な視点とすることができる。

### (2) 〔共通事項〕に着目した指導や言語活動の充実を通して、児童の鑑賞の能力を効果的に育成する指導の工夫

調査A IIにおいて、製作過程における作者の表現の意図と表し方の工夫を関連付けてとらえることや、作品にかかっている内容や形や色などの造形的な特徴をとらえることについて課題が見られた。また、調査Bにおいて、本報告書で述べたように、自他の作品から表現の意図や表し方の工夫をとらえ、これを自分の表現に生かすことができるように指導を工夫することが大切である。一方、児童質問紙調査からは、図画

工作の授業で日本や世界の様々な作品を見ることがあると回答した児童は約4割であった。

このような状況を踏まえて指導を改善するためには、作品の形や色などの造形的な特徴、表現の意図や表し方の工夫などを具体的にとらえたり、話し合ったりするなどの活動を通して、児童の鑑賞の能力を効果的に育成することが大切である。

そのためには、新学習指導要領で示された、形や色などの造形的な特徴やイメージなどに関する〔共通事項〕を児童自身が意識しながら学習活動が展開するようにすることが重要である。例えば、絵の具を混ぜることのできた形や色にどのようなイメージをもつのかをワークシートや板書などで確かめることが考えられる。あるいは、彫刻刀で彫った線から生まれる感じに、児童自身が気づき、表し方を工夫することも考えられる。一方、言語活動の充実に配慮することも重要である。例えば、はじめは作品の形や色などと自分のイメージを関連付けながら話すことから、友だちと話し合うことを通して次第に表し方の変化や表現の意図や特徴などをとらえるように学習過程を工夫することが考えられる。さらに、新学習指導要領で示されたように、児童や学校の実態に応じて地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすることによって、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などに関する鑑賞活動の充実に努めることも大切である。

### **(3) 児童が材料や用具を十分に使いながら、試行錯誤をしたり、製作の手順を考えたりするなどを通して、経験的に創造的な技能を育成するような指導の工夫**

調査Bにおいて、材料や用具の特徴を生かし、表したいものをつくることについては相当数の児童ができており、かつ、その中には、製作する前に取り組んだ問題において示された以外の表し方の工夫を行っている児童が50.0%見られた。また、調査Bに関して、本報告書で述べたように、表したいことを表すことに関する指導では、材料や用具を試したりしながら、それらの特徴を生かし、表し方を児童自身が考えるような指導過程が大切である。一方、児童質問紙調査では、ふだんの生活の中で、工作をすることがあると回答をした児童は46.3%、ふだんの生活の中で、金づちや釘を使うことがあると回答をした児童は25.7%であり、材料や用具などを使った表現活動の機会が家庭や地域では少ない傾向が見られた。

このような状況を踏まえて指導を改善するためには、児童が十分に材料や用具に親しむ時間を確保するとともに、試行錯誤をしながら表し方を考えたり、表したいことにそって製作の手順を考えたりするなど、児童の活動を通して創造的な技能を育成することが大切である。

そのためには、新学習指導要領の指導計画の作成と内容の取扱いで整理して示された材料や用具を十分に経験させることが重要である。例えば、低学年では、材料や用具の種類や範囲、数量などに配慮しながら基本的な扱いに関心をもつようにし、中学年では一層扱いに慣れ、自分の表現に生かす体験を深め、高学年では、自分の表したいことの必要に応じて使えるようにすることが考えられる。その際、児童それぞれの経験を基に材料や用具を使いながら、その特徴に気づき、これを表現に生かせるよう

な指導過程を工夫することが重要である。例えば、自分の表したいことにそって新しい表し方を取り入れたり、表したいことそのものを変化させたりするなど、発想や構想と創造的な技能がかかわり合いながら発展するような指導が考えられる。さらに、材料や用具を用いて表すこれらの経験は、児童の生活や社会とのかかわりを促進し、ものをつくる楽しさを味わわせることができるという観点からも重要である。



## 調査結果

### Ⅲ 美術科における調査



### Ⅲ 美術科における調査について

#### 1 調査 I Aにおける調査結果

##### 問題1

遠近の関係や線、構図などをとらえ、その効果などについて理解できるかを問う。

##### (1) 出題の趣旨

絵や写真の表現などから多様なよさや美しさなどを感じ取るためには、様々な視点で対象を見てとらえる力を育成することが大切である。

問題1では、絵や写真を鑑賞し、遠近の関係、線、構図などをとらえ、その効果などについて理解できるかを調査した。具体的には、問題1では、絵に描かれているものを塊、大きさの比較や遠近などの関係でとらえること、問題2では、強く感じられる線に着目して画面をとらえ、その線が奥行きを表す効果があることを読み取ること、問題3では、構図の特徴をとらえることや見立てて見ることで、形の変化による感じ方の違いを読み取ることなどについて調査した。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年のB鑑賞アに関する内容である。

##### (2) 問題1の構成・内容

問題番号	出題のねらい	出題の概要	学習指導要領との関連
1	描かれているものを塊、大きさの比較や遠近などの関係でとらえることができるかを把握する。	絵を鑑賞し、そのイメージに当てはまる写真と文を選択する。	第2学年及び第3学年 B鑑賞ア
2	(1) 強く感じられる線に着目して画面をとらえ、その線が奥行きを表す効果があることを読み取ることができるかを把握する。	(1) 絵と写真を鑑賞し、共通に強く感じられる線を描く。 (2) (1)の強く感じられる線の効果を表す語及び同	

			じ効果の線が見られる写真を選択する。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 構図の特徴をとらえることや</li> <li>(2) 見立てて見ること，形の変化による感じ方の違いを読み取ることができるかを把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 浮世絵を鑑賞し，構図のイメージに近い手のポーズの写真を選択する。</li> <li>(2) 浮世絵のイメージに近づけるために，工夫を加える前後の手のポーズの写真を鑑賞し，浮世絵の何を表現しようとしたのかを選択する。</li> <li>(3) 浮世絵とそれを見立てた，変更を加える前後の写真を鑑賞し，変更することにより浮世絵の何を表現しようとしたのかを記述する。</li> </ul>	

調査問題に見開きで見るページがあるため、  
空白のページを入れています。

### (3) 調査問題と結果の概要

#### 【調査問題 問題1】

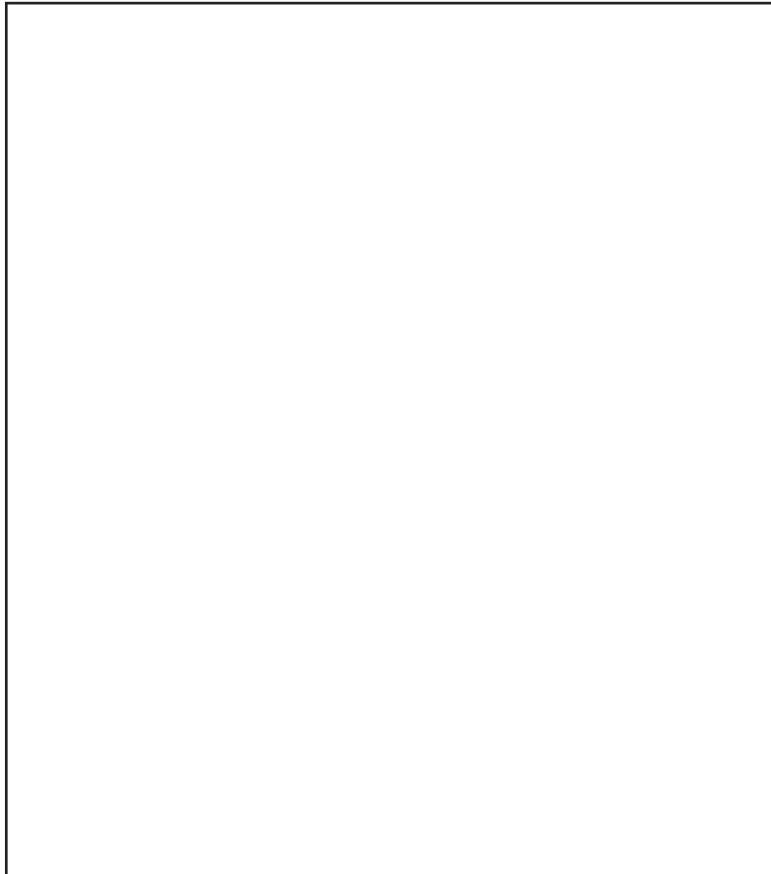
1

花子さんたちは、美術の授業で各自が興味のある絵を選び鑑賞しました。その後で、自分が選んだ絵とイメージが重なる写真を撮ることになりました。

絵や写真に関するあとの問いに答えなさい。

1 次の絵は、花さんが選んだ作品です。

花さんは、遠くに描かれた巨人の大きさに魅力を感じ、この作品を選びました。



〈巨人・ゴヤ（近年、弟子の作品とする研究もある）〉

花さんが選んだ絵

花子さんは、選んだ絵とイメージが重なる風景を探して、写真を撮りました。次の3枚の写真の中の1枚が、花子さんが撮った写真です。また、その下には、それぞれの写真についてのイメージが述べられています。

花子さんが撮った写真と、そのイメージとして、もっともよくあてはまるものを、【写真】、【イメージ】から一つずつ選び、記号で答えなさい。

【写真】



①



②



③

【イメージ】

- ア すぐ目の前に大きなものがそびえ立っている。
- イ 大きなものが、画面一杯に広がっている。
- ウ 手前の風景が、その奥にあるものの大きさをより際立たせている。
- エ 光と影の効果を生かして、立体感や奥行きを表している。

解答欄	写真		イメージ	
-----	----	--	------	--

2 次は、太郎さんが選んだ絵と、それをもとに撮った写真です。



〈マンヌポルト・モネ〉

太郎さんが選んだ絵



写真



太郎

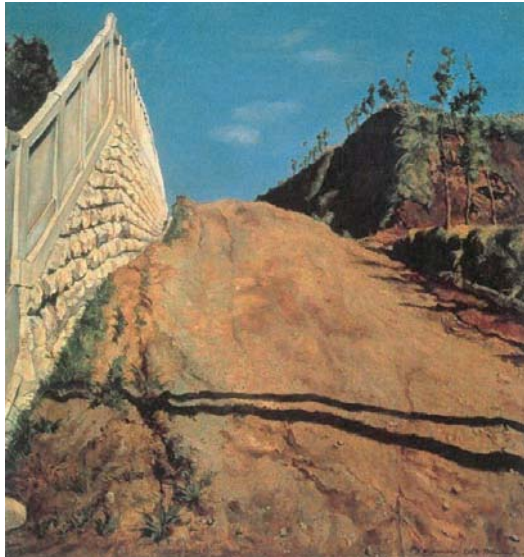
絵の構図をとらえたときに、強く感じられる線に注目してこの写真を撮りました。

その線を、写真にかくと右のようになります。

〈例〉



太郎さんは、さらに次の絵を選び、それをもとに写真を撮りました。



〈道路と土手と塀(切通之写生)・岸田劉生<sup>りゅうせい</sup>〉

太郎さんが次に選んだ絵



写真

- (1) 太郎さんが撮った写真と、絵の構図をとらえたときに、両方に共通して強く感じられる線を、前のページの例にならって、右の解答欄の写真に、配付された赤鉛筆ではっきりと見えるようにかき込みなさい。(解答欄の写真は、赤鉛筆でかきやすいように、色を変えています。)

解答欄





(2) 次は、前のページの問題(1)の強く感じられる線の効果について、太郎さんが述べた文です。

にもっともよくあてはまるものを、 は【語群】から、 は【写真】から一つずつ選び記号で答えなさい。

ぼくは、この線により  が強調されていると感じました。  
この線と同じ効果の線が見られる写真は、 です。

【語群】

ア 背景      イ 奥行き      ウ 陰影      エ 高さ

【写真】



①



②



③



④

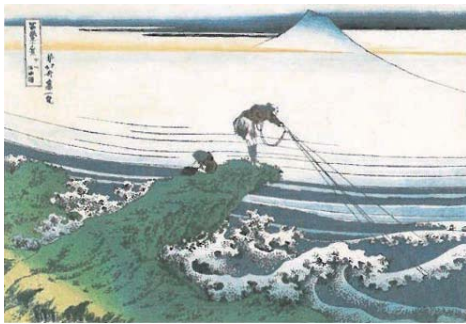
解答欄	A		B	



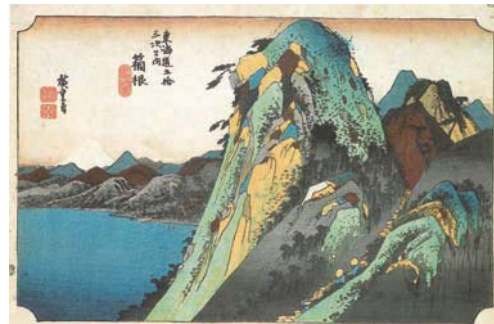
問題は、次のページに続きます。

3 文子さんは、絵の構図に魅力を感じ、次のAからDの4枚の絵を選びました。  
次に、これらの絵の構図の特徴に注目して、それぞれの絵のイメージを手  
の形を使って表現し、写真を撮りました。

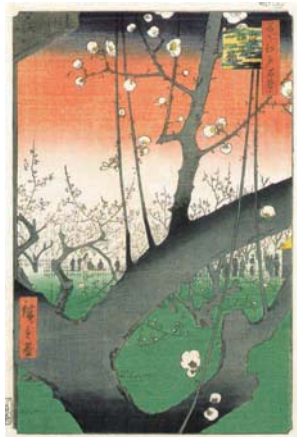
(1) それぞれの絵に対応する手の写真として、もっともよくあてはまるもの  
はどれですか。①から④の中から一つずつ選び記号で答えなさい。



A



B



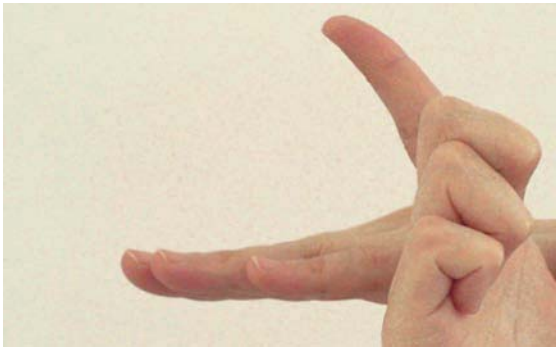
C



D

- A : 富嶽三十六景 甲州石班沢・葛飾北斎  
B : 東海道五十三次 箱根 湖水図・歌川広重  
C : 名所江戸百景 亀戸梅屋舗・歌川広重  
D : 東海道五十三次 神奈川 台之景・歌川広重

【手の写真】



①



②



③



④

解答欄	A		B		C		D	
-----	---	--	---	--	---	--	---	--

(2) 文子さんは、前のページの写真③について、もとの絵にさらにイメージを近づけるために工夫を加えて写真アを撮りました。写真③から、写真アに変更することにより、もとの絵の何を表現しようとしたのか、適切なものを、次のアからキの中から二つ選び、記号で答えなさい。



写真③ (前のページの写真③と同じ)



写真ア

【表現しようとしたもの】

- ア 屋根の重なりを表そうとした。
- イ 湖の奥に見える山並みの奥行きを表そうとした。
- ウ 海の大きさや深さを表そうとした。
- エ 手前の山がそそり立つ感じを表そうとした。
- オ 木の形を表そうとした。
- カ 人物の動きを表そうとした。
- キ 木の枝の重なりを表そうとした。

解答欄

--	--	--

(3) 文子さんは、さらに次の絵を選びました。文子さんは、この絵をひと目見たときに、あるものが効果的に表現されているところに魅力を感じました。最初に、写真イを撮りましたが、この絵の魅力が表現されていなかったので、それを表現するために、主に2点変更を加えて写真ウを撮りました。写真イから、写真ウに変更することにより、何を表現しようとしたのか、漢字一文字で答えなさい。



富嶽三十六景 駿州江尻・葛飾北斎



写真イ



写真ウ




解答欄	
-----	--

## 問題1 1

### ① 出題の概要

問題1は、絵を鑑賞し、画面を塊、大きさの比較や遠近などの関係でとらえ、そのイメージに当てはまる写真と文を選択する問題である。

写真とイメージを表す文を照らし合わせることにより、位置と大きさに着目させ、提示した絵から、手前の風景によって、巨人の大きさが一層強調されていることを読み取ることができるように問題を設定した。

<p>1</p>	<p>花子さんたちは、美術の授業で各自が興味のある絵を選び鑑賞しました。その後で、自分が選んだ絵とイメージが重なる写真を撮ることになりました。</p> <p>絵や写真に関するあとの問いに答えなさい。</p> <p>1 次の絵は、花さんが選んだ作品です。</p> <p>花さんは、遠くに描かれた巨人の大きさに魅力を感じ、この作品を選びました。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 200px; height: 150px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center; font-size: small;">&lt;巨人・ゴヤ（近年、弟子の作品とする研究もある）&gt; 花さんが選んだ絵</p>	<p>花さんは、選んだ絵とイメージが重なる風景を探して、写真を撮りました。次の3枚の写真の中の1枚が、花さんが撮った写真です。また、その下には、それぞれの写真についてのイメージが述べられています。</p> <p>花さんが撮った写真と、そのイメージとして、もっともよくあてはまるものを、【写真】、【イメージ】から一つずつ選び、記号で答えなさい。</p> <p>【写真】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>①</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>③</p> </div> </div> <p>【イメージ】</p> <p>ア すぐ目の前に大きなものがそびえ立っている。          イ 大きなものが、画面一杯に広がっている。          ウ 手前の風景が、その奥にあるものの大きさをより際立たせている。          エ 光と影の効果を生かして、立体感や奥行きを表している。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; font-size: x-small;">解答欄</td> <td style="width: 30%; border-bottom: 1px solid black;">写真</td> <td style="width: 30%; border-bottom: 1px solid black;">イメージ</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> </table>	解答欄	写真	イメージ	
解答欄	写真	イメージ				

### ② 調査結果の概要

- 写真とイメージを表す文の両方について、手前の風景がその奥にあるものの大きさをより際立たせている内容のものを選択した生徒は73.6%であった。

問題1は、絵とイメージが重なる写真（以下、【写真】という。）と、そのイメージを表す文（以下、【イメージ】という。）を選択する内容であり、【写真】「②」（手前の建物と、その奥にある高層ビルを対比させているもの）と【イメー



ジ]「ウ 手前の風景が、その奥にあるものの大きさをより際立たせている。」を選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が73.6%で最も多かった。

【問題1】 1 解答類型ごとの反応率 通過率 73.6%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	写真を「②」、イメージを「ウ」と解答しているもの	73.6%
2	写真を「②」、イメージを「ア」と解答しているもの	1.7%
3	写真を「②」、イメージを「ア」、「ウ」以外と解答しているもの	4.6%
4	写真を「①」、イメージを「ウ」と解答しているもの	2.6%
5	写真を「①」、「②」以外、イメージを「ウ」と解答しているもの	0.5%
6	写真を「①」、イメージを「ア」と解答しているもの	9.5%
7	写真を「①」、「②」以外、イメージを「ア」と解答しているもの	0.2%
8	写真を「①」、イメージを「ア」、「ウ」以外と解答しているもの	3.8%
9	上記以外の解答	3.2%
0	無解答	0.4%

### ③ 分析・考察

- 一部にとらわれず、全体と部分との関係を意識して対象をとらえることができるよう指導を工夫する。

問題1の通過率は73.6%であり、通過した生徒は、画面を全体や部分に着目して、塊、大きさの比較や遠近などの関係でとらえていると考えられる。

誤答では、【写真】「①」（目の前に大きな木がそびえ立っているもの）と【イメージ】「ア すぐ目の前に大きなものがそびえ立っている。」を選択した生徒（解答類型6）が9.5%であり、これらの生徒は、画面にある大きなもの（巨人）を塊としてとらえているが、大きさの比較や遠近の関係でとらえることができなかつたと考えられる。また、写真は正しく選択できたが、イメージを正しく選択できなかった生徒（解答類型2, 3）は6.3%であった。これらの生徒は、構図などから感覚的に写真は選択できたが、大きさの比較や遠近などの関係に着目してとらえることができていると考えられる。

指導に当たっては、作品の一部にとらわれず、大きさの比較や遠近などの関係にも着目し、全体と部分との関係を意識して対象をとらえることができるよう工夫することが大切である。

## 問題1 2

### ① 出題の概要

問題2(1)は、絵と写真を鑑賞し、両方に共通して「強く感じられる線」をとらえ、その線を描く問題である。

問題2(2)は、問題2(1)の「強く感じられる線」の効果を表す語及び同じ効果の線が見られる写真を選択する問題である。

問題2(1)では、例示から「強く感じられる線」の意味を読み取った上で問題の絵と写真に置き換えて考え、絵の「道」、写真の「木」という異なる対象から共通して「強く感じられる線」を読み取るように問題を設定した。また、問題2(2)では、輪郭線の形が類似しており、高さをイメージしやすい「富士山」の写真と、「高さ」という語を誤答として選択肢に入れるなど、線の効果と写真を、適切な視点をもって読み取れているかを把握できるように問題を設定した。

2 次は、太郎さんが選んだ絵と、それをもとに撮った写真です。




太郎さんが選んだ絵



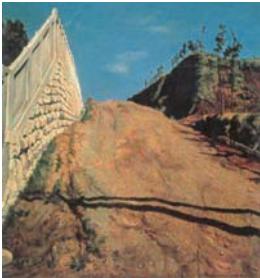
写真

〈例〉



太郎  絵の構図をとらえたときに、強く感じられる線に注目してこの写真を撮りました。その線を、写真にかくと右のようになります。

太郎さんは、さらに次の絵を選び、それをもとに写真を撮りました。



太郎さんが次に選んだ絵



写真

(1) 太郎さんが撮った写真と、絵の構図をとらえたときに、両方に共通して強く感じられる線を、前のページの例にならって、右の解答欄の写真に、配付された赤鉛筆ではっきりと見えるようにかき込みなさい。(解答欄の写真は、赤鉛筆でかきやすいように、色を変えています。)

解答欄





② 次は、前のページの問題①の強く感じられる線の効果について、太郎さんが述べた文です。

□ A □ B にもっともよくあてはまるものを、□ A は【語群】から、□ B は【写真】から一つずつ選び記号で答えなさい。

ぼくは、この線により □ A が強調されていると感じました。  
この線と同じ効果の線が見られる写真は、□ B です。

【語群】  
ア 背景 イ 奥行き ウ 陰影 エ 高さ

【写真】



①



②



③



④

解答欄

A

B

## ② 調査結果の概要

- 絵と写真を、「強く感じられる線」に着目してとらえ、木の強く感じられる線を描いた生徒は57.2%であった。 (問題2(1))




問題2(1)は、絵と写真を鑑賞し、両方に共通して「強く感じられる線」を描く内容であり、木の幹の両側の強く感じられる線を描いたもの(解答類型1, 2)を正答としており、正答した生徒が57.2%であった。そのうち、木の幹の両側の線のみを描いた生徒(解答類型1)は、35.5%、木の幹の両側の線と枝の線(左右一本ずつ、又はどちらか一本)を描いた生徒(解答類型2)は21.7%であった。





【問題1】 2(1) 解答類型ごとの反応率 通過率 57.2%

類型番号	解答類型 (◎: 正答)	反応率
◎1	木の強く感じられる線のうち木の幹の両側の線のみを描いているもの	35.5%
◎2	木の強く感じられる線のうち木の幹の両側の線と枝の線(左右一本ずつ、又はどちらか一本)の両方を描いているもの	21.7%
3	木の幹の両側の輪郭線や枝の輪郭線を細かく描いているもの	15.5%

4	木の強く感じられる線のうち木の幹の両側の線のみ描いているが，樹皮に見られる線などまで描いているもの	2.1%
5	木の強く感じられる線のうち木の幹の両側の線と枝の線(左右一本ずつ，又はどちらか一本)の両方を描いているが，樹皮に見られる線などまで描いているもの	1.0%
6	木の幹の両側の輪郭線や枝の輪郭線を細かく描き，樹皮に見られる線などまで描いているもの	3.4%
7	木の強く感じられる線は描かず，樹皮に見られる線などを描いているもの	18.5%
9	上記以外の解答	0.9%
0	無解答	1.4%

【問題1】 2(1) 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)	判定の視点
◎1		木の幹の両側の強く感じられる線のみを描いている。
◎2		木の幹の両側の強く感じられる線と，左右一本ずつの枝の強く感じられる線を描いている。
3		木の幹の両側の輪郭線と枝の輪郭線をなぞるように細かく描いている。

4		<p>木の幹の両側の強く感じられる線を描いているが、樹皮に見られる線まで描いている。</p>
5		<p>木の幹の両側の強く感じられる線と、左側一本の枝の強く感じられる線を描いているが、樹皮に見られる線まで描いている。</p>
6		<p>木の幹の両側の輪郭線を細かく描き、さらに樹皮に見られる線まで描いている。</p>
7		<p>木の強く感じられる線は描かず、樹皮に見られる線を描いている。</p>

注) 解答例は生徒の解答のまま。ただし、分かりやすいように生徒が描いた線を太くした。

- 「強く感じられる線」の効果として奥行きを選択し、同じ効果の線が見られる写真を選択した生徒は42.1%であった。 (問題2(2))



問題2(2)は、問題2(1)の「強く感じられる線」の効果を表す語と、同じ効果の線が見られる写真を選択する内容であり、【語群】「イ 奥行き」、【写真】「③」を選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が42.1%で最も多かった。

【問題1】 2(2) 解答類型ごとの反応率 通過率 42.1%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	A(語群)を「イ」、B(写真)を「③」と解答しているもの	42.1%
2	A(語群)を「イ」、B(写真)を「①」と解答しているもの	10.4%
3	A(語群)を「イ」、B(写真)を「①」、「③」以外と解答しているもの	5.8%
4	A(語群)を「ウ」、B(写真)を「③」と解答しているもの	3.5%
5	A(語群)を「イ」、「ウ」以外、B(写真)を「③」と解答しているもの	1.9%
6	A(語群)を「エ」、B(写真)を「①」と解答しているもの	12.7%
7	A(語群)を「ウ」、B(写真)を「①」と解答しているもの	10.8%
8	A(語群)を「イ」、「ウ」、「エ」以外、B(写真)を「①」と解答しているもの	3.5%
9	上記以外の解答	8.5%
0	無解答	0.7%

### ③ 分析・考察

#### ○ 線の強さやその効果などに着目して画面の構成をとらえたり、描くものの輪郭線を単純化して構図を考えたりするなどの指導を工夫する。

問題 2 (1)の通過率は57.2%であり、通過した生徒は、画面を「強く感じられる線」に着目してとらえていると考えられる。

誤答では、輪郭線を細かく描いたり、樹皮に見られる線などまで描いたりしている生徒（解答類型 3～7）が40.5%であり、これらの生徒は、細部にとらわれて強く感じられる線に着目できていないと考えられる。

問題 2 (2)の通過率は42.1%であり、通過した生徒は、「強く感じられる線」が奥行きを表す効果があることをとらえ、同じ効果を【写真】からも読み取っていると考えられる。また、【写真】「③」を正しく選択した生徒（解答類型 1, 4, 5）が47.6%、【写真】「①」（富士山の写真）を選択した生徒（解答類型 2, 6～8）が37.4%であった。【写真】「③」を選択した生徒のうち88.6%は【語群】「イ 奥行き」を正しく選択しているが、【写真】「①」を選択した生徒のうち、【語群】「イ 奥行き」、「ウ 陰影」、「エ 高さ」を選択した生徒は、それぞれ27.9%、28.9%、33.9%であり、様々な解答が見られた。これらのことから、【写真】「③」を選択した生徒の多くは、「奥行き」という視点で線をとらえているが、【写真】「①」を選択した生徒の中には、「高さ」など最初に着目した視点にとらわれて答えてしまった者がいたのではないかと考えられる。

また、強く感じられる線の効果を問う問題 2 (2)と、強く感じられる線を描く問題 2 (1)との関連を見ると、問題 2 (2)を通過し、かつ問題 2 (1)を通過した生徒は、29.1%であった。一方、問題 2 (2)を通過し、かつ問題 2 (1)が非通過の生徒は、13.1%であった。これらの生徒は、線の効果は理解できていたが、問題 2 (1)において、木の輪郭線を単純化するなどして強く感じられる線を描くことができなかった。

指導に当たっては、線の強さやその効果などに着目して画面全体の構成をとらえたり、描くものの輪郭線を単純化して構図を考えたりすることなどができるよう工夫することが大切である。



# 問題1 3 (1)


## ① 出題の概要

問題3(1)は、4枚の浮世絵を鑑賞し、構図の特徴をとらえたり、見立てたりして、それぞれの構図のイメージに近い手のポーズの写真を選択する問題である。


構図が大胆な浮世絵の風景画を用い、構図の特徴がとらえやすいようにした。また、浮世絵4枚のうち、BとDの2枚を構図が似ている作品にし、構図を大きくとらえるだけでなく、細部にも着目して読み取れているかを把握できるように問題を設定した。

3 文子さんは、絵の構図に魅力を感じ、次のAからDの4枚の絵を選びました。  
次に、これらの絵の構図の特徴に注目して、それぞれの絵のイメージを手の形を使って表現し、写真を撮りました。


(1) それぞれの絵に対応する手の写真として、もっともよくあてはまるものはどれですか。①から④の中から一つずつ選び記号で答えなさい。




A



B




C




D

A : 富嶽三十六景 甲州石原次・葛飾北斎  
 B : 東海道五十三次 箱根 湖次郎・歌川広重  
 C : 名所江戸百景 龍戸梅屋舗・歌川広重  
 D : 東海道五十三次 神奈川 谷之景・歌川広重


【手の写真】




①



②



③



④

解答欄	A	B	C	D
-----	---	---	---	---

## ② 調査結果の概要

- 4枚の絵の構図の特徴をとらえ、構図のイメージに近い手のポーズの写真を全て正しく選択した生徒は50.1%であった。

問題3(1)は、4枚の浮世絵を鑑賞して構図の特徴をとらえ、構図のイメージに近い手のポーズの写真を選択する内容であり、4枚全てを正しく選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が50.1%で最も多かった。

【問題1】 3(1) 解答類型ごとの反応率 通過率 50.1%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	Aを「④」、Bを「③」、Cを「②」、Dを「①」と、4枚の浮世絵全てについて、構図のイメージに近い手のポーズの写真を選択しているもの	50.1%
2	AとCを含む3枚の浮世絵について、構図のイメージに近い手のポーズの写真を選択しているもの	0.2%
3	BとDを含む3枚の浮世絵について、構図のイメージに近い手のポーズの写真を選択しているもの	0.1%
4	AとCの2枚の浮世絵について、構図のイメージに近い手のポーズの写真を選択しているもの	18.8%
5	BとDの2枚の浮世絵について、構図のイメージに近い手のポーズの写真を選択しているもの	4.8%
6	AとC、BとDの組合せ以外の2枚の浮世絵について、構図のイメージに近い手のポーズの写真を選択しているもの	6.7%
7	1枚の浮世絵についてのみ、構図のイメージに近い手のポーズの写真を選択しているもの	10.2%
9	上記以外の解答	8.5%
0	無解答	0.5%

## ③ 分析・考察

- 画面の中にあるものの形や大きさ、配置、全体の構成、細部のつくりなどに着目して対象をとらえることができるよう指導を工夫する。

問題3(1)の通過率は、50.1%であり、通過した生徒は、構図の特徴をとらえ、構図を見立てて見ることができていると考えられる。

非通過の生徒は、構図の特徴をとらえ、構図を見立てて見るができなかったと考えられる。特に、構図の特徴の違いが分かりやすい2枚（AとC）の浮世絵に

ついて、手のポーズの写真を正しく選択した生徒（解答類型1, 2, 4）は69.1%であったが、細部を読み取らなければ違いが分かりにくい2枚（BとD）の浮世絵について、手のポーズの写真を正しく選択した生徒（解答類型1, 3, 5）は55.1%であり、14.0ポイント下回っていたことから、細部まで対比させながら分析的に見ることができなかつたと考えられる。

指導に当たっては、画面の中にあるものの形や大きさ、配置、全体の構成、細部のつくりなどに着目して対象をとらえることができるよう工夫することが大切である。



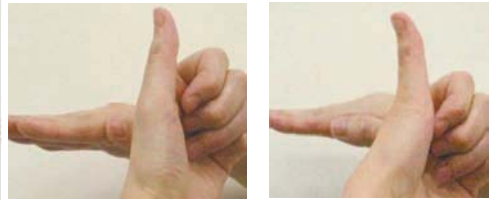
## 問題1 3 (2)

### ① 出題の概要

問題3(2)は、浮世絵のイメージに近づけるために、工夫を加える前後の手のポーズの写真を鑑賞し、形の変化による感じ方の違いを読み取り、浮世絵の何を表現しようとしたのかを選択する問題である。

親指のそり具合で山のそそり立つ感じを、奥の伏せた手の角度で山並みの奥行きを表現し、形の変化による感じ方の違いをとらえているかを把握できるように問題を設定した。

② 文子さんは、前のページの写真③について、もとの絵にさらにイメージを近づけるために工夫を加えて写真アを撮りました。写真③から、写真アに変更することにより、もとの絵の何を表現しようとしたのか、適切なものを、次のアからキの中から二つ選び、記号で答えなさい。



写真③ (前のページの写真③と同じ)

写真ア

【表現しようとしたもの】

- ア 屋根の重なりを表そうとした。
- イ 湖の奥に見える山並みの奥行きを表そうとした。
- ウ 海の大きさや深さを表そうとした。
- エ 手前の山がそそり立つ感じを表そうとした。
- オ 木の形を表そうとした。
- カ 人物の動きを表そうとした。
- キ 木の枝の重なりを表そうとした。

解答欄

### ② 調査結果の概要

- 手のポーズの変化を写真から読み取り、それにより浮世絵の何を表現しようとしたのかについて、正しく選択した生徒は51.2%であった。



問題3(1)浮世絵B

問題3(1)写真③

問題3(2)写真ア

問題3(2)は、手のポーズの変化を写真から読み取り、それにより浮世絵Bの何を表現しようとしたのかについて2つを選択する内容であり、「イ 湖の奥に見える山並みの奥行きを表そうとした。」と「エ 手前の山がそそり立つ感じを表そうとし

た。」の2つを選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が51.2%で最も多かった。

【問題1】 3(2) 解答類型ごとの反応率 通過率 51.2%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	「イ」、「エ」と解答しているもの	51.2%
2	「イ」、「ウ」と解答しているもの	4.8%
3	「イ」、「オ」と解答しているもの	4.6%
4	「ウ」、「エ」と解答しているもの	8.7%
5	「エ」、「オ」と解答しているもの	3.4%
6	一方を「イ」、もう一方を「ウ」、「エ」、「オ」以外と解答しているもの	4.2%
7	一方を「エ」、もう一方を「イ」、「ウ」、「オ」以外と解答しているもの	5.1%
9	上記以外の解答	17.0%
0	無解答	1.1%

③ 分析・考察

- 全体を見たり細部まで観察したりして構図などを把握するとともに、形のわずかな変化をとらえ、それによりもたらされる感じ方の違いなどを意識できるよう指導を工夫する。

問題3(2)の通過率は、51.2%であった。その中には、問題3(1)において、浮世絵Bについて写真③を正しく選択していない生徒が5.5%いた。これらの生徒は、手のポーズの変化により、浮世絵の動勢（動きの感じ）や奥行きを表現しようとしたことを正しく読み取ったとまでは言えない。したがって、問題3(1)において、浮世絵Bについて写真③を選択し、かつ、問題3(2)を通過した生徒（45.8%）については、手のポーズの変化を写真から読み取り、単に形を置き換えるだけではなく、浮世絵Bに描かれた動勢や奥行きなど、わずかな変化がもたらす効果をとらえていると考えられる。

指導に当たっては、画面の全体を見たり細部まで観察したりして構図などを把握するとともに、形のわずかな変化をとらえ、それによりもたらされる感じ方の違いなどを意識できるよう工夫することが大切である。

【浮世絵Bを写真③と選択したことと問題3(2)との関連】

		問題3(2)	
		通過	非通過
問題3(1) 浮世絵B	写真③を選択	45.8%(1,023人)	17.8%(397人)
	その他	5.5%(122人)	31.0%(693人)
	計	51.2%(1,145人)	48.8%(1,090人)

問題1 3 (3)

① 出題の概要

問題3(3)は、浮世絵とそれを見立てた、変更を加える前後の写真を鑑賞し、変更することにより浮世絵の何を表現しようとしたのかについて、目には見えない「風」等を記述する問題である。

鉛筆を傾かせることと、小さな四角形の紙に方向性をもたせて並べることの2つの変更点により、共通に表現されている目に見えないものを読み取ることができるよう問題を設定した。

(3) 文子さんは、さらに次の絵を選びました。文子さんは、この絵をひと目見たときに、あるものが効果的に表現されているところに魅力を感じました。最初に、写真イを撮りましたが、この絵の魅力が表現されていなかったため、それを表現するために、主に2点変更を加えて写真ウを撮りました。写真イから、写真ウに変更することにより、何を表現しようとしたのか、漢字一文字で答えなさい。



〈富嶽三十六景 駿州江尻・葛飾北斎〉



写真イ



写真ウ

解答欄

② 調査結果の概要

- 写真の変更点から、「風」又は「嵐」と記述した生徒は70.4%であった。

問題3(3)は、浮世絵とそれを見立てた、変更前と変更後の写真を鑑賞し、浮世絵の何を表現しようとしたのかについて記述する内容であり、「風」又は「嵐」と記述したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が、70.4%で最も多かった。

【問題1 3 (3) 解答類型ごとの反応率】 通過率 70.4%

類型番号	解答類型 (◎ : 正答)	反応率
◎ 1	「風」又は「嵐」と記述しているもの	70.4%
2	「かぜ」又は「あらし」と平仮名で記述しているもの	0.0%
3	「突風」、「竜巻」、「台風」など、二字以上で風に関する言葉を記述しているもの	0.0%

4	「吹」など、写真の変更点により表された状態を一字で記述しているもの	1.3%
5	「そよ風」や「なぎ」など、風に関する言葉であるが、浮世絵と異なるイメージを記述しているもの	0.0%
6	「木」、「紙」、「枝」など、浮世絵に描かれている動きのある具体物を記述しているもの	19.6%
7	「道」など、浮世絵に描かれている動きのない具体物を記述しているもの	2.6%
9	上記以外の解答	4.2%
0	無解答	2.0%

### ③ 分析・考察

#### ○ 対象をよく観察し、傾き、バランス、ものの配列などから、目に見えないイメージや動きなどをとらえることができるよう指導を工夫する。

問題3(3)の通過率は70.4%であり、通過した生徒は、写真の変更点から、目に見えない「風」等を表現しようとしたことを感じ取っていた。

誤答では、「吹」など写真の変更点により表された状態を記述した生徒（解答類型4）が1.3%であった。これらの生徒は、表現されている「もの」を問う問題に対して正しく解答していないが、風が吹いている状態としてはとらえている。一方、「木」、「紙」、「枝」など、浮世絵に描かれている動きのある具体物を記述した生徒（解答類型6）が19.6%であった。これらの生徒は、鉛筆の傾きのみ、あるいは四角形の紙の配列のみに着目してしまい、2つの変更点により表現されている目に見えないものをとらえることができなかつたと考えられる。

指導に当たっては、対象をよく観察し、感性や想像力を働かせて、傾き、バランス、ものの配列などから、目に見えないイメージや動きなどをとらえることができるよう工夫することが大切である。

#### (4) 分析結果から見た指導の改善

**感性や想像力などを働かせ、多様な視点で対象を深く観察することができるよう指導を工夫することが大切である。**

生徒が豊かに発想や構想をしたり、美術作品や身の回りの造形などからよさや美しさなどを感じ取ったりする力を高めるためには、多様な視点でものを見てとらえる力を育成することが大切である。

指導に当たっては、ものを漠然と見るのではなく、感性や想像力などを働かせて、塊、大きさの比較や遠近、線、構図などの視点で見たり、何かに見立てたり、形のわずかな違いによる感じ方の違いに着目したりするなど、多様な視点で対象を深く観察することができるよう工夫することが大切である。

例えば、風景画などを基に、背景や周りのものの位置や大きさを変えることにより同じものでも大きさが変化して見えることや、道路や建物などの輪郭線等の位置や方向性を変えることにより空間や奥行きに変化が出ること、また、構図を工夫し方向性をもたせたり配置を工夫することにより目に見えない動きが表現されることなどを理解できるような工夫が大切である。そのためには、特定の視点が特徴的な作品を取り上げ、作品の特徴やそれによる効果、作品から感じることなどについて述べたり、それらの効果を生かして自分で絵を描いたりするなどの学習が重要である。

また、ときにはカメラのファインダーを通して構図を意識しながら対象を見ることも考えられる。写真による表現は、構図の取り方、画面の広がりや遠近の表し方などを工夫することにより、同じ対象を異なる印象で撮影することができる。そして、写した写真を実際に比較して見ることにより、それぞれの視点の違いがどのような効果の違いを生み出しているかについて感じ取ることができる。

このように、実際に自分の目で確かめながら、多様な視点で対象を見てとらえる力を育成することが大切である。そのためには、幅広く多様な表現に触れることができるように、題材の設定や配列を考えることが求められる。また、作品に対する話合いを通して、一人では気付かなかった視点に気付き、その視点について理解を深めていくことができるような工夫が大切である。

## 問題2

パッケージのデザインを基に、図柄や配色、構成などによる伝達効果について理解できるかを問う。

### (1) 出題の趣旨

デザインされた作品などから作者が伝えたい内容を豊かに読み取るためには、多くの人が共通に感じる形や色彩の感情効果などをとらえ、図柄や配色、構成などによる伝達効果について理解することが大切である。

問題2では、図柄や配色、構成などによる伝達効果について理解できるかを調査した。具体的には、問題1では形や色彩によるデザインの変更とその効果、問題2ではデザインのイメージと形や色彩の工夫を読み取ることなどについて調査した。

このように問題2は、いずれも図柄や配色、構成などによる伝達効果について問う内容であるが、問題ごとに問い方を変え、問題1では比較して読み取る、問題2(1)では提示して選択する、問題2(2)では自ら読み取って記述するというように、生徒自らが形や色彩などについての視点をもってとらえる力を段階を追いながら把握できるように問題を設定した。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年のB鑑賞エに関する内容である。

### (2) 問題2の構成・内容

問題番号	出題のねらい	出題の概要	学習指導要領との関連
1	形や色彩によるデザインの変更とその効果を読み取ることができるかを把握する。	幼児向けのクッキーをイメージして形と色彩を変更したパッケージと、変更前のパッケージとを比較し、変更した点2点とそれらによる効果を記述する。	第2学年及び第3学年 B鑑賞エ
2	(1)  (2)	文章で記述されたせんべいのイメージと表現の工夫を基に、その内容に当てはまるパッケージのデザインを選択する。	
		提示されたパッケージについて、せんべいの味のイメージと、それを基にした形と色彩の工夫を記述する。	

調査問題に見開きで見るページがあるため、  
空白のページを入れています。



### (3) 調査問題と結果の概要

#### 【調査問題 問題2】

2

花子さんたちは、美術の授業でお菓子のパッケージをコンピュータでデザインすることになりました。授業のねらいは、色や形で気持ちや感覚、イメージや情報などを多くの人理解できるように表現することです。

お菓子のパッケージに関するあとの問いに答えなさい。



花子

お菓子のパッケージは、お店に陳列したときに、人目を引くようデザインされていて、種類や商品名のほかに、味やイメージが伝わるように工夫されているね。

果物の色が効果的に使われているね。

〈マスカット味〉



〈イチゴ味〉



〈オレンジ味〉



〈ミント味〉



太郎

これもミントのさわやかなイメージがよく表現されているね。



1 花子さんは、「幼児向けのクッキー」をイメージしてデザインを考えました。  
最初に①を考え、その後②に変更しました。

①から②へと変更した点を2点書きなさい。さらに、それらによってどのような効果があったのか、書きなさい。



①



②

	変更した点	効果
解 答 欄		

2 太郎さんたちは、「せんべい」のパッケージのデザインを考えました。

(1) 次のメモは、太郎さん、次郎さん、文子さんが考えた「せんべい」のイメージとパッケージの表現の工夫を書いたものです。また、次のページにある6枚のパッケージのデザインのうち3枚は、3人が表現したものです。

〈メモ〉



太郎

だれもが食べやすいように、薄くて軽いせんべいをイメージしました。ひらひらと舞うような形や軽い色の感じを使って表現しました。



次郎

ある季節限定のせんべいをイメージしました。その季節に見られる具体的なものの形や色の感じを使って表現しました。



文子

高級感のあるせんべいをイメージしました。暗い感じの中に、アクセントになるように明るい色をいくつか入れ、文字も工夫して表現しました。

メモの内容をもとに、3人のデザインとしてもっともよくあてはまるものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

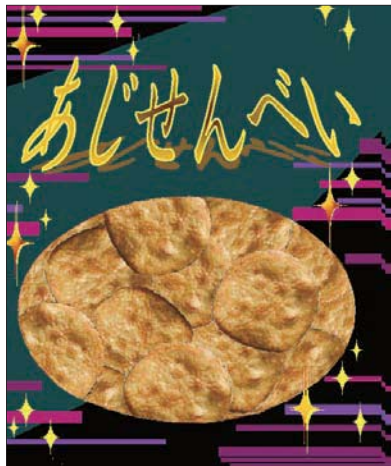
解 答 欄		
太郎さん	次郎さん	文子さん



①



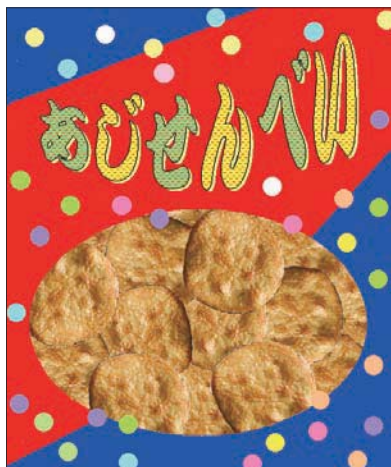
②



③



④



⑤



⑥

(2) 右は、花子さんが考えた「せんべい」のパッケージです。花子さんは、ある「味」をイメージしてデザインしました。

どのような味のイメージをもとに、どのような工夫をしたと考えられますか。

問題(1)の太郎さんたちのメモの記述にならって、「せんべい」のイメージと、それをもとにした形と色の工夫を書きなさい。



花子さんが考えたパッケージ

解 答 欄

〈イメージ〉

をイメージしました。

〈形と色の工夫〉

表現しました。

## 問題2 1

### ① 出題の概要

問題1は、幼児向けのクッキーをイメージして形と色彩を変更したパッケージと、変更前のパッケージとを比較し、変更した点2点とそれらによる効果を記述する問題である。

導入として、形や色彩がもたらす気持ちや感覚、イメージや情報などを多くの人理解できることを示し、その上で、例示のパッケージについて、果物の色が効果的に使われていること、背景や文字の色によりミントのさわやかなイメージが表現されていることなどを述べ、生徒が形や色彩の伝達効果について意識できるように問題を設定した。

2

花子さんたちは、美術の授業でお菓子のパッケージをコンピュータでデザインすることになりました。授業のねらいは、色や形で気持ちや感覚、イメージや情報などを多くの人理解できるように表現することです。

お菓子のパッケージに関するあとの問いに答えなさい。

お菓子のパッケージは、お店に陳列したときに、人目を引くようデザインされていて、種類や商品名のほかに、味やイメージが伝わるように工夫されているね。果物の色が効果的に使われているね。

(マスカット味)



(イチゴ味)



(オレンジ味)



(ミント味)



これもミントのさわやかなイメージがよく表現されているね。

1 花さんは、「幼児向けのクッキー」をイメージしてデザインを考えました。最初に①を考え、その後②に変更しました。

①から②へと変更した点を2点書きなさい。さらに、それらによってどのような効果があったのか、書きなさい。



①



②

	変更した点	効果
解答欄		

## ② 調査結果の概要

- 幼児向けのクッキーをイメージして形と色彩を変更したパッケージについて、色彩の変更に関することと模様の追加に関することを記述し、それらにより生じた効果を適切に記述した生徒は91.0%であった。

問題1は、幼児向けのクッキーをイメージして形と色彩を変更したパッケージと、変更前のパッケージとを比較し、変更した点2点とそれらによる効果を記述する内容であり、変更した点に、色彩の変更に関すること、模様の追加に関することを記述し、かつ、2つの変更により生じた、「幼児向けのクッキー」のパッケージとしての効果を適切に記述したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が91.0%で最も多かった。

【問題2】 1 解答類型ごとの反応率と解答例 通過率 91.0%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	色彩の変更	模様の追加	効果	反応率
◎1	変更した点として、色彩の変更に関すること及び模様の追加に関することを記述し、かつ、2つの変更により生じた、「幼児向けのクッキー」のパッケージとしての効果を適切に記述しているもの [解答例] 色彩の変更：背景の色を明るくした。 模様の追加：丸いもようをかいた。 効果：明るくなることで楽しさやおいしさが伝わってくる。幼児はかわいいものが好きなので、丸いもように引きつけられやすくなる。	○	○	○	91.0%
2	変更した点として色彩の変更に関することを記述し、かつ、その変更により生じた、「幼児向けのクッキー」のパッケージとしての効果を適切に記述しているもの	○	×	○	2.6%
3	変更した点として模様の追加に関することを記述し、かつ、その変更により生じた、「幼児向けのクッキー」のパッケージとしての効果を適切に記述しているもの	×	○	○	0.2%
4	変更した点として色彩の変更に関すること及び模様の追加に関することを記述しているが、2つの変更により生じた、「幼児向けクッキー」のパッケージとしての効果を適切に記述していないもの	○	○	×	3.2%



5	変更した点として色彩の変更に関することを記述しているが、その変更により生じた、「幼児向けのクッキー」のパッケージとしての効果を適切に記述していないもの	○	×	×	0.3%
6	変更した点として模様を追加に関することを記述しているが、その変更により生じた、「幼児向けクッキー」のパッケージとしての効果を適切に記述していないもの	×	○	×	0.1%
7	変更した点は適切に記述していないが、写真の変更により生じた、「幼児向けクッキー」のパッケージとしての効果を適切に記述しているもの	×	×	○	0.4%
9	上記以外の解答	△			0.2%
0	無解答	△			1.9%

### ③ 分析・考察

- 形や色彩に着目して作品を比較し、形や色彩の違いにより感じ方が異なることを具体的にとらえたり、互いが感じたことを発表し合ったりして、他の生徒との感じ方の相違や共通性に気付き、形や色彩がもたらす感情効果などについて幅広く理解できるよう指導を工夫する。

問題② 1の通過率は91.0%であり、通過した生徒は、与えられたイメージを基に変更前後のパッケージを比較し、形や色彩によるデザインの変更とその効果を読み取ることができると考えられる。

誤答では、変更した点に色彩の変更に関することと模様の追加に関することを記述しているが、2つの変更により生じた効果を適切に記述していないもの（解答類型4）が3.2%であった。これらの生徒は、変更前後のデザインの変化は識別できたが、効果に、「クッキーの印象が大きく変わった」や「幼児向けのクッキーのイメージにあっている」のように、問題文を言い換えるのみで、形や色彩の変更によるイメージの変化を具体的にとらえることができなかつたと考えられる。

指導に当たっては、形や色彩に着目して作品を比較し、形や色彩の違いにより感じ方が異なることを具体的にとらえたり、互いが感じたことを発表し合ったりして、自分と他の生徒の感じ方の相違や共通性に気付き、形や色彩がもたらす感情効果などについて幅広く理解できるよう工夫することが大切である。

## 問題2 2 (1)

### ① 出題の概要

問題2(1)は、問題文のメモに記述されたせんべいのイメージと表現の工夫を基に、その内容に当てはまるパッケージのデザインを選択する問題である。

イメージと表現の工夫を述べたそれぞれの文章の中に、形と色彩に関する言葉を入れ、形と色彩の両方の視点から該当するパッケージのデザインが選択できるように問題を設定した。

2 太郎さんたちは、「せんべい」のパッケージのデザインを考えました。

(1) 次のメモは、太郎さん、次郎さん、文子さんが考えた「せんべい」のイメージとパッケージの表現の工夫を書いたものです。また、次のページにある6枚のパッケージのデザインのうち3枚は、3人が表現したものです。

(メモ)



だれもが食べやすいように、薄くて軽いせんべいをイメージしました。ひらひらと舞うような形や軽い色の感じを使って表現しました。



ある季節限定のせんべいをイメージしました。その季節に見られる具体的なものの形や色の感じを使って表現しました。



高級感のあるせんべいをイメージしました。暗い感じの中に、アクセントになるように明るい色をいくつか入れ、文字も工夫して表現しました。

メモの内容をもとに、3人のデザインとしてもっともよくあてはまるものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

解 答 欄		
太郎さん	次郎さん	文子さん



① ② ③ ④ ⑤ ⑥

### ② 調査結果の概要

○ 問題文のメモに記述されたせんべいのイメージと表現の工夫に当てはまるパッケージのデザインを全て正しく選択した生徒は66.4%であった。

問題2(1)では、太郎のパッケージを「②」、次郎のパッケージを「⑥」、文子のパッケージを「③」と選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が66.4%で最も多かった。



	問題文のメモ		パッケージ	
	イメージ	表現の工夫	番号	デザイン
太郎	薄くて軽い せんべい	ひらひらと舞 うような形や 軽い色の感じ を使って表現	②	
次郎	ある季節限 定のせんべ い	その季節に見 られる具体的 なものの形や 色の感じを使 って表現	⑥	
文子	高級感のあ るせんべい	暗い感じの中 に、アクセッ トになるよう に明るい色を いくつか入れ 、文字も工 夫して表現	③	

内訳を見ると、太郎のパッケージを「②」と正しく選択した生徒は90.7%、文子のパッケージを「③」と正しく選択した生徒は93.4%であった。一方、次郎のパッケージを「⑥」と正しく選択した生徒は73.5%であり、24.2%の生徒が春の花である桜、夏を思い起こす金魚、秋の落ち葉、雪の結晶が描かれている「④」を選択していた。

【問題2】 2(1) 解答類型ごとの反応率】

通過率 66.4%

類型番号	解答類型 (◎: 正答)	反応率
◎1	太郎のパッケージを「②」、次郎のパッケージを「⑥」、文子のパッケージを「③」と解答しているもの	66.4%
2	太郎のパッケージを「②」、次郎のパッケージを「⑥」と解答しているが、文子のパッケージを「③」以外と解答しているもの	2.2%
3	太郎のパッケージを「②」、文子のパッケージを「③」と解答しているが、次郎のパッケージを「⑥」以外と解答しているもの	20.1%

4	次郎のパッケージを「⑥」、文子のパッケージを「③」と解答しているが、太郎のパッケージを「②」以外と解答しているもの	4.2%
5	太郎のパッケージを「②」と解答しているが、次郎のパッケージを「⑥」以外、文子のパッケージを「③」以外と解答しているもの	1.9%
6	次郎のパッケージを「⑥」と解答しているが、太郎のパッケージを「②」以外、文子のパッケージを「③」以外と解答しているもの	0.7%
7	文子のパッケージを「③」と解答しているが、太郎のパッケージを「②」以外、次郎のパッケージを「⑥」以外と解答しているもの	2.7%
9	上記以外の解答	0.9%
0	無解答	0.9%

【内訳】

	正しく選択した割合（人数）	主な誤答
太郎のパッケージ	90.7%（2,027人）	
次郎のパッケージ	73.5%（1,643人）	④を選択 24.2%（541人）
文子のパッケージ	93.4%（2,087人）	

### ③ 分析・考察

- 形や色彩などがもたらすイメージを、一部の形や色彩に着目してとらえるだけではなく、それらが組み合わされた効果を全体としてとらえることができるよう指導を工夫する。

問題2(1)の通過率は66.4%であり、通過した生徒は、文章で記述されたイメージと形や色彩による表現の工夫を、提示されたパッケージのデザインと結び付けてとらえていると考えられる。

各パッケージについて分析すると、次郎の「ある季節限定」のイメージのパッケージを「④」と選択した生徒が24.2%であった。「④」は、いろいろな季節に見られるものがたくさん描かれており目にとまりやすく、これを選択した生徒の中には、季節という視点ではとらえることができたが、特定の季節という視点で提示されたパッケージを丁寧に見ず、部分的なイメージでとらえてしまった者がいたと考えられる。

指導に当たっては、形や色彩などがもたらすイメージを、一部の形や色彩に着目してとらえるだけではなく、それらが組み合わされた効果を全体としてとらえることができるよう工夫することが大切である。

## 問題2 2(2)

### ① 出題の概要

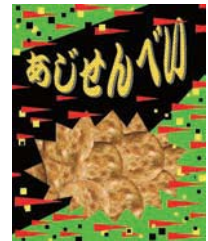
問題2(2)は、提示されたパッケージについて、せんべいの味のイメージと、それを基にした形と色彩の工夫を記述する問題である。

形については、鋭い角をもつ三角形をちりばめ、写真の枠をギザギザにし、色彩については、鮮やかな赤を用いたり、黄色と黒のコントラストを強調したりして、刺激が強い感じの味などをイメージできるように問題を設定した。

② 右は、花子さんが考えた「せんべい」のパッケージです。花子さんは、ある「味」をイメージしてデザインしました。

どのような味のイメージをもとに、どのような工夫をしたと考えられますか。

問題(1)の太郎さんたちのメモの記述にならって、「せんべい」のイメージと、それをもとにした形と色の工夫を書きなさい。



花子さんが考えたパッケージ

解 答 欄	
〈イメージ〉	
<input type="text"/>	をイメージしました。
〈形と色の工夫〉	
<input type="text"/>	表現しました。

### ② 調査結果の概要

○ パッケージのデザインから伝わる妥当な味のイメージを記述し、形又は色について根拠を記述した生徒は49.8%であった。

問題2(2)は、「辛い」など、パッケージのデザインから伝わる妥当な味のイメージを記述しており、かつ、形又は色について根拠を記述したもの(解答類型1～3)を通過としている。通過した生徒は49.8%であった。そのうち、形と色の両方について根拠を記述したもの(解答類型1)を正答、形又は色のいずれかについて根拠を記述したもの(解答類型2, 3)を準正答としており、それぞれ、34.5%、15.3%であった。

【問題2】 2(2) 解答類型ごとの反応率】

通過率 49.8%

類型番号	解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	イメージ ○：パッケージから 伝わる妥当な味の イメージを記述 △：パッケージから 感じた味に関する イメージを記述	根拠		反応率
			形	色	
◎1	パッケージのイメージと、それを基にした形と色の工夫について、次のとおり記述しているもの イメージ：「辛い」など、パッケージのデザインから伝わる妥当な味のイメージを記述 形と色の工夫：形と色の両方について根拠を記述	○	○	○	34.5%
○2	パッケージのイメージと、それを基にした形と色の工夫について、次のとおり記述しているもの イメージ：「辛い」など、パッケージのデザインから伝わる妥当な味のイメージを記述 形と色の工夫：形について根拠は記述しているが、色について根拠が十分ではない	○	○	×	5.3%
○3	パッケージのイメージと、それを基にした形と色の工夫について、次のとおり記述しているもの イメージ：「辛い」など、パッケージのデザインから伝わる妥当な味のイメージを記述 形と色の工夫：色について根拠は記述しているが、形について根拠が十分ではない	○	×	○	10.0%
4	パッケージのイメージと、それを基にした形と色の工夫について、次のとおり記述しているもの イメージ：「辛い」など、パッケージのデザインから伝わる妥当な味のイメージを記述 形と色の工夫：形と色の両方について根拠が十分ではない	○	×	×	5.0%
5	パッケージのイメージと、それを基にした形と色の工夫について、次のとおり記述しているもの イメージ：パッケージのデザインから感じた味に関するイメージを記述しているが、妥当とは言えない 形と色の工夫：形と色の両方について根拠を記述	△	○	○	11.4%
6	パッケージのイメージと、それを基にした形と色の工夫について、次のとおり記述しているもの イメージ：パッケージのデザインから感じた味に関するイメージを記述しているが、妥当とは言えない	△	○	×	5.1%

	形と色の工夫：形について根拠は記述しているが、色について根拠が十分ではない				
7	パッケージのイメージと、それを基にした形と色の工夫について、次のとおり記述しているもの イメージ：パッケージのデザインから感じた味に関するイメージを記述しているが、妥当とは言えない 形と色の工夫：色について根拠は記述しているが、形について根拠が十分ではない	△	×	○	12.0%
8	パッケージのイメージと、それを基にした形と色の工夫について、次のとおり記述しているもの イメージ：パッケージのデザインから感じた味に関するイメージを記述しているが、妥当とは言えない 形と色の工夫：形と色の両方について根拠が十分ではない	△	×	×	7.1%
9	上記以外の解答				1.9%
0	無解答				7.7%

【問題2】 2(2) 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答 ○：準正答)		イメージ ○：パッケージから伝わる妥当な味のイメージを記述 △：パッケージから感じた味に関するイメージを記述	根拠	
	イメージ	形と色の工夫		形	色
◎1	少し大人向けの辛いせんべい	ピリピリとして辛さをトゲトゲした形に表しました。また、配色も刺激があるように赤や黒と黄色を混ぜて辛さを。	○	○	○
○2	食べると辛いせんべい	せんべいの周りをギザギザをいれて辛いイメージ。トゲトゲ感の三角形型のデザインもいれて。	○	○	×
○3	刺激がある感じ	黒・緑・赤の色を使っていて派手な感じ。	○	×	○
4	ピリ辛のせんべい	模様の色と形でせんべいの味を。 〈判定の視点〉 パッケージのデザインから伝わる妥当な味のイメージを記述しているが、形と色のどこからイメージをとらえたのか不明であり、根拠が十分ではない。	○	×	×
5	にんじん	赤い三角でにんじん味。	△	○	○

	<p>〈判定の視点〉</p> <p>パッケージのデザインから感じた味に関するイメージを記述し、形と色の両方について根拠を記述している。しかし、パッケージのデザイン全体ではなく、一部からのイメージを記述しており、一般的に伝わる内容ではなく、妥当とは言えない。</p>			
6	<p>草</p> <p>せんべいの絵がのっているところをぎざぎざに切って草をイメージ。</p>	△	○	×
	<p>〈判定の視点〉</p> <p>パッケージのデザインから感じた味に関するイメージを記述し、形についての根拠は記述している。しかし、イメージが一般的に伝わる内容ではなく、妥当とは言えない。</p>			
7	<p>サラダ味のせんべい</p> <p>キャベツの緑色とトマトの赤を入れて。</p>	△	×	○
	<p>〈判定の視点〉</p> <p>パッケージのデザインから感じた味に関するイメージを記述し、色についての根拠は記述している。しかし、イメージが一般的に伝わる内容ではなく、妥当とは言えない。</p>			
8	<p>すいかのような味</p> <p>どんな味がするのかわくわくするような。</p>	△	×	×
	<p>〈判定の視点〉</p> <p>パッケージのデザインから感じた味に関するイメージを記述しているが、イメージが一般的に伝わる内容ではなく、妥当とは言えない。また、形と色に触れていない。</p>			
9	<p>たくさん入っているせんべい</p> <p>せんべいがすきまなく、しきつめられていて、枚数が多く見えるように。</p>	/		
	<p>〈判定の視点〉</p> <p>パッケージのデザインから感じたイメージを記述しているが、味に関するイメージではない。</p>			

注) 解答例は生徒の解答のまま。ただし、分かりやすいように、一部抜粋等によって示した。以下、解答例については同様。

### ③ 分析・考察

- 形や色彩の感情効果などを理解した上で、図柄や配色、構成などを総合的にとらえ、それらから一般的に伝わるイメージとその根拠を自分の言葉で述べることができるよう指導を工夫する。

問題 2 (2)の通過率は、49.8%であり、通過した生徒は、パッケージのデザインから伝わる妥当なイメージをとらえ、形又は色について根拠を述べることができると考えられる。

誤答では、パッケージのデザインから伝わる妥当な味のイメージを記述しているが、形と色の両方について根拠が十分ではないもの（解答類型 4）は、5.0%であった。これらの生徒は、妥当なイメージをとらえているが、形と色のどこからイメージをとらえたのか、その根拠を具体的に述べることができなかつたと考えられる。パッケージに描かれた赤い三角形からにんじんの味をイメージしたり、せんべいの写真の枠のギザギザから草をイメージしたりするなど、パッケージ全体ではなく一部のみに着目するなど、パッケージのデザインから感じた味に関するイメージを記述しているもの（解答類型 5～8）は、35.6%であった。解答類型 5～7 の生徒の解答では、イメージした根拠に関する生徒の記述を読めば、その部分については理解できるが、一般的には、問題 2 (2)で取り上げたパッケージ全体からイメージされにくいものが記述されていた。これらの生徒は、形又は色から味に関する何らかのイメージをとらえているが、パッケージ全体を見たときに伝わる内容でとらえることができなかつたと考えられる。解答類型 8 の生徒の解答では、パッケージのデザインから味に関する何らかのイメージはとらえているが、一般的ではなく、かつ、形と色のどこからイメージをとらえたのか具体的に記述されていなかった。

また、通過した生徒では、形と色の両方について根拠を記述した生徒（解答類型 1）が34.5%であった。一方、形と色のいずれか片方についてのみ根拠を記述した生徒（解答類型 2, 3）が15.3%であり、これらの生徒は、形と色のいずれか片方からイメージをとらえたことや、両方からイメージをとらえているがそのことを意識していないことなどが考えられる。これらの生徒については、パッケージから伝わる妥当なイメージについて、形と色の両方を根拠に述べるができることが望まれる。

指導に当たっては、形や色彩の感情効果などを理解した上で、図柄や配色、構成などを総合的にとらえ、それらから一般的に伝わるイメージとその根拠を自分の言葉で述べるができるよう工夫することが大切である。



#### (4) 分析結果から見た指導の改善

**多くの人が共通に感じる形や色彩の感情効果などを理解した上で、図柄や配色、構成などを総合的にとらえ、作成者が伝えたい内容を豊かに読み取ることができるよう指導を工夫することが大切である。**

デザインされた作品などから作者が伝えたい内容を豊かに読み取るためには、形や色彩の感情効果などをとらえ、図柄や配色、構成などによる伝達効果について理解することが大切である。

指導に当たっては、多くの人が共通に感じる形や色彩の感情効果などを理解した上で、図柄や配色、構成などを総合的にとらえ、作成者が伝えたい内容を豊かに読み取ることができるよう工夫することが大切である。そのためには、構成、配色などに関する造形の基本原理や方法などを理解し、それらによる伝達効果をとらえることが大切である。

具体的には、配色活動の中で、色彩を色相、明度、彩度の視点からとらえたり、類似や対照の組合せで見たりすること、形が色彩によってその印象を変化させることなどを実際に色彩を比較しながら理解することが考えられる。また、パッケージなどのデザインは、形や色彩、図柄などの組合せにより、伝えたい内容を表現していることから、形と色彩の一方や、対象物の一部のみに目を向けるのではなく、それらが相互に関連し合いどのようなイメージを生み出しているのかをとらえ、対象全体から伝えたい内容を豊かに読み取ることが大切である。その際、生徒の実態を踏まえて、理解が深まるよう指導を工夫する必要がある。例えば、今回の設問のように、形や色彩などをとらえる視点を示してイメージの変化が分かりやすいように作品を比較したり、イメージやその根拠となる形と色彩の表現の工夫などを示してデザインを選択したり、自分でイメージやその根拠を読み取ったりすることなどが考えられる。

また、多くの人が共通に感じる形や色彩の感情効果などを理解するためには、個人としての感じ方を尊重しながら、一人一人が読み取ったことを自分の言葉で述べ合うなど、言語活動を適切に取り入れることによって、他の生徒の考えを理解することが大切である。



## 問題3

伝達のデザインについての要素や条件を理解して読み取ったり、発想や構想をしたりできるかを問う。

### (1) 出題の趣旨

伝えたい内容を、絵や図などを使って瞬時に伝えたり、他者が表現したものを読み取ったりするためには、形の単純化や強調などによる伝達効果を理解したり、それらを生かして発想や構想をしたりすることが大切である。

問題3では、ピクトグラムを取り上げ、デザインについての要素や条件を理解して読み取ったり、発想や構想をしたりできるかを調査した。具体的には問題1では、分かりやすさや統一感の視点から、デザインについての要素や条件を理解すること、問題2では、要素や条件を踏まえて発想や構想をすることについて調査した。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年のB鑑賞エ及びA表現(2)ウに関する内容である。

### (2) 問題3の構成・内容

問題番号	出題のねらい	出題の概要	学習指導要領との関連
1 改善点 ①② ④⑤	分かりやすさや統一感の視点から、デザインについての要素や条件を理解して読み取ることができるかを把握する。	ピクトグラムのデザインについて、改善前と改善後の作品を比較し、改善点を記述する。	第2学年及び第3学年 B鑑賞エ A表現(2)ウ
2 ポイント 1~3	ピクトグラムのデザインについて、要素や条件を踏まえて、発想や構想をすることができるかを把握する。	次のポイントを取り入れて、休憩所のピクトグラムを描く。 ・人が休んでいる様子が伝わること ・直線や滑らかな曲線でできていて、伝えたいイメージが単純化されていること ・問題の冒頭で示したピクトグラムと統一感のあるデザインになっていること	

調査問題に見開きで見るページがあるため、  
空白のページを入れています。

### (3) 調査問題と結果の概要

#### 【調査問題 問題3】

3

街中や身近な公共の施設などには、情報をだれにでも分かりやすく、ひと目で伝えるために、「ピクトグラム」という絵を使った図表が使われています。

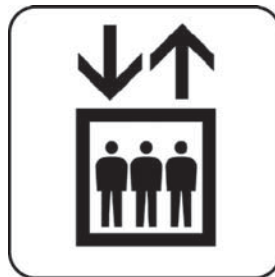
ピクトグラムに関するあとの問いに答えなさい。

花子さんたちは、美術の授業で地域の美術館の「休憩所」に表示するためのピクトグラムをデザインすることになりました。この美術館には、すでに次のようなピクトグラムが表示されています。

受付・案内



エレベーター



水飲み場



花子

ピクトグラムは、その場所で行うことや、そこで使うものなどを単純化して描いているね。



太郎

そうだね。どのピクトグラムも直線や滑らかな曲線<sup>なめ</sup>で表現されていて、デザインに統一感があるね。

練習に、「くず入れ」のピクトグラムを考えてみようよ。

1 花子さんと太郎さんは、次の「練習作品Ⅰ」をそれぞれ制作しましたが、美術館で表示されている他のピクトグラムとあまり統一感がないことに気づきました。そこで、改善点①から⑥を加え「練習作品Ⅱ」、「練習作品Ⅲ」を描きました。



花子さんの練習作品Ⅰ



①



花子さんの練習作品Ⅱ



②, ③



花子さんの練習作品Ⅲ



太郎さんの練習作品Ⅰ



④



太郎さんの練習作品Ⅱ



⑤, ⑥



太郎さんの練習作品Ⅲ

次のメモは、花子さんと太郎さんが、統一感があり分かりやすいピクトグラムにするために、自分が気づいた改善点をまとめたものです。二人とも「練習作品Ⅰ」から「練習作品Ⅲ」に変更する際、3点ずつ改善点がありました。

改善点③及び⑥の記述にならって、メモの  にあてはまる花子さん、太郎さんの改善点を、解答欄にそれぞれ簡潔に答えなさい。

なお、矢印の下の①から⑥の番号は、花子さん、太郎さんのそれぞれのメモに書かれた改善点の①から⑥に対応しています。

<メモ>



花子

改善点は、次の3点です。

①  こと。

②  こと。

③ 形を直線や滑らかな曲線なめで単純化したこと。



太郎

改善点は、次の3点です。

④  こと。

⑤  こと。

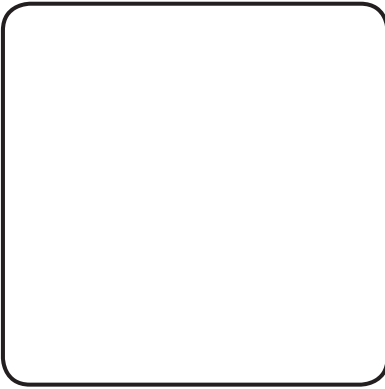
⑥ 形に膨らみふくをもたせて人間の形に近づけたこと。

解答欄	花子さん	①	
		②	
	太郎さん	④	
		⑤	

2 花子さんたちは、練習作品の制作を通して学んだことを次のように整理し、美術館の「休憩所」のピクトグラムのデザインのポイントをまとめました。

- 1 人が休んでいる様子が伝わること。
- 2 直線や滑らかな曲線<sup>なめ</sup>でできていて、伝えたいイメージが単純化されていること。
- 3 すでにこの美術館で表示されているピクトグラムと統一感のあるデザインになっていること。

これらのポイントをすべて取り入れて、「休憩所」のピクトグラムを下の解答欄に配付された鉛筆で描きなさい。

解 答 欄
このわくをピクトグラムのわくに使うこと


## 問題3 1

### ① 出題の概要

問題1は、ピクトグラムデザインのデザインについて、統一感があり分かりやすくする視点から改善を加える前後の作品を比較し、その改善点を記述する問題である。

ピクトグラムを学習した経験がない生徒にも理解できるように、導入でピクトグラムについて解説を加えた。具体的には、地域の美術館で使われていると仮定した3つのピクトグラムを提示し、ピクトグラムは、情報をだれにでも分かりやすく、ひと目で伝えるためのものであることを説明した上で、それらに共通に見られる特徴として次の点を示した。

- 1) その場所で行うことや、そこで使うものなどを単純化して描いていること
- 2) 直線や滑らかな曲線で表現されていること
- 3) デザインに統一感があること

これらを理解した上で、取り組むことができるように問題を設定した。

### ② 調査結果の概要

- 統一感があり分かりやすいピクトグラムにするための改善点として、濃淡（色）を統一したと理解できる内容を記述した生徒は69.3%であった。

(問題3 1 ①)

問題1①は、花子さんの練習作品ⅠからⅡへの改善点を記述する内容であり、濃淡（色）を統一する視点で改善したことを記述したもの（解答類型1）を正答、記述は十分ではないが、濃淡（色）を統一する視点であることが推測できるもの（解答類型2）を準正答としており、それぞれ53.8%、15.5%であり、通過率は69.3%であった。



【問題3 1 改善点① 解答類型ごとの反応率】 通過率 69.3%

類型番号	解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎1	濃淡（色）を統一する視点で改善したことを記述しているもの	53.8%
○2	記述は十分ではないが、濃淡（色）を統一する視点であることが推測できるもの	15.5%
3	2つの作品の違いを記述しているが、その違いが濃淡（色）を統一する視点ではないもの	1.7%

4	改善点②と重複する視点で記述しているもの	7.0%
5	改善点③と重複する視点で記述しているもの	8.9%
6	花子さんの練習作品Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの変化していない点を記述しているもの	3.6%
9	上記以外の解答	3.4%
0	無解答	6.1%

【問題3】 1 改善点① 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例	(◎：正答 ○：準正答)
◎1	色を黒で統一した。	
○2	ゴミ箱の模様をなくした。	
3	ゴミの数を減らした。	
4	角度をかえて見やすくした。	
5	人を直線にして単純化したこと。	
6	人がゴミをすてている所をかいた。	

- 統一感があり分かりやすいピクトグラムにするための改善点として、形を分かりやすくしたと理解できる内容を記述した生徒は64.2%であった。 (問題3 1 ②)

問題1②は、花子さんの練習作品ⅡからⅢへの改善点2つのうち、問題中に提示されていない残りの1つの改善点について記述する内容であり、人とくず入れの重なりをなくし、形を分かりやすくする視点で改善したことを記述したもの(解答類型1)を正答、記述は十分ではないが、形を分かりやすくする視点であることが推測できるもの(解答類型2)を準正答としており、それぞれ40.0%、24.1%であり、通過率は64.2%であった。



【問題3】 1 改善点② 解答類型ごとの反応率】

通過率 64.2%

類型番号	解答類型	(◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎1	人とくず入れの重なりをなくし、形を分かりやすくする視点で改善したことを記述しているもの		40.0%
○2	記述は十分ではないが、形を分かりやすくする視点であることが推測できるもの		24.1%
3	2つの作品の違いを記述しているが、その違いが形を分かりやすくする視点ではないもの		2.0%
4	改善点①と重複する視点で記述しているもの		9.3%
5	改善点③と重複する視点で記述しているもの		12.3%
6	花子さんの練習作品Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの変化していない点を記述しているもの		2.9%



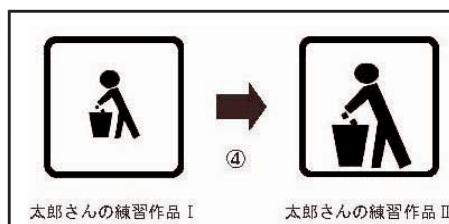
	の	
9	上記以外の解答	2.3%
0	無解答	7.0%

【問題3】 1 改善点② 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例	(◎：正答 ○：準正答)
◎1	人とゴミ箱の重なりをなくし、区別をつけた。	
○2	横から見た感じにして形を見やすくした。	
3	ゴミを1つから2つにした。	
4	色を全て黒で表す。	
5	人を簡単な形にして描いた。	
6	頭と体がつながっていない。	

- 統一感があり分かりやすいピクトグラムにするための改善点として、図の大きさを統一したと理解できる内容を記述した生徒は85.2%であった。(問題3) 1 ④)

問題1④は、太郎さんの練習作品ⅠからⅡへの改善点を記述する内容であり、図の大きさを統一する視点で改善したことを記述したもの(解答類型1)を正答、記述は十分ではないが、図の大きさを統一する視点であることが推測できるもの(解答類型2)を準正答としており、それぞれ69.1%、16.2%であり、通過率は85.2%であった。



【問題3】 1 改善点④ 解答類型ごとの反応率】

通過率 85.2%

類型番号	解答類型	(◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎1	図の大きさを統一する視点で改善したことを記述しているもの		69.1%
○2	記述は十分ではないが、図の大きさを統一する視点であることが推測できるもの		16.2%
3	2つの作品の違いを記述しているが、その違いが図の大きさを統一する視点ではないもの		0.4%
4	改善点⑤と重複する視点で記述しているもの		1.7%
5	改善点⑥と重複する視点で記述しているもの		2.4%
6	太郎さんの練習作品Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの変化していない点を記述しているもの		2.3%
9	上記以外の解答		2.0%
0	無解答		6.0%

【問題3】 1 改善点④ 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例	(◎：正答 ○：準正答)
◎1	絵を大きくした。	
○2	人の大きさに注目した。	
3	人の位置を下げた。	
4	わくの大きさを小さくした。	
5	体の感じが不自然だから、自然な感じにした。	
6	簡単で分かりやすくした。	

○ 統一感があり分かりやすいピクトグラムにするための改善点として、枠を統一したと理解できる内容を記述した生徒は32.6%であった。 (問題3 1 ⑤)

問題1⑤は、太郎さんの練習作品ⅡからⅢへの改善点2つのうち、問題中に提示されていない残りの1つについて記述する内容であり、枠を統一する視点で改善したことを記述したもの（解答類型1）を正答、記述は十分ではないが、枠を統一する視点であることが推測できるもの（解答類型2）を準正答としており、それぞれ19.0%、13.6%、通過率は32.6%であった。



【問題3】 1 改善点⑤ 解答類型ごとの反応率】

通過率 32.6%

類型番号	解答類型	(◎：正答 ○：準正答)	反応率
◎1	枠を統一する視点で改善したことを記述しているもの		19.0%
○2	記述は十分ではないが、枠を統一する視点であることが推測できるもの		13.6%
3	2つの作品の違いを記述しているが、その違いが枠を統一する視点ではないもの		5.1%
4	改善点④と重複する視点で記述しているもの		14.1%
5	改善点⑥と重複する視点で記述しているもの		34.6%
6	太郎さんの練習作品Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの変化していない点を記述しているもの		2.2%
9	上記以外の解答		2.0%
0	無解答		9.4%

【問題3】 1 改善点⑤ 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例	(◎：正答 ○：準正答)
◎1	外わくを細くした。	
○2	囲んでいるわくを小さくした。	
3	手から落ちるように、手の下にごみをやった。	

4	絵を大きめにかいたこと。
5	腕の関節をつけ、ゴミを捨ててるようにした。
6	人がごみを捨てているようにした。

### ③ 分析・考察

- 絵や図全体を注意深く見つめ、造形的な工夫や効果を理解して形などに着目し、「分かりやすさ」や「統一感」の視点から作品をとらえ、生徒自らがデザインのよさや美しさ、課題などに気付くことができるよう指導を工夫する。

問題1では、統一感があり分かりやすいピクトグラムにするための改善点として、濃淡（色）の統一、形の分かりやすさ、図の大きさの統一、枠の統一を取り上げている。それぞれの通過率は、69.3%、64.2%、85.2%、32.6%であり、これらの生徒は、個別の要素や条件を読み取ることができた。また、全てを通過した生徒は24.0%であり、これらの生徒は、全ての要素や条件を読み取ることができた。

問題1における全ての問題を通じた解答類型の考え方は次のとおりである。

類型番号	改善点①，②，④，⑤の解答類型の考え方 (◎：正答 ○：準正答)
◎1	改善点の視点で改善したことを記述
○2	記述は十分ではないが、改善点の視点であることが推測できる
3	違いを記述しているが、その違いが統一感があり分かりやすくするための改善点の視点ではない
4	他の改善点（出題したもの）と重複する視点で記述
5	問題中に提示された改善点と重複する視点で記述
6	変化していない点を記述

各改善点における解答類型3の生徒は、単なる違いを指摘しており、統一感があり分かりやすいピクトグラムにするという視点から、ピクトグラムの改善点をとらえることができなかつたと考えられる。

また、花子さんの練習作品ⅡからⅢへの改善、太郎さんの練習作品ⅡからⅢへの改善では、それぞれ2点改善し、そのうちの片方を問題中で提示しているにもかかわらず、問題中で提示した改善点と重複する視点で記述した生徒（花子さん、太郎さんともに解答類型5）は、それぞれ12.3%、34.6%であった。これらの解答の中には、太郎さんの練習作品ⅡからⅢの改善点⑤として、腕の関節をつけた、頭と体のバランスがとれたなどの記述が見受けられた。これらの生徒は、改善点⑥「形に膨らみをもたせて人間の形に近づけたこと」により、腰や腕の関節が描かれたり、頭と体の大きさのバランスが変わったりしていることを別の改善点としてとらえており、問題中に提示された改善点がピクトグラムでどのように表現されているのか

とらえることができなかつたと考えられる。

また、改善点⑤の枠の統一については、他の改善点と比較して通過率が低くなっている。この理由として、描かれている人やくず入れに着目してしまい、枠線もピクトグラムの一部であることをとらえることができなかつたことなどが考えられる。

指導に当たっては、絵や図全体を注意深く見つめ、単なる変更点ではなく、「分かりやすさ」や「統一感」の視点から改善点をとらえることができるよう工夫することが大切である。そのためには、何を単純化、省略、強調しているかを読み取ったり、統一感をもたせるための形の共通点を見つけたりするなど、造形的な工夫や効果を理解して形などに着目し、生徒自らがデザインのよさや美しさ、課題などに気付くことができるよう指導を工夫することが大切である。

## 問題3 2

### ① 出題の概要

問題2は、次の3つのポイントを取り入れて、休憩所のピクトグラムを描く問題である。

#### 【ポイント1】

人が休んでいる様子が伝わること。

#### 【ポイント2】

直線や滑らかな曲線でできていて、伝えたいイメージが単純化されていること。

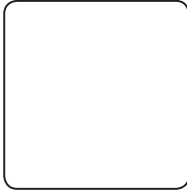
#### 【ポイント3】

問題の冒頭で示したピクトグラムと統一感のあるデザインになっていること。

2 花子さんたちは、練習作品の制作を通して学んだことを次のように整理し、美術館の「休憩所」のピクトグラムのデザインのポイントをまとめました。

- 1 人が休んでいる様子が伝わること。
- 2 直線や滑らかな曲線でできていて、伝えたいイメージが単純化されていること。
- 3 すでにこの美術館で表示されているピクトグラムと統一感のあるデザインになっていること。

これらのポイントをすべて取り入れて、「休憩所」のピクトグラムを下の解答欄に配付された鉛筆で描きなさい。

解答欄
このわくをピクトグラムのわくに使うこと


伝えたい内容を、絵や図などを使って瞬時に伝えるためには、形の単純化や強調などによる伝達効果を生かし、用いられる場などを考えて発想や構想をすることが大切である。そのため、上記3つのポイントを設定した。

描くピクトグラムは、「公衆電話の設置場所」のように電話の絵を描けば簡単に伝わるものではなく、「休憩所」とすることで休憩という場面をどのように絵や図で具体的に発想や構想をすることができるかを把握できるように問題を設定した。

なお、問題2では、3つのポイントそれぞれに解答類型を設けて通過・非通過を判定し、分析・考察を行うことにより、ポイントごとに発想や構想の能力を把握することとした。

## ② 調査結果の概要

○ 人が休んでいる様子が伝わるピクトグラムを描いた生徒は、74.7%であった。

【ポイント1】

【ポイント1】は、美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、「人が休んでいる様子が伝わることを取り入れる内容である。解答の分類に当たっては、次の視点を取り入れているかどうかを判定した。

- ・「人を描くこと」〈視点①〉
- ・「休むことを描くこと」〈視点②〉
- ・「椅子を描くこと」〈視点③〉

ただし、「椅子を描くこと」については、人が休むときに使用する代表的なものとして椅子が考えられることから設けたが、椅子を描かなくても、人が休んでいる様子が伝わるピクトグラムを描くことは可能であることから、通過、非通過とは関係のない視点とした。


これらのことを踏まえ、美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、〈視点①及び②〉を取り入れているもの（解答類型1，2）を正答としている。正答した生徒が74.7%であった。


【問題3】 2 ポイント1 解答類型ごとの反応率】 通過率 74.7%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	人	休むこと	椅子 ※通過と関係ない視点	反応率
◎1	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・人を描くこと ・休むことを描くこと ・椅子を描くこと	○	○	○	70.5%
◎2	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・人を描くこと ・休むことを描くこと	○	○	×	4.2%
3	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・人を描くこと ・椅子を描くこと	○	×	○	7.3%
4	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・人を描くこと	○	×	×	8.6%

5	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・ 休むことを描くこと ・ 椅子を描くこと	×	○	○	0.7%
6	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・ 休むことを描くこと	×	○	×	0.1%
7	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・ 椅子を描くこと	×	×	○	0.6%
9	上記以外の解答				1.9%
0	無解答				6.2%

【問題3】 2 ポイント1 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎ : 正答)	判定の視点 [ 人が休んでいる様子が伝わること ]	人	休むこと	椅子 ※通過と関係ない視点
◎1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人を描いている。</li> <li>・ 休むことを描いている。</li> <li>・ 椅子を描いている。</li> </ul>	○	○	○
◎2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人を描いている。</li> <li>・ 休むことを描いている。</li> <li>・ (椅子を描いていない。)</li> </ul>	○	○	×
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人を描いている。</li> <li>・ (人が立っていて、休むことを描いていない。)</li> <li>・ 椅子を描いている。</li> </ul>	○	×	○

4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人を描いている。</li> <li>・(人が立っていて、休むことを描いていない。)</li> <li>・(椅子を描いていない。)</li> </ul>	○	×	×
---	---	---	---	---	---

○ 直線や滑らかな曲線でできていて、伝えたいイメージが単純化されているピクトグラムを描いた生徒は、52.7%であった。 【ポイント2】

【ポイント2】は、美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、「直線や滑らかな曲線でできていて、伝えたいイメージが単純化されていること」を取り入れる内容である。解答の分類に当たっては、次の視点を取り入れているかどうかを判定した。

- ・「直線や滑らかな曲線で描くこと」〈視点①〉
- ・「内容を単純化して描くこと」〈視点②〉
- ・「形を分かりやすく描くこと」〈視点③〉

これらのことを踏まえ、美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、〈視点①～③〉を取り入れているもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が52.7%であった。



【問題3】 2 ポイント2 解答類型ごとの反応率 通過率 52.7%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	直線や滑らかな曲線	内容の単純化	形が分かりやすい	反応率
◎1	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの <ul style="list-style-type: none"> <li>・直線や滑らかな曲線で描くこと</li> <li>・内容を単純化して描くこと</li> <li>・形を分かりやすく描くこと</li> </ul>	○	○	○	52.7%
2	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの <ul style="list-style-type: none"> <li>・直線や滑らかな曲線で描くこと</li> <li>・内容を単純化して描くこと</li> </ul>	○	○	×	25.4%
3	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの <ul style="list-style-type: none"> <li>・直線や滑らかな曲線で描くこと</li> <li>・形を分かりやすく描くこと</li> </ul>	○	×	○	2.6%
4	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの	×	○	○	2.3%



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を単純化して描くこと</li> <li>・形を分かりやすく描くこと</li> </ul>				
5	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの <ul style="list-style-type: none"> <li>・直線や滑らかな曲線で描くこと</li> </ul>	○	×	×	3.3%
6	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を単純化して描くこと</li> </ul>	×	○	×	3.5%
7	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの <ul style="list-style-type: none"> <li>・形を分かりやすく描くこと</li> </ul>	×	×	○	0.4%
9	上記以外の解答				3.4%
0	無解答				6.3%

【問題3】 2 ポイント2 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)	判定の視点 [直線や滑らかな曲線でできていて、伝えたいイメージが単純化されていること]	直線や滑らかな曲線	内容の単純化	形が分かりやすい
◎1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線や滑らかな曲線で描いている。</li> <li>・描かれているものが、人、カップ、テーブルに精選され、内容を単純化して描いている。</li> <li>・人とテーブルの間に隙間を設けるなどして、それぞれの形を分かりやすく描いている。</li> </ul>	○	○	○
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線や滑らかな曲線で描いている。</li> <li>・描かれているものが人、椅子に精選され、内容を単純化して描いている。</li> <li>・(人と椅子が一体化しており、それぞれの形を分かりやすく描いていない。)</li> </ul>	○	○	×

3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線や滑らかな曲線で描いている。</li> <li>・（自動販売機や植木などが描かれており，内容を単純化して描いていない。）</li> <li>・それぞれの形を分かりやすく描いている。</li> </ul>	○	×	○
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・（直線や滑らかな曲線で描いていない。）</li> <li>・描かれているものが人，椅子に精選され，内容を単純化して描いている。</li> <li>・人と椅子の形を分かりやすく描いている。</li> </ul>	×	○	○
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線や滑らかな曲線で描いている。</li> <li>・（自動販売機が細かく描かれており，内容を単純化して描いていない。）</li> <li>・（人と椅子が一体化しており，それぞれの形を分かりやすく描いていない。）</li> </ul>	○	×	×
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・（直線や滑らかな曲線で描いていない。）</li> <li>・描かれているものが人と椅子に精選され，内容を単純化して描いている。</li> <li>・（人と椅子が一体化しており，それぞれの形を分かりやすく描いていない。）</li> </ul>	×	○	×

○ 問題の冒頭で示したピクトグラムと統一感のあるデザインになっているピクトグラムを描いた生徒は，44.6%であった。 【ポイント3】

【ポイント3】は，美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって，「問題の冒頭で示したピクトグラムと統一感のあるデザインになっていること」を取り入れる内容である。解答の分類に当たっては，次の視点を取り入れているかどうかを判定した。

- ・「黒一色で描くこと」〈視点①〉

- ・「図の大きさや配置のバランスをとって描くこと」〈視点②〉
- ・「手先や足先、頭や体の各部分の形やバランスなど（以下「部分の形」という。）を統一して描くこと」〈視点③〉

問題③ 2は発想や構想の能力を把握することをねらいとしている。このことから、視点①～③のうち、技能の影響を受けやすいと考えられる〈視点③〉の部分の形の統一は、通過、非通過とは関係のない視点とした。



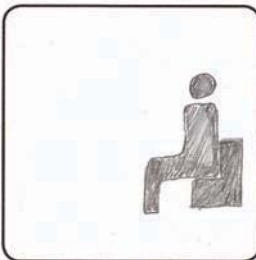
これらのことを踏まえ、美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、〈視点①及び②〉を取り入れているもの（解答類型1，2）を正答としている。正答した生徒が44.6%であった。




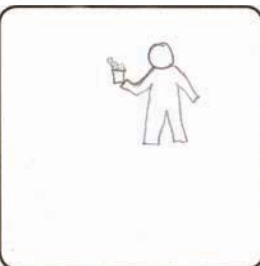
【問題③ 2 ポイント3 解答類型ごとの反応率】 通過率 44.6%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	黒一色	図の大きさ、配置	部分の形 ※通過と関係ない視点	反応率
◎1	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・黒一色で描くこと ・図の大きさや配置のバランスをとって描くこと ・部分の形を統一して描くこと	○	○	○	26.2%
◎2	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・黒一色で描くこと ・図の大きさや配置のバランスをとって描くこと	○	○	×	18.4%
3	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・黒一色で描くこと ・部分の形を統一して描くこと	○	×	○	8.4%
4	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・黒一色で描くこと	○	×	×	8.7%
5	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・図の大きさや配置のバランスをとって描くこと ・部分の形を統一して描くこと	×	○	○	4.1%
6	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・図の大きさや配置のバランスをとって描く	×	○	×	15.1%

こと					
7	美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、次の視点を取り入れているもの ・部分の形を統一して描くこと	×	×	○	1.7%
9	上記以外の解答				11.1%
0	無解答				6.4%

【問題3】 2 ポイント3 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)	判定の視点 [問題の冒頭で示したピクトグラムと統一感のあるデザインになっていること]	黒一色	図の大きさ、配置	部分の形 ※通過と関係ない視点
◎1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒一色で描いている。</li> <li>・枠内の中央に大きく描かれており、図の大きさと配置のバランスをとって描いている。</li> <li>・手先や足先、頭や体の形やバランスなどの部分の形を問題の冒頭で示したピクトグラムと統一して描いている。</li> </ul>	○	○	○
◎2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒一色で描いている。</li> <li>・枠内の中央に大きく描かれており、図の大きさと配置のバランスをとって描いている。</li> <li>・(頭と体がつながっていたり、手先や足先が円状に描かれており、部分の形を問題の冒頭で示したピクトグラムと統一して描いていない。)</li> </ul>	○	○	×
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒一色で描いている。</li> <li>・(枠の右側に偏って図が描かれており、図の配置のバランスをとって描いていない。)</li> <li>・手先や足先、頭や体の形やバランスなどの部分の形を問題の冒頭で示したピクトグラムと統一して描いている。</li> </ul>	○	×	○

4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒一色で描いている。</li> <li>・(枠に対して図が小さく描かれており，図の大きさのバランスをとって描いていない。)</li> <li>・(手と胴体が一体となって半円状に描かれており，部分の形を問題の冒頭で示したピクトグラムと統一して描いていない。)</li> </ul>	○	×	×
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(黒一色で描いていない。)</li> <li>・枠内の中央に大きく描かれており，図の大きさと配置のバランスをとって描いている。</li> <li>・手先や足先，頭や体の形やバランスなどの部分の形を問題の冒頭で示したピクトグラムと統一して描いている。</li> </ul>	×	○	○
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(黒一色で描いていない。)</li> <li>・枠内の中央に大きく描かれており，図の大きさと配置のバランスをとって描いている。</li> <li>・(頭や体の形やバランスなどの部分の形を問題の冒頭で示したピクトグラムと統一して描いていない。)</li> </ul>	×	○	×
7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(黒一色で描いていない。)</li> <li>・(枠の右上に偏って図が描かれており，図の配置のバランスをとって描いていない。)</li> <li>・手先や足先，頭や体の形やバランスなどの部分の形を問題の冒頭で示したピクトグラムと統一して描いている。</li> </ul>	×	×	○

**〔3つのポイント全てを通過した生徒等について〕**

○ 3つのポイント全てを通過した生徒は28.9%であった。

問題3 2は，3つのポイントを取り入れて，ピクトグラムを描くことから，各ポイントの別に見るだけではなく，ポイント全てを通過した生徒についても見ることとする。3つのポイントごとの通過率は，74.7%，52.7%，44.6%であり，3つのポイント全てを通過した生徒は，28.9%であった。

ポイント1	ポイント2	ポイント3	反応率	
◎	◎	◎	28.9%	3つのポイント全てを通過している
◎	◎	×	14.8%	2つのポイントを通過している 28.5%
◎	×	◎	8.8%	
×	◎	◎	4.9%	
◎	×	×	22.2%	1つのポイントのみを通過している 28.4%
×	◎	×	4.1%	
×	×	◎	2.0%	
×	×	×	14.3%	ポイントを全て通過していない

注) ◎は、各ポイントにおける正答

さらに、3つのポイントごとに設定した3つの視点、すなわち9つの視点全てを取り入れてピクトグラムを描いた生徒は18.9%であった。

<参考>各ポイントにおける3つの視点（9つの視点）

【ポイント1】人が休んでいる様子が伝わること

- ・人を描くこと
- ・休むことを描くこと
- ・椅子を描くこと

【ポイント2】直線や滑らかな曲線でできていて、伝えたいイメージが単純化されていること

- ・直線や滑らかな曲線で描くこと
- ・内容を単純化して描くこと
- ・形を分かりやすく描くこと

【ポイント3】問題の冒頭で示したピクトグラムと統一感のあるデザインになっていること

- ・黒一色で描くこと
- ・図の大きさと配置のバランスをとって描くこと
- ・部分の形を統一して描くこと

【9つの視点全てを取り入れた解答例】



## 〔問題 1 との関連について〕

- **ピクトグラムの改善点を記述する問題 1 において、濃淡（色）の統一、形の分かりやすさ、図の大きさの統一に関する問題を通過した生徒は、非通過の生徒より、通過した視点をそれぞれ取り入れてピクトグラムを描く傾向にあった。**

問題 1 は、統一感があり分かりやすくする視点から改善を加える前後の作品を比較し、その改善点を 4 つ記述する内容である。このうち、問題 2 で提示したポイントと関連のある、濃淡（色）の統一（改善点①）、形の分かりやすさ（改善点②）、図の大きさの統一（改善点④）に関する問題と問題 2 との関連を見ると次のような状況であった。

問題 1 の花子さんの練習作品において、濃淡（色）を統一したと理解できる内容を記述した生徒（解答類型 1, 2）のうち、問題 2 において黒一色でピクトグラムを描いた生徒（ポイント 3 の解答類型 1～4）は 69.7% であった。一方、濃淡（色）を統一したと理解できる内容を記述しなかった生徒（解答類型 3～6, 9, 0）のうち、黒一色でピクトグラムを描いた生徒（ポイント 3 の解答類型 1～4）は 43.4% であった。

また、問題 1 の花子さんの練習作品において、形を分かりやすくしたと理解できる内容を記述した生徒（解答類型 1, 2）のうち、問題 2 において形が分かりやすいピクトグラムを描いた生徒（ポイント 2 の解答類型 1, 3, 4, 7）は 64.5% であった。一方、形を分かりやすくしたと理解できる内容を記述しなかった生徒（解答類型 3～6, 9, 0）のうち、形が分かりやすいピクトグラムを描いた生徒（ポイント 2 の解答類型 1, 3, 4, 7）は 46.6% であった。

さらに、問題 1 の太郎さんの練習作品において、図の大きさを統一したと理解できる内容を記述した生徒（解答類型 1, 2）のうち、問題 2 において図の大きさと配置のバランスがとれたピクトグラムを描いた生徒（ポイント 3 の解答類型 1, 2, 5, 6）は 66.1% であった。一方、図の大きさを統一したと理解できる内容を記述しなかった生徒（解答類型 3～6, 9, 0）のうち、問題 2 において図の大きさと配置のバランスがとれたピクトグラムを描いた生徒（ポイント 3 の解答類型 1, 2, 5, 6）は 50.0% であった。

これらのことから、ピクトグラムの改善点を記述する問題 1 のうち、濃淡（色）の統一、形の分かりやすさ、図の大きさの統一に関する問題を通過した生徒は、非通過の生徒より、通過した視点をそれぞれ取り入れてピクトグラムを描く傾向にあることが分かった。



**【濃淡（色）の統一（改善点①）と黒一色で描くこと（ポイント3の視点①）との関連】**

		黒一色で描くこと (ポイント3の視点①)	
		通過	非通過
濃淡（色）の統一 (改善点①)	通過（1,549人）	69.7%（1,080人）	30.3%（469人）
	非通過（686人）	43.4%（298人）	56.6%（388人）

**【形の分かりやすさ（改善点②）と形を分かりやすく描くこと（ポイント2の視点③）との関連】**

		形を分かりやすく描くこと (ポイント2の視点③)	
		通過	非通過
形の分かりやすさ (改善点②)	通過（1,434人）	64.5%（925人）	35.5%（509人）
	非通過（801人）	46.6%（373人）	53.4%（428人）

**【図の大きさの統一（改善点④）と図の大きさと配置のバランスをとって描くこと（ポイント3の視点②）との関連】**

		図の大きさと配置のバランスをとって 描くこと（ポイント3の視点②）	
		通過	非通過
図の大きさの統一 (改善点④)	通過（1,905人）	66.1%（1,260人）	33.9%（645人）
	非通過（330人）	50.0%（165人）	50.0%（165人）

### ③ 分析・考察

**○ 伝えたい内容について象徴的に表す物や場面を考え、その内容を表現できるよう指導を工夫する。 【ポイント1】**

【ポイント1】の通過率は、74.7%であり、通過した生徒は、人が休んでいる様子が伝わるピクトグラムを描くことができていた。非通過の生徒は、「人を描くこと」、「休むことを描くこと」の一方又は両方を取り入れることができなかった。さらに、視点ごとに見ると、人を描くこと（解答類型1～4）、休むことを描くこと（解答類型1, 2, 5, 6）について取り入れた生徒は、それぞれ90.6%、75.4%であった。休むことを取り入れることができた生徒は、人を描くことに比べて少なかった。休むことを取り入れることができなかった生徒の解答には、立っている人を描いたものなどがあり、休むことを表現しているとは理解し難い例が見受けられた。なお、人が休んでいる様子が伝わるピクトグラムを描くために椅子を用いた生



徒（解答類型1，3，5，7）は79.1%であった。伝達のデザインでは，伝えたい内容について象徴的に表す物や場面などを考え，その内容を表現できるよう指導を工夫することが大切である。

**○ 瞬時に情報を伝えるために，内容や形を単純化して表現できるよう指導を工夫する。 【ポイント2】**

【ポイント2】の通過率は，52.7%であり，通過した生徒は，内容が単純化され形が分かりやすいピクトグラムを直線や滑らかな曲線で描くことができていた。非通過の生徒は，「直線や滑らかな曲線で描くこと」，「内容を単純化して描くこと」，「形を分かりやすく描くこと」のいずれか，又は全てを取り入れることができなかった。さらに視点ごとに見ると，「直線や滑らかな曲線で描くこと」（解答類型1～3，5），「内容を単純化して描くこと」（解答類型1，2，4，6），「形を分かりやすく描くこと」（解答類型1，3，4，7）について取り入れた生徒は，それぞれ84.0%，83.9%，58.1%であった。形の分かりやすさを取り入れることができた生徒は，他の2つの視点に比べて少なかった。形の分かりやすさを取り入れることができなかった生徒の解答には，人が椅子に座っている様子を描いているが，人と椅子の間に隙間をつくらず一体として描いているため，人と椅子の形が分かりにくい例が見受けられた。ピクトグラムは，見て瞬時に分かることが大切であり，人や椅子の形を識別しやすく描くためには，それぞれの形の特徴をどのように表現すればよいかを考えて，内容や形を単純化して表現できるよう指導を工夫することが大切である。

**○ 統一感に着目して，それらを読み取ったり，表現したりできるよう指導を工夫する。 【ポイント3】**

【ポイント3】の通過率は，44.6%であり，通過した生徒は，問題の冒頭で示したピクトグラムと統一感のあるピクトグラムを描くことができていた。非通過の生徒は，問題の冒頭で示したピクトグラムの共通点である「黒一色で描くこと」，「図の大きさと配置のバランスをとって描くこと」の一方又は両方を取り入れてピクトグラムを描くことができなかった。非通過の理由の1つとして，ピクトグラムの共通点に気付くことができなかったことがあげられる。このことは，ピクトグラムの改善点を記述する問題1において，濃淡（色）の統一，図の大きさの統一に関する問題を通過した生徒は，非通過の生徒より，通過した視点をそれぞれ取り入れてピクトグラムを描く傾向にあったことから分かる。さらに，視点ごとに見ると，「黒一色で描くこと」（解答類型1～4），「図の大きさと配置のバランスをとって描くこと」（解答類型1，2，5，6）について取り入れた生徒は，それぞれ61.7%，63.8%であった。「黒一色で描くこと」を取り入れることができなかった生徒の解答には，人と椅子を描いているが，人のみ黒一色としており，椅子を黒で塗りつぶしていない例が見受けられた。また，「図の大きさと配置のバランスをとって描くこと」を取り入れることができなかった生徒の解答には，枠の大きさに比べて図が小さかったり，図が左右に偏っていたりする例が見受けられた。また，「部分の形を統

一して描くこと」(解答類型1, 3, 5, 7)を取り入れた生徒は40.4%であった。この視点は、技能の影響を受けやすいと考えられるため、「発想や構想の能力」を把握する問題③2の通過・非通過とは関係のない視点としたが、これを取り入れることができなかった生徒は、問題の冒頭で示したピクトグラム共通点として部分の形の統一に気付くことができなかったことや、それを描くための技能が十分に身に付いていないことなどが考えられる。

濃淡(色)の統一、図の大きさと配置のバランス、部分の形の統一は、美術館に表示するピクトグラムの条件として設定されたものである。ピクトグラムには必ず求められる伝達機能があるが、統一感は美的秩序をもたらすものであり、その場の条件として設定されたものである。同じ場で用いる複数のピクトグラムを考える際、統一感によりその場のイメージを演出する効果があり、伝達のデザインの学習では重要な視点であると言える。統一感に着目して、それらを読み取ったり、表現したりできるよう指導を工夫することが大切である。

**○ 伝達のデザインに必要な要素や条件、形による伝達効果、作品としてのまとまりやバランスなどを考えて、発想や構想をすることができるよう指導を工夫する。**

**【ポイント1, 2, 3】**

美術館の休憩所のピクトグラムを描くに当たって、1つ以上ポイントを通過することができた生徒は、85.7%であったが、3つのポイント全てを通過することができた生徒は28.9%であった。例えば、【ポイント2】の視点である「形を分かりやすく描くこと」、【ポイント3】の視点である「黒一色で描くこと」について、人のみ黒く塗りつぶして椅子は塗りつぶしていないため、形は分かりやすいが黒一色では描かれていなかったり、人と椅子の隙間をつくらず黒で塗りつぶしているため、黒一色では描かれているが形が分かりにくい例が見受けられた。このような生徒は、特定の視点は取り入れて発想や構想をすることができたが、複数の視点を取り入れて発想や構想をすることができなかったと考えられる。このことから、伝達のデザインに必要な要素や条件、形による伝達効果、作品としてのまとまりやバランスなどを考えて、発想や構想をすることができるよう指導を工夫することが大切である。

#### (4) 分析結果から見た指導の改善

**どのような内容を、どこで、誰に伝えるかという目的を踏まえ、内容や雰囲気にながら考え、伝えたい内容において何が重要なのかを整理し、分かりやすく端的に伝わるように表現できるような指導が大切である。**

美術の表現活動には、自らが感じ取ったことや考えたことなどを自由に工夫して表現する活動と目的や条件などを考え工夫して表現する活動がある。美術の学習では、両者を調和よく行うことが大切であるが、生活の中で生きて働く美術の学習の観点から、伝達効果を生かした表現は重要である。絵や図などを使って瞬時に内容を伝えるためには、分かりやすさなどの視点から、造形的な工夫や効果を理解したり、それら

を生かして発想や構想をしたりすることが大切である。

問題②のお菓子のパッケージのデザインは、お菓子の味のイメージなどを図柄や配色、構成などによる伝達効果を生かして豊かに伝えるデザインであるのに対し、問題③のピクトグラムは、伝えたい内容を瞬時に正確に伝えるデザインである。ピクトグラムのような伝達のデザインの学習では、情報などを分かりやすく伝えるという目的のもと、デザインが用いられる場面などを考えて表現できるよう指導を工夫することが大切である。

具体的には、生徒が

- ①どのような内容を、どこで、誰に伝えるかという目的やそれらを踏まえた条件を十分に考えること
- ②内容や雰囲気にもふさわしい構成などを、形や色彩の感情効果などを意識しながら考えること
- ③伝えたい内容において何が重要なのかを整理し、単純化や省略、強調などにより、伝えたい内容が分かりやすく端的に伝わるようにするなど、伝達のデザインに必要な要素を考えること

ができるような工夫が大切である。

上記の①、②では、伝えたい相手の立場や用いられる場を考えることが大切である。例えば、駅や道路などで不特定の人たちに伝える場合と、幼稚園などで幼児に伝える場合とでは、分かりやすさや美しさを考える際に違いがある。特に幼児などを対象とする場合、幼児にとっての分かりやすさだけでなく楽しさなども大切であり、幼稚園という場にふさわしいデザインを考える必要がある。また、同じ場で複数のピクトグラムを用いる場合には、場のイメージを演出するために統一感をもたせることも重要である。

上記③では、瞬時に正確に伝えるために、必要な要素を取捨選択することが大切である。そのためには、伝えたい内容を象徴する物や行為を考えること、その物や行為が強調される形を工夫することが重要である。

さらに、ピクトグラムのように、身の回りでも取り入れられている伝達のデザインを生徒が日頃から意識し、それらを鑑賞することにより、その有用性や多様性を実感することも大切である。

## 2 調査 I Bにおける調査結果

### 問題

形や色彩などの効果を生かして、空想の生き物を発想や構想することができるかを問う。

#### (1) 出題の趣旨

表したいことを絵で豊かに表現するためには、形や色彩などの効果を生かして発想や構想をすることが大切である。

本問では、「バッグを生き物に見立てて描く」という課題を基に、形の特徴を生かす、色の感情効果を生かす、動きを表すという視点から発想や構想をすることができるかを調査した。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年のA表現(1)イに関する内容である。

#### (2) 問題の構成・内容

出題のねらい	出題の概要	学習指導要領との関連
「バッグを生き物に見立てて描く」という課題を基に、形の特徴を生かす、色の感情効果を生かす、動きを表すという視点から発想や構想をすることができるかを把握する。	次の条件を踏まえて、バッグを生き物に見立てた絵を描くとともに、工夫した点を記述する。 ① 「バッグの形の特徴」を、生き物の形に生かすこと ② 「軽々とした感じ」を色を工夫して表現すること ③ 「はずみながら運んでいる様子」を強調して描くこと	第2学年及び第3学年 A表現(1)イ

調査問題に見開きで見るページがあるため、  
空白のページを入れています。

### (3) 調査問題と結果の概要

#### 【調査問題 問題】

#### 問題

次の図1，図2は，日本の昔の絵巻物などに描かれている絵です。また，次の文は，太郎さんや花子さんがこれらの図を見たときの会話です。

これらをもとにして，あなたの考えた新しい生き物を描きなさい。



太郎

日本人の想像力ってすごいね。これらの生き物は，何かの「もの」の形をもとにして考えられているよ。昔の人は，きっと「もの」に心があると想着て，このような絵を描いたのだろうね。



花子

私は，瀬戸物（図1）が気に入ったよ。いろいろな瀬戸物が組み合わされていることや，体が壊れないようにゆっくりと歩いているように見えるところが面白いね。



＜瀬戸物の妖怪(瀬戸大将)＞

図1 瀬戸物



太郎

ぼくは、<sup>びわ</sup>琵琶（図2）の絵が気に入ったな。琵琶の形をうまく生かしているね。何か重いものを引っばる琵琶が歯をくいしばっているように見えるよ。



〈琵琶の妖怪〉

図2 琵琶



花子

私たちも「もの」の形だけでなく、動きや様子が伝わってくるように新しい生き物を考えて描いてみようよ。



太郎

そうだね。どうせなら身近な「もの」を明るい感じや楽しい感じにしたいね。



〈太郎さんが描いたスケッチ〉



太郎

図2の絵をヒントに、「エレキギター」に命を与えてみたよ。  
「元気で明るい『ギター』が、はりきってコンサートで歌っているところ」だよ。





花子

とてもよく描けているね。どんなことに気をつけて描いたの。



太郎

特に、次の3点を工夫して描いたんだ。

- ギターの形を、顔や体に生かしたこと。
- ギターを鮮やかな赤で塗り、色で元気で明るい感じを表現したこと。
- 腕を振り上げたり、顔を星の形にしたり、表情を工夫したりして、元気で明るいイメージを表現したこと。



花子

ふーん、なるほどね。

私は、いつも大事に使っている「バッグ」があるので、それに命を与えて描こうかな。

イメージとしては、はずむように軽々と荷物を運んでくれる感じを表現したいわ。

太郎さんのスケッチや、これまでの会話を参考に、次の条件をふまえて、はずむように軽々と荷物を運んでくれる感じとなるよう、「バッグ」を生き物に見立てて、解答欄に描きなさい。なお、絵は色鉛筆で着色をすること。

また、スケッチの下の記入欄に、太郎さんの工夫した点にならって、あなたが工夫した点を具体的に説明しなさい。

〈条件〉

- 「バッグの形の特徴」を、生き物の形に生かすこと。
- 「軽々とした感じ」を色を工夫して表現すること。
- 「はずみながら運んでいる様子」を強調して描くこと。



※ これらのバッグは、参考のために示したものです。この中のものを使わなくてもかまいません。

解 答 欄

(スケッチ)

①「バッグの形の特徴」をどのように生き物の形に生かしましたか。

②「軽々とした感じ」をどのように色で表現しましたか。

③「はずみながら運んでいる様子」をどのように形で表現しましたか。

## 問題

### ① 出題の概要

本問は、次の条件を踏まえて、バッグを生き物に見立てた絵を色鉛筆で描くとともに、工夫した点を記述する問題である。

- 〈条件①〉「バッグの形の特徴」を、生き物の形に生かすこと
- 〈条件②〉「軽々とした感じ」を色を工夫して表現すること
- 〈条件③〉「はずみながら運んでいる様子」を強調して描くこと

表したいことをより効果的に表現していくためには構図や構成を考え、中心となるものや表す形・色の働き、動きなどを整理し、強調したり、単純化したり、省略したりして発想や構想をすることが大切である。そのため、上記の3つの条件を設定した。

発想の手がかりになるように、瀬戸物の妖怪の絵では瀬戸物の形を組み合わせていること、琵琶の妖怪の絵では琵琶の形や模様などを顔の表現に生かしていることや動きを表現していることを示した。そして、エレキギター絵ではギターの形を顔や体に生かしていることに加え、鮮やかな赤で明るい感じを表現していること、腕の振り上げや顔の形や表情で元気で明るいイメージを表現していることを示した。その上で、発想の手がかりとなるように様々な形のバッグのスケッチを示し、バッグを生き物に見立てた絵を描くように問題を設定した。

また、文章で工夫した点を具体的に記述させたのは、生徒の表現意図を正確に理解し、生徒の絵から発想や構想の能力を丁寧に読み取る参考とするためである。

なお、本問では、上記の3つの条件それぞれに解答類型を設けて通過・非通過を判定し、分析・考察を行うことにより、発想や構想の能力を条件ごとに把握することとした。

### ② 調査結果の概要

- 「バッグの形の特徴」を生き物の形に生かして描いた生徒は93.1%であった。

#### 〈条件①〉

本問は、「バッグの形の特徴」を生き物の形に生かすことについて、絵からそのことが読み取れるもの（解答類型1, 2）を正答、記述と照合すると絵からそのことが理解できるもの（解答類型3）を準正答としており、それぞれ91.8%, 1.3%, 通過率は93.1%であった。正答のうち、持ち手やバッグ本体などの「バッグの形の特徴」が生き物の形に効果的に生かされていることが読み取れる絵を描いた生徒（解

答類型1) は43.4%であった。

【問題 条件① 解答類型ごとの反応率】

通過率 93.1%

類型番号	解答類型 (◎:正答 ○:準正答)	絵から読み取れる			記述	反応率
		絵のみ		記述+ 絵		
		形を効果的に生かしている	形を生かしている			
◎1	絵から、「バッグの形の特徴」が生き物の形に効果的に生かされていることが読み取れるもの	○	—	—	—	43.4%
◎2	絵から、「バッグの形の特徴」が生き物の形に生かされていることが読み取れるもの	×	○	—	—	48.4%
○3	絵からは、「バッグの形の特徴」が生き物の形に生かされていることが読み取れないが、「バッグの形の特徴」を生かした観点から記述されており、記述と照合すると、そのことが理解できるもの	×	×	○	—	1.3%
4	絵からは、「バッグの形の特徴」が生き物の形に生かされていることが読み取れず、「バッグの形の特徴」を生かした観点から記述されているが、記述と照合しても、そのことが理解できないもの	×	×	×	○	0.9%
5	絵からは、「バッグの形の特徴」が生き物の形に生かされていることが読み取れず、「バッグの形の特徴」を生かした観点から記述されていないもの	×	×	×	×	3.2%
6	絵が描かれていないが、「バッグの形の特徴」を生き物の形に生かした観点から記述されているもの	絵が描かれていない			○	0.0%
7	絵が描かれておらず、記述はあるものの、「バッグの形の特徴」を生き物の形に生かした観点から記述されていないもの	絵が描かれていない			×	0.0%
9	上記以外の解答					0.7%
0	無解答					2.1%

注) 表中の—は判定していないことを表す。

【問題 条件① 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答 ○：準正答)	絵から読み取れる		記述	
		絵のみ			+絵
		形を効果的に生かしている	形を生かしている		
◎1	 <p>〈判定の視点〉 円筒形のバッグの形をダックスフントの胴体に、バッグの細長いストラップの片方が外れているのを尾に、ファスナーの途中まで開いている部分を見立てており、バッグの形の特徴が生き物の形の特徴に効果的に生かされていることが読み取れる。</p>	○	—	—	—
◎2	 <p>〈判定の視点〉 バッグの形の特徴が顔の形に生かされていることが読み取れる。しかし、円筒形のバッグの形の特徴を生き物の形の特徴と結び付けることなどはしておらず、効果的に生かされているとまでは言えない。</p>	×	○	—	—

<p>○ 3</p> <div data-bbox="416 237 967 752" data-label="Image"> </div> <p>〈生徒の記述〉 「持つところの金具を目にして、ポケットを口にした。」</p> <hr/> <p>〈判定の視点〉 絵を見ただけでは、バッグの形の特徴が生き物の形に生かされていることが読み取れない。しかし、記述と照合すると、絵から、バッグの金具を生き物の目にし、ポケットを生き物の口として表現したことが理解できる。</p>		×	×	○	-
<p>5</p> <div data-bbox="472 1178 919 1648" data-label="Image"> </div> <p>〈生徒の記述〉 「丸くした。」</p> <hr/> <p>〈判定の視点〉 絵を見ただけでは、バッグの形の特徴が生き物の形に生かされていることが読み取れない。また、記述からも、バッグの形の特徴が生き物の形に生かされていることが読み取れない。</p>		×	×	×	×

注) 表中の-は判定していないことを表す。



○ 「軽々とした感じ」を色で表現した生徒は92.2%であった。

〈条件②〉

「軽々とした感じ」を、色を工夫して表現することでは、描かれた色からそのことが読み取れるもの（解答類型1）、記述と照合すると描かれた色からそのことが理解できるもの（解答類型2）を正答としており、それぞれ80.4%、11.7%、通過率は92.2%であった。

なお、色の表現では、概念的・常識的な色の表現にとらわれることなく、感じた色を素直に表現することが大切である。そのため、一般に軽いと感じられる色ではなくとも、生徒がその色を軽い感じにとらえていることが記述されており、描かれた色からそのことが理解できるもの（解答類型2）も正答とした。

【問題 条件② 解答類型ごとの反応率】

通過率 92.2%

題番	解答類型 (◎：正答)	描かれた色から読み取れる		記述	反応率
		色のみ	記述+色		
◎1	「淡い色，明るい色」など，一般に軽いと感じられる色で描かれており，「軽々とした感じ」を色で表現していることが読み取れるもの	○	—	—	80.4%
◎2	「こげ茶色」など，一般に軽いと感じられる色で描かれていないが，「軽々とした感じ」を色で表現した観点から記述されており，記述と照合すると，そのことが理解できるもの	×	○	—	11.7%
3	「こげ茶色」など，一般に軽いと感じられる色で描かれておらず，「軽々とした感じ」を色で表現した観点から記述されているが，記述と照合しても，そのことが理解できないもの	×	×	○	0.3%
4	「こげ茶色」など，一般に軽いと感じられる色で描かれておらず，「軽々とした感じ」を色で表現した観点から記述されていないもの	×	×	×	4.1%
5	色が塗られていないが，「軽々とした感じ」を色で表現した観点から記述されているもの	色が塗られていない		○	0.0%
6	色が塗られておらず，記述はあるものの，「軽々とした感じ」を色で表現した観点から記述されていないもの	色が塗られていない		×	0.5%
9	上記以外の解答				0.4%
0	無解答				2.6%

注) 表中の—は判定していないことを表す。



【問題 条件② 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例 (◎：正答)	描かれた色から読み取れる		記述
		色のみ	記述+色	
◎1	 <p>〈判定の視点〉 水色等、明度の高い色を使用しており、全体的に軽いつと感じられる色で描かれている。</p>	○	—	—
◎2	 <p>〈生徒の記述〉 「茶色はふわふわと軽い感じで枯れ葉が舞っているイメージだから、茶色を使いました。一番上の色を黄色にしたのは、明るさをプラスして、さらに軽々した感じをだそうと思ったからです。」</p> <p>〈判定の視点〉</p>	×	○	—

	<p>バッグは、茶、黒等が主として用いられており、一般的に軽いと感じられる色で描かれていない。しかし、記述から、生徒が茶色を軽い感じにとらえていることが分かる。そして、記述と照合すると、絵の色から、軽い感じを意識して描いたことが理解できる。</p>			
4	 <p>〈生徒の記述〉 「バックの表情をほがらかにしてふわふわと軽いという表現をしてみた。」</p> <hr/> <p>〈判定の視点〉 こげ茶色が主として用いられており、一般的に軽いと感じられる色で描かれていない。また、記述からも軽い感じを色で表現したことが読み取れない。</p>	×	×	×

注) 表中の-は判定していないことを表す。

○ 「はずみながら運んでいる様子」を強調して描いた生徒は48.5%であった。

〈条件③〉

「はずみながら運んでいる様子」を強調して描くことでは、形からそのことが読み取れるもの（解答類型1）を正答、効果線などによりそのことが読み取れるもの（解答類型2）及び記述と照合すると絵からそのことが理解できるもの（解答類型3）を準正答としており、正答、準正答はそれぞれ35.2%、13.4%、通過率は48.5%であった。

【問題 条件③ 解答類型ごとの反応率】

通過率 48.5%

題番	解答類型 (◎：正答 ○：準正答)	絵から読み取れる			記述	反応率
		絵のみ		記述 +絵		
		形	効果線			
◎1	形から、「はずむ感じ」が表現されていると読み取れるもの	○	—	—	—	35.2%
○2	形からは、「はずむ感じ」が読み取れないが、「効果線」などにより「はずむ感じ」が表現されていると読み取れるもの	×	○	—	—	8.0%
○3	絵から、「はずむ感じ」が読み取れないが、「はずむ感じ」を表現した観点から記述されており、記述と照合すると、そのことが理解できるもの	×	×	○	—	5.4%
4	絵からは、「はずむ感じ」が読み取れず、「はずむ感じ」を表現した観点から記述されているが、記述と照合しても、そのことが理解できないもの	×	×	×	○	7.8%
5	絵からは、「はずむ感じ」が読み取れず、「はずむ感じ」を表現した観点から記述されていないもの	×	×	×	×	40.8%
6	絵が描かれていないが、「はずむ感じ」を表現した観点から記述されているもの	絵が描かれていない			○	0.0%
7	絵が描かれておらず、記述はあるものの、「はずむ感じ」を表現したことが記述されていないもの	絵が描かれていない			×	0.1%
9	上記以外の解答					0.5%
0	無解答					2.2%

注) 表中の—は判定していないことを表す。

【問題 条件③ 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例  (◎ : 正答 ○ 準正答)	絵から読み取れる			記述
		絵のみ		記述	
		形	効果線	+絵	
◎ 1		○	—	—	—
<p>〈判定の視点〉 手足を曲げることにより，弾みながら進んでいく様子が描かれており，形から弾む感じが読み取れる。</p>					

○ 2		×	○	—	—
<p>〈判定の視点〉 生き物の形からは、弾む感じが読み取れないが、効果線により、絵全体から弾む感じが読み取れる。</p>					
○ 3	 <p>〈生徒の記述〉 「ひもの部分を手として考え、腰に手をあて、足は、スキップしているようすを表現しました。」</p> <p>〈判定の視点〉 絵を見ただけでは、弾む感じが読み取れない。しかし、記述と照合すると、手と足の形から、スキップしている様子を表現したことが理解できる。</p>	×	×	○	—

<p>4</p>  <p>〈生徒の記述〉 「足と羽をかき，ピョンピョンはずみながら運んでいる様子を表現しました。」</p> <hr/> <p>〈判定の視点〉 絵を見ただけでは，弾む感じが読み取れない。また，弾む感を表現したことは記述されているが，足がまっすぐに伸びて解答欄の線と接しており，「弾みながら運んでいる様子」を絵から理解することができない。</p>		×	×	×	○
<p>5</p>  <p>〈生徒の記述〉 「えばっている。」</p> <hr/> <p>〈判定の視点〉 絵を見ただけでは，生き物の形から弾む感じが読み取れない。また，記述からも，弾む感を表現したことが読み取れない。</p>		×	×	×	×

注) 表中の-は判定していないことを表す。

〔3つの条件全てを取り入れた生徒等について〕

○ 3つの条件全てを踏まえ、絵を描いた生徒は46.2%であった。

本問は、3つの条件を踏まえてバッグを生き物に見立てた絵を描くことから、各条件の別に見るだけでなく、条件全てを踏まえて描くことについても見ることにする。3つの条件ごとの通過率は、それぞれ、93.1%、92.2%、48.5%であり、3つの条件全てを踏まえ、バッグを生き物に見立てた絵を描いた生徒は46.2%であった。なお、3つの条件全てが解答類型1であった生徒は14.1%であった。

＜参考＞各条件における解答類型1

形：絵から、「バッグの形の特徴」が生き物の形に効果的に生かされていることが読み取れるもの

色：「淡い色、明るい色」など、一般に軽いつと感じられる色で描かれており、「軽々とした感じ」を色で表現していることが読み取れるもの

動き：形から、「はずむ感じ」が表現されていると読み取れるもの

【3つの条件全てが解答類型1の解答例】

解答例



〈判定の視点〉

形：バッグの持ち手をウサギの耳に見立てており、バッグの形の特徴が生き物の形の特徴に効果的に生かされていることが読み取れる。

色：桃色など、明度の高い色を使用しており、全体的に軽い感じがする色で描か



れている。

動き： ウサギの前足と後ろ足を前後に伸ばして、弾む様子が描かれており、形から弾む感じが読み取れる。



〈判定の視点〉

形： 円筒形のバッグの形を足に、四角いバッグの形を胴体に見立てており、バッグの形の特徴が生き物の形の特徴に効果的に生かされていることが読み取れる。

色： 水色や黄色など、明度の高い色を使用しており、全体的に軽い感じがする色で描かれている。

動き： 両足を曲げた上で、片足を地面から浮かせて、弾む様子が描かれており、形から弾む感じが読み取れる。

### ③ 分析・考察

- 形を効果的に生かすために、対象の形の特徴をとらえ、それと表したいものの形とを結び付け、表したいもののイメージを基に対象の形を単純化、省略、強調することができるよう指導を工夫する。 〈条件①〉

「バッグの形の特徴」を生き物の形に生かすことの通過率は93.1%であった。通過した生徒は、形の特徴を生かして絵を描くことができると考えられる。その上で、バッグの形の特徴が、生き物の形に効果的に生かされていることが読み取れる絵を描いた生徒（解答類型1）は43.4%であった。これらの生徒は、バッグの円筒形の



形をダックスフントの胴に当てはめるなど、バッグの形の特徴と生き物の体の形の特徴を結び付けて発想や構想をしておき、バッグの形の特徴を生き物の形に効果的に生かしていると言える。

指導に当たっては、対象の形の特徴をとらえ、作品に効果的に生かすことができるよう工夫することが大切である。

具体的には、第一に、対象をよく見つめて特徴をとらえることができるようにすることが大切である。例えば、本問で例示として取り上げたバッグのスケッチには、長細いもの、丸いもの、トランクケースのように四角くがっちりとしたもの、リュックサックのような形状のもの、持ち手が長いものなどいろいろな形の特徴がある。このような形の特徴をとらえて対象を把握することが重要である。第二に、対象の形の特徴と表したいものの形とを結び付けるなどの柔軟な発想力を育てることが必要である。例えば、本問で対象となるバッグでは、持ち手の形からウサギの耳を連想したり、表したいものであるウサギの丸い体の形からバッグの形を思い浮かべたりすることなどが考えられる。第三に、表したいもののイメージを基に形を単純化したり、省略したり、強調したりして構想を練る力を育てることが必要である。構想を練るに当たっては、バッグの形と生き物の形とを調和させるため、全体と部分との関係なども考えることが求められる。

**○ 色彩の感情効果を生かすために、自分の感じ方を大切に、実際に様々な色を見たりつくったりして色彩に対する体験を豊かにするよう指導を工夫する。**

**〈条件②〉**

「軽々とした感じ」を色を工夫して表現することの通過率は92.2%であった。

通過した生徒の中には淡い色、明るい色など、一般に軽いと感じられる色で描かれていることが読み取れるもの（解答類型1）と、一般に軽いと感じられる色で描かれていないが、記述と照合して絵を見るとそのことが理解できるもの（解答類型2）が見られた。これらの生徒は、いずれも自分の意図に基づいて、色の効果を生かして描くことができると考えられる。

指導に当たっては、自分の感じ方を大切に、実際に様々な色を見たりつくったりして色彩に対する体験を豊かにし、色彩の感情効果を作品に生かすことができるよう工夫することが大切である。

具体的には、絵は写真と異なり自分の表したい形や色彩をつくることができるので、必ずしも概念的・常識的な色彩の表現にこだわらず、自分の目と心で深く観察し個々の色の特徴をとらえたり、感じた色などを素直に表現することができるようにすることが大切である。また、色彩の感情効果などを意識させ、色彩の醸し出す雰囲気や効果などを感じ取ることができるようにすることも大切である。その際、色彩の感じ方やそのイメージなどについて他の生徒と語り合うことにより、自分独自の感じ方や他者と共通した感じ方などに気付き、色を幅広く豊かにとらえることができるよう配慮することも大切である。

- **動きを自分の意図に応じて絵に表現するために、動きに対するとらえ方を豊かにするとともに、表したいもののイメージを基に何を際立たせ、何を省くのかなどを考えながら構想を練ることができるよう指導を工夫する。** 〈条件③〉

「はずみながら運んでいる様子」を強調して描くことの通過率は、48.5%であった。通過した生徒は動きを絵に描くことができると考えられる。しかし、本問の通過率は3つの条件の中で最も低かった。また、通過した生徒の中には、「効果線」などにより「はずむ感じ」を表現していると読み取れる絵を描いた生徒（解答類型2）が8.0%いた。これらの生徒は、動きを表す記号のような補助線を用いているが、動きについて生き物の形を工夫して描いてはいない。動きを生き物の形に取り入れることは、より豊かで生き生きした表現力を育成する視点からも大切である。

指導に当たっては、時間の経過に伴って認識される動きをイメージするための動作や形を工夫し、画面を構成して、自分の意図に応じて絵に表現することができるよう工夫することが大切である。

具体的には、固定的な形をもたない動きを形に表すために、動きのあるものを観察すること、スポーツなどの体験から特徴的な動作を思い浮かべること、また、動きを表現した絵などを鑑賞して表現の工夫を学ぶことなどが大切である。

そして、表したいもののイメージを基に何を際立たせ、何を省くのかなどを考えながら構想を練ることができるようにすることも大切である。

#### 〔発想や構想の意図を記述することについて〕

- **生徒の記述などを参考にしながら、作品から表現意図などを丁寧に読み取り、生徒が表現意図を実現できるよう指導を工夫する。**

本問では、記述は、生徒の表現意図を正確に理解し、生徒の絵から発想や構想の能力を丁寧に読み取る参考とするために活用した。具体的には、「バッグの形の特徴」を生き物の形に生かすこと、「はずみながら運んでいる様子」を強調して描くことでは、生徒が描いた絵からは発想や構想の意図が十分に読み取れない場合、それを補うために活用した。「軽々とした感じ」を色を工夫して表現することでは、独自の感じ方を尊重することが大切であることから、生徒がその色を用いた根拠を知るために活用した。

- ① 生徒が描いた絵の発想や構想の意図を理解する

「バッグの形の特徴」を生き物の形に生かすこと、「はずみながら運んでいる様子」を強調して描くことでは、絵のみからは読み取れないが、記述と照合するとそのことが理解できるものを描いた生徒（ともに解答類型3）は、それぞれ1.3%、5.4%であった。これらの条件では、生き物や、弾んでいる様子を具体的な形としてイメージする力が求められる。記述と合わせて見ないと理解できない絵を描いた生徒（解答類型3）の中には、発想や構想が漠然としており、具体的な形がイメージできなかつたため、絵のみでは表現できなかつた者がい

たとえられる。

② 生徒が色を用いた根拠などを理解する

「軽々とした感じ」を色を工夫して表現することでは、描かれた色のみからは読み取れないが、記述と照合するとそのことが理解できるもの（解答類型2）が11.7%であった。例えば、「茶色」など、一般に軽いと感じられる色で描かれていない場合、「茶色はふわふわと軽い感じで枯れ葉が舞っているイメージだから」との記述を読むことにより、生徒は茶色を軽い感じだとらえているため、茶色を絵に使用したことが理解できる。このような独自の感じ方を尊重することは大切であり、記述などにより、生徒の表現意図を正確に理解した上で指導することが重要である。

これらのように、自分の考えや感じ方を基に表現する授業においては、記述などにより、生徒に作品の表現意図を明確にさせ、それを参考に、教師が生徒の作品から表現意図を丁寧に読み取り、その表現意図を実現できるよう助言をするなどの指導の工夫が大切である。

#### (4) 分析結果から見た指導の改善

**生徒が自ら主題を生み出すことができるような題材の設定とともに、形や色彩などの効果を意識しながら表現できるような指導の工夫が大切である。**

**表現と鑑賞との関連を図り、他者の発想や構想のよさに気づき、自らの表現に生かしていくなどの指導が大切である。**

表したいことを絵で豊かに表現するためには、自らの主題を基に形や色彩などの効果を生かして発想や構想をすることが大切である。

指導に当たっては、生徒が自ら表したい主題を生み出し、形や色彩などの効果を工夫しながら表現できるよう工夫することが大切である。

具体的には、まず、単に「花を描く」、「手を描く」といった題材名ではなく、生徒が「『優しい感じ』の花を描きたい」、「『力強い感じ』のお父さんの手を描きたい」のように自分が表したい思いをもち、主題を生み出すことができるような題材を設定することが求められる。

次に、形や色彩などの効果を意識して構想を練ることが求められる。そのためには、分析・考察で述べたように、感覚的に思い付いた表現をするだけでなく、形を効果的に生かすこと、色彩の感情効果を生かすこと、動きを表現することなど、発想や構想を高めるための視点をもたせるようにすることが求められる。

また、発想や構想では、表現の学習を充実させていくことが大切であるが、一方で鑑賞の充実を図ることも重要である。他者の作品を形や色彩、動きの効果などの視点で読み取り、どのような工夫がどのように生かされているかを実感をもって理解する

ことにより、自己の表現する作品の中にもそれが活かされていくものである。このように、表現と鑑賞を関連させながら発想や構想の能力を高めるような指導が大切である。

### 3 調査Ⅱにおける調査結果

#### 問題1

絵を鑑賞し、多様な表現方法の特性等について理解できるかを問う。

#### (1) 出題の趣旨

美術作品などのよさや美しさ、創造力の豊かさなどを感じ取り見方を深めるためには、表現方法等に関心をもち、それらの特性等について理解することが大切である。

問題1では、日本及び諸外国の絵を鑑賞し、表現方法の特性等について理解できるかを調査した。具体的には、問題1では陰影による立体感の表し方、単純化や強調による人物の特徴の表現、問題2では浮世絵版画の表現の特徴、問題3では遠近の表し方の特徴、問題4では水墨画、金箔などの日本の美術作品に見られる表現方法、問題5では描き方の特徴を読み取ることなどについて調査した。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年のB鑑賞ア、イに関する内容である。

#### (2) 問題1の構成・内容

問題番号	出題のねらい	出題の概要	学習指導要領との関連
1	A 描き方の特徴をとらえ、陰影による立体感の表し方、単純化や強調による人物の特徴の表現について理解できるかを把握する。 B	2枚の人物画を鑑賞し、次の表現をするための描き方に当てはまるものを選択する。 A：立体感を表す B：人物の特徴を効果的に表現する	第2学年及び第3学年 B鑑賞ア
2	浮世絵版画の表現の特徴をとらえることができるかを把握する。	2枚の絵を鑑賞し、共通する表現の特徴から表現方法を選択する。	第2学年及び第3学年 B鑑賞イ
3	(1) A 線遠近法、空気遠近法の特徴について理解できるかを把握する。 B	(1) 2枚ずつの風景画を鑑賞し、次の点に着目して共通する遠近の表し方を選択する。 A：建物の描き方 B：遠景の描き方	第2学年及び第3学年 B鑑賞ア

(2)		(2) (1)における両方の遠近の表し方が見られる作品を選択する。	
4	水墨画や金箔などの日本の美術作品に見られる表現方法の特性等を読み取ることができるかを把握する。	2枚の作品を鑑賞し、それぞれの作品と共通する表現方法が見られる一枚の作品を選択するとともに、共通点を記述する。	第2学年及び第3学年 B鑑賞イ
5	筆あとなどの描き方の特徴に気付くことができるかを把握する。	絵を鑑賞し、作風に着目して、表現方法の共通点が見られる同一作者の作品と表現方法の共通点を選択する。	第2学年及び第3学年 B鑑賞ア

調査問題に見開きで見るページがあるため、  
空白のページを入れています。

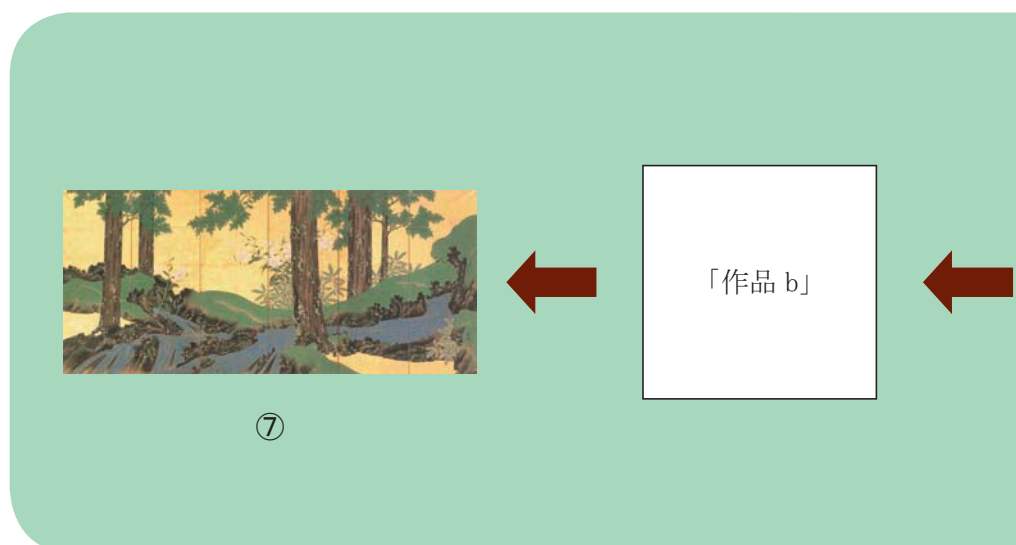
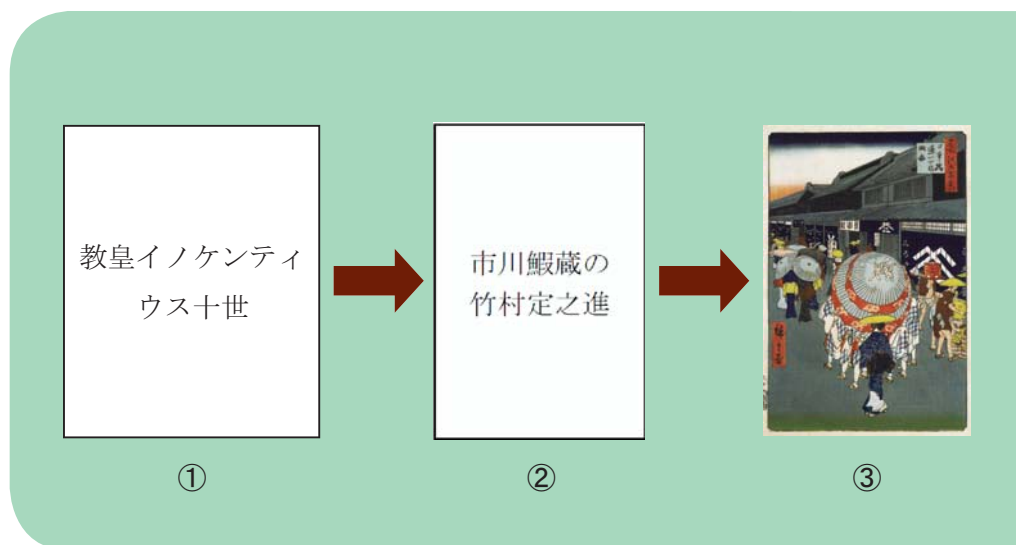
### (3) 調査問題と結果の概要

#### 【調査問題 問題1】

1

花子さんたちは、美術の授業で12枚のカードを使って絵を鑑賞しました。それらのカードは、配付している「資料」に掲載しています。これらを見て、あとの問いに答えなさい。

花子さんたちは、カードに描かれている絵について、風景や人物など、描かれているものや、描き方などの作風に共通点があることに気づきました。そして、それらの共通点をもとに、カードを並べてみました。

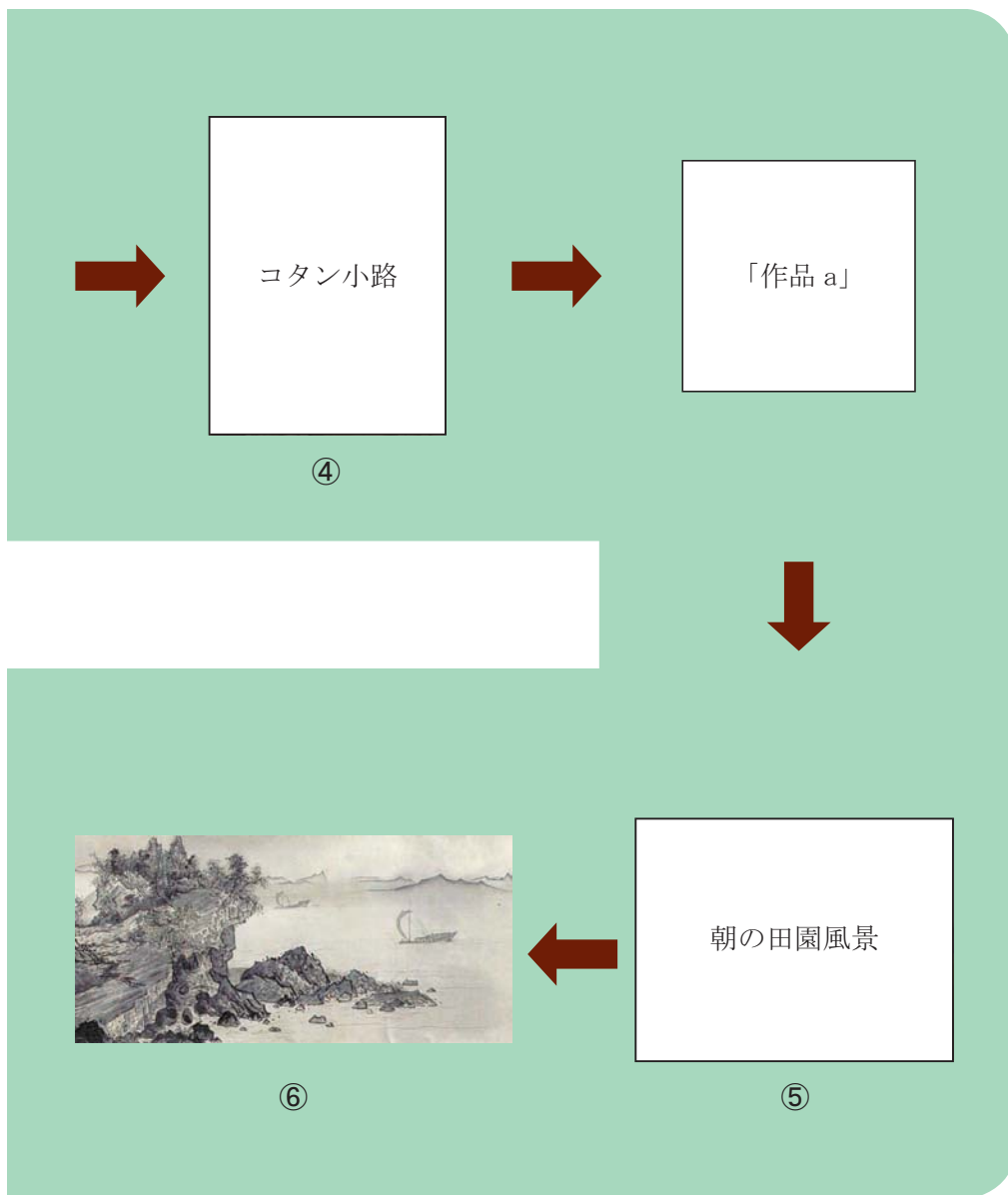




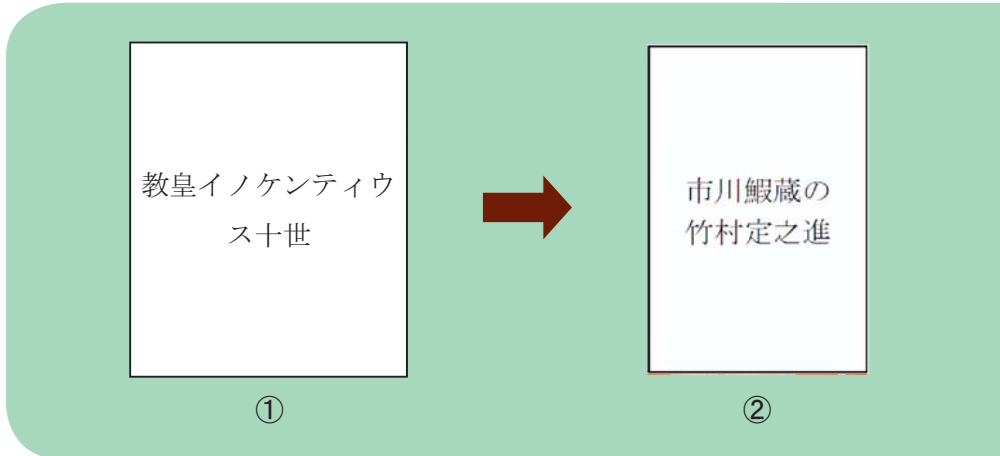
まず、男の人の肖像が描かれているものとして、カード①、②を並べました。

次に、表現方法が共通する作品としてカード②の隣に③を並べました。

このように、共通点があるカードを次々と並べていくと、次のような順に9枚のカードがつながりました。



1 花子さんは、男の人の肖像が描かれているカード①、②の2枚の作品をよく鑑賞しました。



2枚の作品を比較すると、描き方に違いがあることに気づきました。次の文は、花子さんが、2枚の作品について気づいた描き方の違いをメモにまとめたものです。

にもっともよくあてはまる言葉を、 は【語群A】から、 は【語群B】から一つずつ選び記号で答えなさい。

〈メモ〉

《描き方の違い》

①の作品は、 の効果によって、人物の立体感がよく表されている。

②の作品は、 によって人物の特徴が効果的に表現されている。

【語群A】

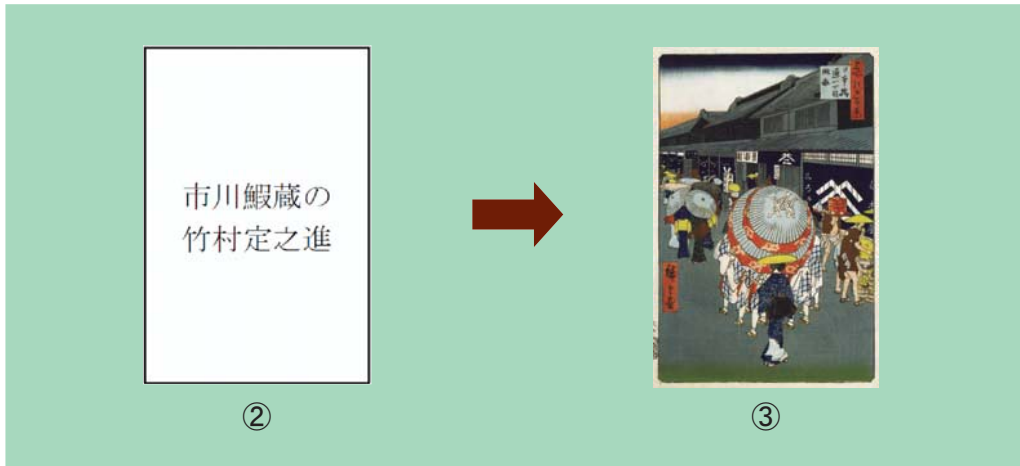
ア 背景      イ 陰影      ウ 輪郭線

【語群B】

ア 濃淡や筆の勢い      イ 拡大や明暗      ウ 単純化や強調

解答欄	A		B	

2 ②, ③のカードは, 表現方法が共通する作品として, 花子さんが並べたものです。



②, ③のような表現方法の作品を一般的に何といいますか。もっともよくあてはまるものを, 次の【語群】の中から一つ選び記号で答えなさい。

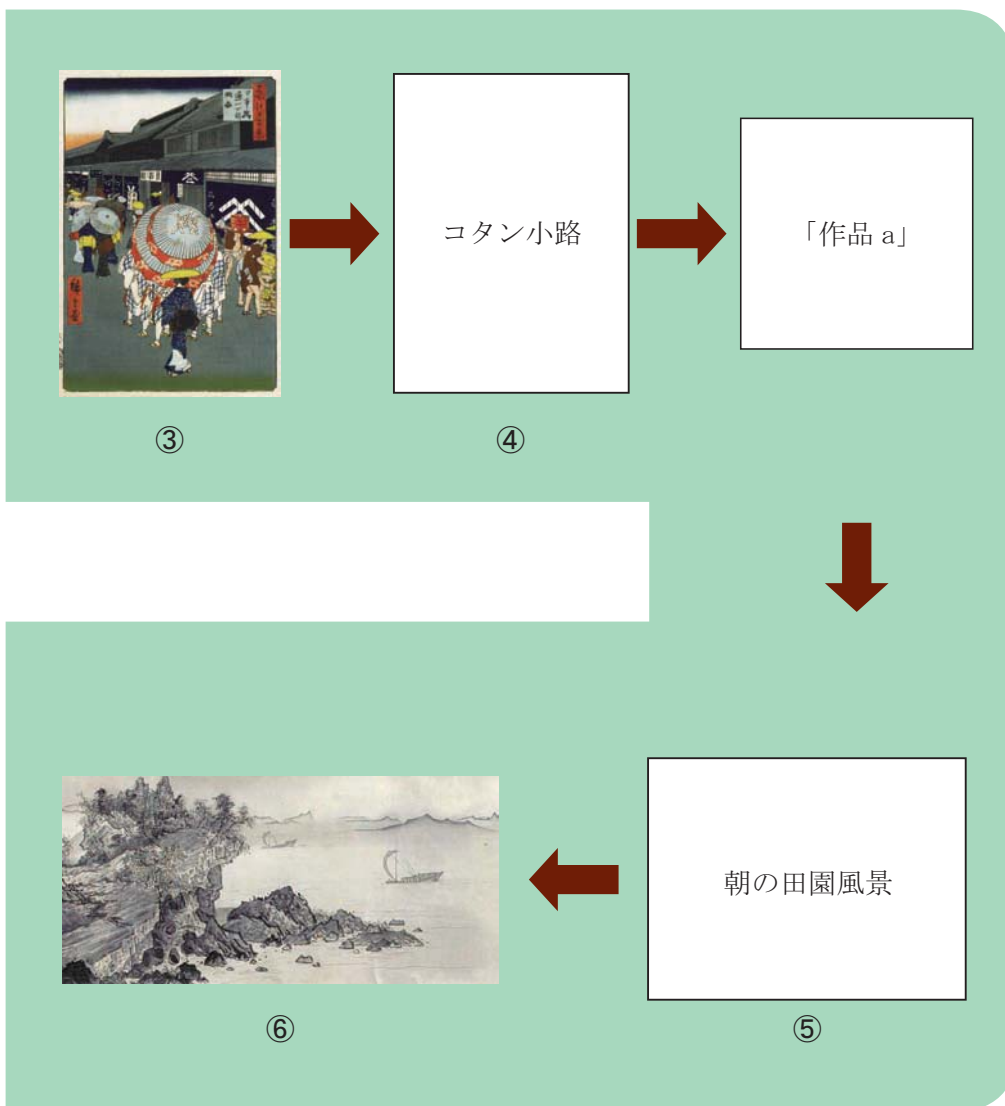
【語群】

ア 水墨画      イ 水彩画      ウ 浮世絵版画      エ 紙版画

解答欄	
-----	--

3 太郎さんは、風景が描かれた③、④、⑤、⑥の4枚のカードについて、風景の遠くや近くの表し方に注目しました。③と④、⑤と⑥が、それぞれ、表し方に共通点があると考えました。

- ・ ③と④の表し方は、「遠近の表し方Ⅰ」としました。
- ・ ⑤と⑥の表し方は、「遠近の表し方Ⅱ」としました。



次のメモは、太郎さんが気づいた「遠近の表し方Ⅰ」、「遠近の表し方Ⅱ」についてまとめたものです。

- (1) 次の   にもっともよくあてはまる言葉を下の【語群】から一つずつ選び記号で答えなさい。

〈メモ〉

《遠近の表し方Ⅰ》

③と④の作品は、建物の  によって、遠近が表現されている。

【語群】

ア 色    イ 線    ウ 影    エ 材質

解答欄	A	
-----	---	--

〈メモ〉

《遠近の表し方Ⅱ》

⑤と⑥の作品は、遠景を  描くことによって、遠近が表現されている。

【語群】

ア 見上げるように大きく  
イ 白く細かく  
ウ 明るくはっきりと  
エ かすむようにぼかして

解答欄	B	
-----	---	--

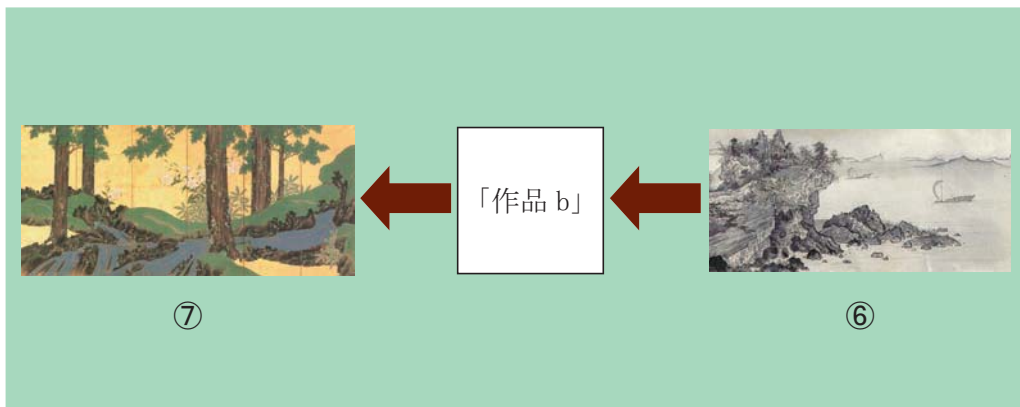
- (2) 「作品 a」には、1枚の絵に「遠近の表し方Ⅰ」、「遠近の表し方Ⅱ」の両方の表し方が、はっきりと見られる作品が入ります。その作品としてもっともよくあてはまるものを、「資料」の⑧から⑫のカードの中から1枚を選び、カードの番号を解答欄に書きなさい。

解答欄	
-----	--

4 太郎さんは、表現方法の共通点に注目して、⑥のカードの隣に「作品 b」のカードを並べ、さらにその隣に⑦のカードを並べました。

「作品 b」のカードとしてもっともよくあてはまるものを、「資料」の⑧から⑫のカードの中から1枚選び、カードの番号を解答欄に書きなさい。

また、⑥の作品と「作品 b」との共通点と、「作品 b」と⑦の作品との共通点を、それぞれ説明しなさい。



解答欄	「作品 b」	
	⑥の作品と「作品 b」との共通点	
	「作品 b」と⑦の作品との共通点	

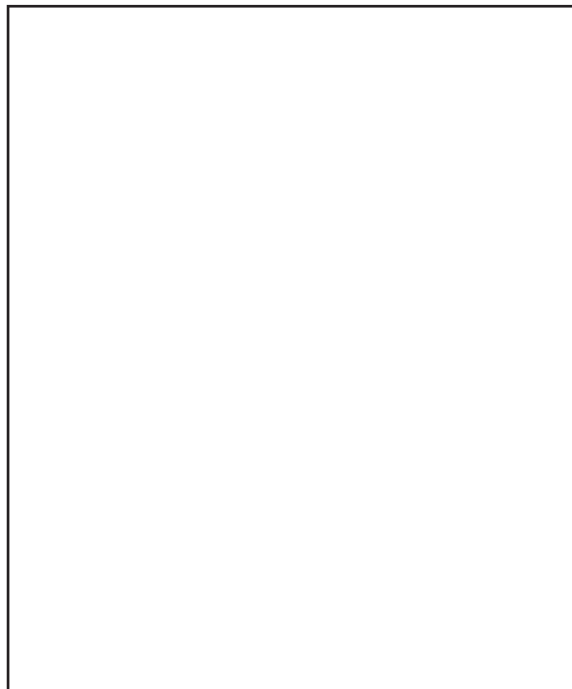
5 次郎さんは、作者の表現の特徴に興味を持ち、カード以外の絵を調べました。次郎さんは、下に示した人物が描かれている絵を見つけ、この絵とカードの中の1枚の絵は作風がよく似ており表現の共通点が見られることから、同じ作者が描いたのではないかと考えました。

この絵と同じ作者が描いたと考えられる絵としてもっともよくあてはまるものを、「資料」のカードの中から1枚選び、カードの番号を解答欄に書きなさい。

また、2枚の絵の表現方法の共通点が述べられている文として適切なものを、次の【共通点】の中から二つ選び、記号で答えなさい。

【共通点】

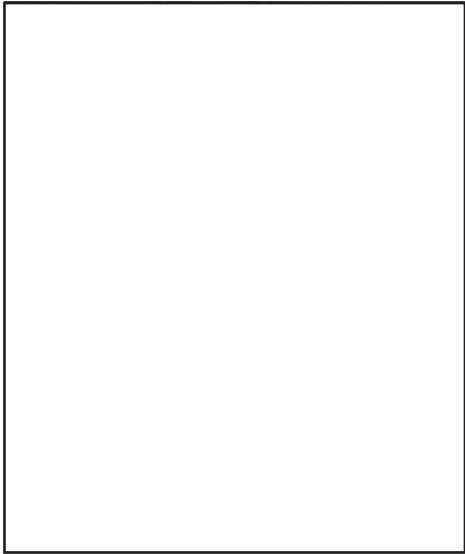
- ア 背景の描き方に特徴がある。
- イ ぐねぐねと曲がっている線に特徴がある。
- ウ 筆あとを残した描き方に特徴がある。
- エ 青色と赤色の使い方に特徴がある。



< 医師ガシェの肖像 >

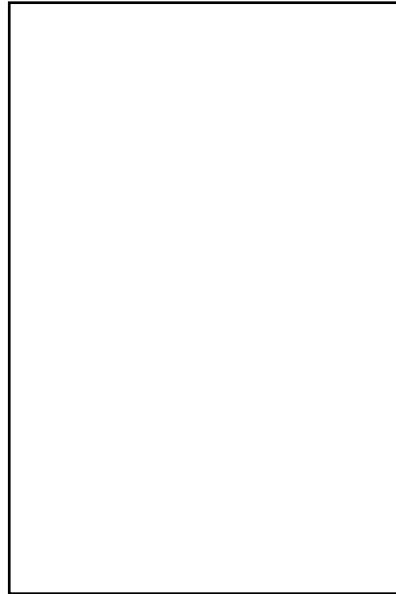
解答欄	カード	
	共通点	

【調査問題 問題1】〈資料〉



〈教皇イノケンティウス十世〉

カード①



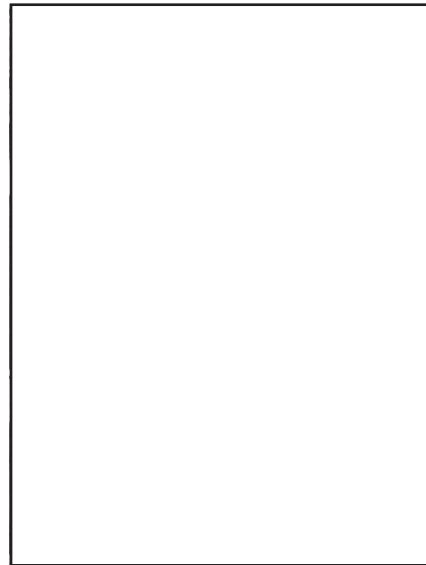
〈市川鯉藏の竹村定之進〉

カード②



〈日本橋通一丁目略図〉

カード③



〈コタン小路〉

カード④





〈朝の田園風景〉

カード⑤



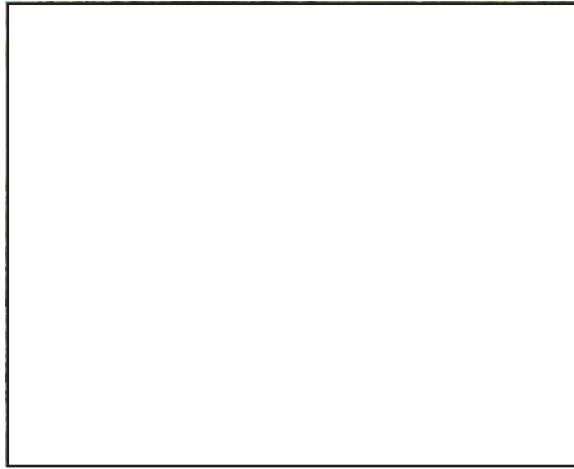
〈四季山水図(山水長巻)<sup>ちようまゐ</sup>〉(部分)

カード⑥



〈夏秋溪流図〉(右隻)<sup>みぎ</sup>

カード⑦



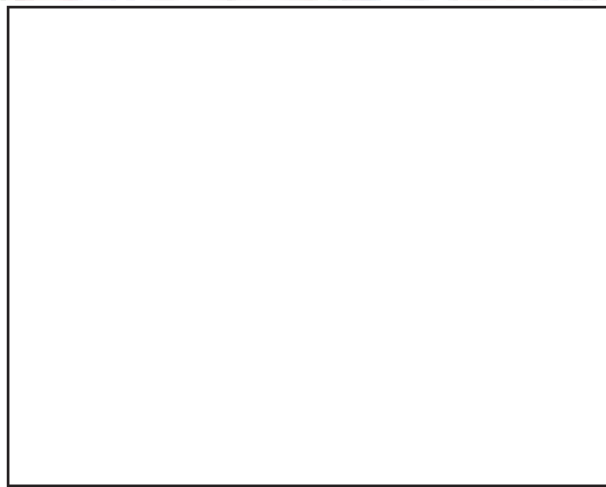
〈ラ・グルヌイエール〉

カード⑧



〈竹梅図屏風〉

カード⑨



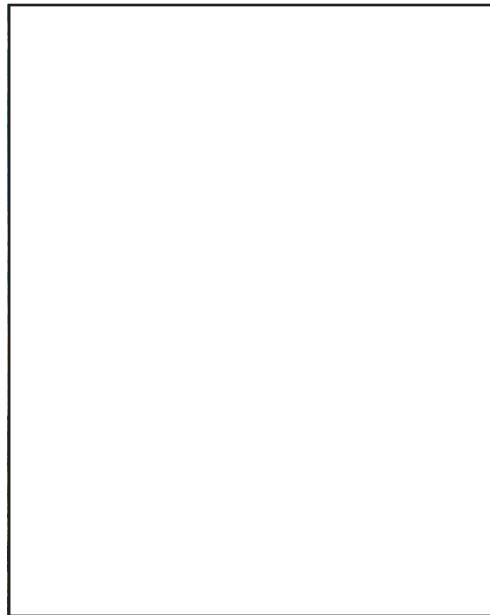
〈ルーブル宮殿グランドギャラリーの計画案〉

カード⑩



なんばん  
〈南蛮屏風〉(部分)

カード⑪



〈糸杉〉

カード⑫

## 問題1 1

### ① 出題の概要

問題1は、西洋の人物画と日本の浮世絵による人物画を鑑賞し、西洋の人物画から立体感を表す描き方として陰影を選択し、浮世絵の人物画から人物の特徴を効果的に表現する描き方として単純化や強調を選択する問題である。

この2枚の絵を対比させることで、一方の絵のみに見られる、陰影、単純化や強調による効果が際立つように問題を設定した。

1 花子さんは、男の人の肖像が描かれているカード①、②の2枚の作品をよく鑑賞しました。

教皇イノケンティ  
ウス十世

➔

市川鯉藏の  
竹村定之進

①
②

2枚の作品を比較すると、描き方に違いがあることに気づきました。次の文は、花子さんが、2枚の作品について気づいた描き方の違いをメモにまとめたものです。

A  B にもっともよくあてはまる言葉を、 A は【語群A】から、 B は【語群B】から一つずつ選び記号で答えなさい。

(メモ)

<描き方の違い>  
 ①の作品は、 A の効果によって、人物の立体感がよく表されている。  
 ②の作品は、 B によって人物の特徴が効果的に表現されている。

【語群A】

ア 背景    イ 陰影    ウ 輪郭線

【語群B】

ア 濃淡や筆の勢い    イ 拡大や明暗    ウ 単純化や強調

解答欄	A	B
-----	---	---

### ② 調査結果の概要

- 絵の表現において立体感を表すための描き方として、陰影を選択した生徒は77.6%であった。 (問題1A)

問題1Aは、人物が描かれた西洋画を鑑賞して、立体感を表すための描き方を選択する内容であり、「イ 陰影」を正答としている。正答した生徒が77.6%で最も多かった。

【問題1 1 A 解答類型ごとの反応率】 通過率 77.6%

類型番号	解答類型 (◎: 正答)	反応率
1	アと解答しているもの (背景)	10.3%
◎2	イと解答しているもの (陰影)	77.6%
3	ウと解答しているもの (輪郭線)	11.5%
9	上記以外の解答	0.1%
0	無解答	0.5%

- 絵の表現において人物の特徴を効果的に表現するための描き方として、単純化や強調を選択した生徒は65.1%であった。 (問題1B)

問題1Bは、人物が描かれた浮世絵を鑑賞して、人物の特徴を効果的に表現するための描き方を選択する内容であり、「ウ 単純化や強調」を正答としている。正答した生徒が65.1%で最も多かった。

【問題1】 1 B 解答類型ごとの反応率 通過率 65.1%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
1	アと解答しているもの (濃淡や筆の勢い)	17.6%
2	イと解答しているもの (拡大や明暗)	16.6%
◎3	ウと解答しているもの (単純化や強調)	65.1%
9	上記以外の解答	0.1%
0	無解答	0.6%

### ③ 分析・考察

- 絵を鑑賞するとき、形や色彩、光などの視点から、造形の効果などを意識してとらえることができるよう指導を工夫する。

問題1Aの通過率は77.6%であり、通過した生徒は、作品①の人物画は、陰影により立体感が表されていることを理解していると考えられる。

誤答では、「ア 背景」を選択した生徒(解答類型1)が10.3%であった。作品①は、背景の赤の使い方の工夫により人物が引き立っているが、背景の工夫により人物の立体感を表しているとはまでは言えない。また、「ウ 輪郭線」を選択した生徒(解答類型3)は11.5%であった。作品①は、部分的に輪郭線を生かして人物を引き立てているところもあるが、そのことにより人物の立体感を表しているとはまでは言えない。これらを選択した生徒は、背景や輪郭線に着目してしまい、立体感を表す描き方として、陰影の効果に着目することができなかつたと考えられる。

問題1Bの通過率は65.1%であり、通過した生徒は、作品②の人物画は、単純化や強調によって、人物の特徴が効果的に表現されていることを理解していると考えられる。

誤答では、「ア 濃淡や筆の勢い」を選択した生徒(解答類型1)が17.6%であった。色や明るさの違いを濃淡と理解してしまったり、輪郭や形を表す線から筆の勢いを感じたりしたことが考えられる。「イ 拡大や明暗」を選択した生徒(解答類型2)は16.6%であった。上半身を大きく描いていることを拡大、色の明るさの違いを明暗ととらえたことが考えられる。しかし、ア、イともに、それらにより人

物の特徴を効果的に表現していると言えない。これらを選択した生徒は、人物の特徴を効果的に表現する描き方として、単純化や強調することに注目することができなかったと考えられる。

問題1 A及びBにおいて非通過の生徒は、形や色彩、光などに着目し、絵から背景、陰影、輪郭線、濃淡、筆の勢い、拡大、明暗、単純化、強調などの描き方やその特徴を読み取ること、用語の意味の理解などができなかったと考えられる。

指導に当たっては、形や色彩、光などの視点から造形の効果などを意識してとらえること、陰影や濃淡などの用語について、表現や鑑賞を通してその効果を確かめながら理解をすることができるよう工夫することが大切である。

## 問題1 2

### ① 出題の概要

問題2は、2枚の絵を鑑賞し、共通する表現方法として浮世絵版画を選択する問題である。日本の美術を代表するものとして浮世絵版画を取り上げ、表現の特徴から、それらが浮世絵版画であることをとらえることができるかを把握できるように問題を設定した。出題に当たっては、選択肢の中に浮世絵とは明らかに表現方法が異なる水墨画を加え、浮世絵以外の日本の美術についても配慮した。

2 ②、③のカードは、表現方法が共通する作品として、花子さんが並べたものです。



②、③のような表現方法の作品を一般的に何といいますか。もっともよくあてはまるものを、次の【語群】の中から一つ選び記号で答えなさい。

【語群】

ア 水墨画    イ 水彩画    ウ 浮世絵版画    エ 紙版画

解答欄

### ② 調査結果の概要

- 2枚の絵の表現の特徴から共通する表現方法として、浮世絵版画を選択した生徒は72.4%であった。

問題2は、2枚の絵を鑑賞して、表現の特徴から共通する表現方法を選択する内容であり、「ウ 浮世絵版画」を正答としている。正答した生徒が72.4%で最も多かった。

【問題1 2 解答類型ごとの反応率】 通過率 72.4%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
1	アと解答しているもの（水墨画）	7.2%
2	イと解答しているもの（水彩画）	12.4%
◎3	ウと解答しているもの（浮世絵版画）	72.4%
4	エと解答しているもの（紙版画）	7.5%
9	上記以外の解答	0.0%
0	無解答	0.5%



### ③ 分析・考察

#### ○ 浮世絵版画などの日本の美術を代表する作品などを取り上げ、表現の特徴等をとらえることができるよう指導を工夫する。

問題2の通過率は72.4%であり、通過した生徒は、浮世絵版画の表現の特徴を理解していると考えられる。

誤答では、「ア 水墨画」、「エ 紙版画」を選択した生徒（解答類型1, 4）がそれぞれ7.2%, 7.5%であった。水墨画や紙版画は、色や線の表現などに浮世絵版画と明らかな違いが見られる。それにもかかわらず、これらを選択した生徒は、浮世絵版画だけでなく水墨画や紙版画の表現方法と用語を理解していないことが考えられる。また、「イ 水彩画」を選択した生徒（解答類型2）は12.4%であった。水彩画の表現では、浮世絵版画に似た描き方も可能である。これを選択した生徒は、浮世絵版画の表現方法そのものを理解していなかったと考えられる。非通過の生徒は、浮世絵版画の表現の特徴を読み取ることができなかつたり、浮世絵版画のことを知らなかつたりなど、浮世絵版画に対する理解が十分ではなかつたことが考えられる。

浮世絵版画は、西洋の印象派の画家たちにも影響を与え、日本の美術を代表するものであり、日本の美術の変遷を概括的にとらえたり、日本の美術文化を理解したりする上でも重要な内容であるといえる。

また、水墨画を選択した生徒は、水墨画の表現に対する理解も十分ではなかつたことが考えられるが、水墨画は、日本の美術作品に見られる代表的な表現の一つであり、浮世絵版画同様、日本の美術文化を理解したりする上でも重要な内容であるといえる。

指導に当たっては、浮世絵版画や水墨画などの日本の美術を代表する作品などを取り上げ、表現の特徴等をとらえ、日本の美術作品のよさを味わうことができるよう工夫することが大切である。



## 問題1 3

### ① 出題の概要

問題3(1)Aは、2枚の風景画(作品③と作品④)を鑑賞し、建物の描き方に着目して、線により遠近が表されていることを選択する[線遠近法]に関する問題である。問題3(1)Bは、2枚の風景画(作品⑤と作品⑥)を鑑賞し、遠景の描き方に着目して、かすむようにぼかして描くことで遠近が表されていることを選択する[空気遠近法]に関する問題である。

作品③と作品④を鑑賞する際には建物に、作品⑤と作品⑥を鑑賞する際には絵画の遠景の描き方に着目させることで、生徒が線遠近法や空気遠近法を知らなくても遠近の表し方に気付くように配慮した。また、日本の絵と西洋の絵を対にして取り上げ、一見作風が異なる作品の中にも共通点があることにも気付くように問題を設定した。

問題3(2)は、作品③と作品④に共通する遠近の表し方(線遠近法)と作品⑤と作品⑥に共通する遠近の表し方(空気遠近法)の両方の表し方がはっきり見られる作品を作品⑧から⑫の中から1枚選択する問題である。

建物や遠景が描かれているが線遠近法や空気遠近法がはっきりと見られない作品を選択肢として設けることにより、描かれている内容で選択するのではなく、それぞれの遠近法の特徴を正しく理解した上で選択しているかを把握できるように問題を設定した。

3 太郎さんは、風景が描かれた③、④、⑤、⑥の4枚のカードについて、風景の遠くや近くの表し方に注目しました。③と④、⑤と⑥が、それぞれ、表し方に共通点があると考えました。

- ・ ③と④の表し方は、「遠近の表し方Ⅰ」としました。
- ・ ⑤と⑥の表し方は、「遠近の表し方Ⅱ」としました。

次のメモは、太郎さんが気づいた「遠近の表し方Ⅰ」、「遠近の表し方Ⅱ」についてまとめたものです。

(1) 次の  A  B にもっともよくあてはまる言葉を下の【語群】から一つずつ選び記号で答えなさい。

(メモ)

《遠近の表し方Ⅰ》

③と④の作品は、建物の  A によって、遠近が表現されている。

【語群】

ア 色    イ 線    ウ 影    エ 材質

解答欄

A	
---	--

(メモ)

《遠近の表し方Ⅱ》

⑤と⑥の作品は、遠景を  B 描くことによって、遠近が表現されている。

【語群】

ア 見上げるように大きく  
イ 白く細かく  
ウ 明るくはっきりと  
エ かすむようにぼかして

解答欄

B	
---	--

(2) 「作品 a」には、1枚の絵に「遠近の表し方Ⅰ」、「遠近の表し方Ⅱ」の両方の表し方が、はっきりと見られる作品が入ります。その作品としてもっともよくあてはまるものを、「資料」の⑧から⑫のカードの中から1枚を選び、カードの番号を解答欄に書きなさい。

解答欄

--	--

## ② 調査結果の概要

- 2枚の風景画の共通する遠近の表し方として、建物の「線」によることを選択した生徒は71.3%であった。 (問題3(1)A)

問題3(1)Aは、2枚の風景画を鑑賞し、「建物の  A によって、遠近が表現されている。」という文中のAに最もよく当てはまる言葉を選択する内容であり、「イ 線」を正答として。正答した生徒が71.3%で最も多かった。

【問題1】 3 (1) A 解答類型ごとの反応率 通過率 71.3%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
1	アと解答しているもの (色)	17.1%
◎2	イと解答しているもの (線)	71.3%
3	ウと解答しているもの (影)	6.2%
4	エと解答しているもの (材質)	4.7%
9	上記以外の解答	0.1%
0	無解答	0.7%

- 2枚の風景画の共通する遠近の表し方として、遠景を「かすむようにぼかして」描くことを選択した生徒は87.6%であった。 (問題3(1)B)

問題3(1)Bは、2枚の風景画を鑑賞し、「遠景を B 描くことによって、遠近が表現されている。」という文中のBに最もよく当てはまる言葉を選択する内容であり、「エ かすむようにぼかして」を正答としている。正答した生徒が87.6%で最も多かった。

【問題1】 3 (1) B 解答類型ごとの反応率 通過率 87.6%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
1	アと解答しているもの (見上げるように大きく)	3.6%
2	イと解答しているもの (白く細かく)	3.7%
3	ウと解答しているもの (明るくはっきりと)	4.4%
◎4	エと解答しているもの (かすむようにぼかして)	87.6%
9	上記以外の解答	0.1%
0	無解答	0.6%

- 線遠近法と空気遠近法の両方の表し方がはっきり見られる作品である作品⑩を選択した生徒は85.7%であった。 (問題3(2))

問題3(2)は、作品③と作品④に共通する遠近の表し方(線遠近法)と作品⑤と作品⑥に共通する遠近の表し方(空気遠近法)の両方がはっきりと見られる作品を選択する内容であり、作品⑩を正答としている。正答した生徒が85.7%で最も多かった。

【問題1】 3 (2) 解答類型ごとの反応率 通過率 85.7%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
1	作品⑧と解答しているもの	8.0%
2	作品⑨と解答しているもの	1.8%
◎3	作品⑩と解答しているもの	85.7%
4	作品⑪と解答しているもの	1.8%
5	作品⑫と解答しているもの	1.4%
9	上記以外の解答	0.4%
0	無解答	0.9%

〔生徒質問紙調査との関連について〕

- 建物などの線により遠近を表す方法を調査以前から知っていたと回答した生徒は知らなかったと回答した生徒より、線遠近法に関する問題における通過率が23.7ポイント高かった。

問題3(1)Aと生徒質問紙調査との関連を見ると、建物などの線により遠近を表す方法を調査以前から知っていましたかという質問（質問3-1(1)）に対して「知っていた」と回答（「よく知っていた」又は「ある程度知っていた」）をした生徒のうち、線遠近法に関する問題である問題3(1)Aを通過した生徒は80.2%であったが、「知らなかった」と回答（「知らなかった」又は「あまり知らなかった」）をした生徒のうち問題3(1)Aを通過した生徒は56.5%であり、その差は23.7ポイントであった。

【問題3(1)A】

		問題3(1)A	
		通過	非通過
質問3 1(1)	知っていた(2,148人)	80.2%(1,722人)	19.8%(426人)
	知らなかった(1,028人)	56.5%(581人)	43.5%(447人)

注) 質問3-1(1)に対する無回答等を除く

- 遠くをかすむようにぼかして描くことにより遠近を表す方法を調査以前から知っていたと回答した生徒は知らなかったと回答した生徒より、空気遠近法に関する問題における通過率が9.6ポイント高かった。

問題3(1)Bと生徒質問紙調査との関連を見ると、遠くをかすむようにぼかして描くことにより遠近を表す方法を調査以前から知っていましたかという質問（質問3-1(3)）に対して「知っていた」と回答（「よく知っていた」又は「ある程度知っていた」）をした生徒のうち、問題3(1)Bを通過した生徒は91.9%であったが、「知らなかった」と回答（「知らなかった」又は「あまり知らなかった」）をした生徒のうち問題3(1)Bを通過した生徒は82.4%であり、その差は9.6ポイントであった。

【問題3(1)B】

		問題3(1)B	
		通過	非通過
質問3 1(3)	知っていた(1,950人)	91.9%(1,793人)	8.1%(157人)
	知らなかった(1,243人)	82.4%(1,024人)	17.6%(219人)

注) 質問3-1(3)に対する無回答等を除く

### ③ 分析・考察

#### ○ 遠近の表し方やその効果などを意識してとらえたり、自分の表現に生かしたりするなどして、実感を伴った理解ができるよう指導を工夫する。

問題 3 (1) A の通過率は 71.3% であり、通過した生徒は、作品③と作品④が建物の線により遠近が表されていることを理解していると考えられる。

誤答では、「ア 色」を選択した生徒（解答類型 1）が 17.1% であった。作品③では近景の人物に比べ遠景の建物は色が暗くなっているという違いによって遠近が表されているととらえたことなどが考えられるが、そのことは作品④には該当しない。

問題 3 (1) B の通過率は 87.6% であり、通過した生徒は、作品⑤と作品⑥が遠くをかすむようにぼかして描くことで遠近が表されていることを理解していると考えられる。

誤答では、「ウ 明るくはっきりと」を選択した生徒（解答類型 3）が 4.4% であった。2 枚の作品は、遠景が明るいことをとらえたと考えられるが、はっきりとは描かれていない。

問題 3 (1) A 又は B において非通過の生徒は、遠近の表現を、線や遠景をかすむようにぼかして描かれていることに着目してとらえることができなかつたと考えられる。また、線遠近法に関する問題 3 (1) A と空気遠近法に関する問題 3 (1) B の通過率を比較すると、線遠近法の方が通過率が低かつた。

生徒質問紙調査との関連では、建物などの線により遠近を表す方法を調査以前から知っていたと回答をした生徒は、知らなかつたと回答をした生徒よりも問題 3 (1) A の通過率が 23.7ポイント高かつた。一方、遠くをかすむようにぼかして描くことにより遠近を表す方法を調査以前から知っていたと回答をした生徒は、知らなかつたと回答をした生徒よりも問題 3 (1) B の通過率が 9.6ポイント高かつた。線遠近法と空気遠近法について、調査以前から知っていたと回答をした生徒と知らなかつたと回答をした生徒の問題の通過率の差を比較すると、線遠近法の方が大きかつた。

建物などの線により遠近を表す方法を調査以前から知っていたと回答しているにもかかわらず、正しく選択できなかつた生徒は 19.8% であつた。これらの生徒の中には、線遠近法に関する知識はあるが、実際の絵から読み取ることができなかつた者もいたと考えられる。

問題 3 (2) の通過率は 85.7% であつた。しかし、問題 3 (1) A 及び B を通過し、かつ、(2) を通過した生徒は 59.7% であり、これらの生徒は、線遠近法及び空気遠近法を理解し、絵からも読み取っていると考えられる。一方、問題 3 (1) A と B のいずれか又は両方が非通過であり、かつ、(2) を通過した生徒は 26.0% であつた。これらの生徒は、絵の線や、遠景をかすむようにぼかして描くことにより遠近が表されていることをはっきりととらえているとまでは言えない。

遠近の表し方は、風景画等の表現の重要な要素の一つであるので、これを理解す

ることは、絵から作者の意図や表現の工夫を感じ取ったり、自分の表現を深めたりする上で重要である。

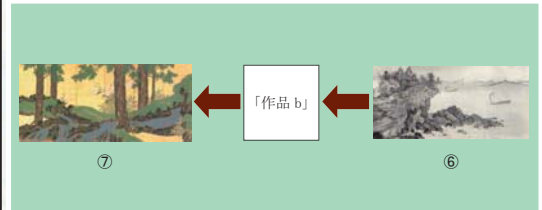
指導に当たっては、遠近が効果的に表現されている絵などを鑑賞して遠近の表し方やその効果を意識してとらえたり、遠近の表し方を自分の表現に生かしたりするなどして、実感を伴った理解ができるよう工夫することが大切である。

問題1 4

① 出題の概要


問題4は、水墨画の作品⑥、金箔を貼り屏風に表された作品⑦を鑑賞し、それぞれの作品と共通する表現方法が見られる作品を、作品⑧から⑫の中から1枚選択し、選択した作品と作品⑥との表現方法の共通点、作品⑦との表現方法の共通点を記述する問題である。金箔を貼り屏風に表されているが水墨画ではない作品、「木」、「海」、「船」などの描かれている内容が共通している作品を選択肢として設けることにより、表現方法の特性等を正しく理解しているかを把握できるように問題を設定した。

4 太郎さんは、表現方法の共通点に注目して、⑥のカードの隣に「作品b」のカードを並べ、さらにその隣に⑦のカードを並べました。  
 「作品b」のカードとしてもっともよくあてはまるものを、「資料」の⑧から⑫のカードの中から1枚選び、カードの番号を解答欄に書きなさい。  
 また、⑥の作品と「作品b」との共通点と、「作品b」と⑦の作品との共通点を、それぞれ説明しなさい。




解 答 欄	「作品b」	
	⑥の作品と「作品b」との共通点	
	「作品b」と⑦の作品との共通点	


【使用作品】




カード⑧  
(ワ・グルズイェール)



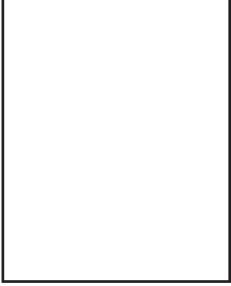
カード⑨  
(竹梅図屏風)



カード⑩  
(ルーブル宮殿グランドギャラリーの計画案)



カード⑪  
(南蛮屏風) (部分)



カード⑫  
(糸杉)



## ② 調査結果の概要

- 水墨画の作品⑥，金箔を貼り屏風に表された作品⑦の両方の作品の表現方法が見られる作品を選択し，かつ，選択した作品と作品⑥，作品⑦との表現方法の共通点をそれぞれ記述した生徒は，9.4%であった。

問題4は，作品⑥と作品⑦を鑑賞し，それぞれの作品と共通する表現方法が見られる作品を選択し，共通点を記述する内容である。作品⑥には水墨画と空気遠近法の特徴が見られる。同じ表現方法が見られる作品は，水墨画の作品⑨，空気遠近法の特徴が見られる作品⑧と作品⑩である。また，作品⑦は金箔を貼り屏風に表された作品である。同じ表現方法が見られる作品は，作品⑨と作品⑪である。したがって，作品⑥，⑦のそれぞれの作品と共通する表現方法が見られる作品⑨を選択し，作品⑥との共通点として水墨画の視点で，作品⑦との共通点として金箔や屏風の視点で記述しているもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が9.4%であった。

### <作品に見られる表現方法の整理>

	作品に見られる 表現方法	作品				
		⑨	⑧	⑩	⑪	⑫
作品⑥	水墨画	○				
	空気遠近法		○	○		
作品⑦	金箔や屏風	○			○	

### 【問題1】 4 解答類型ごとの反応率

通過率 9.4%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	作品	⑥との共通点		⑦との 共通点	反応率
			水墨画	空気 遠近法	金箔又は 屏風	
◎1	作品⑨を選択し，作品⑥及び作品⑦の両方との表現方法の共通点を記述しているもの	⑨	○		○	9.4%
2	作品⑧，⑨，⑩のいずれかを選択し，作品⑥との表現方法の共通点は記述しているが，作品⑦との表現方法の共通点は記述していないもの	⑨ ⑧，⑩	○		×	22.9%
3	作品⑨又は作品⑪を選択し，作品⑦との表現方法の共通点は記述しているが，作品⑥との表現方法の共通点は記述していないもの	⑨，⑪		×	○	12.6%
9	上記以外の解答					47.9%
0	無解答					7.2%



◇ 作品⑥, 作品⑦ごとの調査結果の概要について

<作品⑥との表現方法の共通点について>

- ・ 作品⑥と共通する表現方法が見られる作品を選択し、共通点として水墨画又は空気遠近法の視点で記述した生徒は32.3%であった。

水墨画と空気遠近法の特徴が見られる作品⑥と同じ表現方法が見られる作品は、水墨画の作品⑨、空気遠近法の特徴が見られる作品⑧と作品⑩である。作品⑨を選択し、共通点として、水墨画、墨一色で描かれているなど、水墨画の視点で記述した生徒は21.5%、作品⑧又は作品⑩を選択し、遠くになるにつれてぼかしているなど、空気遠近法の視点で記述した生徒は、10.8%であった。そして、これらを合計したもの、つまり、作品⑥と表現方法が共通する作品を選択し、表現方法の共通点を記述した生徒は32.3%であった。一方、作品⑥と作品⑪の両方の作品に船が描かれているなど、作品⑥と表現方法以外の共通点がある作品を選択し、その共通点を記述した生徒は18.2%であった。また、単純化など、作品⑥では使われていない表現方法を記述したものは21.6%であった。

<作品⑥との表現方法の共通点についての反応率>

生徒の解答の分類		反応率	
表現方法が共通する作品を選択し、その共通点を記述	作品⑨を選択し、表現方法の共通点として「水墨画」の視点で記述	21.5%	計 32.3%
	作品⑧を選択し、表現方法の共通点として「空気遠近法」の視点で記述	9.2%	
	作品⑩を選択し、表現方法の共通点として「空気遠近法」の視点で記述	1.6%	
作品⑧～作品⑫のいずれかを選択し、表現方法以外の共通点を記述		18.2%	
作品⑧～作品⑫のいずれかを選択し、共通点として表現方法を述べているが、誤った記述		21.6%	
上記以外		20.7%	
無解答		7.2%	

<作品⑦との表現方法の共通点について>

- ・ 作品⑦と共通する表現方法が見られる作品を選択し、共通点として金箔又は屏風などの視点で記述した生徒は22.1%であった。

金箔を貼り屏風に表された作品⑦と同じ表現方法が見られる作品は、作品⑨と作品⑪である。作品⑨又は作品⑪を選択し、金箔、金色の背景、背景の色、余白、屏風など、金箔や屏風の視点で記述した生徒は22.1%であった。一方、作品⑦と作品⑫の作品の両方に木が描かれているなど、作品⑦と表現

方法以外の共通点がある作品を選択し、その共通点を記述した生徒は30.9%であった。また、作品⑦では使われていない表現方法を記述した生徒は18.0%であった。

＜作品⑦との表現方法の共通点についての反応率＞

生徒の解答の分類		反応率	
表現方法が共通する作品を選択し、その共通点を記述	作品⑨を選択し、表現方法の共通点として「金箔」の視点で記述	9.2%	計 22.1%
	作品⑨を選択し、表現方法の共通点として「屏風」の視点で記述	6.0%	
	作品⑩を選択し、表現方法の共通点として「金箔」の視点で記述	3.9%	
	作品⑩を選択し、表現方法の共通点として「屏風」の視点で記述	2.9%	
作品⑧～作品⑫のいずれかを選択し、表現方法以外の共通点を記述		30.9%	
作品⑧～作品⑫のいずれかを選択し、共通点として表現方法を述べているが、誤った記述		18.0%	
上記以外		21.9%	
無解答		7.2%	

③ 分析・考察

○ 日本の代表的な表現方法で描かれた美術作品などを表現方法に着目して鑑賞することにより、そのよさや効果をとらえることができるよう指導を工夫する。

問題4の通過率は9.4%であり、通過した生徒は、日本の美術作品に見られる水墨画や金箔などの表現方法の特性等を理解し、作品から読み取ることができると考えられる。

誤答では、作品⑥と作品⑦の両方とも表現方法の共通点を記述していない生徒（解答類型9，0）が55.0%、いずれか片方は、共通する表現方法を記述した生徒（解答類型2，3）が35.6%であった。また、表現方法の共通点のうち、水墨画の視点で記述した生徒が21.5%であり、表現方法を記述したものの中では最も割合が高く、特徴がとらえやすかったと考えられる。また、木などの描かれている表現の内容など、表現方法以外の共通点を記述した生徒が、作品⑥では18.2%、作品⑦では30.9%であることから、表現方法という用語の意味の理解が不十分な生徒もいたと考えられる。

問題4では、まず作品⑥及び作品⑦のそれぞれからそこに見られる表現方法を読

み取る力が必要である。次に読み取ったいくつかの表現方法の視点で作品⑧から作品⑫を鑑賞し、作品⑥と作品⑦のそれぞれに見られる表現方法を一つずつ限定しながら、それらが見られる作品を見つけ出す力が求められる。このような力を育成するには、様々な表現方法で描かれた作品を取り上げ、表現方法に着目して鑑賞をし、そのよさや効果を実感するような学習経験が大切である。

また、日本の美術に見られる表現方法には、水墨画のように墨の濃淡や筆の勢いによる表現、金箔などを貼った装飾的な表現、また、屏風絵のように住生活等と関連した表現などがある。これらの表現は、その時代の人々の美意識や願い、生活の様式などを背景にしており、それらについて学ぶことは、日本の美術や文化を理解することにつながる。

指導に当たっては、日本の代表的な表現方法で描かれた美術作品などについて、表現内容だけでなく表現方法にも着目して鑑賞することにより、そのよさや効果をとらえ、作品について理解を深めることができるよう工夫することが大切である。

# 問題1 5

## ① 出題の概要

問題5は、ゴッホの作品「医師ガシェの肖像」を鑑賞し、筆遣いや特徴のある線の描き方などの作風に着目して表現の共通点が見られる同一作者の作品と表現方法の共通点を選択する問題である。

絵の内容の共通点として人物画、描画材料の共通点として油絵などを選択肢として設けることにより、線の描き方などの表現の共通点に着目して選択しているかを把握できるように問題を設定した。

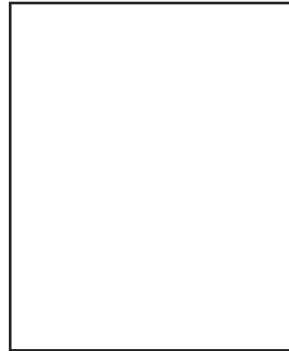
5 次郎さんは、作者の表現の特徴に興味を持ち、カード以外の絵を調べました。次郎さんは、下に示した人物が描かれている絵を見つけ、この絵とカードの中の1枚の絵は作風がよく似ており表現の共通点が見られることから、同じ作者が描いたのではないかと考えました。

この絵と同じ作者が描いたと考えられる絵としてもっともよくあてはまるものを、「資料」のカードの中から1枚選び、カードの番号を解答欄に書きなさい。

また、2枚の絵の表現方法の共通点が述べられている文として適切なものを、次の【共通点】の中から二つ選び、記号で答えなさい。

【共通点】

- ア 背景の描き方に特徴がある。
- イ ぐねぐねと曲がっている線に特徴がある。
- ウ 筆あとを残した描き方に特徴がある。
- エ 青色と赤色の使い方に特徴がある。

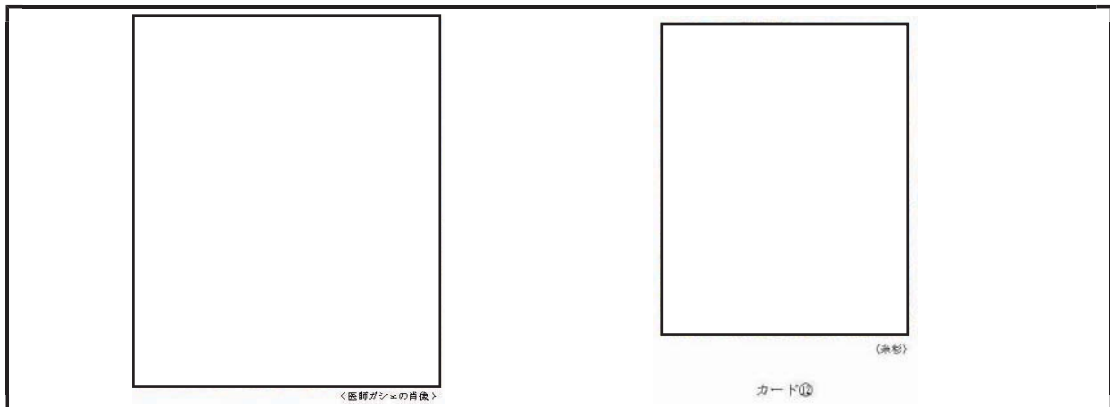


〈医師ガシェの肖像〉

解答欄	カード	
	共通点	.....

## ② 調査結果の概要

- 「医師ガシェの肖像」と同一作者の作品である作品⑫を選択し、線の描き方などの表現方法の共通点を正しく選択した生徒は56.8%であった。



問題5は、絵を鑑賞し、作風に着目して表現方法の共通点が見られる同一作者の作品と表現方法の共通点を選択する内容であり、「医師ガシェの肖像」と同一作者の作品⑫を選択し、表現方法の共通点として「イ ぐねぐねと曲がっている線に特徴がある」と「ウ 筆あとを残した描き方に特徴がある」の2つを選択したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が56.8%で最も多かった。

なお、作品⑫を選択した生徒（解答類型1～6）は86.7%であった。

**【問題1】 5 解答類型ごとの反応率** 通過率 56.8%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	作品を「⑫」、共通点を「イ」、「ウ」と解答しているもの	56.8%
2	作品を「⑫」、共通点を「ア」、「イ」と解答しているもの	23.6%
3	作品を「⑫」、共通点を「ア」、「ウ」と解答しているもの	2.8%
4	作品を「⑫」、共通点の一方を「イ」、もう一方を「ア」、「ウ」以外と解答しているもの	3.2%
5	作品を「⑫」、共通点の一方を「ウ」、もう一方を「ア」、「イ」以外と解答しているもの	0.2%
6	作品を「⑫」、共通点を「イ」、「ウ」以外と解答しているもの	0.2%
7	作品を「⑫」以外、共通点の一方を「イ」、もう一方を「ウ」以外と解答しているもの	3.3%
8	作品を「⑫」以外、共通点の一方を「ウ」、もう一方を「イ」以外と解答しているもの	3.5%
9	上記以外の解答	4.5%
0	無解答	2.1%

### ③ 分析・考察

#### ○ 絵を鑑賞するとき、線の描き方などの作風に着目し、その特徴や効果をとらえることができるよう指導を工夫する。

問題5の通過率は56.8%であり、通過した生徒は、筆遣いや特徴のある線の描き方に気付いていると考えられる。

誤答では、作品⑫を選択し、共通点としてアとイを選択した生徒（解答類型2）が23.6%であった。これらの生徒の中には、背景の筆あとなどに着目して、背景の描き方を選択した者もいたと思われるが、部分に着目し全体をとらえることができていなかったと考えられる。

また、作品⑫を選択し、「イ ぐねぐねと曲がっている線に特徴がある」を選択した生徒（解答類型1, 2, 4）が83.6%であったのに対し、作品⑫を選択し、「ウ 筆あとを残した描き方に特徴がある」を選択した生徒（解答類型1, 3,

5) は59.8%であった。絵を見るとき線は意識してとらえやすいが、筆あととは意識しにくく、筆あとを残した描き方の特徴をとらえることに課題があると考えられる。

このような筆あとなどの描き方の特徴をとらえることは作品のイメージ等を感じ取る上で重要である。例えば、線や筆あとを強く残した表現からは激しさや力強さを感じたり、点描や色をにじませたような表現からは柔らかさや温かさなどを感じたりすることがある。

指導に当たっては、絵を鑑賞するとき、線の描き方や筆あとなどの作風に着目し、その特徴や効果をとらえることができるよう工夫することが大切である。

#### (4) 分析結果から見た指導の改善

**多様な表現方法に触れ、その効果などを感じ取りながら作品の理解を深めることができるよう指導を工夫することが大切である。**

美術作品に見られる様々な表現方法は、人類が長い歴史の中で継承と創造を繰り返して確立してきたものである。これらの表現方法に関心を持ち、特性等について理解することは、美術作品からよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り味わうために大切なことである。

指導に当たっては、多様な表現方法に触れ、その効果などを感じ取りながら作品の理解を深めることができるよう工夫することが大切である。

絵の表現方法等には、陰影による写実的な立体感の表し方、単純化や強調による人物の特徴の表現、線遠近法、空気遠近法、水墨画のように単色の濃淡による表現、余白の表現、金や銀の箔を貼ったりするなどの表現がある。また、屏風絵や絵巻物などのように画面の形や見せ方に特色がある表現もある。さらに、線や筆あとの表現など、作者独自の描き方などもある。問題①では、これらの表現方法を取り上げ、その特性等をとらえ理解できるかを設問としたが、これらは表現方法のいくつかの例である。表現方法は作者の個性が反映されたものだけでなく、その時代の人々の美意識や願い、生活様式などの影響を受けたものもあり、美術文化を理解する上での重要な視点の一つでもある。

絵を幅広い視点で豊かに鑑賞するためには、絵に描かれている内容だけでなく、表現方法に興味・関心を持ち、これらの表現方法の効果や、そこに見られる作品が制作された背景などをとらえることが大切である。そのためには、特定の表現方法が特徴的に見られる美術作品を取り上げて他の作品と比較したり、それらの表現方法を使って描いたりすることが考えられる。また、他の生徒が描いた作品から表現意図と表現方法の工夫について話し合ったりすることも考えられる。指導する際には、特定の表現方法に偏ったり、知識を単に理解したりするのではなく、実感を伴った理解ができるよう留意する必要がある。さらに、一つの作品に複数の表現方法が見られる作品を鑑賞し、それらがどのような効果を生み出しているのかなどについてとらえることも大切である。

## 問題2

生活の中の工芸品などを鑑賞し、自然のよさや美しさが具体的に生かされている点とその効果について理解できるかを問う。

### (1) 出題の趣旨

美術作品に生かされた自然のよさや美しさなどを豊かに感じ取るためには、自然や生活と美術とのかかわりを理解し、美術作品に装飾として取り入れられている自然、素材として取り入れられている自然などの視点から、作品を鑑賞することが大切である。

問題2では、生活の中の工芸品など(以下、「作品」という。)を鑑賞し、装飾、素材の視点から自然が生かされている点とその効果について理解できるかを調査した。

これは、学習指導要領第2学年及び第3学年のB鑑賞オに関する内容である。

### (2) 問題2の構成・内容

問題番号	出題のねらい	出題の概要	学習指導要領との関連
①	装飾、素材の視点から、自然が生かされている点とその効果について理解できるかを把握する。	植物の具体的な色や形を装飾として取り入れた作品と他の作品を比較し、自然のよさや美しさが具体的に生かされている点とその効果を記述する。	第2学年及び第3学年 B鑑賞オ
②		竹や木を素材として取り入れた作品と他の作品を比較し、自然のよさや美しさが具体的に生かされている点とその効果を記述する。	



### (3) 調査問題と結果の概要

#### 【調査問題 問題2】

2

次の文は、花子さんと太郎さんが、資料A及び資料①、資料②を見たときの会話です。これを読んで、問いに答えなさい。



花子

身の回りには、人々が自然を見てその美しさを味わったり、手に触れて温かさを感じたりして、いろいろな方法で生活の中に、自然のよさや美しさを生かしてきたものがたくさんあるんだね。



太郎

資料①と資料②を見ると、それぞれ違った視点で、自然のよさや美しさが美術や工芸に生かされているね。



花子

資料Aは魅力的な製品だけど、自然という視点で見ると、資料①、資料②のような生かされ方はしていないね。



太郎

資料Aと比べると、資料①、資料②との違いが分かるね。

#### 〈資料A〉





〈資料①〉



〈資料②〉



資料①、資料②は、それぞれどのように自然のよさや美しさが活かされていますか。具体的に活かされている点とその効果について、資料Aとの違いに着目して説明しなさい。

解 答 欄	資料 ①	〈活かされている点〉
		〈効果〉
	資料 ②	〈活かされている点〉
		〈効果〉

## ① 出題の概要

問題②①では、植物の具体的な色や形を装飾として取り入れた作品と他の作品を比較し、自然のよさや美しさが具体的に生かされている点とその効果を記述する問題である。問題②②では、竹や木を素材として取り入れた作品と他の作品を比較し、自然のよさや美しさが具体的に生かされている点とその効果を記述する問題である。使用した作品（資料A、資料①及び資料②）は、特定の地域や産地に限定される伝統工芸品や著名な作者の作品などの使用を避けて、一般的な作品とし、生活の中で使う身近なものの中に自然のよさや美しさが具体的に生かされていることに気付くように問題を設定した。

2	<p>次の文は、花子さんと太郎さんが、資料A及び資料①、資料②を見たときの会話です。これを読んで、問いに答えなさい。</p> <div style="margin-top: 10px;"> <p> 身の回りには、人々が自然を見てその美しさを味わったり、手に触れて温かさを感じたりして、いろいろな方法で生活の中に、自然のよさや美しさを生かしてきたものがたくさんあるんだね。</p> <p> 資料①と資料②を見ると、それぞれ違った視点で、自然のよさや美しさが美術や工芸に生かされているね。</p> <p> 資料Aは魅力的な製品だけど、自然という視点で見ると、資料①、資料②のような生かされ方はしていないね。</p> <p> 資料Aと比べると、資料①、資料②との違いが分かるね。</p> </div>	<div style="margin-bottom: 10px;"> <p>〈資料①〉</p>  </div> <div> <p>〈資料②〉</p>  </div>									
		<p>資料①、資料②は、それぞれどのように自然のよさや美しさが生かされていますか。具体的に生かされている点とその効果について、<b>資料Aとの違い</b>に着目して説明しなさい。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">解 答 欄</td> <td style="text-align: center;">資料①</td> <td>〈生かされている点〉</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〈効果〉</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">資料②</td> <td>〈生かされている点〉</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〈効果〉</td> </tr> </table>	解 答 欄	資料①	〈生かされている点〉		〈効果〉	資料②	〈生かされている点〉		〈効果〉
解 答 欄	資料①	〈生かされている点〉									
		〈効果〉									
	資料②	〈生かされている点〉									
		〈効果〉									
	<p>〈資料A〉</p> 										

## ② 調査結果の概要

- 自然の色や形を装飾として取り入れた作品と他の作品を比較し、装飾の視点で自然を生かしていることと、自然を生かした効果の両方を適切に記述した生徒は50.6%であった。 (問題2①)

問題2①は、自然の色や形を装飾として取り入れた作品と他の作品を比較し、自然のよさや美しさが具体的に生かされている点とその効果を記述する内容である。装飾の視点で自然を生かしていることと、自然を生かした効果の両方を適切に記述したもの（解答類型1）を正答としている。正答した生徒が50.6%で最も多かった。

### 【問題2 ① 解答類型ごとの反応率】 通過率 50.6%

類型番号	解答類型 (◎：正答)	反応率
◎1	2つの作品について、装飾の視点で自然を生かしていることと、自然を生かした効果の両方を適切に記述しているもの	50.6%
2	2つの作品について、装飾の視点で自然を生かしていることは適切に記述しているが、自然を生かした効果については適切に記述していないもの	8.5%
3	片方の作品について、装飾の視点で自然を生かしていることと、自然を生かした効果の両方を適切に記述しているもの	7.9%
4	片方の作品について、装飾の視点で自然を生かしていることを適切に記述しているが、自然を生かした効果については適切に記述していないもの	2.6%
5	作品に自然を取り入れていることは記述しているもの	4.0%
9	上記以外の解答	14.4%
0	無解答	12.0%

### 【問題2 ① 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例	
	生かされている点	効果
◎1	皿は桜の形と色が、湯飲みにはぶどうの絵が取り入れられている。	美しさを感じ、心が和む。
2	桜の花の形やブドウの絵が取り入れられている。	使いやすい。
3	桜の形と色を使っている。	花びらの色にすることで料理がおいしそうに見える。
4	ブドウの絵が描かれている。	一色で描かれていて上手い。
5	植物がとりいれられている。	自然がとりいれられている。

- 竹や木を素材として取り入れた作品と他の作品を比較し、素材の視点で自然を生かしていることと、自然を生かした効果の両方を適切に記述した生徒は60.6%であった。  
(問題2②)

問題2②は、竹や木を素材として取り入れた作品と他の作品を比較し、自然のよさや美しさが具体的に生かされている点とその効果を記述する内容である。素材の視点で自然を生かしていることと、自然を生かした効果の両方を適切に記述したものの(解答類型1, 2)を通過としている。通過した生徒は60.6%であった。そのうち、自然を生かした効果について、素材から感じられる効果を適切に記述したものの(解答類型1)を正答としており、26.9%、素材以外の効果を適切に記述したものの(解答類型2)を準正答としており、33.8%であった。

【問題2 ② 解答類型ごとの反応率】 通過率 60.6%

類型番号	解答類型 (◎: 正答 ○: 準正答)	反応率
◎1	2つの作品について、素材の視点で自然を生かしていることと、素材から感じられる効果の両方を適切に記述しているもの	26.9%
○2	2つの作品について、素材の視点で自然を生かしていることと、素材から感じられるものではない自然を生かした効果の両方を適切に記述しているもの	33.8%
3	2つの作品について、素材の視点で自然を生かしていることを適切に記述しているが、自然を生かした効果については適切に記述していないもの	13.3%
4	片方の作品について、素材の視点で自然を生かしていることと、素材から感じられる効果の両方を適切に記述しているもの	0.0%
5	片方の作品について、素材の視点で自然を生かしていることと、素材から感じられるものではない自然を生かした効果の両方を適切に記述しているもの	0.3%
6	片方の作品について、素材の視点で自然を生かしていることを適切に記述しているが、自然を生かした効果については適切に記述していないもの	0.1%
7	作品に自然を取り入れていることと、素材から感じられる効果を適切に記述しているもの	0.3%
8	作品に自然を取り入れていることは記述しているもの	1.4%
9	上記以外の解答	11.4%
0	無解答	12.5%

【問題2 ② 解答類型ごとの解答例】

類型番号	解答例	
	生かされている点	効果
◎1	木や竹の自然の材料を使っている。	木の香りがして落ち着く。
○2	素材そのものが生かされている。	気分が落ち着く。
3	木や竹でつくられている。	(記述なし)

〔生徒質問紙調査との関連について〕

- 身の回りで使っている物の中に、自然のよさや美しさを感じることがあると回答した生徒は、ないと回答した生徒より、自然を生かした作品と他の作品を比較して、装飾や素材の視点から、自然が生かされている点とその効果について記述する問題における通過率が高かった。

問題2と生徒質問紙調査との関連を見ると、「身の回りで使っている物の中に、自然のよさや美しさを感じることがありますか。」（質問3 2(1)）に対して「ある」と回答（「ある」又は「どちらかといえばある」）をした生徒のうち問題2①を通過した生徒は54.0%であったが、「ない」と回答（「ない」又は「どちらかといえばない」）をした生徒のうち問題2①を通過した生徒は45.3%であり、その差は8.7ポイントであった。さらに、同質問について「ある」と回答をした生徒のうち問題2②を通過した生徒は65.4%であったが、「ない」と回答をした生徒のうち問題2②を通過した生徒は52.9%であり、その差は12.4ポイントであった。これらことから、身の回りで使っている物の中に、自然のよさや美しさを感じることがあると回答をした生徒は、ないと回答をした生徒より、自然を生かした作品と他の作品を比較して、装飾や素材の視点から、自然が生かされている点とその効果をとらえることができる傾向が見られる。

【問題2】

		問題2①		問題2②	
		通過	非通過	通過	非通過
質問3 2(1)	ある (2,179人)	54.0% (1,177人)	46.0% (1,002人)	65.4% (1,424人)	34.6% (755人)
	ない (1,113人)	45.3% (504人)	54.7% (609人)	52.9% (589人)	47.1% (524人)

注) 質問3 2(1)に対する無回答等を除く

③ 分析・考察

- 装飾、素材の視点から、自然が美術作品に生かされている点とその効果について、作品にじかに触れるなどして、実感を伴って理解を深める指導が大切である。

問題2①の通過率は、50.6%であり、通過した生徒は、装飾の視点で自然を生かしていることとその効果をとらえることができると考えられる。また、正答、誤答を含めて、装飾の視点で記述した生徒(解答類型1～4)が69.6%であり、これらの

生徒は、装飾の視点から見ることができたと考えられる。誤答では、2つの作品について、装飾の視点で自然を生かしていることは適切に記述しているが、その効果を適切に記述していない生徒（解答類型2）が8.5%であった。

問題2②の通過率は、60.6%であり、通過した生徒は、素材の視点で自然を生かしていることと、自然を生かした効果をとらえることができると考えられる。また、正答、誤答を含めて、素材の視点で記述した生徒（解答類型1～7）が74.7%であり、これらの生徒は、素材の視点から見ることができたと考えられる。誤答では、2つの作品について、素材の視点で自然を生かしていることは適切に記述しているが、自然を生かした効果を適切に記述していない生徒（解答類型3）が13.3%いた。

誤答の生徒のうち、装飾や素材の視点で記述した者の中には、自然を作品に生かしている点については気付いているが、その効果として、「壊れにくい」や「使いやすい」など、自然を作品に生かしたことによる効果以外の効果を記述している例が見られた。

これらのことから、装飾や素材の視点から、作品に自然を生かしていることの効果を意識してとらえることに課題があると考えられる。

さらに、問題2②では、自然を作品に生かしていることとその効果の両方について素材の視点から記述していた生徒（解答類型1）は26.9%であり、自然を作品に生かしていることは素材の視点から記述しているが、効果については素材から感じられるもの以外を記述していた生徒（解答類型2）は33.8%であった。

また、生徒質問紙調査との関連では、身の回りで使っている物の中に、自然のよさや美しさを感じるがあると回答をした生徒は、ないと回答をした生徒より、自然を生かした作品と他の作品を比較して装飾や素材の視点から、自然が生かされている点とその効果について記述する問題の通過率が高かった。

指導に当たっては、装飾や素材の視点から、美術作品に自然が生かされている点とその効果について、作品にじかに触れるなどして、実感を伴って理解を深めることができるよう工夫することが大切である。

#### (4) 分析結果から見た指導の改善

**自然の中に見られる美の秩序や造形の要素などを見だし、それらが美術作品や生活の中の造形にどのように表現されているかについて、具体的な視点をもって感じ取ることができるよう指導を工夫することが大切である。**

美術作品に生かされた自然のよさや美しさなどを豊かに感じ取るためには、装飾、素材などの視点から、作品を鑑賞することが大切である。

自然は造形の発想の素材となるものであり、人々は自然の動植物や風景を生活用具や装飾、芸術作品などに取り入れてきた。特に日本の伝統的な美術は、自然との共存を基盤としつつ、そこからよさや美しさを見だし表現してきたものが多く見られる。



日本の美術や文化を理解する上で、自然や生活と美術とのかかわりを学習することは、重要であると言える。自然と人間とのかかわりや自然に対する人々の願い、自然の持つ生命力をどのように表現しているかなど、多様な視点から鑑賞を深めていくことが重要である。

指導に当たっては、自然の中に見られる美の秩序や造形の要素などを見だし、それらが美術作品や生活の中の造形にどのように表現されているのかについて、装飾や素材などの具体的な視点をもって感じ取ることができるよう工夫することが大切である。

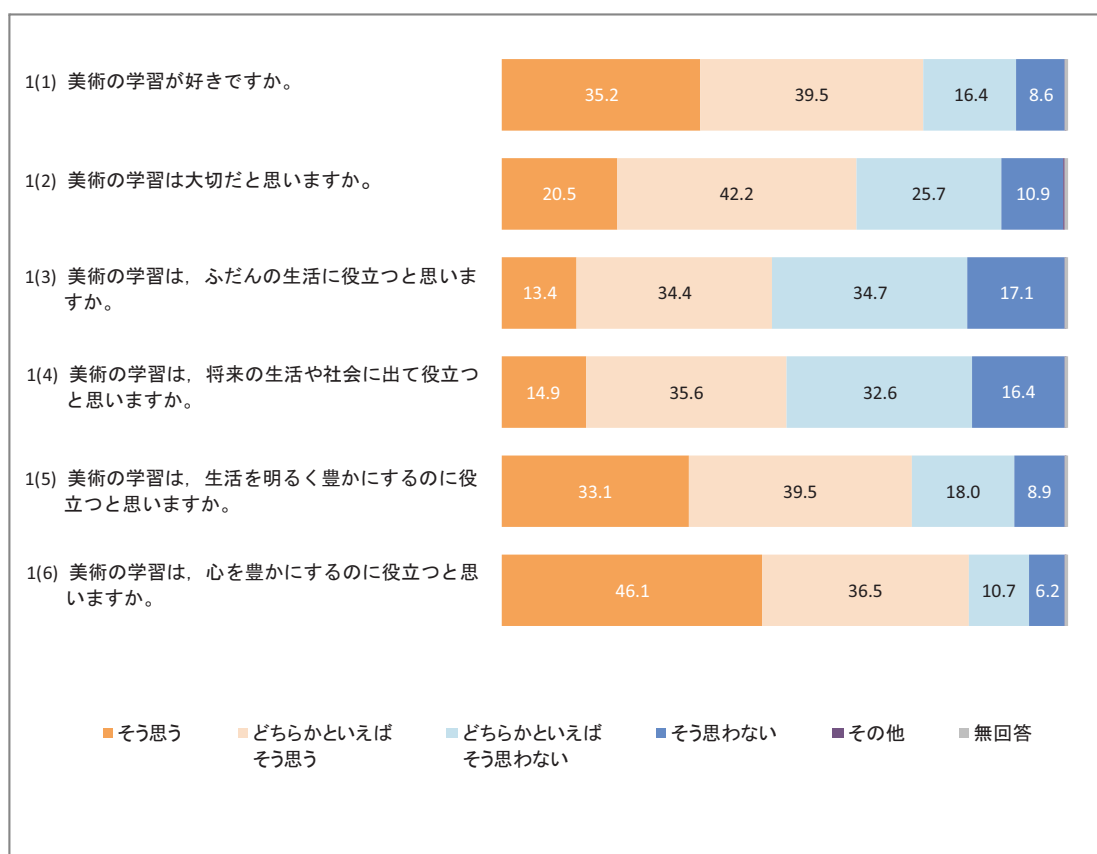
具体的には、身の回りの自然の形や色彩を意識して見つめ、自然の多様なよさに気付くとともに、身の回りの作品には様々に自然が取り入れられていることにも目も向け、それらをじかに手に取り、自然を取り入れることによりどのような感情や感覚が引き起こされているのかなどについて話し合うことなどが考えられる。

## 4 生徒質問紙調査における調査結果

### (1) 生徒質問紙調査結果の概要

#### ① 美術の学習に関する生徒の意識（質問1）

- 美術の学習が好きである、大切であるという意識をもっている生徒は約6～7割、美術の学習は生活を明るく豊かにすることや心を豊かにすることに役立つという意識をもっている生徒は約7～8割、美術がふだんの生活、将来の生活や社会に出て役立つという意識をもっている生徒は約5割であった。



「美術の学習が好きですか。」（質問1(1)）に対して肯定的な回答（「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」）をした生徒は74.6%、「美術の学習は大切だと思いますか。」（質問1(2)）に対して肯定的な回答をした生徒は62.7%であり、約6～7割の生徒が美術の学習に対して肯定的な意識をもっていることが分かった。

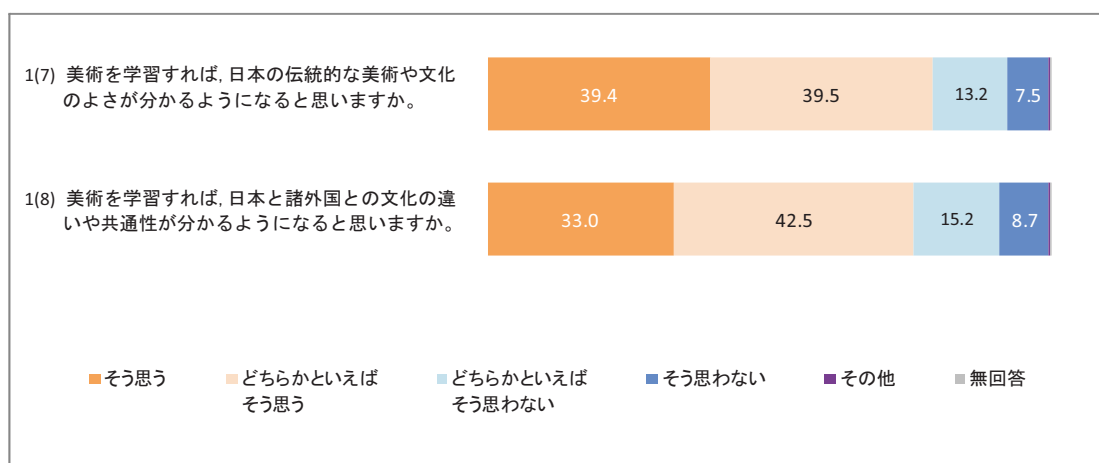
また、美術の学習が役立つかという視点からの質問については次のような結果が見られた。「美術の学習は、生活を明るく豊かにするのに役立つと思いますか。」



(質問 1 (5)) に対して肯定的な回答をした生徒は72.5%, 「美術の学習は, 心を豊かにするのに役立つと思いますか。」(質問 1 (6)) に対して肯定的な回答をした生徒は82.6%であり, 約 7~8 割の生徒が美術の学習は生活を明るく豊かにすることや心を豊かにすることに役立つという意識をもっていることが分かった。

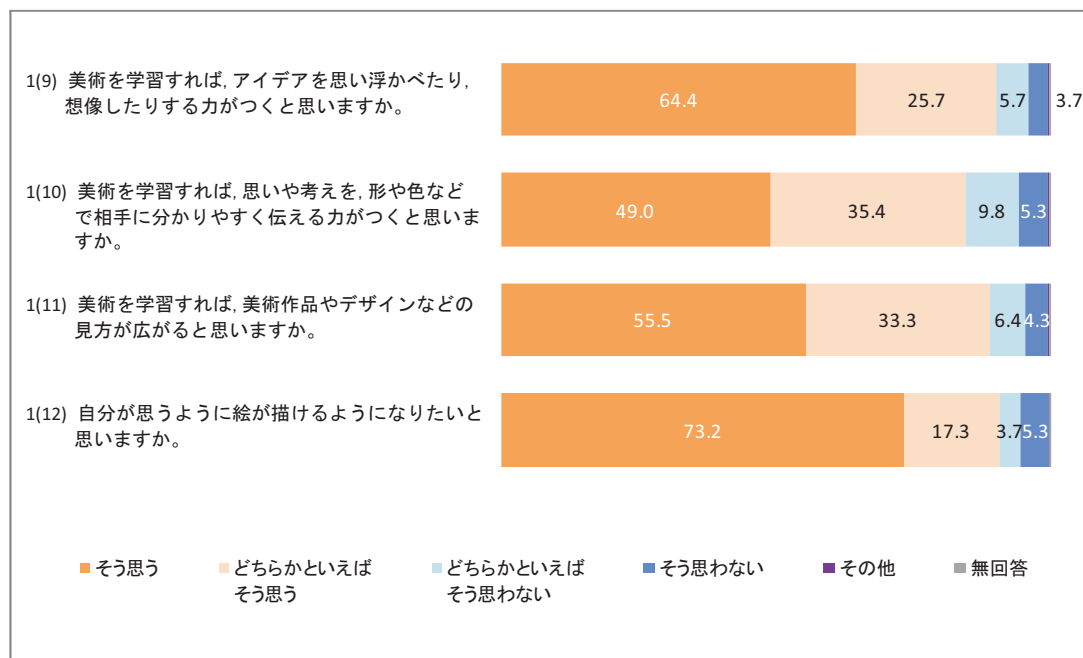
一方, 「美術の学習は, ふだんの生活に役立つと思いますか。」(質問 1 (3)) に対して肯定的な回答をした生徒は47.7%, 「美術の学習は, 将来の生活や社会に出て役立つと思いますか。」(質問 1 (4)) に対して肯定的な回答をした生徒は50.5%であり, 約 5 割の生徒が, 美術がふだんの生活, 将来の生活や社会に出て役立つという意識をもっていることが分かった。

○ **美術の学習によって日本の伝統的な美術や文化のよさ, 日本と諸外国の文化の違いや共通性が分かるようになるという意識をもっている生徒は約 8 割であった。**



「美術を学習すれば, 日本の伝統的な美術や文化のよさが分かるようになると思いますか。」(質問 1 (7)) に対して肯定的な回答をした生徒は78.9%, 「美術を学習すれば, 日本と諸外国との文化の違いや共通性が分かるようになると思いますか。」(質問 1 (8)) に対して肯定的な回答をした生徒は75.5%であり, 約 8 割の生徒が美術の学習によって日本の伝統的な美術や文化のよさ, 日本と諸外国の文化の違いや共通性が分かるようになるという意識をもっていることが分かった。

- 美術の学習によってアイデアを思い浮かべたり想像したり，思いや考えを形や色などで分かりやすく伝えたりする力がつく，美術作品やデザインなどの見方が広がるという意識をもっている生徒は約8～9割であった。また，思うように絵が描けるようになりたいという意識をもっている生徒は約9割であった。

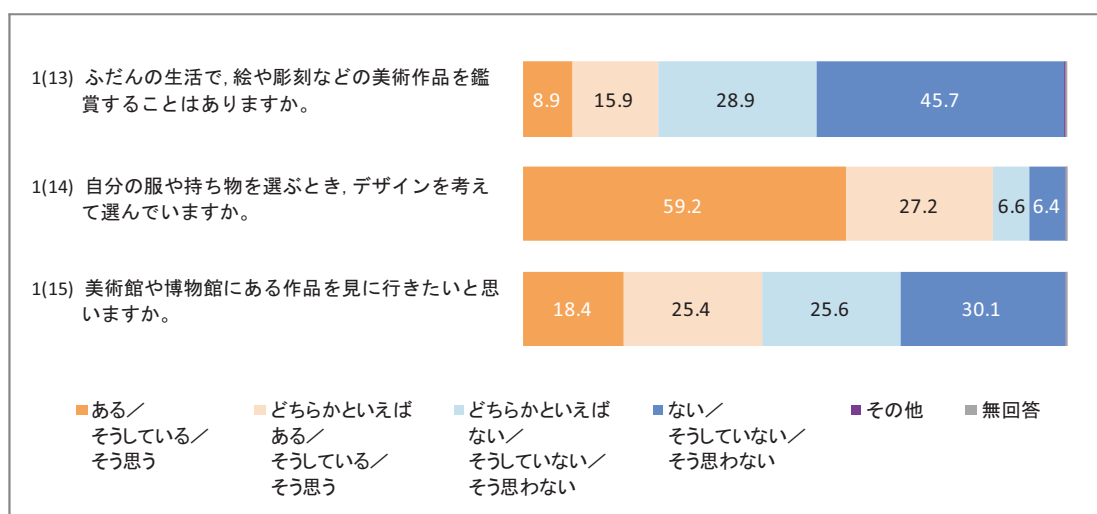


「美術を学習すれば、アイデアを思い浮かべたり，想像したりする力がつくと思いますか。」（質問 1 (9)）に対して肯定的な回答をした生徒は90.1%，「美術を学習すれば，思いや考えを，形や色などで相手に分かりやすく伝える力がつくと思いますか。」（質問 1 (10)）に対して肯定的な回答をした生徒は84.3%であり，約8～9割の生徒が美術の学習によってアイデアを思い浮かべたり想像したり，思いや考えを形や色などで分かりやすく伝えたりする力がつくという意識をもっていることが分かった。

「美術を学習すれば，美術作品やデザインなどの見方が広がると思いますか。」（質問 1 (11)）に対して肯定的な回答をした生徒は88.8%であり，約9割の生徒が美術の学習によって美術作品やデザインなどの見方が広がるという意識をもっていることが分かった。

また，「自分が思うように絵が描けるようになりたいと思いますか。」（質問 1 (12)）に対して肯定的な回答をした生徒は90.6%であった。

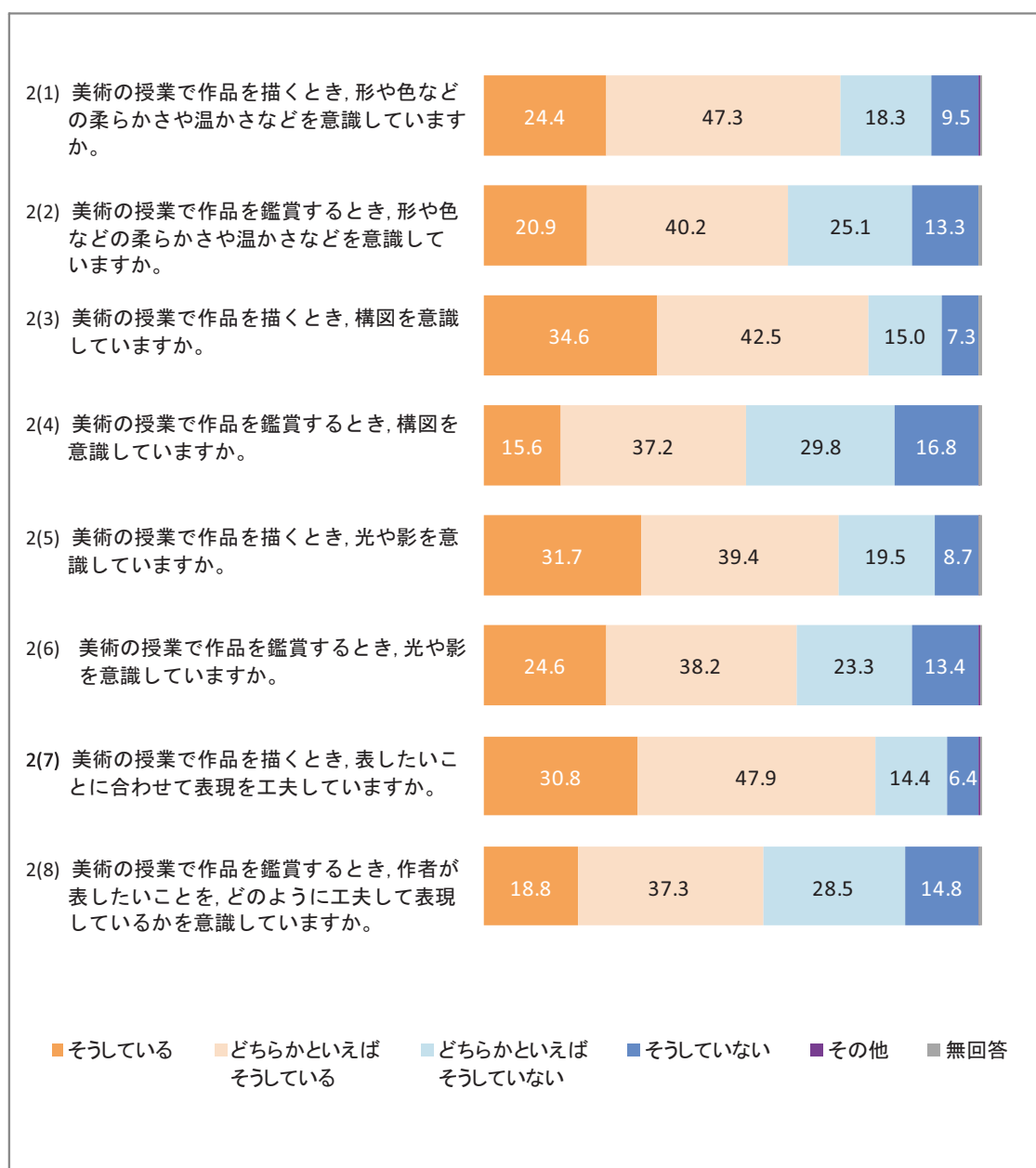
- 自分の服や持ち物を選ぶときデザインを考えて選んでいると回答した生徒は約9割、美術館や博物館にある作品を見に行きたいと回答した生徒は約4割であった。



「ふだんの生活で、絵や彫刻などの美術作品を鑑賞することはありますか。」（質問 1 (13)）に対して肯定的な回答をした生徒は24.9%、「自分の服や持ち物を選ぶとき、デザインを考えて選んでいますか。」（質問 1 (14)）に対して肯定的な回答をした生徒は86.5%、「美術館や博物館にある作品を見に行きたいと思いませんか。」（質問 1 (15)）に対して肯定的な回答をした生徒は43.8%であった。

## ② 学習内容に関する生徒の意識（質問2）

○ 美術の授業において、絵を描くときに「形や色などの柔らかさや温かさ」、「構図」、「光や影」、「表現の工夫」を意識している生徒は約7～8割、また、鑑賞をするときに「形や色などの柔らかさや温かさ」、「構図」、「光や影」、「表現の工夫」を意識している生徒は約5～6割であった。



形や色などの柔らかさや温かさなどに関して、作品を描くとき（質問2(1)）に意識しているに対して肯定的な回答をした生徒は71.7%、作品を鑑賞するとき（質問2(2)）に意識しているに対して肯定的な回答をした生徒は61.0%であった。な

お、作品を描くとき、鑑賞するときの両方の質問に対してともに肯定的な回答をした生徒は53.8%であった。

構図に関して、作品を描くとき（質問2(3)）に意識しているに対して肯定的な回答をした生徒は77.1%，作品を鑑賞するとき（質問2(4)）に意識しているに対して肯定的な回答をした生徒は52.8%であった。なお、作品を描くとき、鑑賞するときの両方の質問に対してともに肯定的な回答をした生徒は49.4%であった。

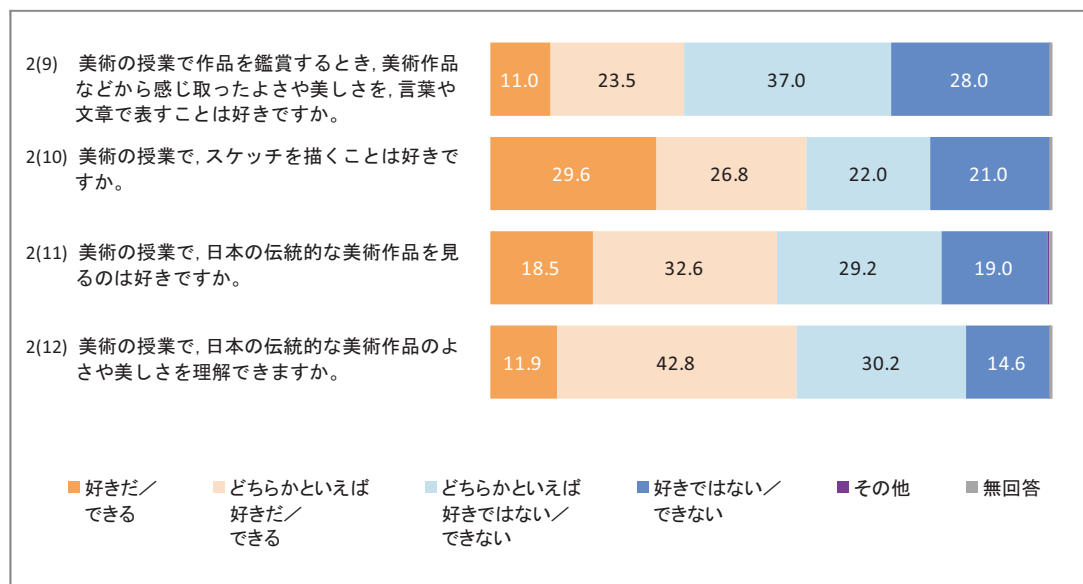
光や影に関して、作品を描くとき（質問2(5)）に意識しているに対して肯定的な回答をした生徒は71.1%，作品を鑑賞するとき（質問2(6)）に意識しているに対して肯定的な回答をした生徒は62.8%であった。なお、作品を描くとき、鑑賞するときの両方の質問に対してともに肯定的な回答をした生徒は54.3%であった。

作品を描くとき表したいことに合わせて表現を工夫している（質問2(7)）に対して肯定的な回答をした生徒は78.6%，作品を鑑賞するとき作者が表したいことをどのように工夫して表現しているかを意識している（質問2(8)）に対して肯定的な回答をした生徒は56.0%であった。なお、作品を描くとき、鑑賞するときの両方の質問に対してともに肯定的な回答をした生徒は50.6%であった。

作品を描くときや鑑賞するときに、形や色などの柔らかさや温かさなど、構図、光や影、表現意図に合わせた工夫を意識している生徒が約5～8割であった。また、これらの学習内容について、作品を鑑賞するときよりも作品を描くときの方が、意識していると回答した生徒の割合が高かった。一方、これらの学習内容について、作品を描くとき、鑑賞するときの両方の質問に対してともに意識していると回答した生徒は約5割であった。

これらのことから、形や色などの柔らかさや温かさなど、構図、光や影、表現意図に合わせた工夫について、生徒が、作品を描くときだけではなく、作品を鑑賞するときも意識するよう指導を工夫することが大切である。

- 美術作品などから感じ取ったよさや美しさを、言葉や文章で表すことは好きと回答した生徒は約3割、日本の伝統的な美術作品を見るのは好き、それらのよさや美しさを理解できると回答した生徒は約5割、スケッチを描くことは好きと回答した生徒は約6割であった。



「美術の授業で作品を鑑賞するとき、美術作品などから感じ取ったよさや美しさを、言葉や文章で表すことは好きですか。」(質問2(9))に対して肯定的な回答をした生徒は34.4%であった。美術作品などから感じ取ったよさや美しさを、言葉や文章で表すことなどの言語活動は、漠然と感じていたよさや美しさを意識化したり、言葉や文章で表したことを友だち同士で交換して新たな見方に気付いたりなど、美術作品を深く鑑賞することにつながる。このことから、学習の中で適切に言語活動を取り入れ、言語で表現することにより作品に対する見方や感じ方が深まったり、新しい発見をしたりするなど、そのよさや意義を実感しながら鑑賞を深めるよう指導を工夫することが大切である。

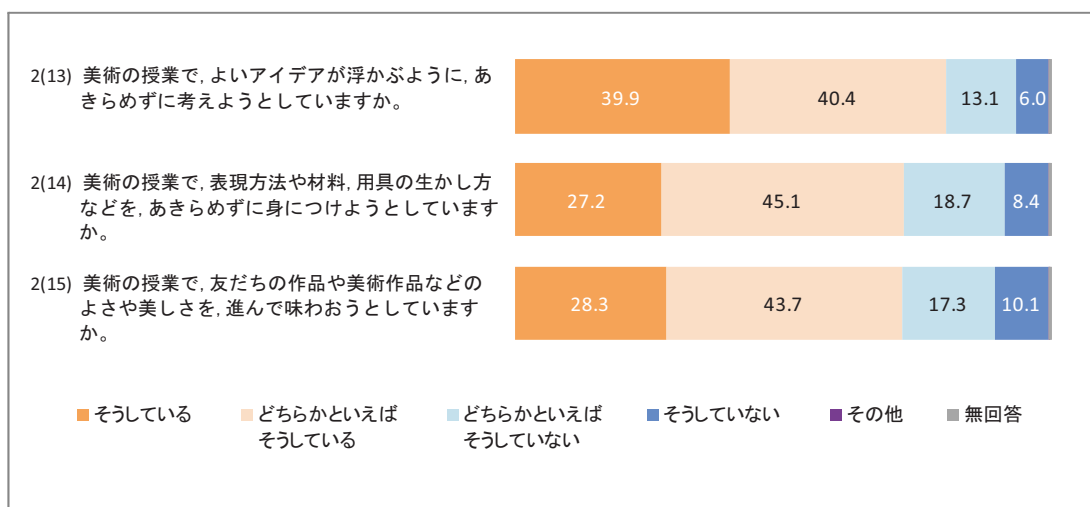
「美術の授業で、日本の伝統的な美術作品を見るのは好きですか。」(質問2(11))に対して肯定的な回答をした生徒は51.0%であった。また、「美術の授業で、日本の伝統的な美術作品のよさや美しさを理解できますか。」(質問2(12))に対して肯定的な回答をした生徒は54.6%であった。一方、「美術を学習すれば、日本の伝統的な美術や文化のよさが分かるようになりますか。」(質問1(7))に対して肯定的な回答をした生徒が78.9%であった。美術の学習によって日本の伝統的な美術や文化のよさが分かるようになると回答している生徒は約8割であるが、美術の授業で日本の伝統的な美術作品を見るのが好きな生徒や、作品のよさや美しさを理解できている生徒は約5割であった。日本の美術や文化に関する学習においては、伝統的な表現や価値観が、現代の生活にも息づいており、日々の生活の中でそれらに親しみ理解していることに気付かせることが大切である。生徒は今生きて

いる現代から過去を見ることになるので、現代社会の中で身に付けた「和風」「洋風」などの感覚や価値観などを生かして、過去の作品を理解し、伝統や文化に対する関心を高めるなどの指導が重要である。生徒が伝統的な美術作品を身近なものとしてとらえ、そのよさや美しさを実感し、愛着がもてるような指導の工夫が大切である。

「美術の授業で、スケッチを描くことは好きですか。」（質問2(10)）に対して肯定的な回答をした生徒は56.3%であった。一方、「自分が思うように絵が描けるようになりたいと思いますか。」（質問1(12)）に対して肯定的な回答をした生徒は90.6%であった。自分が思うように絵が描けるようになりたいと回答した生徒は約9割であったにもかかわらず、スケッチを描くことは好きであると回答した生徒は約6割であった。思うように絵を描くことができれば、生徒は絵を描くことを楽しみ、好きになっていくと考えられる。生徒一人一人の見方、感じ方の違いに配慮し、それぞれのよさを大切にして形や色彩などで表現する能力を育てることが重要である。

指導に当たっては、一律に画一的な表現方法を押し付けることなく、自分の思いや対象を見つめたことから形や色彩の発見を促し、それを表現する様々なコツなどを助言することが大切である。具体的には、教師が答えを与えるのではなく、生徒が自分自身の思いを整理できるように質問をしたり、表したいことに合った表現の工夫の手がかりを示すなど、生徒自身が考えを深めたり、気が付いたりできるようにすることが考えられる。

**○ よいアイデアが浮かぶようにあきらめず考えようとしていると回答した生徒は約8割、表現方法や材料、用具の生かし方などを、あきらめずに身につけようとしていると回答した生徒は約7割、友だちの作品や美術作品などのよさや美しさを、進んで味わおうとしていると回答した生徒は約7割であった。**

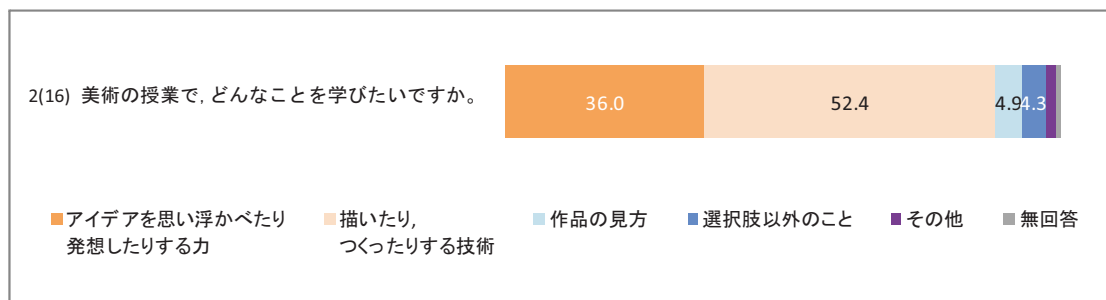


「美術の授業で、よいアイデアが浮かぶように、あきらめずに考えようとしていま



すか。」(質問2(13))に対して肯定的な回答をした生徒は80.3%,「美術の授業で、表現方法や材料,用具の生かし方などを,あきらめずに身につけようとしていますか。」(質問2(14))に対して肯定的な回答をした生徒は72.3%,「美術の授業で、友だちの作品や美術作品などのよさや美しさを,進んで味わおうとしていますか。」(質問2(15))に対して肯定的な回答をした生徒は72.0%であった。

○ **美術の授業でアイデアを思い浮かべたり発想したりする力を学びたいと回答した生徒は約4割,描いたりつくったりする技術を学びたいと回答した生徒は約5割であった。**



「美術の授業で,どんなことを学びたいですか。」(質問2(16))に対して,「アイデアを思い浮かべたり発想したりする力」と回答した生徒は36.0%,「描いたり,つくったりする技術」と回答した生徒は52.4%,「作品の見方」と回答した生徒は4.9%であった。



## (2) 生徒質問紙調査と調査問題との関連

- 各質問項目で肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、全ての問題において通過率が高かった。

ここでは、質問1（美術の学習に対する生徒の意識）の各質問項目のうち、次の3つの質問項目を取り上げて、調査ⅠA、調査ⅠB、調査Ⅱとの関連を見ることとした。

- (1) 美術の学習が好きですか。
- (5) 美術の学習は、生活を明るく豊かにするのに役立つと思いますか。
- (6) 美術の学習は、心を豊かにするのに役立つと思いますか。

各質問項目に対して、肯定的な回答（「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」）をした生徒と、否定的な回答（「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」）をした生徒の通過率をそれぞれ算出して分析した。

次の表は、3つの質問項目のそれぞれについて、肯定的な回答をした生徒の各問題における通過率、否定的な回答をした生徒の通過率、及び肯定的な回答をした生徒の通過率から否定的な回答をした生徒の通過率を減算した値（以下「通過率の差」という。）である。

次の表のように、各質問項目で肯定的な回答をした生徒は、否定的な回答をした生徒より、全ての問題において通過率が高かった。このことから、美術の学習が好き、美術の学習は生活を明るく豊かにするのに役立つ、美術の学習は心を豊かにするのに役立つという意識と、表現と鑑賞の能力を養うことは関連があると考えられる。指導に当たっては、これらの意識を高めながら、表現と鑑賞の活動を充実することが大切である。

なお、目安として、通過率の差が10ポイント以上のものに色をつけた。

【肯定的・否定的な回答をした生徒の通過率及び通過率の差】

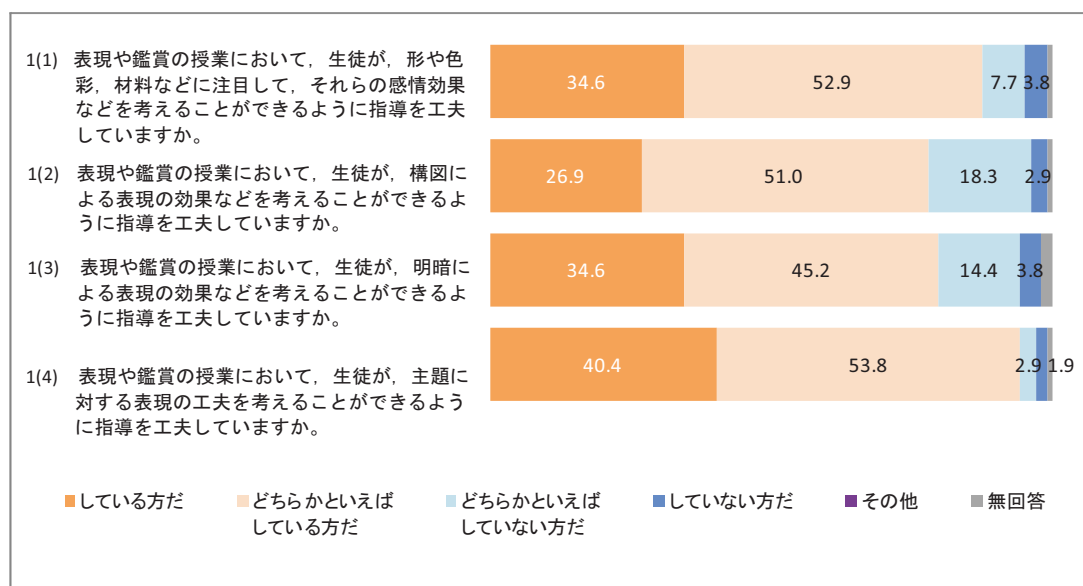
調査票	問題番号			通過率 (%)	1(1)			1(5)			1(6)			
					肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	肯定的回 答者の通 過率(%)	否定的回 答者の通 過率(%)	差	
I A	1	1		73.6	75.3	68.8	6.5	75.0	70.4	4.7	75.0	68.4	6.5	
	1	2	(1)	57.2	58.4	53.9	4.5	58.3	54.4	4.0	58.4	52.4	6.1	
	1	2	(2)	42.1	44.0	36.8	7.2	42.9	40.2	2.8	43.8	35.0	8.8	
	1	3	(1)	50.1	52.5	43.1	9.4	52.1	44.7	7.4	52.2	40.3	12.0	
	1	3	(2)	51.2	53.1	45.6	7.6	53.8	44.2	9.6	53.1	43.2	9.9	
	1	3	(3)	70.4	72.4	65.2	7.2	73.3	63.2	10.1	72.1	63.9	8.1	
	2	1		91.0	92.1	88.3	3.8	92.9	86.5	6.4	92.7	84.5	8.2	
	2	2	(1)	66.4	68.9	59.5	9.5	69.0	60.0	9.0	68.4	58.2	10.2	
	2	2	(2)	49.8	52.1	43.1	9.1	53.0	41.1	11.9	52.4	38.2	14.2	
	3	1	改善点①	69.3	71.6	62.7	8.9	71.1	64.7	6.4	71.0	62.1	8.9	
	3	1	改善点②	64.2	66.0	59.1	6.9	66.7	57.5	9.1	66.3	55.0	11.3	
	3	1	改善点④	85.2	85.7	84.5	1.2	86.3	83.0	3.3	86.6	79.7	6.9	
	3	1	改善点⑤	32.6	34.5	27.0	7.5	34.2	28.4	5.8	34.1	26.1	8.0	
	3	2	ポイント1	74.7	76.7	69.0	7.7	77.3	67.9	9.4	76.5	67.4	9.1	
	3	2	ポイント2	52.7	55.9	43.8	12.1	55.4	45.6	9.8	54.7	44.2	10.5	
3	2	ポイント3	44.6	47.9	35.3	12.6	47.4	37.4	10.0	47.2	33.2	14.1		
3	2	ポイント1～3全て通過	28.9	32.1	19.6	12.5	31.6	21.8	9.8	30.9	20.0	10.9		
I B	条件①			93.1	95.1	88.0	7.0	94.4	90.8	3.5	93.6	91.8	1.8	
	条件②			92.2	95.0	84.8	10.2	93.2	90.5	2.7	93.1	89.1	4.0	
	条件③			48.5	50.7	42.4	8.3	53.3	37.6	15.7	50.7	37.7	13.0	
	条件①～③全て通過			46.2	48.3	40.2	8.1	50.3	37.0	13.3	48.2	36.6	11.6	
II	1	1	A	77.6	80.4	69.7	10.8	79.8	72.4	7.5	79.9	67.5	12.4	
	1	1	B	65.1	66.7	60.6	6.1	66.9	60.9	6.0	66.1	60.7	5.4	
	1	2		72.4	73.3	70.4	2.9	74.2	68.0	6.2	73.2	69.4	3.7	
	1	3	(1)	A	71.3	73.3	65.8	7.4	73.9	65.0	8.9	72.7	65.2	7.5
	1	3	(1)	B	87.6	88.5	85.7	2.8	88.8	85.5	3.2	88.8	82.9	5.9
	1	3	(2)		85.7	86.9	82.6	4.4	87.4	81.8	5.6	87.1	79.9	7.2
	1	4		9.4	10.2	7.2	2.9	10.0	7.9	2.1	10.1	6.6	3.5	
	1	5		56.8	59.4	49.7	9.7	58.9	52.1	6.9	58.8	48.7	10.1	
	2	①		50.6	52.7	45.1	7.6	53.9	42.8	11.1	52.9	41.4	11.5	
	2	②		60.6	62.8	54.6	8.2	63.8	53.1	10.7	63.2	49.6	13.7	

## 5 学校質問紙調査における調査結果

### 学校質問紙調査結果の概要

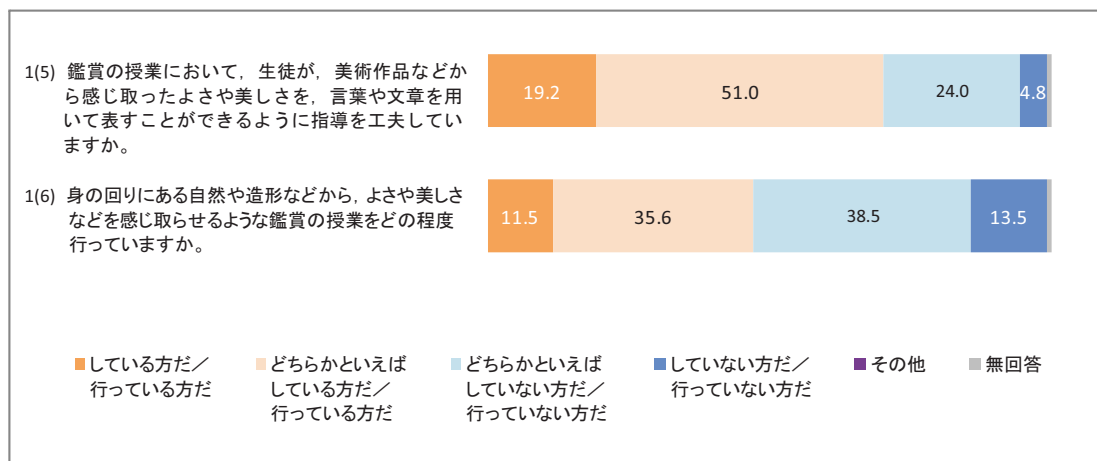
#### ① 指導の工夫（質問1）

- 表現や鑑賞の授業において、「形や色彩, 材料などに注目して, それらの感情効果など」, 「構図による表現の効果など」, 「明暗による表現の効果など」, 「主題に対する表現の工夫など」を考えることができるように指導の工夫をしていると回答した教師は約8～9割であった。

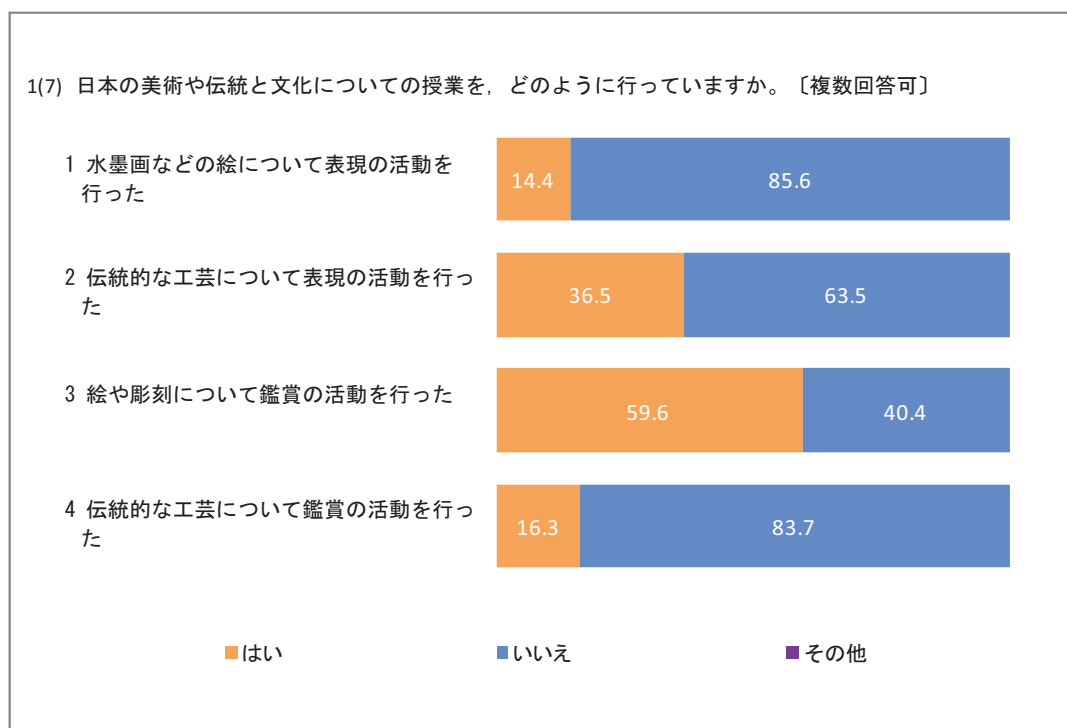


「表現や鑑賞の授業において, 生徒が, 形や色彩, 材料などに注目して, それらの感情効果などを考えることができるように指導を工夫していますか。」(質問1(1)), 「表現や鑑賞の授業において, 生徒が, 構図による表現の効果などを考えることができるように指導を工夫していますか。」(質問1(2)), 「表現や鑑賞の授業において, 生徒が, 明暗による表現の効果などを考えることができるように指導を工夫していますか。」(質問1(3)), 「表現や鑑賞の授業において, 生徒が, 主題に対する表現の工夫を考えることができるように指導を工夫していますか。」(質問1(4))に対して肯定的な回答(「している方だ」又は「どちらかといえばしている方だ」)をした教師は, それぞれ87.5%, 77.9%, 79.8%, 94.2%であった。

- 鑑賞の授業において、美術作品などから感じ取ったよさや美しさを言葉などで表すことができるように指導を工夫していると回答した教師は約7割、身の回りにある自然や造形などから、よさや美しさなどを感じ取らせるような授業を行っている方だと回答した教師は約5割であった。

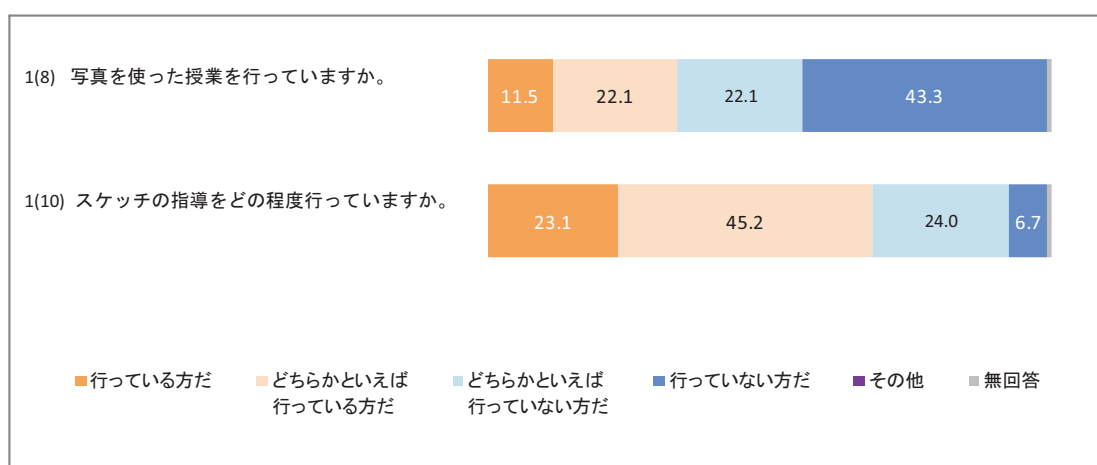


「鑑賞の授業において、生徒が、美術作品などから感じ取ったよさや美しさを、言葉や文章を用いて表すことができるように指導を工夫していますか。」（質問1(5)）、「身の回りにある自然や造形などから、よさや美しさなどを感じ取らせるような鑑賞の授業をどの程度行っていますか。」（質問1(6)）に対して肯定的な回答をした教師は、それぞれ70.2%、47.1%であった。



また、「日本の美術や伝統と文化についての授業を、どのように行っていますか。」（質問1(7) 複数回答）に対して、「水墨画などの絵について表現の活動を行った」と回答した教師は14.4%、「伝統的な工芸について表現の活動を行った」と回答した教師は36.5%、「絵や彫刻について鑑賞の活動を行った」と回答した教師は59.6%であった。

**○ 写真を使った授業を行っている方だと回答した教師は約3割、スケッチの指導を行っている方だと回答した教師は約7割であった。**

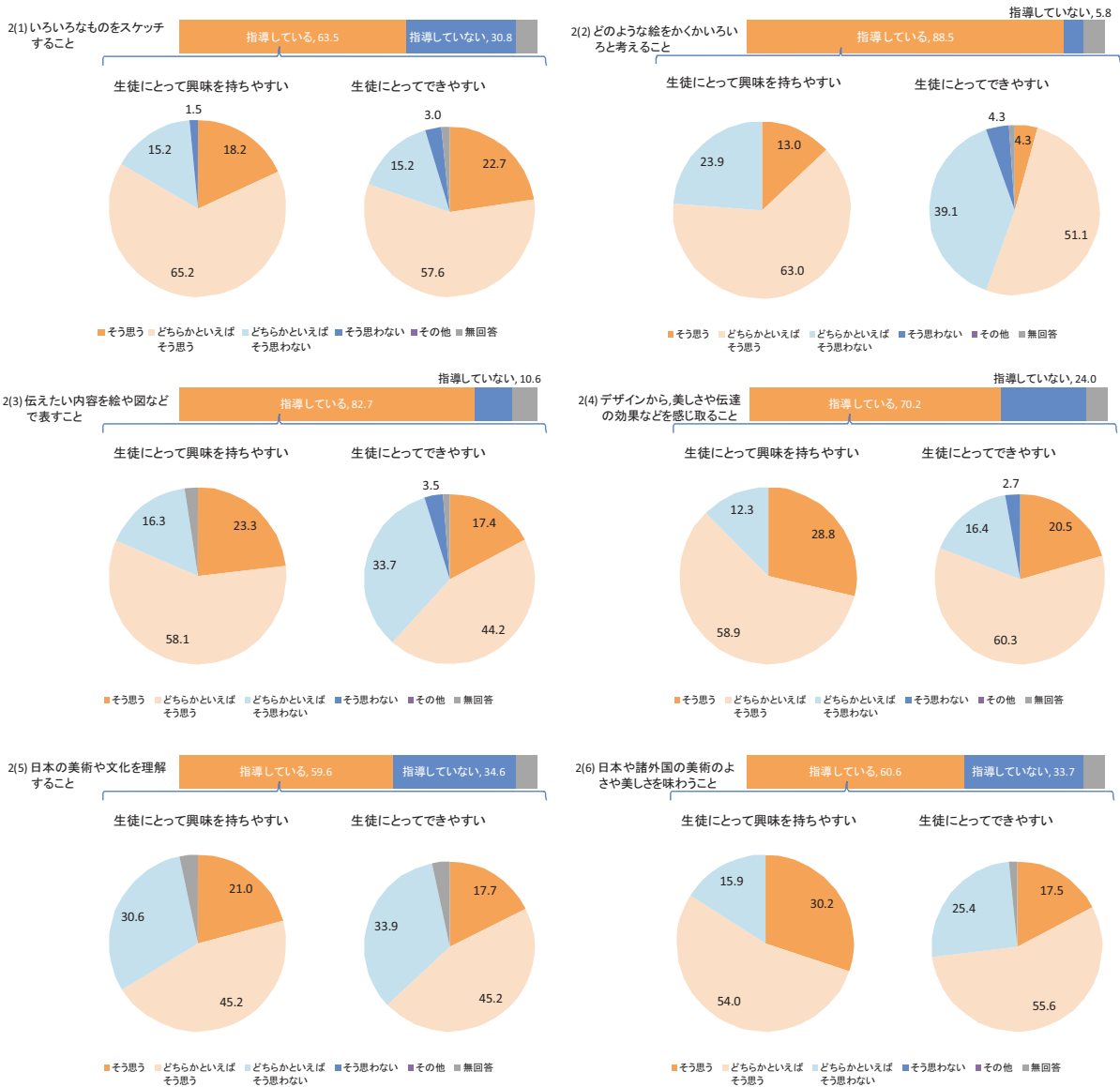


「写真を使った授業を行っていますか。」（質問1(8)）に対して、肯定的な回答をした教師は33.7%であった。また、肯定的な回答に「どちらかといえば行っていない方だ」の回答を加えた割合は、55.8%であり、これらの教師は、写真を使用した授業を行っている。これらの教師に対する写真の使用方法についての質問（質問1(9) 複数回答）では、「カメラで写真を撮影する」と回答した教師は27.6%、「写真の鑑賞をする」と回答した教師は46.6%、「写真をコンピュータで加工する」と回答した教師は13.8%であった。

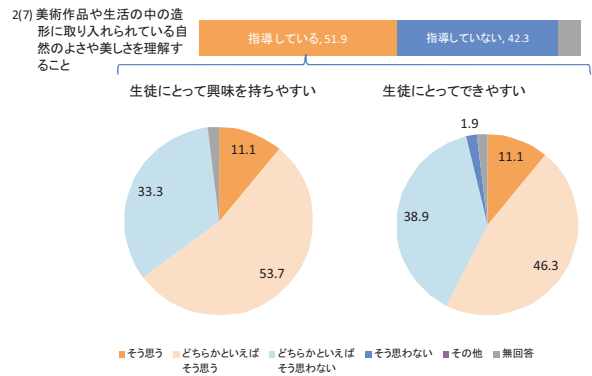
また、「スケッチの指導をどの程度行っていますか。」（質問1(10)）に対して、肯定的な回答をした教師は68.3%であった。

## ② 生徒の学習状況等（質問2）

- どのような絵をかくかいろいろ考えることは生徒にとって興味を持ちやすいと回答した教師は約8割，生徒にとってできやすいと回答した教師は約6割であった。また，伝えたい内容を絵や図などで表すことは生徒にとって興味を持ちやすいと回答した教師は約8割，生徒にとってできやすいと回答した教師は約6割であった。



平成21年4月～11月の間に、次の学習内容を指導しているか、指導している場合、その学習内容は生徒にとって興味を持ちやすいか、生徒にとってできやすいかを見ることとした。「いろいろなものをスケッチすること」(質問2(1))に対して「指導している」と回答した教師は63.5%、指導している教師のうち生徒にとって興味を持ちやすい(「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」)、生徒にとってできやすい(「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した教師は、それぞれ83.3%、80.3%であった。同様に、「どのような絵をかくかいろいろと考えること」(質問2(2))では88.5%、76.1%、55.4%であった。「伝えたい内容を絵や図などで表すこと」(質問2(3))では82.7%、81.4%、61.6%であった、「デザインから、美しさや伝達の効果などを感じ取ること」(質問2(4))では70.2%、87.7%、80.8%であった。「日本の美術や文化を理解すること」(質問2(5))、では59.6%、66.1%、62.9%であった。「日本や諸外国の美術のよさや美しさを味わうこと」(質問2(6))では60.6%、84.1%、73.0%であった。「美術作品や生活の中の造形に取り入れられている自然のよさや美しさを理解すること」(質問2(7))では51.9%、64.8%、57.4%であった。



## 6 美術科の指導の改善に向けて

### (1) 形や色彩，材料などの感情効果を意識したり，イメージをとらえたりしながら，表現や鑑賞の学習を行うよう指導の充実を図る

今回の調査において，対象を遠近，線，構図などの視点で見たり，何かに見立てたり，形のわずかな違いによる感じ方の違いなどをとらえる問題（I A<sup>1</sup>）では，遠近，線などの視点で対象をとらえることはある程度できている状況が見られた。一方，構図を部分に着目して読み取ったり，とらえた線の効果や，形の変化から感じ方の違いを読み取ることについては，課題が見られた。また，伝達のデザインに関する問題（I A<sup>2</sup> <sup>3</sup>）や，形や色彩などの効果を生かして生き物を発想や構想をする問題（I B）で述べたように，多くの人が共通に感じる形や色彩の感情効果を理解することや，形や色彩などの効果を意識しながら表現できるような指導の工夫が大切である。

このような状況を踏まえて指導の充実を図るには，対象を形や色彩，材料などに着目してとらえ，それらの性質や感情の効果を意識したり，対象全体のイメージを大きくとらえたりすることが大切である。例えば形について，丸い，四角い，長いなど漠然ととらえていた生徒に対して，形から受ける柔らかさや優しさなどの感情などを意識させ，作品等の中でその効果を理解させながら対象を見つめさせるなどの工夫が考えられる。このような視点から発想や構想を促したり，生じたイメージを大切に鑑賞したりすることにより，感性や美術の創造活動の基礎的な能力が一層豊かに育成されていくことになる。

このことは，平成20年に告示された中学校学習指導要領第2章各教科第6節美術において新たに示された〔共通事項〕がねらいとする資質・能力の育成とも軌を一にするものであることから，形や色彩，材料などの感情効果を意識したり，イメージをとらえたりしながら，表現や鑑賞の学習を行えるよう指導の充実を図ることが大切である。

### (2) 表現と鑑賞の学習を充実するために，言語活動を効果的に取り入れるよう指導の充実を図る

今回の調査において，お菓子のパッケージのデザインについて，お菓子のイメージなどを提示して，それを基に解答する問題（I A<sup>2</sup>1，2(1)）では，形や色彩の伝達効果をとらえることはある程度できている状況が見られた。一方，お菓子のイメージ等を提示せず，パッケージのデザインから伝わる妥当な味のイメージを形や色彩を根拠に感じ取り，イメージとその根拠を記述する問題（I A<sup>2</sup>2(2)）については，課題が見られた。

また，美術作品に生かされた自然に関する問題（II<sup>2</sup>）で述べたように，自然のよさや美しさが生かされている点とその効果などを感じ取るためには，自然を取り入れることによりどのような感情や感覚が引き起こされているのかなどについて話し合うような



指導の工夫が大切である。

このような状況を踏まえて指導の充実を図るには、自分で感じ取ったことを言葉で考えさせ、その考えを整理させる指導が重要である。漠然と見ていては感じ取れないことが、言葉にすることによって美しさの要素が明確になり感じ取れることがある。言葉で表現することは見る視点や考える視点などを整理することにもなり、美術の表現や鑑賞の能力を高めるためには必要なことである。ものの見方や感じ方を豊かにしていくためには、感じ取り、考えたことを記述したり、他者と意見を交流したりして根拠を明らかにしながら見方や感じ方を広げることが重要であり、言語活動を効果的に取り入れるよう指導の充実を図ることが大切である。

### (3) 生活を美しく豊かにする美術の働きを実感できるよう指導の充実を図る

今回の調査において、伝達のデザインに関する問題（ⅠA②③）や、美術作品に生かされた自然に関する問題（Ⅱ②）は、伝える、使うなどの生活の中で直接機能的に働く美術に関する内容である。伝達のデザインについては、伝えたい内容を形や色彩などの視点から意識することはある程度できている状況が見られたが、そこで述べたように、どのような内容を、どこで、誰に伝えるかという目的を踏まえ、デザインが用いられる場面などを実際に考えて表現できるような指導の工夫が大切である。また、美術作品に生かされた自然に関する問題については、自然が生かされた作品をよさや美しさなどの視点から意識することはある程度できている状況が見られたが、そこで述べたように、装飾や素材の視点から、美術作品に自然が生かされている点とその効果について、作品にじかに触れるなどして、実感を伴って理解を深めるような指導の工夫が大切である。

このような状況を踏まえて、生徒の身近にある作品などを基に、情報などを分かりやすく美しく伝えるための伝達のデザインや、用と美の調和が図られた工芸などに触れ、生活の中で直接機能的に働く造形や美術の働きなどを実感できるよう指導の充実を図ることが大切である。

### (4) 我が国や諸外国の美術や文化に関する指導の充実を図る

これからの国際社会で活躍する日本人を育成するためには、我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、そのよさを継承・発展させるための教育や、異なる文化や歴史に敬意を払い、人々と共存してよりよい社会を形成していこうとするための教育を充実する必要がある。平成18年に改正された教育基本法においては、教育の目標に伝統や文化を尊重する態度を養うことが新たに規定され、各教科等でその充実を図っている。

今回の調査において、日本及び諸外国の絵を基に、表現方法の特性等についての理解を問う問題（Ⅱ①）で述べたように、多様な表現方法に触れ、その効果などを感じ取りながら作品の理解を深めることができるような指導の工夫が大切である。このような多様な表現方法等を理解することは、単なる作品の理解にとどまらず、その作品が制作された国や時代における人々の美意識や願い、生活様式などの理解にもつな

がり、美術文化を理解する上での重要な視点の一つになる。また、美術作品に生かされた自然に関する問題（Ⅱ②）では、自然が生かされた作品を鑑賞し、自然が生かされている効果等について問うているが、これは、自然との共存を基盤としつつ、そこからよさや美しさを見だし表現してきた日本の伝統的な美術の根底にある美意識等と相通じるものであり、これらを学ぶことは美術文化を理解する上でも重要である。

このような状況を踏まえて、複数の作品を鑑賞する中で、共通して見られる表現方法の特性や美意識、価値観などに気付かせ、美術文化や伝統に対する関心を高めるなど、我が国や諸外国の美術や文化に関する指導の充実を図ることが大切である。

## 委員名簿等

【特定の課題に関する調査問題作成委員会委員（小学校図画工作）】（五十音順）

（平成22年3月末現在）

※は結果分析委員会委員と兼務

相田	隆司	東京学芸大学教育学部准教授（※）
岩崎	治彦	あきる野市立五日市小学校副校長（※）
上野	行一	高知大学教育学部教授（※）
岡田	京子	町田市立町田第四小学校主任教諭（※）
小野	範子	茅ヶ崎市教育委員会教育総務部教育指導課指導主事（※）
郡司	明子	お茶の水女子大学附属小学校教諭（※）
佐々木	孝弘	宮崎県教育庁学校政策課指導主事（※）
鷹野	晃	山梨県教育庁義務教育課指導主事（※）
林	耕史	群馬大学教育学部准教授（※）
藤江	充	愛知教育大学教育学部教授（※）

【特定の課題に関する調査結果分析委員会委員（小学校図画工作）】（五十音順）

（平成23年3月末現在）

相田	隆司	東京学芸大学教育学部准教授
岩崎	治彦	東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課統括指導主事
上野	行一	帝京科学大学こども学部教授
大泉	義一	横浜国立大学大学院教育学研究科准教授
岡田	京子	町田市立町田第四小学校主任教諭
小野	範子	茅ヶ崎市教育委員会教育推進部学校教育指導課指導主事
郡司	明子	お茶の水女子大学附属小学校教諭
小林	真理子	さいたま市立芝原小学校教頭
佐々木	孝弘	宮崎県教育研修センター学習・研修課指導主事
高木	厚子	兵庫教育大学大学院准教授
鷹野	晃	北杜市立須玉中学校教頭
林	耕史	群馬大学教育学部准教授
藤江	充	愛知教育大学教育学部教授
松原	雅俊	横浜市教育委員会教育政策推進室首席指導主事
三根	和浪	広島大学大学院准教授
山田	芳明	鳴門教育大学大学院准教授

この他、結果分析に当たっては以下の方の協力を得た。

栗城	敦志	加須市立加須小学校教諭
----	----	-------------

【特定の課題に関する調査問題作成委員会委員（中学校美術）】（五十音順）

（平成22年3月末現在）

※は結果分析委員会委員と兼務

稲村	由則	木更津市立富岡小学校教頭（※）
栗原	理恵	宇都宮大学教育学部附属中学校教諭（※）
永関	和雄	町田市立町田第三中学校校長（※）
橋本	光明	信州大学教育学部教授（※）
降籬	孝	山形大学地域教育文化学部教授（※）
三浦	匡	横須賀市教育委員会生涯学習部学校教育課指導主事（※）
三澤	一実	武蔵野美術大学造形学部教授（※）
山田	一文	埼玉大学教育学部附属中学校教諭（※）
山田	晋治	埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事（※）
山田	洋揮	名古屋市立円上中学校教諭（※）

【特定の課題に関する調査結果分析委員会委員（中学校美術）】（五十音順）

（平成23年3月末現在）

稲村	由則	木更津市立富岡小学校教頭
栗原	理恵	宇都宮大学教育学部附属中学校教諭
田中	圭一	堺市教育委員会教育センター指導主事
長澤	博昭	横浜市教育委員会西部学校教育事務所主任指導主事
永関	和雄	町田市立町田第三中学校統括校長
中山	実	東京工業大学教育工学開発センター教授
新関	伸也	滋賀大学教育学部教授
橋本	光明	信州大学教育学部教授
降籬	孝	山形大学地域教育文化学部教授
三浦	匡	横須賀市教育委員会生涯学習部学校教育課指導主事
三澤	一実	武蔵野美術大学造形学部教授
山田	一文	埼玉大学教育学部附属中学校教諭
山田	一美	東京学芸大学教育学部教授
山田	晋治	川口市立戸塚南小学校校長
山田	洋揮	名古屋市立円上中学校教諭

国立教育政策研究所においては、以下の者が本調査を担当した。

奥村 高明	教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
村上 尚徳	教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
中川 昇次	教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

この他、本調査の全般にわたり、国立教育政策研究所において以下の者が担当した。

神代 浩	教育課程研究センター長
作花 文雄	教育課程研究センター長（平成22年7月30日まで）
中岡 司	教育課程研究センター長（平成21年7月13日まで）
角屋 重樹	教育課程研究センター基礎研究部長
工藤 文三	教育課程研究センター基礎研究部長（平成22年3月31日まで）
三宅 征夫	教育課程研究センター基礎研究部長（平成21年3月31日まで）
萩原 康仁	教育課程研究センター基礎研究部研究員
梅澤 敦	教育課程研究センター研究開発部長
稲葉 敦	教育課程研究センター研究開発部研究開発課長
太田 知啓	教育課程研究センター研究開発部研究開発課長（平成21年3月31日まで）
澤田 佳代	教育課程研究センター研究開発部研究開発課課長補佐
小田 孝仁	教育課程研究センター研究開発部研究開発課専門職
廣田 雅明	教育課程研究センター研究開発部研究開発課専門職
	（平成22年3月31日まで）
山口 大地	教育課程研究センター研究開発部研究開発課企画係長
	（平成21年3月31日まで）

調査問題で使用した作品の所蔵先等

〈図画工作 調査問題AⅡ〉

狩野永徳「唐獅子図屏風」(宮内庁三の丸尚蔵館)

〈美術 調査問題I A〉

ゴヤ「巨人」(マドリッド プラド美術館)

※ 近年、弟子の作品とする研究もある。

モネ「マンヌポルト」(メトロポリタン美術館)

岸田劉生「道路と土手と塀(切通之写生)」(東京国立近代美術館)

葛飾北斎「富嶽三十六景 甲州石班沢」(山口県立萩美術館・浦上記念館)

歌川広重「東海道五十三次 箱根 湖水図」(三菱東京UFJ銀行貨幣資料館)

歌川広重「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」(三菱東京UFJ銀行貨幣資料館)

歌川広重「東海道五十三次 神奈川 台之景」(三菱東京UFJ銀行貨幣資料館)

葛飾北斎「富嶽三十六景 駿州江尻」(葛飾北斎美術館)

〈美術 調査問題I B〉

鳥山石燕「画図百鬼夜行」(川崎市市民ミュージアム)のうち「瀬戸大勝」

原在中「百鬼夜行絵巻」(大阪市立美術館)のうち「琵琶の妖怪」

〈美術 調査問題Ⅱ〉

ベラスケス「教皇イノケンティウス十世」(ドーリア・パンフィーリ美術館)

東洲斎写楽「市川鯉蔵の竹村定之進」(©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom)

歌川広重「日本橋通一丁目略図」(三菱東京UFJ銀行貨幣資料館)

ユトリロ「コタン小路」(国立近代美術館(パリ))

フリードリヒ「朝の田園風景」(ベルリン国立近代美術館)

雪舟「四季山水図(山水長巻)」(部分)(毛利博物館)

鈴木其一「夏秋溪流図」(右隻)(根津美術館)

ルノワール「ラ・グルヌイエール」(ストックホルム国立美術館)

尾形光琳「竹梅図屏風」(東京国立博物館 Image:TNM Image Archives Source:<http://TnmArchives.jp/>)

ユベール・ロベール「ルーブル宮殿グランドギャラリーの計画案」(ルーブル美術館)

狩野内膳「南蛮屏風」(部分)(神戸市立博物館)

ゴッホ「糸杉」(メトロポリタン美術館)

ゴッホ「医師ガシェの肖像」(オルセー美術館)

※本書の全部又は一部を無断で複写することは禁じます。本書からの複写を希望される場合は国立教育政策研究所までご連絡ください。

※権利関係の制約上、調査に使用した美術作品の一部については作品名のみを掲載しています。